

SONY®

PROFESSIONAL DISC CAMCORDER

PDW-750



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このオペレーションマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このオペレーションマニュアルをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

XDCAM

MPEG HD422

Power HAD FX



OPERATION MANUAL Japanese

1st Edition (Revised 1)

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

10ページから15ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

長期間安全に使用していただくために、定期点検を実施することをおすすめします。点検の内容や費用については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

故障したら使用を中止する

ソニーのサービス担当者、または営業担当者にご連絡ください。

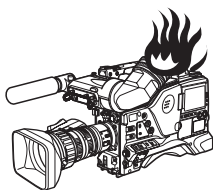
万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落下させたら



- ① 電源を切る。
- ② バッテリーやDC電源接続コード、および接続コードを抜く。
- ③ ソニーのサービス担当者、または営業担当者に修理を依頼する。

炎が出たら



すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

オペレーションマニュアルおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示の注意事項を守らないと、破裂・発火・発熱・液漏れなどにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる可能性があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意



高温

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



スラグをコンセントから抜く

目次

△ 警告	10
△ 注意	12
電池についての安全上のご注意	14
レーザー機器についてのご注意	15
ご使用の前に	15

1 章 概要

特長	16
各部の名称と働き	19
電源部	19
アクセサリ取り付け部	20
操作・端子部	21
ビューファインダー HDVF-20A (別売)	36
ビューファインダーの表示	37

2 章 準備

電源の準備	44
バッテリーパックを使用する	44
AC 電源を使用する	45
ビューファインダーの取り付け	45
ビューファインダーを取り付ける	45
位置を調整する	46
ビューファインダーシューを上に移動する	46
ビューファインダー回転収納機構 BKW-401 を取り付ける	47
アイピース部を取り外す	48
視度と画面を調整する	48
内蔵時計の日付と時刻の設定	49
レンズの取り付け	51
フランジバックの調整	52
音声入力の準備	53
MIC IN 端子にマイクロホンを接続する	53

AUDIO IN 端子にマイクロホンを接続する	53
ワイヤレスレシーバーを取り付ける	55
ライン入力用オーディオ機器を接続する	56
三脚への取り付け	56
ビデオライトの接続	57
ショルダーベルトの取り付け	58
ショルダーパッドの位置調整	59
リモートコントロールユニットの接続	59

3 章 撮影のための調整と設定

記録フォーマットの設定	62
システム周波数を設定する	62
映像の記録フォーマットを設定する	62
記録フォーマットが異なるクリップの同一ディスク内への 混在記録	63
ブラックバランス/ホワイトバランスの調整	64
ブラックバランスを調整する	64
ホワイトバランスを調整する	65
電子シャッターの設定	70
シャッターモードについて	70
シャッターモード/シャッタースピードを設定する	70
オートアイリスの設定	72
音声レベルの調整	75
AUDIO IN CH1/CH2 端子からの音声レベルを手動調整する	75
MIC IN 端子からの音声レベルを手動調整する	76
チャンネル 3、4 への音声の記録について	77
タイムデータの設定	78
タイムコードを設定する	78
ユーザービットを設定する	79
タイムコードを外部ロックさせる	80

4 章 撮影

ディスクの取り扱い	83
記録・再生が可能なディスク	83
取り扱い上の注意	83
誤消去を防止する	83
ディスクを出し入れする	84
ディスクをフォーマットする	85
記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い (サルベージ機能)	85
基本操作	87
撮影したクリップを再生する	89
撮影したクリップを削除する	91
フリーズミックス機能を使う	91
フォーカスアシスト機能を使う	92
応用操作	93
エッセンスマークを記録する	93
クリップフラグをスイッチで設定する	93
サムネイルを設定する	94
数秒前の映像から記録する (ピクチャーキャッシュ機能)	94
間欠的に映像を記録する (インターバルレック機能)	96
記録を継続しながらディスクを交換する (ディスク エクステンジキャッシュ機能)	100
クリップコンティニュースレック機能を使って記録する	101
直前のクリップを撮り直す (リテイク機能)	102
記録時にクリップに自動でタイトルを付ける	103
クリップおよびクリップリストに任意の名前を付ける	106
プランニングメタデータを使う	109
外部機器からの映像を記録する	112
ライブロギング機能を使う	112
プロキシデータを記録する	113
GPS の測位情報を取得する	116

5 章 GUI 画面で行うさまざまな操作

概要	119
画面表示を切り換える	119
サムネイル画面の見かた	121
各種のメニューを表示する	125
GUI 画面の操作	128

サムネイル操作	129
サムネイルを選択する	129
サムネイルサーチを行う	130
検索したサムネイルを再生する	133
クリップを選別する（クリップフィルタリング機能）	134
サムネイルの表示情報を切り換える	136
クリップの代表画を変更する	136
クリップ情報を確認する	137
クリップフラグを設定する	140
クリップをロック（保護）する	140
クリップを削除する	141
シーンセレクション（クリップリスト編集）	143
シーンセレクションとは	143
クリップリストを作成 / 編集する	144
クリップリストを管理する	150
ディスク操作	151
ディスク情報を確認する	151
プランニングメタデータを使う	152
ユーザー定義されたエッセンスマークを確認する	155
ディスクをフォーマットする	155
各種情報をウェブブラウザに表示する	156
クリップ転送（ダイレクト FTP 機能）	159
クリップ転送の準備	160
クリップをアップロードする	160
クリップをダウンロードする	164
XDCAM 機器同士を直結してクリップをコピーする	165
ショートカット一覧	167

6 章 メニュー表示と詳細設定

メニューの構成	168
TOP メニューと第 1 階層のメニューについて	169
メニュー一覧	172
OPERATION メニュー	173
PAINT メニュー	181
MAINTENANCE メニュー	188
FILE メニュー	203
DIAGNOSIS メニュー	206

メニューの使いかた	208
メニューの表示	208
メニューの基本操作	208
USER メニューを操作する (メニューの操作例)	211
USER メニューを編集する	212
USER メニューの全項目の設定値を標準設定に戻す	216
ビューファインダー画面・LCD モニターの状態表示を設定する	217
表示項目を選択する	217
表示モードと設定変更 / 調整経過メッセージ	218
マーカー表示を設定する	219
ビューファインダーを設定する	220
ショットデータをカラーバーにスーパーインポーズする	220
ショット ID を設定する	221
状態確認画面を表示する	222
メニューで各機能を設定する	223
ゲイン切り換え値を設定する	223
出力信号を選択する	224
ASSIGN スイッチに機能を割り当てる	224
パワーセーブ機能を設定する	227
無線 LAN を設定する	228
色温度を手動で設定する	230
オートホワイトバランスの設定値にオフセットを付ける	231
レンズファイルを選択する	232
UMID データを設定する	232

7 章 ユーザー設定データの保存と呼び出し

ユーザーファイルの保存と呼び出し	234
ユーザーファイルを USB メモリーに保存する	234
USB メモリーに保存されているユーザーファイルを呼び出す	236
変更されたユーザーファイルの内容を標準設定値に戻す	237
シーンファイルの保存と呼び出し	237
シーンファイルを保存する	237
シーンファイルを呼び出す	239
変更されたシーンファイルの内容を標準設定値に戻す	240
USB メモリー接続時にファイル関連ページを表示する	241

8 章 ファイル操作

概要	242
FTPS プロトコル対応	242
ディレクトリー構造	242
ファイル操作の項目	243
FTP によるファイル操作	248
FTP 接続をする	248
コマンド一覧	249
FTP 接続時にタイムコードを連続して記録する	255

9 章 保守・点検

撮影前の点検	256
点検の準備をする	256
カメラ部を点検する	256
VDR 部を点検する	258
保守	260
ビューファインダーをクリーニングする	260
バッテリー端子に関するご注意	261
警告システム	262

付録

使用上のご注意	269
仕様	271
一般	271
レンズ	272
入出力	272
オーディオ系	272
カメラ部	273
ビューファインダーおよび関連機器	273
その他の機能	273
光ディスクドライブ部	273
付属品	274
関連機器	274
周辺機器・アクセサリ一覧図	276
使用可能な USB キーボード一覧	277

推奨 USB メモリー (2014 年 4 月現在)	280
商標ならびにライセンス表記について	280
MPEG-4 Visual Patent Portfolio License について	280
IJG (Independent JPEG Group) について	281
文字表示用ソフトウェア「iType」について	281
GPL/LGPL 適用ソフトウェアの入手について	281
オープンソースソフトウェアのライセンスについて	281
GPS について	282
索引	283



下記の注意を守らないと、**火災や感電により死亡や大けが**につながる可能性があります。



禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら記録 / 再生をすることはおやめください。交通事故の原因となります。



指示

雷が鳴り出したら、使用を中止する

感電の原因となります。落雷を避けるため、使用を中止して本機から離れてください。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、バッテリーや DC 電源接続コード、および接続コードを抜いて、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。



分解禁止

外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。内部の調整や設定および点検を行う必要がある場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。



禁止

DC 電源接続コードを傷つけない

DC 電源接続コードやマイク用電源供給ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- DC 電源接続コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- DC 電源接続コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、DC 電源接続コードが傷んだら、ソニーのサービス担当者に交換をご依頼ください。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で AC アダプターなどの電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



指示

撮影時は周囲の状況に注意を払う

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。
事故やけがの原因となります。











指示

指定の電源で使用する

オペレーションマニュアルに記されているバッテリーパックまたはACアダプターでお使いください。
指定以外のバッテリーパックやACアダプターで使用すると、火災の原因となります。



下記の注意を守らないと、**けが**をしたり
周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

 <p>禁止</p> <p>ディスク挿入口に手や指を入れない ディスク挿入口に手や指を入れると、けがの原因となることがあります。</p>	 <p>指示</p> <p>部品の取り付けを正しく行う 本機に以下の部品を取り付けるときは、オペレーションマニュアルの該当するページをよく読んで、確実に取り付けてください。取り付け方法を誤ると部品やカムコーダー本体が落下し、けがの原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• レンズ• ショルダーベルト• バッテリーパック• アダプター類• ビューファインダー• ライト• 三脚アタッチメント
 <p>禁止</p> <p>指定以外のケーブル / 機器を接続しない カメラの外部端子に規定以外のケーブル / 機器を接続した場合、発煙、発火の恐れがあります。</p>	
 <p>禁止</p> <p>ビューファインダーの接眼レンズを太陽に向けて放置しない 太陽光が接眼レンズを通してビューファインダー内部に焦点を結び、火災の原因となることがあります。</p>	
 <p>禁止</p> <p>通風孔をふさがない 通風孔をふさいだまま使用すると、内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。</p>	 <p>注意</p> <p>三脚アタッチメントは重心を考慮して取り付ける 三脚アタッチメントを三脚に取り付けるとき、本機と三脚アタッチメントの重心を考慮して適切な位置の穴を選び、本機を三脚アタッチメントに確実に取り付けないと、本機が転倒・落下しけがの原因となることがあります。</p>
 <p>指示</p> <p>指定された動作温度・動作湿度で使用する 動作温度・動作湿度を超えた環境、またはほこりや油煙・湯気が極端に多い場所で使用すると、火災や感電の原因となることがあります。</p>	 <p>指示</p> <p>保管するときは安定した場所に置く ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本機が落下してけがの原因となることがあります。</p>



指示

コード類は正しく配置する

DC 電源接続コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分注意して接続・配置してください。



指示

運搬するときは、取っ手を持つ

取っ手以外のところを持って運ぶと、本機が落下してけがの原因になることがあります。



指示

正しい姿勢でカメラを担ぐ

カメラの突起部を体に強くぶつけると、けがの恐れがあります。



禁止

MIC IN (+48V) 端子には外部電源 (+48V) 対応以外のマイクを接続しない

外部電源 (+48V) に対応していないマイクを MIC IN (+48V) 端子に接続すると、マイクが故障する可能性があります。



高温

ビデオライト使用時は、高温部分に触れない

ビデオライト使用時または使用直後は、ライト本体およびその周辺部が高温になっているため、やけどをすることがあります。カムコーダーの取っ手を持って運搬するときなどは、ライト本体およびその周辺部に触れないよう注意して運搬してください。

電池についての安全上 のご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れ・発熱・破裂・発火・誤飲による大けがや失明の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
 - ① 機器の電源スイッチを切るか、バッテリーチャージャーの電源プラグを抜く。
 - ② ソニーのサービス担当者に連絡する。
- 電池の液が目に入ったら
すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。
- 電池の液が皮膚や衣服に付いたら
すぐにきれいな水で洗い流す。
- バッテリー収納部内で液が漏れたら
よくふきとってから、新しい電池を入れる。

ここでは、本機で使用可能なソニー製リチウムイオン電池についての注意事項を記載しています。

⚠ 危険

- 充電には、ソニーの専用バッテリーチャージャーを使用する。
- 火の中に投げ入れたり、加熱、半田付け、分解、改造をしない。
- 直射日光の当たるところ、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で、使用・放置・充電をしない。

⚠ 警告

- ハンマーでたたくなどの強い衝撃を与えたり、踏みつけたりしない。
- 接点部や⊕極と⊖極をショートさせたり、金属製のものと一緒に携帯・保管をしない。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめる。

- 電池使用中や充電、保管時に異臭がしたり、発熱・液漏れ・変色・変形などがあつたときは、すぐに使用や充電をやめる。
- 水や海水につけたり、濡らしたりしない。

⚠ 注意

充電のしかたについてはバッテリーチャージャーの取扱説明書をよく読む。



Li-ion

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCホームページ <http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html> を参照してください。

レーザー機器について の注意

注意

ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の被爆をもたらします。

レーザー特性

波長	400～410 nm
発振形態	連続
レーザー出力	135 mW (max. of pulse peak)、 65 mW (max. of CW)

本機は「クラス1レーザー製品」です。

ご使用前に

ご注意

本機に対して周辺機器やアクセサリの取り付け/取り外しを行うときは、必ず本機の電源をOFFにしてください。

1章 概要

特長

$2/3$ 型フルHDと「PowerHAD FX」 CCD回路を採用

- フルHD（1920×1080）の220万画素で構成されている $2/3$ 型FITイメージセンサー
- 16bit A/Dコンバーターを搭載した信号処理用ASICを含む「PowerHAD FX」 CCD回路

イメージセンサー部にこれらの技術を採用することによって、感度F10（59.94i）/F11（50i）、SN比57.5dB¹⁾を実現し、高画質な映像の撮影が可能になりました。

- 1) ノイズサプレッサー機能ON時（OFF時は54dB）ノイズサプレッサーとは、ソニー独自の信号処理技術によって高域ノイズ成分を抑制する機能です。

信頼のメカニズム

冷却効果が高いダクト方式の採用によって本体の表面および内部の温度上昇が抑えられ、高温環境での信頼性を高めています。同時に、信頼性の高い防滴性能も実現しています。

また、収録時に大きな衝撃を受けても、データはいったんショックブルーフェメモリに格納されるため、正常に記録を継続することができます。さらに、テープカムコーダーのコンフィデンス再生のように、レックベリファイ機能が確実な収録を保証し、放送局用機材としての威力を発揮します。

高画質・高音質なデータを長時間記録

- フルHD（1920×1080）のイメージセンサーで捉えた信号をMPEG HD422フォーマット¹⁾で記録するため、高画質な映像が得られます。²⁾
- 音声を24ビットでサンプリングするため、高音質です。また、4チャンネル記録をサポートしています。³⁾
- 2層のプロフェッショナルディスクを使用した場合、約95分の高画質・高音質データを記録できます。

このように高画質・高音質なデータを長時間記録できるため、ニュース制作はもとより幅広い番組制作の高度な要求に応えることができます。

- 1) MPEG-2 422P@HLのコーデックにより、4:2:2 サンプリング、ビデオビットレート50Mbpsで記録するフォーマットです。
- 2) 画像圧縮方式はMPEG-2 Long GOPを採用しています。
- 3) PDW-HD1500では、MPEG HD422フォーマットで最大8チャンネル記録に対応しています。

従来機種と互換性のあるフォーマットに対応

従来のXDCAM HD機器で採用されているMPEG-2 MP@HL 35/25Mbpsフォーマットで記録・再生することもでき、MPEG-2 422P@HL 50Mbpsフォーマットよりも長時間の収録が可能です。

多彩なインターフェースを装備

- 2系統のHD/SD SDI信号出力端子：HD SDI信号とSD SDI信号を任意に組み合わせで使用できます。2系統のうちの1系統は、タイムコードなどの文字情報をスーパーインポーズすることもできます。

- コンポジット信号出力端子
- SDI信号入力端子：共同取材などの環境下での収録が考慮されており、HD SDI信号を入力できます。
- Gen-lock入力端子：複数台での収録における同期運用時に、VBSとHD-Yのいずれの信号にも同期することができます。
- 音声入力端子：マイク入力、+48Vマイク入力、ライン入力のほかにAES/EBUの信号入力にも対応しています。
- タイムコード入出力端子
- ネットワーク端子：MXFファイル形式でファイル転送が可能です。
- USB端子：Windows用のUSBキーボード/マウスが使用できます。USBメモリーを接続すると、プロキシデータを記録したり、プランニングメタデータを読み込むことができます。また、Wi-Fiアダプター CBK-WA01（別売）、ワイヤレスアダプター CBK-WA100（別売）を接続すると、無線LAN接続が可能になります。

さまざまな撮影シーンに対応する機能

ピクチャーキャッシュ機能

本機内蔵の大容量メモリーを利用して、記録開始前（2～30秒）の映像をさかのぼって記録したり、ディスク交換中の映像を途切れることなく連続して記録することができます。

色温度フィルター

色温度フィルターは電気回路で構成され、ENG（Electronic News Gathering）用途で有効な瞬時のショックレス切り換えやNDフィルターとの連動が可能です。また、色温度フィルターだけを切り換える専用スイッチによって、すばやく切り換えることができます。さらに、ホワイトバランス設定に影響されずにあらかじめ設定した絶対色温度設定を瞬時に得ることができます。

ノイズサプレッサー回路

ノイズサプレッサー回路を新たに搭載し、条件が厳しい夕方や夜の撮影時に威力を発揮します。

スローシャッター機能

16フレームまで蓄積できるスローシャッター機能を搭載しています。低照度の状況下でノイズの少ないクリアな映像を撮影したいときや、残像を伴う幻想的な映像を撮影したいときに便利です。

インターバルレック（間欠記録）機能

本機能を使用して動きの遅い被写体を撮影すると、被写体が動く様子を、時間を短縮して試みるすることができます。植物の成長観察映像や建物を建設する際の記録映像など、さまざまな用途に利用できます。

フリーズミックス機能

過去に撮影した映像（静止画）とカメラの映像を重ね合わせながら画角などを調整することにより、まったく同じフレーミングで新たな撮影を行うことが可能です。たとえば、夏と冬に同じ風景を同じフレーミングで撮影するなどの手法を容易にします。

デジタルエクステンダー機能

映像の中央を拡大します。電氣的に処理するため、レンズのエクステンダーを使用した際に生じる感度の落ち込み（Fドロップ）を防ぎます。

フォーカスアシスト機能

ビューファインダー画面上にフォーカスアシストインジケータを表示させ、フォーカシング操作が容易になります。ビューファインダーの映像だけではフォーカシングしづらい状況で役立ちます。

アサインブルスイッチ

撮影に便利な、よく使う機能を割り当てておくことによって、すばやく操作することができます。

ハイパーガンマ

Knee（ニー）機能を使用せず、滑らかに高輝度部分を圧縮することによって、広いダイナミックレンジを実現します。

デジタルワイヤレスマイクロホンシステムに対応

高音質でノイズに強く、多チャンネル同時運用を実現するデジタルワイヤレスマイクロホンシステムに対応しています。デジタルワイヤレスレシーバー DWR-S02DNまたはDWR-S03D¹⁾を装着することによって、2チャンネル同時受信が可能です。

1)各国の電波規制事情により、これらの製品が販売されていない地域もあります。

高解像度の3.5型LCDモニターを装備

高解像度の3.5型QHDカラー LCDモニターにオーディオメーター、メニュー、ディスクおよびバッテリー残量、各種サムネイルなどを表示します。

XDCAMならではの従来の機能を踏襲

サムネイル表示、メタデータの管理など、従来のXDCAMワークフローを継承しながら、マンマシンインターフェースの充実を図っています。

また、従来のRec Startエッセンスマークに加えて、収録したクリップに対してフラグ（OK/NG/KEEP）を設定できるようになり、ユーザーが利用できるメタデータも拡張されました。本機をノンリニア編集システムなどで使用するとき、作業効率の改善に役立ちます。

ソフトウェアのダウンロードについて

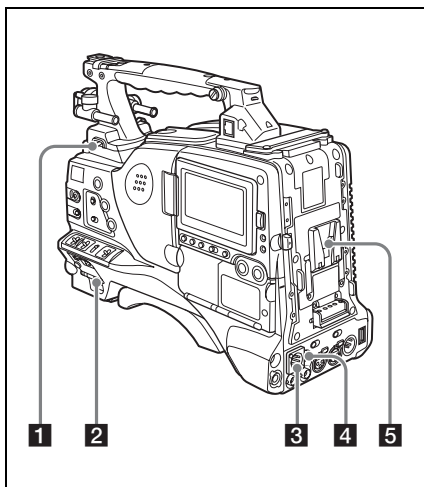
本機をPCと接続して使用する際は、必要に応じてデバイスドライバーや各種プラグインソフトウェア、アプリケーションソフトウェアをソニープロフェッショナル/業務用製品サイトからダウンロードしてお使いください。

ソニープロフェッショナル/業務用製品サイト ホームページ：

アメリカ合衆国	http://pro.sony.com
カナダ	http://www.sonybiz.ca
ラテンアメリカ	http://sonypro-latin.com
ヨーロッパ、中東、アフリカ	http://www.pro.sony.eu
日本	http://www.sonybsc.com
アジア	http://pro.sony-asia.com
韓国	http://bp.sony.co.kr
中国	http://pro.sony.com.cn

各部の名称と働き

電源部



1 LIGHT (ビデオライト動作モード切り換え) スイッチ

LIGHT端子 (20ページ参照) に接続したビデオライトのオン/オフのしかたを選択します。

AUTO : ビデオライトのPOWERスイッチをONにしておくと、本機で記録しているときにライトが点灯する。

MANUAL : ビデオライトのPOWERスイッチでライトをオン/オフする。

ご注意

- AUTOを選択した場合、記録開始時はライトが点灯するまで、明るさが一定でない状態で記録されます。記録開始部分が重要な場合は、MANUALに設定して記録することをおすすめします。
- ビデオライトを正しく作動させるためには、本機でバッテリーパックBP-GL95B/GL95A/FLX75/FL75を使用することをおすすめします。

2 POWER (電源) スイッチ

主電源をオン/オフします。

3 DC IN (DC電源入力) 端子 (XLR 4ピン、凸)

本機をAC電源で動作させるとき、この端子に別売りのDC電源コードを差し込み、バッテリーチャージャー BC-L70A、BC-L160などのDC出力端子に接続します。

4 DC OUT 12V (DC電源出力) 端子 (4ピン、凹)

ワイヤレスアダプター CBK-WA100用の電源を供給します (最大1.0 A)。ワイヤレスアダプター以外の機器は接続しないでください。

5 バッテリー取り付け部

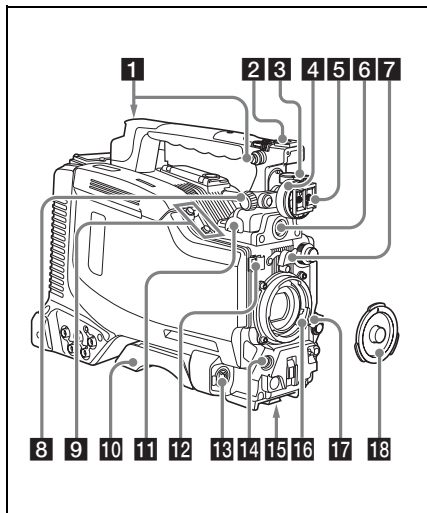
バッテリーパックBP-GL95B/GL95A/FLX75/FL75を取り付けます。また、ACアダプター AC-DN10/DN10Aを取り付けて、AC電源で本機を動作させることもできます。

◆バッテリーやACアダプターの取り付けかたについては、「電源の準備」(44ページ)をご覧ください。

ご注意

本機を安全かつ正常な動作状態でお使いいただくために、ソニー純正のバッテリーパックの使用を推奨します。

アクセサリ取り付け部



1 ショルダーベルト取り付け金具

付属のショルダーベルトを取り付けます (58ページ参照)。

2 アクセサリーシュー

ビデオライトなどを取り付けます (57ページ参照)。

3 ビューファインダー前後位置固定レバー

ビューファインダーの位置を前後方向に調整するとき、このレバーとLOCKつまみをゆるめて調整します。調整後、LOCKつまみと共にロックします。

4 ビューファインダー左右位置固定リング

ビューファインダーの位置を左右方向に調整するときゆるめます (46ページ参照)。

5 ビューファインダー取り付けシュー

別売のビューファインダーを取り付けます。

6 VF (ビューファインダー) 端子 (20ピン)

ビューファインダーの接続ケーブルを接続します。

◆使用できるビューファインダーについては、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。

7 レンズマウントゆるみ止めゴム

レンズ固定レバーでレンズを固定した後に、このゴムを2つある突起の下側の突起にはめ込みます。レンズマウントが固定され、レンズマウントがゆるむのを防ぎます。

8 ビューファインダー前後位置LOCKつまみ

ビューファインダーの位置を前後方向に調整するときゆるめます (46ページ参照)。

9 マイクホルダー取り付け部

別売のマイクホルダー CAC-12を取り付けます (53ページ参照)。

10 ショルダーパッド

ショルダーパッド固定レバーを持ち上げると、前後方向に位置を調節できます。本機を肩にのせたとき操作しやすくなるように、適当な位置に調節してください。

◆調節のしかたについては、「ショルダーパッドの位置調整」(59ページ)をご覧ください。

11 LIGHT (ライト) 端子 (2ピン、凹)

アントンパワー社製のウルトラライト2または同等品で、50W以下のビデオライトを接続します (57ページ参照)。

12 レンズケーブルクランプ

レンズケーブルを固定します。

13 MIC IN (マイク入力) (+48V) 端子 (XLR型、5ピン、凹)

ステレオマイクを接続する端子です。マイク用の電源 (+48V) はこの端子から供給されます。

14 LENS（レンズ接続用）端子（12ピン）

レンズケーブルを接続します。

ご注意

本機にレンズケーブルの接続/取り外しを行うときは、本機の電源を切ってから行ってください。

15 三脚マウント

本機を三脚に固定するとき、三脚アタッチメント（別売）を取り付けます。

16 レンズマウント（特殊バヨネット型）

レンズを取り付けます。

◆使用できるレンズについては、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。

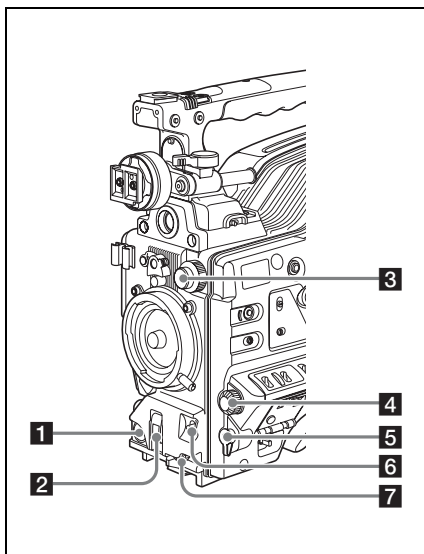
17 レンズ固定レバー

レンズをレンズマウントに差し込んだ後、このレバーでレンズマウントリングを回してレンズを固定します。

レンズを固定した後は、必ずレンズマウントゆるみ止めゴムを使用してください。

18 レンズマウントキャップ

レンズ固定レバーを押し上げると取り外せます。レンズを取り付けていないときは、はめ込んでおいてください。

操作・端子部**前面****1 REC START（記録開始）ボタン**

押すと記録が始まり、もう一度押すと止まります。レンズにあるRECボタンと同じ動作をします。

2 SHUTTER（シャッター）スイッチ

電子シャッターを使うときにONにします。SELECT側に押すと、メニューであらかじめ設定した範囲で、シャッタースピードとシャッターモードの表示が切り替わります。スイッチの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面の設定変更/調整経過メッセージ表示部に約3秒間表示されます。

◆シャッタースピードやシャッターモードの設定については、「電子シャッターの設定」（70ページ）をご覧ください。

3 FILTER（フィルター切り換え）つまみ

本機に内蔵されている光学フィルターを切り換えるためのつまみです。

フィルターの表示モード（218ページ参照）がONに設定されている場合、このつまみの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面に約3秒間表示されます。

本機は1枚のフィルターを備えており、4種類のNDフィルターを切り換えることができます。

FILTER つまみ ND フィルターの種類	
1	CLEAR（素通り）
2	$\frac{1}{4}$ ND（光を約 $\frac{1}{4}$ に減衰させる）
3	$\frac{1}{16}$ ND（光を約 $\frac{1}{16}$ に減衰させる）
4	$\frac{1}{64}$ ND（光を約 $\frac{1}{64}$ に減衰させる）

MAINTENANCEメニューの設定を変更することにより、つまみの各位置にホワイトバランスの設定値を個別に記憶させておくことができるため、フィルターの切り換えに連動して、撮影条件に応じた最適なホワイトバランスが得られます。

◆詳しくは、「ホワイトバランスを調整する」（65ページ）をご覧ください。

4 MENUつまみ

各メニュー内のページ選択や設定値の変更をするときに使います。

◆詳しくは、「メニューの使いかた」（208ページ）をご覧ください。

5 EARPHONE（イヤホン）端子（モノラル、ミニジャック）

イヤホンをつなぐと、記録中はE-E¹⁾音を、再生中は再生音をモニターできます。警告ランプや警告表示の点滅・点灯に合わせて警告音も聞こえます。後面パネルのEARPHONE端子と併用することができます。内蔵スピーカーからの音は自動的に聞こえなくなります。

1) **E-E**：「Electric to Electric」の略。本機に入力され、本機内部の電気回路のみを通して出力端子から出てくる映像信号または音声信号のこと。これによって入力信号を確認できる。

6 AUTO W/B BAL（ホワイトバランス/ブラックバランス自動調整）スイッチ

次のようにホワイトバランスやブラックバランスを自動調整します。

WHT：ホワイトバランスを自動調整する。
このとき WHITE BALスイッチ（24ページ参照）をAまたはBにしておくと、調整された値がメモリー AまたはBに記憶される。WHITE BALスイッチがPRSTのときは動作しない。

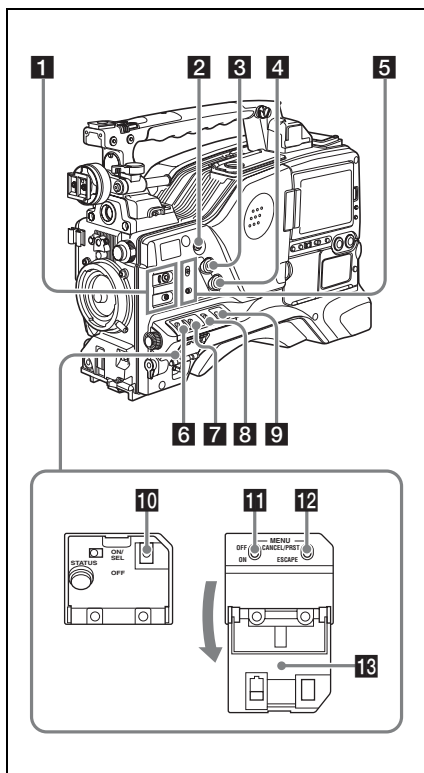
BLK：ブラックセットとブラックバランスを自動調整する。

7 MIC LEVEL（マイクレベル）つまみ

音声チャンネル1/2/3/4の入力レベルを調整します。

◆詳しくは、「音声レベルの調整」（75ページ）をご覧ください。

右側面（前部）



- 1 ASSIGN（アサインابل）1/2スイッチ**
OPERATIONメニューのASSIGNABLE SWページで、スイッチの機能を割り当てます。工場出荷時は、何も機能が割り当てられていません（OFFを選択している場合と同じ状態）。
◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」（224ページ）をご覧ください。

- 2 COLOR TEMP.（色温度切り換え）ボタン**
押すと点灯し、撮影するときの色温度を変更できます。また、ASSIGNスイッチとしても使用することができます（224ページ参照）。

3 ALARM（警告音量調節）つまみ

内蔵スピーカーやイヤホンから聞こえる警告音の音量を調節します。最小にすると、警告音は聞こえなくなります。ただし、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページでMIN ALARM VOLの設定をSETに変更すると、このつまみが最小の位置でも警告音が聞こえるようになります。

**4 MONITOR（音量調節）つまみ**

内蔵スピーカーやイヤホンから聞こえる警告音以外の音声の音量を調節します。最小にすると、音声は聞こえなくなります。

5 MONITOR（オーディオモニター選択）スイッチ

2つのスイッチの組み合わせによって、内蔵スピーカーやイヤホンから聞こえる音声を以下のように選択します。

下側のスイッチ：CH-1/2

上側のスイッチ	音声出力
CH-1/CH-3	チャンネル1の音声
MIX	チャンネル1と2の混合音声（ステレオ） ^{a)}
CH-2/CH-4	チャンネル2の音声

下側のスイッチ：CH-3/4

上側のスイッチ	音声出力
CH-1/CH-3	チャンネル3の音声
MIX	チャンネル3と4の混合音声（ステレオ） ^{a)}
CH-2/CH-4	チャンネル4の音声

a)後面パネルのEARPHONE端子にステレオヘッドホンを接続すると、音声をステレオで聞くことができます。（MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページでHEADPHONE OUTをSTEREOに設定する必要があります。）

6 VDR SAVE/STBY (VDR節電/待機) スイッチ

停止 (STOP) および記録一時停止 (REC PAUSE) 中のVDRの動作状態を切り換えます。

SAVE : ディスクの回転を止め、一部の機能を制限することによって、STBY時より電力消費を少なくする。バッテリーの動作時間は長くなる。

STBY : REC STARTボタンを押すと、すぐにディスクへの記録が開始される。

ご注意

スイッチがSAVE側のとき、記録開始時に内部動作音が記録されることがあります。

7 GAIN (ゲイン切り換え) スイッチ

撮影時の照明状態に合わせて、映像アンプのゲイン (利得) を切り換えます。L、M、Hの設定に対応するゲイン値は、あらかじめメニューで指定します (工場出荷時の設定は、L=0dB、M=6dB、H=12dB)。

このスイッチの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面の設定変更/調整経過メッセージ表示部に約3秒間表示されます。

◆詳しくは、「ゲイン切り換え値を設定する」(223ページ)をご覧ください。

8 OUTPUT (出力信号切り換え) /DCC (ダイナミックコントラストコントロール機能切り換え) スイッチ

カメラ部からビデオディスクドライブ部 (以下、VDR部) やビューファインダー、ビデオモニターに出力する信号を以下の2つから選択します。

BARS : カラーバー信号を出力する。

CAM : カメラが撮影している映像信号を出力し、DCC 機能¹⁾のオン/オフを切り換えることができる。

1) **DCC (Dynamic Contrast Control) 機能** :

高輝度の背景で人物や風景などにレベルを合わせて撮影すると、背景が白くつぶれ、背景にある建物や風景がぼやける。このようなときにDCC機能を動作させると、高輝度部分を自動

的に抑え、背景をくっきりと再現できる。次のような場面の撮影に効果を発揮する。

- 晴天時に日陰の人物を撮るとき
- 車内または屋内の人物と窓越しの屋外の風景を同時に撮影したいとき
- コントラストの強い場面を撮るとき

9 WHITE BAL (ホワイトバランスメモリー切り換え) スイッチ

以下のようにホワイトバランスの調整方法を切り換えます。

PRST : 色温度をプリセット値 (工場出荷時の設定は3200K) に調整する。ホワイトバランスを調整する時間がないときなどに合わせる。

AまたはB : あらかじめAまたはBに保存しておいたホワイトバランスの調整値を呼び出す。AUTO W/B BALスイッチ (22ページ参照) をWHT側に押し、ホワイトバランスを自動的に調整し、調整値をメモリー Aまたはメモリー Bに記憶する。

なお、ATW¹⁾ が動作中でも、AUTO W/B BALスイッチは機能する。

B (ATW) : OPERATIONメニューのWHITE SETTINGページでWHITE SWITCH をATWに設定しておくこと、ATWが動作する。

このスイッチの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面の設定変更/調整経過メッセージ表示部に約3秒間表示されます。

1) **ATW (Auto Tracing White balance)** : 照明条件の変化に応じて画像のホワイトバランスを自動的に追従させる機能

10 STATUS ON/SEL/OFF (メニュー設定表示オン/ページ選択/表示オフ) スイッチ

MENU ON/OFFスイッチがOFFの位置で、本スイッチはSTATUS ON/SEL/OFFとして使用できます。

スイッチカバーを閉めるとMENU ON/OFFスイッチが自動的にOFFの位置になります。

ON/SEL : この位置に押し上げると、本機の種類設定や状態を確認するための画

画がビューファインダーに表示される。
この画面は4ページあり、押し上げるたびに、ページが変わる。画面は約10秒間表示される。

OFF：画面を表示させた直後に、画面を消したいとき、この位置に押し下げる。各ページを表示させるかどうかは、設定メニューで選択できます。

◆設定については、「状態確認画面を表示する」(222ページ)をご覧ください。

11 MENU ON/OFF (メニュー表示オン/オフ) スイッチ

スイッチカバーを開けるとMENU ON/OFFスイッチが使用できるようになります。ビューファインダー画面やテスト出力画面上に設定メニューを表示するときに使います。

スイッチカバーを閉めると、スイッチはOFFの位置になります。

ON：ビューファインダー画面やテスト出力画面上にメニューが表示される。

OFF：ビューファインダー画面やテスト出力画面からメニューが消える。

12 CANCEL/PRST/ESCAPE (メニュー設定取消し/プリセット/戻る) スイッチ

MENU ON/OFFスイッチがONの位置で、本スイッチが有効となります。

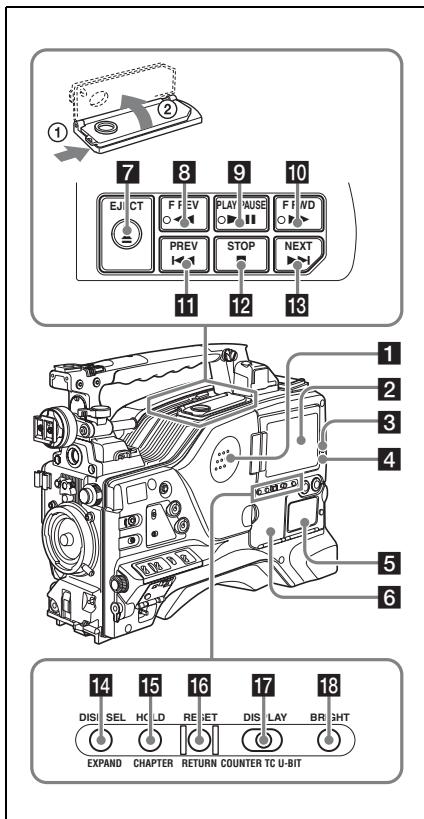
スイッチカバーを閉めるとMENU ON/OFFスイッチが自動的にOFFの位置になります。

CANCEL/PRST：この位置へ押し上げると、本機のメニューの操作状態に応じて、変更した設定を消すかどうか、または標準設定の状態に戻すかどうかを確認する表示が出る。再度押し上げると設定を取り消すか、または標準設定状態になる。

ESCAPE：階層構造を持つメニューを開いているときに使用する。この位置に押し下げるたびに、現在の階層から1つ上の階層に戻る。

13 スイッチカバー

右側面 (後部)



1 内蔵スピーカー

記録中はE-E音を、再生中は再生音をモニターできます。警告ランプや警告表示の点滅・点灯に合わせて警告音も聞こえます。なお、EARPHONE端子にイヤホンをつなぐと、内蔵スピーカーからは音が聞こえなくなります。

◆警告音については、「警告システム」(262ページ)をご覧ください。

2 LCD (液晶) モニター

カメラの映像、VDR部に関する警告、バッテリー残量、ディスク残量、音声レベル、タイムデータなどを表示します。

◆ 詳しくは、「LCDモニターの表示」(27ページ)をご覧ください。

3 WARNING (警告) ランプ

VDR部に異常が発生すると、点滅または点灯します。

◆ WARNINGランプの動作と警告内容の関係については、「警告システム」(262ページ)をご覧ください。

4 ACCESS (アクセス) ランプ

ディスクに書き込みや読み出しが行われているときに点灯します。

5 オーディオ調整部の保護カバー

開くとオーディオ調整部が現れます (31ページ参照)。

6 GUI画面操作部の保護カバー

開くとサムネイル画面をはじめとするGUI画面の操作部が現れます (31ページ参照)。

7 EJECT (ディスク取り出し) ボタンとランプ

ディスクを挿入するとき、またはディスクを取り出すときにこのボタンを押します。取り出し動作中は、ランプが点滅します。

8 F REV (逆高速再生) ボタンとランプ

逆方向に高速再生します。逆方向高速再生中はランプが点灯します。

9 PLAY/PAUSE (再生/一時停止) ボタンとランプ

再生するときに押します。再生中はランプが点灯します。

再生中に再度このボタンを押すと一時停止状態となり、静止画が出力されます。このとき、ランプが点滅します。

再生/一時停止中にF REVボタンまたはF FWDボタンを押すと、逆方向または順方向の約4倍速の再生になります。このとき、PLAYランプとF REVまたはF FWDランプが点灯します。

10 F FWD (高速再生) ボタンとランプ

順方向に高速再生します。順方向高速再生中はランプが点灯します。

11 PREV (逆方向クリップジャンプ) ボタン

現在のクリップの先頭にジャンプします。ジャンプ中は、F REVランプが点滅します。F REVボタンと同時に押すと、ディスク内で最初に記録されたクリップの先頭画にジャンプします。

12 STOP (停止) ボタン

ディスクの再生を止めるときに押します。

13 NEXT (順方向クリップジャンプ) ボタン

次のクリップの先頭にジャンプします。ジャンプ中は、F FWDランプが点滅します。F FWDボタンと同時に押すと、ディスク内の最後に記録されたクリップの最終画にジャンプします。

14 DISP SEL/EXPAND (表示選択/エクスパンド) ボタン

ボタンを押すごとに、表示内容が次表の順番に切り替わります。

表示内容	説明
文字情報付きの映像 (CHAR)	ビューファインダー画面と同様の文字情報が表示される
文字情報なしの映像 (MONI)	映像のみが表示される
ステータス表示 (STATUS)	カウンター、各種の警告、音声レベルなどが表示される。映像は表示されない

サムネイル表示中に押すと、選択したクリップを時間で12分割し、分割されたそれぞれの先頭フレームをさらにサムネイルとして一覧表示します (エクスパンド機能)。押すごとに分割を繰り返します (最大3回、1728分割まで)。SHIFTボタンを押したままこのボタンを押すごとに、分割を戻します。

◆ エクスパンド機能について詳しくは、130ページをご覧ください。

15 HOLD/CHAPTER (データ表示保持/チャプター) ボタン

押した瞬間に、カウンター表示部のタイムデータの表示が保持されます。(ただし、タイムコードジェネレーターは歩進し続けます。) もう一度押すと、保持状態が解除されます。

あるシーンを撮った時刻を知りたいときなどに使います。

◆ カウンター表示について詳しくは、28ページをご覧ください。

サムネイル表示中に押すと、ショットマークが記録されているフレームの一覧を表示します(チャプター機能)。もう一度押すと、通常のサムネイル表示に戻ります。代表画ではなく、ショットマーク付きのサムネイルを表示することによって、クリップの内容がより把握しやすくなります。長尺クリップの頭出しにも利用できます。

◆ チャプター機能について詳しくは、131ページをご覧ください。

16 RESET/RETURN (リセット/リターン) ボタン

タイムカウンター表示部に表示されている値をリセットします。PRESET/REGEN/CLOCKスイッチ(32ページ参照)とF-RUN/SET/R-RUNスイッチ(31ページ参照)の設定に応じて、次のように働きます。

スイッチの設定	RESET/RETURN ボタンの働き
DISPLAY スイッチ : COUNTER	カウンターを 0 : 00 : 00 : 00にリセットする。
DISPLAY スイッチ : TC	タイムコードを 00 : 00 : 00 : 00にリセットする。
PRESET/REGEN/ CLOCK スイッチ : PRESET	
F-RUN/SET/R-RUN スイッチ : SET	

スイッチの設定	RESET/RETURN ボタンの働き
DISPLAY スイッチ : U-BIT	ユーザービット ^{a)} データを00 00 00 00にリセットする。
PRESET/REGEN/ CLOCK スイッチ : PRESET	
F-RUN/SET/R-RUN スイッチ : SET	

a) ディスク上に記録されるタイムコードビットのうち、ユーザーが必要な情報を記録するために使うことのできるビット。

◆ 詳しくは、「タイムデータの設定」(78ページ)をご覧ください。

サムネイル表示中に押すと、1つ前の画面に戻ります。

◆ 詳しくは、「GUI画面の操作」(128ページ)をご覧ください。

17 DISPLAY (カウンター表示切り換え) スイッチ

カウンター表示部の表示をCOUNTER、TC、U-BITの順に切り換えます。

COUNTER : 記録・再生経過時間のカウンターを表示する。

TC : タイムコードを表示する。

U-BIT : ユーザービットを表示する。

◆ 詳しくは、「LCDモニターの表示」(27ページ)をご覧ください。

18 BRIGHT (明るさ設定) ボタン

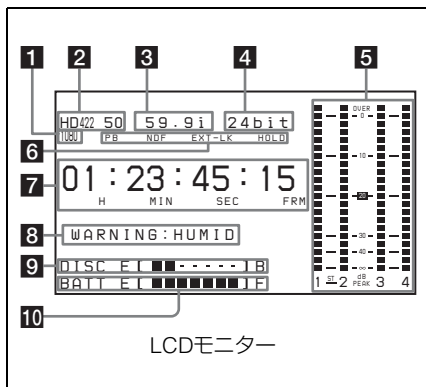
LCDモニターのバックライトの明るさを切り換えます。

ボタンを押すごとに次表の順番に切り替わります。

設定	LCD モニターのバックライト
H	高輝度 (日中の屋外でLCDモニターの表示をみるときに選択する)
M	HとLの中間の明るさ
L	低輝度 (室内または夜間の屋外でLCDモニターを表示をみるときに選択する)
OFF	消灯 (表示も消える)

LCDモニターの表示

ステータス表示状態のLCDモニターには、次の画面が表示されます。



1 解像度

HD出力映像の解像度が表示されます。

表示	解像度 (水平×垂直)
1080	1080ライン (1920×1080)

2 映像フォーマット表示

記録中または再生中の映像のフォーマットが表示されます。

表示	フォーマット	ビットレート
HD422 50	MPEG HD422	50Mbps
HD420 HQ/SP/ LP a)	MPEG HD420	35/25/18Mbps
IMX 50/40/30 b)	MPEG IMX	50/40/30Mbps
DVCAM b)	DVCAM	25Mbps

a) LPIは再生時のみ

b) HDにアップコンバートして簡易再生が可能です。ただし、SDI OUT 1/2端子からの出力がSDSDI、またはTEST OUT端子からの出力がVBSIに設定されているときは出力されません。

3 システム周波数表示

記録中または再生中の映像のシステム周波数が表示されます。

NTSC地域を選択した場合¹⁾

表示	フィールド/フレイムレート	スキャンモード
59.9i	59.94フィールド/秒	インターレース

PAL地域を選択した場合¹⁾

表示	フィールド/フレイムレート	スキャンモード
50i	50フィールド/秒	インターレース

1) OPERATIONメニューのFORMATページのCOUNTRYで設定します (180ページ参照)。

ご注意

他の機器で記録されたディスクを再生した場合など、システム周波数が特定できないとき、何も表示されないことがあります。

4 音声フォーマット表示

記録中または再生中の音声のフォーマットが表示されます。

表示	量子化ビット数/サンプリング周波数
24bit	24bit/48kHz
16bit	16bit/48kHz

5 音声レベルメーター

音声記録レベルまたは再生レベルが表示されます。「1」～「4」は音声チャンネル1～4を示します。

6 状態表示

PB : ディスクを再生しているとき表示されます。

NDF : タイムコードがノンドロップフレームモードのとき表示されます。

EXT-LK : 内蔵のタイムコードジェネレーターがTC IN端子に接続した外部信号にロックしているとき表示されます。

HOLD : タイムコードジェネレーターの歩進表示を止めているとき表示されます。

7 タイムカウンター表示

DISPLAY (カウンター表示切り換え) スイッチのポジションにより、タイムカウンター、タイムコード、ユーザービットを切り換えて表示します。

タイムコード表示中にHOLD/CHAPTERボタンが押されたときは、次のフォーマットで表示されます。HOLD/CHAPTERボタンを再度押して保持状態を解除すると、通常の表示に戻ります。



HOLD/CHAPTERボタンが押されたとき点灯

8 警告表示エリア

記録異常や結露が発生したときに内容を表示します。

◆詳しくは、「警告システム」(262ページ)をご覧ください。

また、プランニングメタデータを利用してクリップ名の設定が可能な場合(109ページ参照)、クリップ情報として本機に読み込まれたプランニングメタデータに記述されたタイトルを表示します(表示形式はDisc Menuの「Planning Clip Name in Clip Info. Area」の設定に従う)。

表示可能な文字は次のとおりです。

- 数字：0～9
- アルファベット：a～z、A～Z
- 以下の記号：!、"、#、\$、%、&、'、(、)、*、+、,、-、.、/、:、;、<、=、>、?、@、[、]、^、_、{、|、}、~
- スペース

9 ディスク残量表示

表示	ディスク残量
DISC E [■■■■■■■■■■] B	30分以上
DISC E [■■■■■■■■■] B	25～30分
DISC E [■■■■■■■■] B	20～25分
DISC E [■■■■■■■] B	15～20分
DISC E [■■■■■] B	10～15分
DISC E [■■■] B	5～10分
DISC E [■] B	2～5分
DISC E [■] B (点滅)	0～2分
DISC E [] B (点滅)	0分

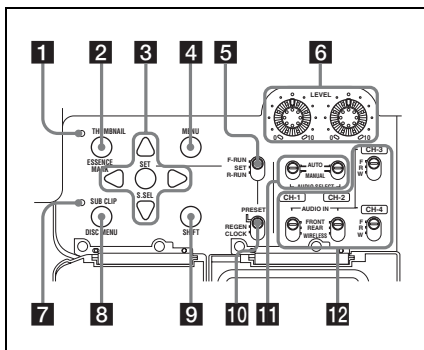
10 バッテリー残量表示

表示	バッテリー電圧	
	BP-L60S/L80S	その他のバッテリー ^{a)}
BATT E [■■■■■■■■■■] F	15.5V以上	17.0V以上
BATT E [■■■■■■■■■] F	15.1～15.5V	16.0～17.0V
BATT E [■■■■■■■■] F	14.6～15.1V	15.0～16.0V
BATT E [■■■■■■■] F	13.8～14.6V	14.0～15.0V
BATT E [■■■■■] F	12.9～13.8V	13.0～14.0V
BATT E [■■■] F	12.0～12.9V	12.0～13.0V
BATT E [■] F	10.8～12.0V	11.0～12.0V
BATT E [] F	10.8V以下	11.0V以下

a) MAINTENANCEメニューのBATTERY 2ページで、しきい値電圧を変更することができます(190ページ参照)。

表示	バッテリー電圧
	BP-GL95B/GL95A/GL65A/FLX75/FL75、アントンパウアー社製バッテリー
BATT E [■■■■■■■■■■] F	80～100%
BATT E [■■■■■■■■■]	70%
BATT E [■■■■■■■■]	60%
BATT E [■■■■■■■]	50%
BATT E [■■■■■]	40%
BATT E [■■■]	30%
BATT E [■]	20%
BATT E [■]	10%
BATT E []	0%

GUI画面操作部とオーディオ調整部

**1 サムネイルインジケータ**

サムネイルが表示されているときに点灯します。

2 THUMBNAIL/ESSENCE MARK (サムネイル/エッセンスマーク) ボタン

サムネイルを使ったサーチやクリップリストの作成などを行うとき、このボタンを押します (130ページ参照)。

押すと、全画面表示状態から、サムネイル表示画面になります。もう一度押すと元の全画面表示に戻ります。

また、エッセンスマークによってサムネイルをサーチする場合は、SHIFTボタンを押したままこのボタンを押します (133ページ参照)。

3 SET/S.SEL (設定/シーンセレクション) ボタンと矢印ボタン

タイムコードやユーザービットの数値の設定、およびGUI画面での操作に使います。矢印ボタンで項目の選択や数値の変更を行い、SET/S.SELボタンで設定を確定します。サムネイル表示中にSHIFTボタンを押したままこのボタンを押すと、クリップリストにサブクリップが追加されます (シーンセレクション)。

◆ GUI画面の操作について詳しくは、128ページをご覧ください。

◆ シーンセレクションについて詳しくは、143ページをご覧ください。

4 MENU (メニュー) ボタン

GUI画面での操作に必要なGUI専用メニュー画面を表示するときに押します (125ページ参照)。

GUI画面以外で押しても動作しません。操作は無効になります。

5 F-RUN/SET/R-RUN (フリーラン/セット/レックラン切り換え) スイッチ

内蔵タイムコードジェネレーターの歩進モードを選択します。スイッチの位置によって、歩進モードは以下のように変わります。

F-RUN : VDRの操作に関係なく、連続してタイムコードが歩進する。タイムコードを外部ロックさせるときなどに合わせる。

SET : タイムコードやユーザービットを設定する。

R-RUN : 記録中のみタイムコードが歩進する。ディスク上のタイムコードを、連続して記録する。

◆ 詳しくは、「タイムコードを設定する」(78ページ) および「ユーザービットを設定する」(79ページ) をご覧ください。

6 LEVEL CH-1/CH-2 (音声チャンネル1/2録音レベル調整) つまみ

AUDIO SELECT CH-1/CH-2スイッチ (下記) をMANUALにすると、音声チャンネル1と2に記録する音声レベルを調整できます。

7 サブクリップインジケータ

クリップリストにしたがって再生を行っているときに点灯します。

8 SUB CLIP/DISC MENU (サブクリップ/ディスクメニュー) ボタン

クリップリストにしたがって再生を行うときに押します。

押すと、選択されたクリップリストに従い、クリップのみの再生または順次再生、サーチなどが行われます。

クリップリストの保存、呼び出し、削除などを行うDisc Menu（ディスクメニュー）を表示するときは、SHIFTボタンを押したままこのボタンを押します。

9 SHIFT（シフト）ボタン

各種のボタンと組み合わせて使用します。

10 PRESET/REGEN/CLOCK（プリセット/リジェネレート/クロック）スイッチ

タイムコードを新たに設定するか、途中まで記録されているものに合わせるかを選択します。

PRESET：新たに設定されたタイムコードをディスクに記録する。

REGEN：ディスクに記録されたタイムコードを読み取り、その値に連続するようにタイムコードを記録する。そのため電源ON直後の記録開始はPRESET/CLOCK位置に比べて時間を要する。F-RUN/SET/R-RUN スイッチの設定に関わらず、本機はR-RUNモードで歩進する。

CLOCK：タイムコードを内蔵の時計と合わせる。F-RUN/SET/R-RUN スイッチの設定に関わらず、本機はF-RUNモードで歩進する。

11 AUDIO SELECT CH-1/CH-2（音声チャンネル1/2自動/手動レベル調整切り換え）スイッチ

音声チャンネル1と2の音声レベル調整方法を選択します。

AUTO：自動

MANUAL：手動

12 AUDIO IN CH-1/CH-2/CH-3/CH-4（音声入力切り換えチャンネル1/2/3/4）スイッチ

AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチ

音声チャンネル1と2に記録する入力信号を選択します。

FRONT：MIC IN端子につないだマイクからの音声入力信号

REAR：AUDIO IN CH1/CH2端子につないだオーディオ機器からの音声入力信号

WIRELESS：本機にスロットインワイヤレスレシーバーを装着したときの音声入力信号

AUDIO IN CH-3/CH-4スイッチ

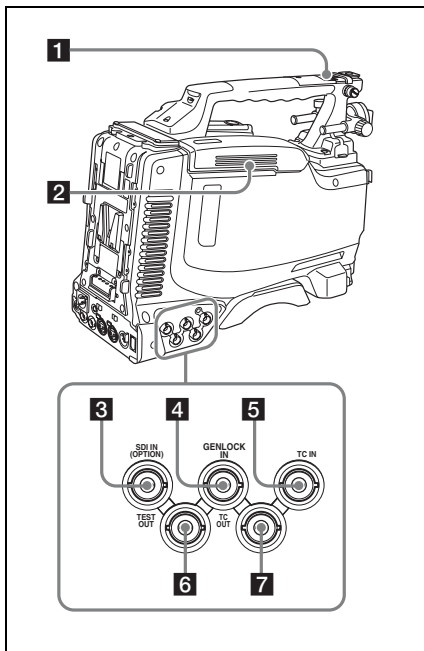
音声チャンネル3と4に記録する入力信号を選択します。

F (FRONT)：MIC IN端子につないだマイクからの音声入力信号

R (REAR)：AUDIO IN CH1/CH2端子につないだオーディオ機器からの音声入力信号

W (WIRELESS)：本機にスロットインワイヤレスレシーバーを装着したときの音声入力信号

左側面と上部



1 ASSIGNABLE (アサインابل) 3/4 スイッチ

OPERATIONメニューのASSIGNABLE SW ページで、スイッチの機能を割り当てます。工場出荷時は、何も機能が割り当てられていません（OFFを選択している場合と同じ状態）。

◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

2 ふた

本機後部の上面にあるEJECTボタンを押すと開きます。ふたの側面を押すと閉じます。

3 SDI IN端子 (BNC型)

- この端子に入力したHD-SDI信号を本機で記録することができます。
- リターンビデオ信号を入力します。OPERATIONメニューのASSIGNABLE SWページでRETURN VIDEOをONに設定しておく、RETボタンを押している間、

SDI IN端子に入力したHD-SDI信号をビューファインダーに表示することができます。

4 GENLOCK IN (ゲンロック用入力) 端子 (BNC型)

- カメラ部にゲンロックをかけるとき、またはタイムコードを外部ロックさせるとき、基準信号を入力します。ゲンロックのHフェーズ（水平同期信号の位相）の調整はMAINTENANCEメニューのGENLOCKページで行います。入力できる基準信号は、設定されているシステム周波数によって次表のように異なります。

システム周波数	入力できる基準信号
1080/59.94i	1080/59.94i, 525/59.94i
1080/50i	1080/50i, 625/50i

- リターンビデオ信号を入力します。OPERATIONメニューのASSIGNABLE SWページでRETURN VIDEOをONに設定しておく、RETボタンを押している間、GENLOCK IN端子に入力したHD-Y（1080i）信号をビューファインダーに表示することができます。

5 TC IN (タイムコード入力) 端子 (BNC型)

タイムコードを外部ロックさせるとき、基準となるタイムコードを入力します。

- ◆タイムコードについて詳しくは、「タイムコードを設定する」(78ページ)をご覧ください。

6 TEST OUT (テスト出力) 端子 (BNC型)

ビデオモニター用のビデオ信号を出力します。出力信号は、コンポジットビデオ、HD-Y、R/G/Bの中から選択できます。出力信号の切り換えは、OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページのTEST OUT SELECTで行います。

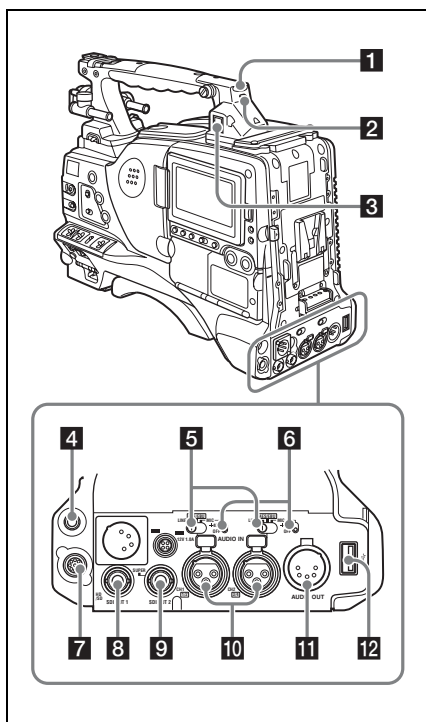
出力信号をR/G/Bのいずれかに設定している場合は、電源を入れ直すと設定がHD-Yに変わります。

メニューの設定に応じて、撮影している映像に重ねて設定メニュー、タイムコード、ショットデータをモニター画面で確認できます。また、外部VTRのタイムコードを本機のタイムコードにロックさせるときにも使用します。

7 TC OUT (タイムコード出力) 端子 (BNC型)

外部VTRのタイムコードを本機のタイムコードにロックさせるとき、外部VTRのタイムコードロック用TC IN (タイムコード入力) 端子と接続します。

後面



1 TALLY (バックタリー) ランプ (赤)
記録中に点灯します。ただし、TALLYスイッチがOFFになっていると点灯しません。WARNINGランプ (26ページ参照) が動作

しているときは点滅します。なお、ビューファインダー内のREC/TALLYランプも同様に動作します。

◆詳しくは、「警告システム」(262ページ)をご覧ください。

2 TALLY (タリー) スイッチ

TALLYランプを使用するとき、ONに設定します。

3 品 (ネットワーク) 端子 (RJ-45型)

ネットワーク接続用の10BASE-T/100BASE-TXコネクタです。

この端子を使用するには、あらかじめOPERATIONメニューのPOWER SAVEページでETHERNET/USBを「ENABL」に設定しておく必要があります (227ページ参照)。

注意

ネットワークケーブルご使用の際は、輻射ノイズによる誤動作を防ぐため、シールドタイプのケーブルを使用してください。

4 EARPHONE (イヤホン) 端子 (ステレオ、ミニジャック)

イヤホンをつなぐと、記録中はE-E音を、再生中は再生音をモニターできます。警告ランプや警告表示の点滅・点灯に合わせて警告音も聞こえます。前面のEARPHONE端子と併用することができます。内蔵スピーカーからの音は自動的に聞こえなくなります。

MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページでモノラル/ステレオを切り換えることができます。

5 LINE / AES/EBU / MIC (ライン入力 / AES/EBU入力 / マイク入力切り換え) スイッチ

AUDIO IN CH1/CH2端子に入力される音声の音源を切り換えます。

LINE : ライン入力するオーディオ機器

AES/EBU : AES/EBUフォーマットの音声信号

MIC : マイク入力

ご注意

このスイッチが「MIC」の位置で、かつ+48V/OFFスイッチが+48Vのとき、誤ってAUDIO IN CH1/CH2端子にマイク以外のオーディオ機器を接続すると、相手先の機器を損傷するおそれがあります。

6 +48V/OFF (+48V外部電力供給オン/オフ) スイッチ

音声入力に使用するマイクによって、以下のように切り換えます。

+48V : 外部電源供給方式のマイク

OFF : 内部電源供給方式のマイク

7 REMOTE (リモートコントロール) 端子 (8ピン)

カメラおよびVDRの遠隔操作が可能なりリモートコントロールユニットRM-B170を接続します。

ご注意

本機にリモートコントロールユニットの接続/取り外しを行うときは、本機の電源を切ってから行ってください。

8 SDI OUT 1端子 (BNC型)

HDSDI信号 (エンベデッドオーディオ) またはSDSDI信号 (エンベデッドオーディオ) を出力します。HDSDI信号またはSDSDI信号の切り換えは、OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページのSDI OUT 1 SELECTで行います。

9 SDI OUT 2端子 (BNC型)

HDSDI信号 (エンベデッドオーディオ) またはSDSDI信号 (エンベデッドオーディオ) を出力します。HDSDI信号、SDSDI信号またはVF信号の切り換えは、OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページのSDI OUT 2 SELECTで行います。また、メニューの設定に応じて、撮影している映像に重ねて設定メニュー、タイムコード、ショットデータをモニター画面で確認できます。

10 AUDIO IN CH1/CH2 (音声入力チャンネル1/2) 端子 (XLR型、3ピン、凹)

オーディオ機器やマイクをつなぎます。LINE / AES/EBU / MICスイッチがAES/EBU

のときは、CH-1の端子はチャンネル1/2用の入力に、CH-2の端子はチャンネル3/4用の入力に、それぞれ使用されます。

11 AUDIO OUT (音声出力) 端子 (XLR型、5ピン、凸)

オーディオチャンネル1、2または、オーディオチャンネル3、4に記録された音声信号を出力します。

出力する音声信号は、MONITORスイッチで選びます。

12 (USB) 端子

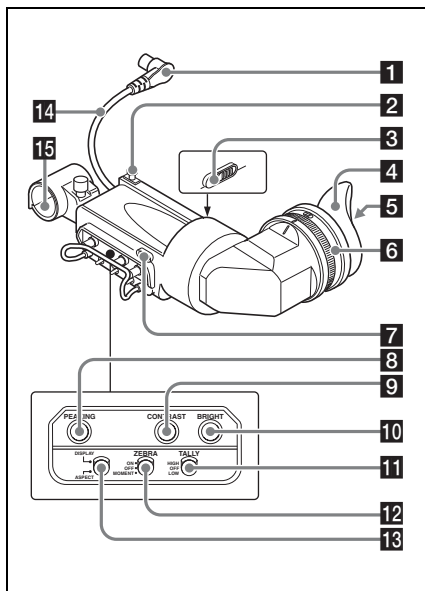
USB 2.0コネクタです。

用途に応じて次のデバイスを接続します。

デバイス	用途
Windows用のUSBキーボード/マウス	ソフトウェアキーボード画面での文字入力 (138ページ参照)
USBメモリー	プロキシデータの記録 (113ページ参照) プランニングメタデータの読み込み (152ページ参照)、ユーザー設定データの保存と呼び出し (234ページ参照)
Wi-Fiアダプター CBK-WA01 (別売)	無線LAN接続 (228ページ参照)

この端子を使用するには、あらかじめOPERATIONメニューのPOWER SAVEページでETHERNET/USBを「ENABL」に設定しておく必要があります (227ページ参照)。

ビューファインダー HDVF-20A (別売)



1 コネクター

本機のVF端子に接続します。

2 スライドストッパー

ビューファインダーを本機に取り付けて左右にスライドさせるとき、ビューファインダーが本機から外れるのを防ぎます。

3 カメラマンタリーランプ

本機が記録動作している間点灯します。使わないときは、ふたを閉めて隠すことができます。

また、タリーランプ、ビューファインダー内のRECランプと同様に点滅して、警告表示も行います。

4 アイカップ

5 表示ランプと状態表示

◆詳しくは、「ビューファインダーの表示」(37ページ)をご覧ください。

6 視度調整リング

画面の映像が最もはっきり見えるように、このリングを回して視度を調整します。

7 タリーランプ

本機が記録動作している間点灯します。使わないときは、TALLYスイッチをOFFにします。また、TALLYスイッチで明るさを調整できます。

また、カメラマンタリーランプ、ビューファインダー内のRECランプと同様に点滅して、警告表示も行います。

8 PEAKING (ピーキング調整) つまみ

時計方向に回すと、画面の映像の輪郭が強調され、レンズのフォーカス合わせが容易になります。本機の出力信号には影響しません。

9 CONTRAST (コントラスト調整) つまみ

画面のコントラストを調整します。本機の出力信号には影響しません。

10 BRIGHT (明るさ調整) つまみ

画面の明るさを調整します。本機の出力信号には影響しません。

11 TALLY (タリー) スイッチ

ビューファインダー前面のタリーランプをコントロールします。

HIGH : タリーランプが明るくなる

OFF : タリーランプが機能しなくなる

LOW : タリーランプが暗くなる

12 ZEBRA (ゼブラパターン) スイッチ

ゼブラパターンの表示をコントロールします。

ON : ゼブラパターンが表示される

OFF : ゼブラパターンが消える

MOMENT : ゼブラパターンが約5秒間表示されて消える

13 DISPLAY/ASPECT (ディスプレイ/アスペクトコントロール) スイッチ

マーカー表示のON/OFFおよび画面の表示比率を切り換えます。

DISPLAY：本機側でマーカー表示の設定がONになっているときは、スイッチをこの位置に押し上げるたびにマーカー表示のON/OFFが切り替わる

ASPECT：スイッチをこの位置に押し下げるたびに、マスク表示のON/OFFが切り替わる（マスク表示の設定は、OPERATIONメニューのMARKER 1ページ（177ページ参照）で行います。）

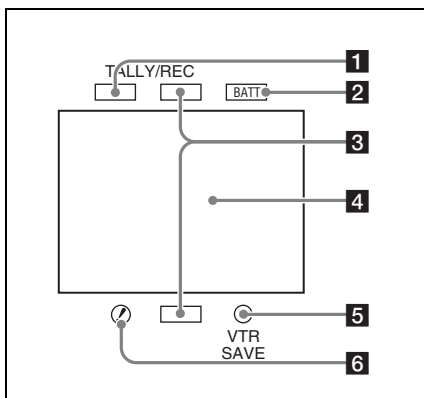
14 ビューファインダーケーブル

15 マイクホルダー

ビューファインダーの表示

表示ランプ

ビューファインダーの画面の上下には、本機の状態や調整の結果を知らせるランプが配置されています。



1 TALLY (グリーンタリー) ランプ

本機が次の状態のときに点灯します。

- ピクチャーキャッシュモードが有効なとき
- ディスクエクスチェンジキャッシュモードが有効なとき

- MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1ページでHDSDI REMOTE I/FをG-TLYに設定して記録しているとき

本機が次の状態のときに点滅します。

- オートインターバルレックモード、またはマニュアルインターバルレックの連続トリガーモードに設定しているとき（1回/秒で点滅）
- オートインターバルレックモード、またはマニュアルインターバルレックの連続トリガーモードで記録しているとき（4回/秒で点滅）
- マニュアルインターバルレックの単発トリガーモードに設定しているとき、またはこのモードで記録しているとき（2回/秒で点滅）

2 BATT (バッテリー) ランプ

本機に接続したバッテリーの電圧が下がると点滅します。また、バッテリーが使用できなくなると点灯します。

動作中断を防ぐため、バッテリーが点滅を開始した時点で、すばやくバッテリーを交換してください。

- ◆点滅を開始するアラーム電圧を、MAINTENANCEメニューのBATTERY 1ページで設定することができます。詳しくは、189ページをご覧ください。

3 REC (記録・レッドタリー) ランプ

本機が記録動作している間点灯します。

また、タリーランプ、カメラマンタリーランプと同様に点滅して、警告表示も行います。

4 ビューファインダー画面

5 VTR SAVE (VTRセーブ) ランプ

VDR SAVE/STBYスイッチがSAVEに設定されているとき、すなわちVDR部が節電状態のとき、点灯します。

6 ! (注意) ランプ

OPERATIONメニューの「!」LEDページでONに設定した項目について、本機が以下の動作状態になると点灯します。

- ゲインが0dB以外の値に設定されている
- SHUTTERスイッチが標準設定¹⁾、²⁾になっていない
- WHITE BALスイッチがPRSTに設定されている
- ATWが使用されている
- レンズエクステンダーが使用されている
- フィルターつまみがND：1以外に設定されている
- オートアイリスの基準値が標準値以外になっている

1) SHUTTERの標準設定は、次のようになります。

1080/50i、**1080/59.94i**：SHUTTERスイッチがOFF

ビューファインダー画面上の状態表示の構成

ビューファインダー画面には、映像のほかに本機の設定や動作の状態を示す文字やメッセージ、センターマーカー、セーフティゾーンマーカーなどが表示されます。メニューを表示していない状態で、

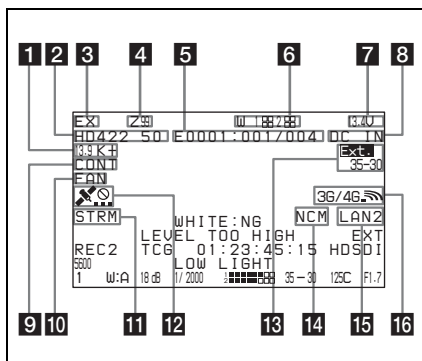
DISPLAY/ASPECTスイッチのDISPLAYがONに設定されているとき、画面の上端と下端に表示される内容は、OPERATIONメニューのVF DISP 1/2/3ページ、関連するスイッチでの設定に連動しています。

また、設定変更時や調整経過中または調整後に、その内容や結果を知らせるメッセージを約3秒間表示させることができます。

◆表示項目の選択については、「表示項目を選択する」(217ページ)を、設定変更/調整経過メッセージについては、「表示モードと設定変更/調整経過メッセージ」(218ページ)を、マーカー表示については、「マーカー表示を設定する」(219ページ)をそれぞれご覧ください。

表示できる項目は、次図のように配置されています。

画面上部



1 色温度表示

R/Bのゲインから計算された色温度が0.0K～99.9Kの範囲(0.1K刻み)で表示されます。また、OFFSET WHTの設定(231ページ参照)によって、+/-が表示されます。

表示なし：OFFSET WHTがOFF

+：OFFSET WHTの設定値が3200Kより大きいとき

-：OFFSET WHTの設定値が3200Kより小さいとき

2 映像フォーマット表示

記録中または再生中の映像のフォーマットが表示されます(62ページ参照)。

3 エクステンダー表示

本機およびレンズのエクステンダー機能の設定状態が表示されます。

EX：レンズエクステンダーがONのとき

08：レンズシュリンカーがONのとき

x2D：本機のデジタルエクステンダーがx2のとき

Ex2D：レンズエクステンダーがONかつ本機のデジタルエクステンダーがx2のとき

x3D：本機のデジタルエクステンダーがx3のとき

Ex3D : レンズエクステンダーがONかつ本機のデジタルエクステンダーがx3のとき

x4D : 本機のデジタルエクステンダーがx4のとき

Ex4D : レンズエクステンダーがONかつ本機のデジタルエクステンダーがx4のとき

4 ズーム位置表示

ズームレンズのズーム位置が0～99の範囲で表示されます。

5 クリップ情報表示

撮影時は、記録中または次に記録されるクリップの情報が表示され、再生時は再生しているクリップの情報が表示されます。クリップ情報の内容は、OPERATIONメニューのVF DISP 3ページにあるDISP CLIP NAMEの設定に応じて表示されます。また、再生時は、OPERATIONメニューのVF DISP 2ページにあるDISP CLIP NO(PB)が「ON」に設定されていると、クリップ番号/クリップ総数を表示することもできます。

DISP CLIP NAMEが「PLAN」のとき :

Disc MenuのPlanning Clip Name Displayが「Enable」の場合は、撮影時に、本機に読み込まれたプランニングメタデータに記述されたタイトルが表示される（表示形式はDisc Menuの「Planning Clip Name in Clip Info. Area」の設定に従う）

DISP CLIP NAMEが「AUTO」のとき :

撮影時は、OPERATIONメニューのFILE NAMINGページにあるAUTO NAMINGの設定値に応じて、以下の項目が表示される

- 「C****」または「TITLE」: Disc Menuの「Display Title」で設定されているクリップ名（標準名/任意名/タイトル）
- 「PLAN」: Disc MenuのPlanning Clip Name Displayが「Enable」の場合は、本機に読み込まれたプランニングメタデータに記述されたタイトル（表示形式はDisc Menuの「Planning Clip

Name in Clip Info. Area」の設定に従う）

再生時は、Disc Menuの「Display Title」で設定されているクリップ名（標準名/任意名/タイトル）が表示される

表示可能な文字は次のとおりです。

- 数字 : 0～9
- アルファベット : a～z、A～Z
- 以下の記号 : !, ", #, \$, %, &, ', (,), *, +, ,, -, ., /, :, ;, <, =, >, ?, @, [,], ^, _ , ` , {, |, } , ~
- スペース

6 ワイヤレスマイクロホン受信レベル表示

本機にスロットインワイヤレスレシーバーが装着されているとき「W」が表示され、レシーバーが使用できるチャンネル数（1chまたは2ch）に応じて、各チャンネルの受信レベルが4つのセグメントから成るインジケータで次のように表示されます。

通常使用時 : 白色セグメントの表示数で受信レベルの強度を示す

ミュート時 : 灰色セグメントの表示数で受信レベルの強度を示す

受信レベルがピークを越えたとき : インジケータの代わりに「P」と表示される¹⁾

送信機のバッテリー消費時 : 該当するチャンネル番号とインジケータが点滅する¹⁾

¹⁾DWR-S02DNのみ

7 電源電圧/バッテリー残量表示

内部バッテリー（本体に装着するバッテリーパック）の電源電圧または残量を表示します。DC IN端子に接続したバッテリー、またはACアダプターから電源を供給している場合は、電源電圧を表示します。

8 外部バッテリー表示

外部バッテリー（DC IN端子に接続したバッテリー）から電源が供給されると表示されます。

9 クリップコンティニュアスレック機能表示

クリップコンティニュアスレック機能(101ページ参照)が有効なとき、表示されます。

CONT (点灯)：前のクリップに延長記録できる状態

CONT (点滅)：新しいクリップが生成されてこれから記録される状態

10 冷却ファン制御モード表示

MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 2ページでFAN CONTROLがR.MINまたはMINに設定されているとき、表示されます。

FAN (点灯)：冷却ファンを低速回転している

FAN (点滅)：冷却ファンを低速回転している状態で、本機の内部温度がアラーム発生寸前まで上昇した

ご注意

「FAN」表示が点滅したままの状態にしておくと、本機は内部温度を下げるために冷却ファンを高速回転させます。「FAN」表示が点滅したら、いったん撮影などの操作を中止して、本機の内部温度が下がるのを待ってから、操作を再開してください。

11 ストリーミング状態表示

ワイヤレスアダプター CBK-WA100 (別売)のストリーミング状態が表示されます。

以下の条件を満たすときに表示されます。

- メニューのOPERATION >VF DISP 4 >STREAMING STATUSがON
- メニューのMAINTENANCE >CAM CONFIG 3 >Wi-Fi/ETHER RMがRMまたはALL
- CBK-WA100のStreaming設定がON^{a)}
- CBK-WA100のNetwork Client設定がOFF^{b)}

a) CCMからのストリーミング操作中の場合はOFFに設定

b) CCMからのストリーミング操作中の場合はONに設定

表示例

表示	意味
STRM off	未配信
STRM	映像配信中
STRMx	エラー

12 GPS受信状況表示

◆詳しくは「画面に表示されるアイコンについて」(116ページ)をご覧ください。

13 各種接続状態表示エリア

USBメモリー接続時

機能が有効なUSB端子にUSBメモリーを接続すると、USBメモリーのマウント状態によってメモリーシンボルとメモリー残量が表示されます。

表示例

アイコン	残量表示	意味
 点灯	30-35	プロキシデータ記録機能が有効、かつメモリー残量が30~35分
点灯	5MIN	プロキシデータ記録機能が有効、かつメモリー残量が5分以上
点滅	0MIN	プロキシデータ記録機能が有効、かつメモリー残量が5分未満 ^{a)}
消灯		プロキシデータ記録機能が無効 ^{b)}
点灯	INH	USBメモリーが書き込み禁止 ^{c)}
 なし		記録不可 ^{d)}

a)メモリー残量が充分にあるUSBメモリーを使用してください。

b)プロキシデータ記録機能を有効にしてください。

c)USBメモリーを書き込み可能な状態にして接続し直してください。

d)USBメモリーをフォーマットするか、USBメモリーを交換してください。

Wi-Fi (無線LAN) 接続時

OPERATIONメニューのPOWER SAVEページでWi-Fiが「ENABL」に設定されているときは、無線LANの接続状態が表示されます。

表示例

アイコン	表示	意味
	点灯	切断または接続先不明
	点滅	接続中
	点灯	接続完了 (信号強度: 0)
	点灯	接続完了。セグメント (白) の表示数 (1~4) が多いほど信号強度 (1~4) が増す。

ワイヤレスアダプター CBK-WA100 (別売) とUSB接続時

MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 3 ページでWi-Fi/ETHER RMが「RM」または「ALL」に設定されているときはCBK-WA100のメディア残量が表示されます。

表示例

アイコン	残量表示	意味
	点灯 xxMIN	ブロキシデータ記録機能が有効、かつメディア残量がxx分
	点灯 0MIN	メディア残量なし
	なし	記録不可

14 ネットワーククライアントモード状態表示

ワイヤレスアダプター CBK-WA100 (別売) のCCM (ネットワークRXステーションの Connection Control Manager) への接続状態が表示されます。

以下の条件を満たすときに表示されます。

- メニューのOPERATION >VF DISP 4 >NW CLIENT MODEがON
- メニューのMAINTENANCE >CAM CONFIG 3 >Wi-Fi/ETHER RMがRMまたはALL
- CBK-WA100のNetwork Client設定がON

表示例

表示	意味
NCM	CCM接続済
NCM (点滅)	CCM接続中 (切断中)
無表示	CCM接続待機中
NCMx	CCM接続エラー

15 有線LAN接続状態

ワイヤレスアダプター CBK-WA100 (別売) の有線LANネットワークの設定/接続状態が表示されます。

以下の条件を満たすときに表示されます。

- メニューのOPERATION >VF DISP 4 >WIRELESS STATUSがON
- メニューのMAINTENANCE >CAM CONFIG 3 >Wi-Fi/ETHER RMがRMまたはALL

表示例

表示	意味
LAN2	有線LAN接続中
無表示	有線LAN非接続

16 ワイヤレスアダプター受信状態表示

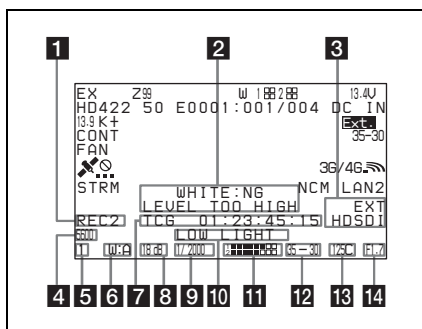
CBK-WA100 (別売) の受信状態を表示します。

LTE接続中：3G/4G表示

ステーションモード：電波強度を4段階で示す

アクセスポイントモード：AP表示

画面下部



1 外部機器制御 / シングルクリップ再生表示

REC2 : MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1ページでSDI REC CONTROLをRM、HDSI REMOTE I/FをCHARAに設定し、SDI OUT 1/2端子 (HDSI出力) ¹⁾に接続された外部機器に対して記録動作制御を行っているときに表示されます。

REC2 P PARALLEL REC :

MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1ページでSDI REC CONTROLをPARAに設定し、SDI OUT 1/2端子 (HDSI出力) ¹⁾に接続された対応機器と同期記録を行っているとき、「Rec2P」と表示されます。

SNGL : MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1ページでSINGLE CLIP MODEをONに設定し、クリップを再生またはサーチしているときに表示されます (90ページ参照)。

1)OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページでSDI OUT 1 SELECTまたはSDI OUT 2 SELECTをHDSIに設定する必要があります。

2 設定変更/調整経過メッセージ表示部

◆詳しくは、「表示モードと設定変更/調整経過メッセージ」(218ページ)をご覧ください。

3 外部入力状態表示/収差補正機能表示

EXT HDSI : OPERATIONメニューのSOURCE SELページでREC VIDEO SOURCEがEXTに設定されているとき、本機に有効な信号が入力されると、「EXT」と入力信号の種類 (HDSI) が点滅表示されます。

◆詳しくは、「外部機器からの映像を記録する」(112ページ)をご覧ください。

ALAC : MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 3ページでALACがAUTOに設定されているときに表示されます (198ページ参照)。

4 電気的色温度フィルター表示/シーンファイル番号表示

CC 5600K機能がONのとき、電気的色温度フィルター表示が現れます。OPERATIONメニューのVF DISP 3ページのDISP SCENE FILEが「ON」に設定されているときは、現在呼び出されているシーンファイル番号 (「S1」～「S5」) がフィルター表示の代わりに表示されます。

5 フィルター表示

現在選択されているフィルターの種類が表示されます (21ページ参照)。電気的CCフィルター切り換え機能がASSIGNスイッチに割り当てられているとき (68ページ参照)、またはリモートコントロールユニット接続時は、NDフィルター表示 (1~4) の右側に、電気的CCフィルターのポジション (A/B/C/D) が表示されます。

6 ホワイトバランスメモリー表示

現在選択されているホワイトバランスの自動調整メモリーが表示されます。

- A** : WHITE BALスイッチをAに設定したとき
- B** : WHITE BALスイッチをBに設定したとき
- P** : WHITE BALスイッチをPRSTに設定したとき、またはRM-B170のプリセットボタンを押したとき
- T** : ATWが動作しているとき
- 3200** : COLOR TEMP SW 3200K機能がONのとき
- 4300** : COLOR TEMP SW 4300K機能がONのとき
- 5600** : COLOR TEMP SW 5600K機能がONのとき
- 6300** : COLOR TEMP SW 6300K機能がONのとき

7 タイムコード表示

DISPLAYスイッチ (27ページ参照) の設定に応じて、記録・再生経過時間、タイム

コード、ユーザービットなどが表示されま
す。

8 ゲイン値表示

GAINスイッチによる映像アンプのゲイン設
定値 (dB) が表示されます。

9 シャッタースピード表示

シャッタースピードまたはシャッターモー
ドが表示されます。SHUTTERスイッチ
(21ページ参照) がOFFに設定されている場
合は表示されません。

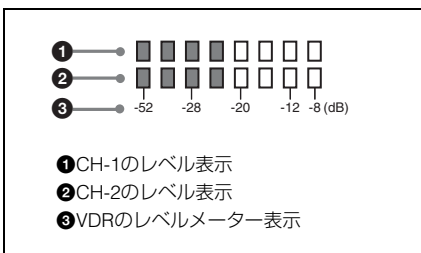
- ◆表示されるシャッタースピードについて詳し
くは、「電子シャッターの設定」(70ページ)
をご覧ください。

10 操作/アラーム表示部

- ◆詳しくは、「操作/アラーム表示一覧」(265
ページ) をご覧ください。

11 音声レベル表示

音声チャンネル 1、2のレベルが表示されま
す。音声レベル表示とVDRのレベルメー
ターのピーク表示との関係は以下のように
なります。



セグメントの色は、MAINTENANCEメ
ニューのAUDIO-2ページでAU REF LEVEL
に設定された値以上になると灰色から白に
切り替わります。この設定によって、点灯
するセグメントの数と音声レベルの関係は
変わりません。前図はAU REF LEVELが-
20dBに設定された場合の例です。

12 ディスク残量表示

ディスク残量 (分) が表示されます。

ディスク残量表示例

表示	ディスク残量
⋮	⋮
⋮	⋮
⋮	⋮
110 <	120~110分
100 <	110~100分
90 <	100~90分
90 - 85	90~85分
85 - 80	85~80分
⋮	⋮
⋮	⋮
20 - 15	20~15分
15 - 10	15~10分
10 - 5	10~5分
5MIN (点滅)	5分
4MIN (点滅)	4分
3MIN (点滅)	3分
2MIN (点滅)	2分
1MIN (点滅)	1分
0MIN (点滅)	0分

ご注意

インターバルレックなどの特殊撮影では、実際に
撮影できる残り時間とディスク残量表示が異なる
場合があります。

13 残クリップ数表示

記録可能なクリップ数の上限 (残クリップ
数) が表示されます。残クリップ数が9個以
下になると、1回/秒で点滅します。

14 絞り値/オートアイリスオーバーライド 表示

レンズのF値 (絞り値) が表示されます。
また、オートアイリスのオーバーライドを
上下各2つのセグメントから成るインジケー
ターで示します。

- ◆詳しくは、「オートアイリスの設定」(72
ページ) をご覧ください。

2章 準備

電源の準備

安全のため、下記ソニー純正以外のバッテリーおよびAC電源を使用しないでください。

- リチウムイオンバッテリーパック：
BP-GL95B/GL95A/FLX75/FL75
- ACアダプター：AC-DN10/DN10A

バッテリーパックを使用する

バッテリーパックBP-GL95B/GL95A/FLX75/FL75を使った場合、連続記録での動作時間は以下のとおりです。

商品名	動作時間
BP-GL95B/GL95A	約120分
BP-FLX75/FL75	約85分

ご注意

バッテリーパックの動作時間は、バッテリーパックの使用頻度や使用時の周囲温度によって変化します。

ご使用になる前に、各バッテリーパックに適したバッテリーチャージャーで充電してください。

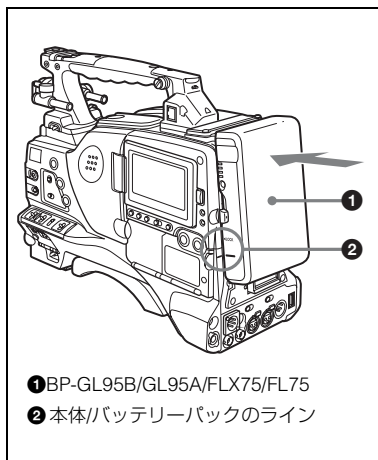
- ◆充電方法について詳しくは、バッテリーチャージャーの取扱説明書をご覧ください。

バッテリーパック使用上のご注意

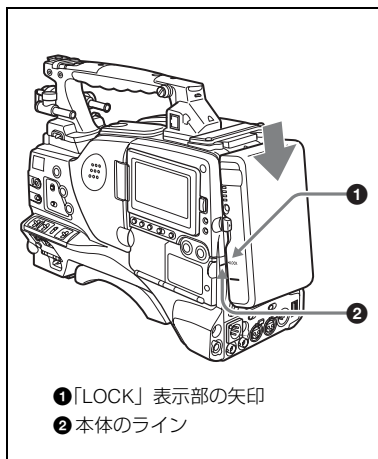
使用直後、バッテリーパックの温度が上昇した状態で充電すると、完全に充電されないことがあります。

バッテリーパックを取り付けるには

- 1 バッテリーパックの側面のラインを本体のラインに合わせて、バッテリーパックを本体の後部に押し当てる。



- 2 バッテリーパックを押し下げて、バッテリーパックの「LOCK」表示部の矢印を本体のラインに合わせる。

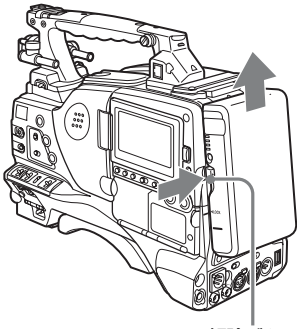


ご注意

バッテリーパックは、正しく取り付けないと端子を破損することがあります。

バッテリーパックを取り外すには

解除ボタンを押し込んだままバッテリーパックを押し上げます。



解除ボタン

ご注意

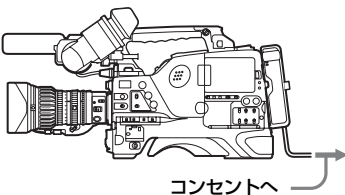
- 記録・再生が行われている（ACCESSランプが点灯している）ときは、絶対にバッテリーパックを抜かないでください。
- バッテリーは、必ず本機の電源をOFFにしてから交換してください。

AC電源を使用する

ACアダプター AC-DN10/DN10Aを使用する場合

ACアダプター AC-DN10/DN10Aをバッテリーと同様に本体に装着し、AC電源に接続します。

AC-DN10/DN10Aは最大100Wまでの電源を供給できます。



コンセントへ

ビューファインダーの取り付け

⚠ 注意

ビューファインダーを取り付けたあと、接眼レンズを太陽に向けて放置しないでください。太陽光が接眼レンズを通して焦点を結び、火災の原因になることがあります。

ご注意

ビューファインダーは別売です。

ビューファインダーを取り付ける

ご注意

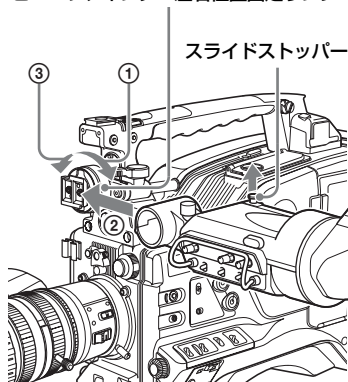
ビューファインダーを取り付けるときは、以下の点にご注意ください。

- 必ず本機の電源をOFFにしてから、ビューファインダーコネクターを本機のVF端子に差し込んでください。電源がONの状態のコネクターを差し込むと、ビューファインダーが正常に動作しないことがあります。
- ビューファインダーコネクターを本機のVF端子の奥まで確実に差し込んでください。コネクターが確実に接続されていないと、画像が乱れたり、タリランプが正常に点灯しないことがあります。

◆ 詳しくは、ソニーのサービス担当者にお問い合わせください。

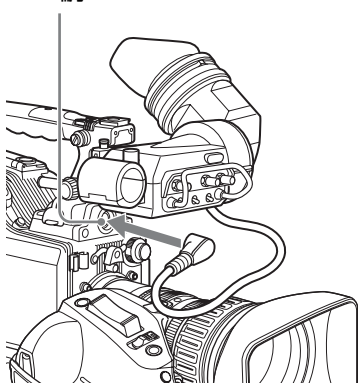
- 1 ①左右位置固定リングをゆるめる。②ビューファインダー取り付けシューにビューファインダーを取り付け、③左右固定位置リングを締める。

ビューファインダー左右位置固定リング



- 2 ビューファインダーコネクタをVF端子に接続する。

VF端子



ビューファインダーを取り外すには

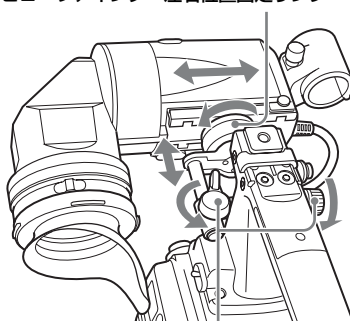
取り付けと逆の手順で行います。ただし、ビューファインダーを取り付けシューから取り外すときに、スライドストッパーを引き上げてください。

位置を調整する

左右位置を調整するときはビューファインダー左右位置固定リングを、前後位置を調

整するときはビューファインダー前後位置LOCKつまみを、それぞれゆるめます。

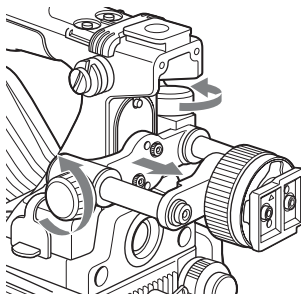
ビューファインダー左右位置固定リング



ビューファインダー前後位置LOCKつまみ

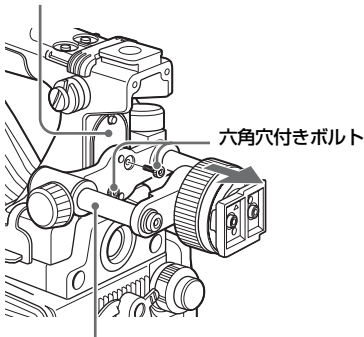
ビューファインダーシューを上 に移動する

- 1 ビューファインダー前後位置固定レバーとビューファインダー前後位置LOCKつまみをゆるめ、ビューファインダースライドAssyを手前に引き出す。



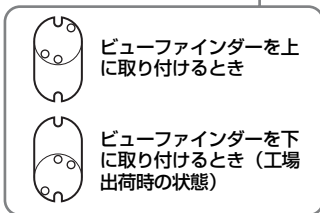
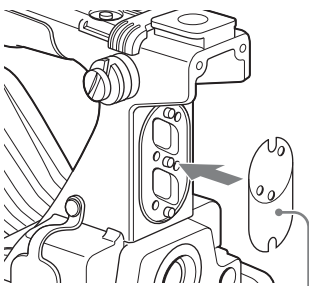
- 2 対辺2.5ミリの六角レンチを使用して、ビューファインダースライドAssyとハンドルフロントカバーを取り外す。

ハンドルフロントカバー

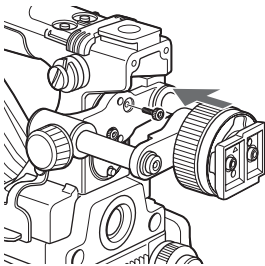


ビューファインダースライドAssy

- 3 ハンドルフロントカバーを上下逆さまに取り付ける。

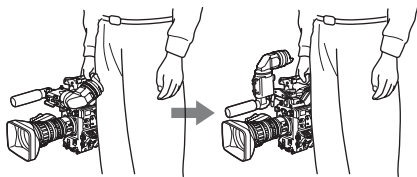


- 4 取り外しと逆の手順で、ビューファインダースライドAssyを取り付ける。

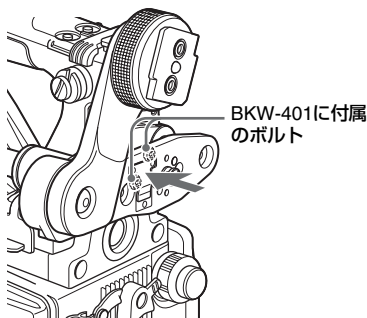


ビューファインダー回転収納機構BKW-401を取り付ける

ビューファインダー回転収納機構BKW-401 (別売) を取り付けると、ビューファインダーを垂直位置まで回転させることができます。ビューファインダーをこの位置にしておけば、本機のグリップを持ったときにビューファインダーが脚に当たらないため、速やかに移動できます。

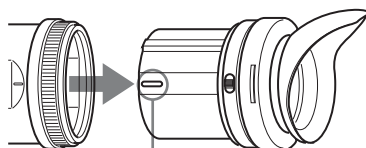
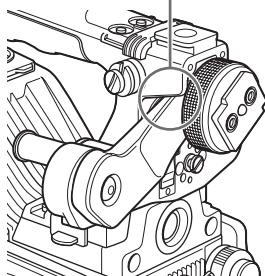


- 1 前項「ビューファインダーシューを上に移す」の手順1と2を参照し、ビューファインダースライドAssyを取り外す。
- 2 BKW-401を付属のボルトで取り付ける。



- 3 BKW-401のアームを跳ね上げたとき、ハンドルと干渉しないように前後位置を調整する。

ハンドルと干渉しない位置に調整する

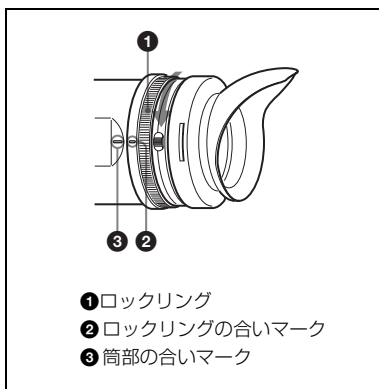


アイピース部先端の合いマーク

アイピース部を取り外す

アイピース部を取り外すと、ビューファインダーから目を離して撮影する場合にも、画面がぼやけることなく、全体がよく見えます。また、ビューファインダー画面やミラーにほこりが付着した場合にも容易に取り除くことができます。

- 1 ロックリングを反時計方向にいっぱい回して、ロックリングとビューファインダー筒部のそれぞれの合いマークを合わせる。



- 2 アイピース部を抜き取る。

再び取り付けるには

- 1 ロックリング合いマークをビューファインダー筒部の合いマークに合わせる。
- 2 アイピース部先端の合いマークをロックリングおよび筒部の合いマークに合わせて、アイピース部を筒部に差し込む。
- 3 ロックリングを時計方向にいっぱいに回して、ロックリングの「LOCK」表示部の矢印をビューファインダー筒部の合いマークに合わせる。

アイカップが消耗した場合は、交換部品をお買い求めください。

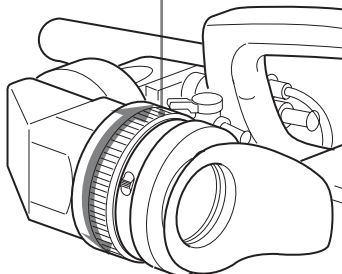
◆交換部品について詳しくは、ソニーのサービス担当者にお問い合わせください。

視度と画面を調整する

視度を調整するには

視度調整リングを回して、ビューファインダー内の画像がはっきり見えるように調整します。

視度調整リング



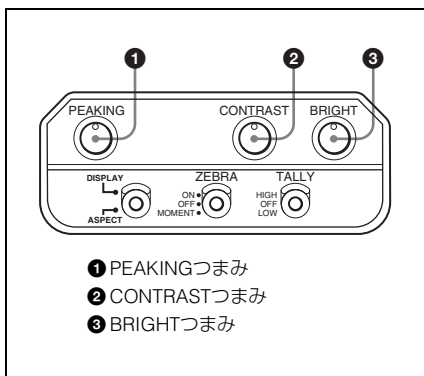
画面を調整するには

ビューファインダー画面の状態を、次の項目について調整できます。

輪郭：PEAKINGつまみで調整する。

濃淡：CONTRASTつまみで調整する。

明るさ：BRIGHTつまみで調整する。



内蔵時計の日付と時刻の設定

内蔵時計の年、月、日、および時刻を設定します。ここで合わせた時刻がタイムコードに実時刻として反映されます。(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 DIAGNOSISメニューのTIME/DATEページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

D02OTIME/DATE	TOP
➔ADJUST	:D EXEC
GPS ADJUST	: EXEC
HOUR	: 12
MIN	: 55
SEC	: 58
YEAR	: 14
MONTH	: 03
DAY	: 31

2 MENUつまみを押す。

TIME ADJUST設定画面が表示されます。

TIME ADJUST	ESC
HOUR	: 12
MIN	: 55
SEC	: 58
YEAR	: 14
MONTH	: 03
DAY	: 31
OK	

- HOUR：時
- MIN：分
- SEC：秒
- YEAR：西暦年の下2桁
- MONTH：月
- DAY：日

3 ➡マークを設定したい項目に合わせ、MENUつまみを押す。

▶マークが●マークに、設定値の●マークが?マークに、それぞれ変わります。

4 MENUつまみを回して希望の値を表示させ、MENUつまみを押す。

●マークが▶マークに、?マークが●マークにそれぞれ戻り、設定値が確定します。

5 手順3と4を繰り返して残りの設定を行う。

6 設定が終わったら、▶マークをOKに合わせて、MENUつまみを押す。

手順3~5で設定した日付、時刻が内蔵時計に反映され、再度 DIAGNOSIS メニューのTIME/DATE ページが表示されます。

画面上では、TIME ADJUST画面で設定した値で時計が表示されています。

設定を取り消すには

上記の手順6の操作を行う前に▶マークをESCに合わせて、MENUつまみを押します。

または、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押し下げます。

今までの調整はキャンセルされ、再度 DIAGNOSISメニューのTIME/DATEページが表示されます。

ご注意

時刻を設定するときは、TIME ZONE (タイムゾーン) も併せて設定してください。

- ◆TIME ZONEは、OPERATIONメニューのUMID SETページで設定します。詳しくは、「UMIDデータを設定する」(232ページ)をご覧ください。

GPS時計に合わせるには

GPS衛星の時計を使ってカムコーダーの時計を合わせることができます。

ご注意

この機能を使用するためには、カムコーダー側で以下の対応が必要です。

- OPERATIONメニューのGPS SETUPページでGPSがONに設定されている。
- GPSを測位している。

1 DIAGNOSISメニューのTIME/DATEページを表示させ、MENUつまみを回して▶マークをGPS ADJUSTに合わせる。

D020TIME/DATE	:	TOP
▶ADJUST	:	EXEC
GPS ADJUST	:	D EXEC
HOUR	:	12
MIN	:	55
SEC	:	58
YEAR	:	14
MONTH	:	03
DAY	:	31

2 MENUつまみを押す。

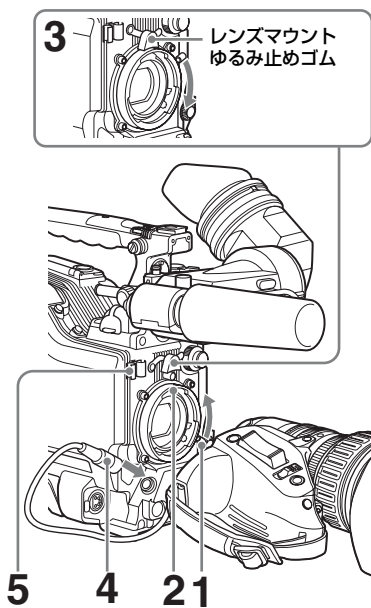
「EXECUTE OK?」のメッセージが表示されます。(このとき、▶マークがNOの前に表示され、NOが点滅している。)

3 MENUつまみを回して▶マークをYESに合わせて、MENUつまみを押す。GPS衛星の時計に、カムコーダーの時計が合わせられます。

レンズの取り付け

あらかじめ本機の電源をOFFにした状態で、以下の手順でレンズを取り付けます。

◆レンズの取り扱いについては、レンズの取扱説明書をご覧ください。



- 1 レンズ固定レバーを押し上げて、レンズマウントからレンズマウントキャップを外す。
- 2 レンズマウント上部中央の凹部にレンズのセンターピンを合わせ、レンズをマウントに差し込む。
- 3 レンズを支えながら、レンズ固定レバーを押し下げてレンズを固定する。

⚠ 注意

レンズがしっかり固定されていないと、本機の使用中にレンズが外れて、大きな

事故につながる場合があります。レンズが固定されているか十分に確認してください。前図のように、レンズマウントゆるみ止めゴムをはめ込んで使用することをおすすめします。

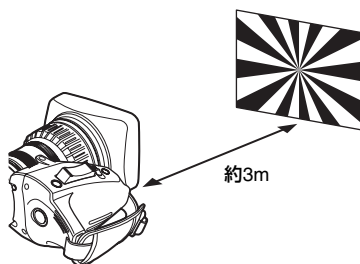
- 4 レンズケーブルをLENS端子に接続する。
- 5 レンズケーブルをケーブルクランプに押し込む。

フランジバックの調整

ズーム操作の際に望遠・広角の両方でフォーカスがきちんと合わない場合は、フランジバック（レンズ取り付け面から結像面までの距離）調整を行います。

一度調整すれば、レンズを交換しない限り再調整の必要はありません。

◆フランジバックの調整のために操作するレンズの各部の位置については、レンズの取扱説明書で確認してください。



- 1 レンズの絞りを手動にする。
- 2 絞りを開放にする。フランジバック調整用チャートを3mぐらい離して置き、適正な映像出力レベルが得られるように照明する。
- 3 F.fまたはF.B（フランジバック調整）リング固定ネジをゆるめる。
- 4 手動または電動でズームリングを望遠位置にする。
- 5 フランジバック調整用チャートを写し、フォーカスリングを回して焦点を合わせる。
- 6 ズームリングを広角位置にする。
- 7 F.fまたはF.Bリングを回し、チャートに焦点を合わせる。このとき距離リングは動かさないように注意する。

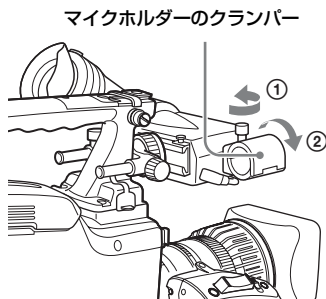
- 8 望遠と広角の両方で焦点が合うようになるまで、手順4～7の操作を繰り返す。
- 9 F.fまたはF.Bリング固定ネジをしっかり締める。

音声入力の準備

MIC IN端子にマイクロホンを接続する

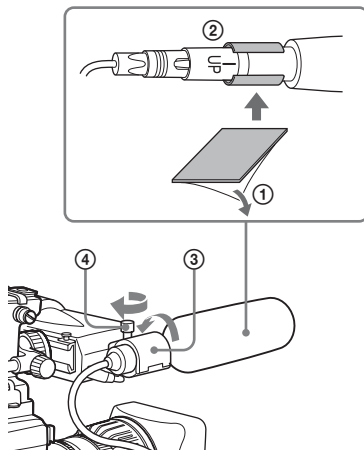
ビューファインダー HDVF-20A (別売) のマイクロホルダーにステレオマイクロホン ECM-680S (別売) を取り付けることができます。

- 1 ネジをゆるめてマイクロホルダーのクランプを開く。



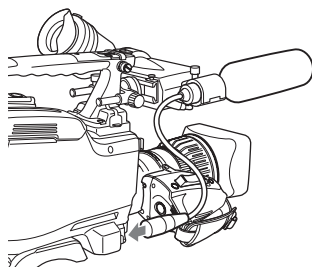
- 2 マイクロホンを取り付ける。

- ① マイクスペーサー (シートタイプ、本機およびECM-680Sに付属) を、両面に貼ってある保護シートをはがしてからマイクロホンに巻く。
- ② 「UP」の文字を上に向けてマイクを入れる。
- ③ マイクロホルダーを閉める。
- ④ ネジを締める。



- ◆ 取り付けかたについては、マイクロホンに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 3 マイクケーブルをMIC IN端子に接続し、このマイクロホンの音声を記録したいチャンネルのAUDIO INスイッチをFRONT (CH-1/CH-2の場合)、F (CH-3/CH-4の場合) に設定する。



- 4 マイクケーブルをケーブルクランプに固定する。

AUDIO IN端子にマイクロホンを接続する

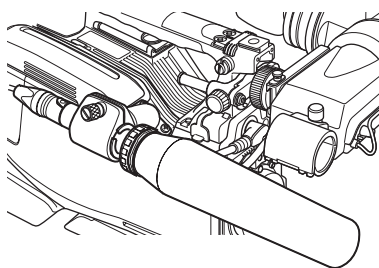
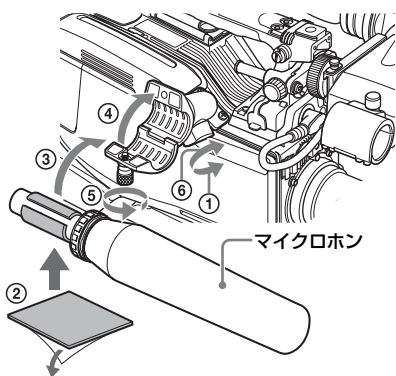
マイクロホルダー CAC-12 (別売) でAUDIO IN CH1/CH2端子に、モノラルのマイクロホン2本まで接続できます。

ここでは、エレクトレットコンデンサーマイクロホンECM-674/678などを取り付けるときの例を説明します。

◆CAC-12の取り付けかたについて詳しくは、CAC-12の取扱説明書をご覧ください。

1 エレクトレットコンデンサーマイクロホンを取り付ける。

- ① ボールジョイント固定レバーをゆるめておく。
- ② マイクスペーサー（シートタイプ、本機およびマイクロホンに付属）を、両面に貼ってある保護シートをはがしてからマイクロホンに巻く。
- ③ 「UP」の文字を上に向けてマイクを入れる。
- ④ マイクホルダーを閉める。
- ⑤ ネジを締める。
- ⑥ マイクホンがビューファインダーと干渉しない位置でボールジョイント固定レバーを締める。



2 マイクケーブルを本機のAUDIO IN CH1またはCH2端子に接続する。

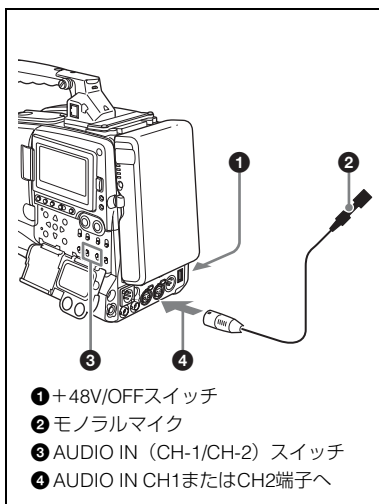
3 スイッチを以下のように設定する。 LINE / AES / EBU / MICスイッチをMICに設定する。

●使用するマイクロホンによって、+48V/OFFスイッチを、以下のように設定する。

内部電源供給式マイクロホンを使用する場合：+48V/OFFスイッチをOFF側に設定する。

外部電源供給式マイクロホンを使用する場合：+48V/OFFスイッチを+48V側に設定する。

●マイクロホンを接続したチャンネルに該当するAUDIO IN (CH-1/CH-2/CH-3/CH-4) スイッチをREAR (CH-1/CH-2の場合)、R (CH-3/CH-4の場合) に設定する。



4 使用するマイクロホンの感度に合わせて、入力レベルを切り換える。

◆入力レベルの切り換えは、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページでREAR MIC REFの設定値（工場出荷時は-60dB）を変更することによって行います。詳しくは、191ページをご覧ください。

XLR接続自動検出機能について

XLR接続自動検出機能をONに設定すると、AUDIO IN CH1またはCH2端子へのケーブ

ル接続時、AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチの設定に関わらず、記録音声として、これらの端子からの入力が自動的に選ばれるようになります。

XLR接続自動検出機能のON/OFFは、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページにあるREAR XLR AUTOで切り換えることができます。

ご注意

- マイクロホンの感度に対して本機の入力レベルが適切に設定されていない場合、音が大きく歪んだり、SN比が悪化することがあります。
- 本機のAUDIO IN CH1またはCH2端子は、ファンタム方式の48V電源を供給できるようにするため、凹のXLRコネクター（3ピン）を装備しています。マイクケーブルのコネクターが凹の場合は、変換アダプターをご用意ください。
- マイクホルダーCAC-12を外す場合は、取り付けに使ったネジ（手順1で外したネジ）を元の位置に必ず取り付けてください。

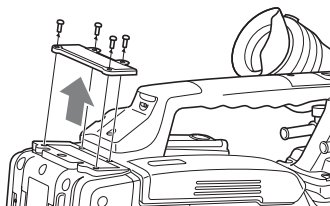
ワイヤレスレシーバーを取り付ける

ソニーワイヤレスマイクロホンシステムを使用するときは、次のいずれかのワイヤレスレシーバーを取り付けます。

- デジタルワイヤレスレシーバー
DWR-S02DN/S03D
- UHFシンセサイザーダイバーシティーチューナー URX-S03D
- ◆ ワイヤレスレシーバーの取扱説明書も併せてご覧ください。

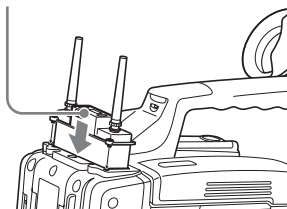
DWR-S02DN/S03DまたはURX-S03Dを取り付けるには

- 1 挿入口のカバーを固定している4本のネジをゆるめ、カバーを取り外す。



- 2 DWR-S02DN/S03DまたはURX-S03Dを挿入し、4本のネジを締めて固定する。

DWR-S02DN/S03DまたはURX-S03D



- 3 入力したいチャンネルのAUDIO INスイッチ（32ページ参照）をWIRELESSに設定する。

ご注意

- 本機に対してワイヤレスレシーバーの接続/取り外しを行うときは、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- XLR接続自動検出機能がONの場合は、AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチをWIRELESSに設定していてもAUDIO IN CH1またはCH2端子にオーディオケーブルが接続されると、これらの端子からの入力が自動的に選ばれます。このような場合は、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページでREAR XLR AUTOをOFFに設定します。（出荷時はOFFに設定されています。）
- LINE / AES/EBU / MICスイッチがLINEまたはMICに設定されている場合、オーディオチャンネル3、4に記録される音声の種類は、XLR自動検出機能には依存しません。AUDIO IN CH-3/CH-4スイッチの設定で決まります。

ライン入力用オーディオ機器を接続する

ライン入力信号源として使うオーディオ機器の音声出力端子を、本機のAUDIO IN CH1またはCH2端子に接続します。

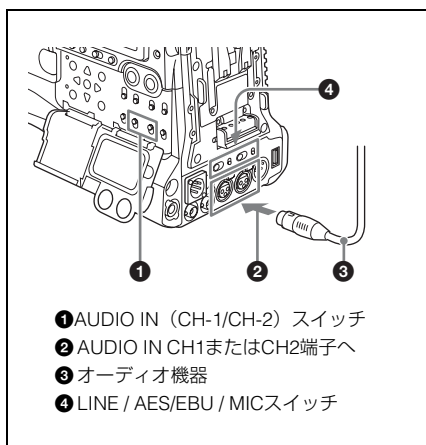
スイッチを設定する

音声信号源を接続したチャンネルに対応するLINE / AES/EBU / MICスイッチをLINEに設定します。

記録する音声入力の選択について

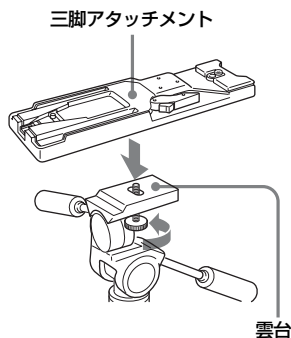
- XLR接続自動検出機能がOFFの場合（工場出荷時）は、オーディオ機器をつないだチャンネルに該当するAUDIO IN CH-1/CH-2スイッチをREARに設定します。
- XLR接続自動検出機能をONにすると、AUDIO IN CH1またはCH2端子へのケーブル接続時、AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチの設定に関わらず、記録音声としてこれらの端子からの入力が自動的に選ばれるようになります。

XLR接続自動検出機能のON/OFFは、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページにあるREAR XLR AUTOで切り換えることができます。

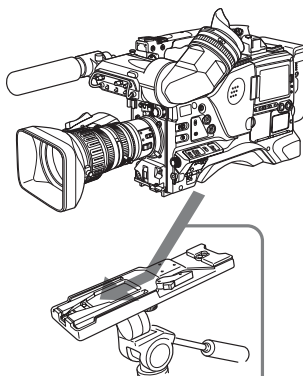


三脚への取り付け

- 1 三脚アタッチメントVCT-14（別売）を雲台に取り付ける。



- 2 本機を三脚アタッチメントに取り付ける。

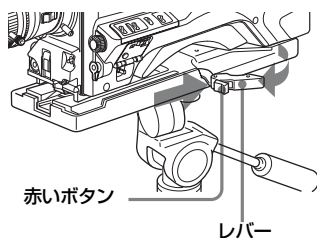


アタッチメントの溝に沿って、カチッと音がするまで本機を前方へスライドさせる

- 3 本機を前後に動かして、外れないことを確認する。

三脚アタッチメントから本機を取り外すには

赤いボタンを押したまま、レバーを矢印の方向へ動かします。



ご注意

本機を取り外した後、三脚アタッチメントのピンが元の位置に戻らないときは、赤いボタンを押したままレバーを矢印の方向へ動かして、ピンを元の位置に戻します。ピンが残ったままでは、取り付けができません。

ビデオライトの接続

本機には、アントンパワー社製のウルトラライト2または同等品のビデオライト（電源電圧12V、最大消費電力50W）を取り付けて使用できます。

- ビデオライトのコネクターを本機のLIGHT端子に接続した場合は、LIGHTスイッチをAUTO側に設定すると、VDRのスタート/ストップに連動して、ライトを点灯/消灯できます。
- 本機のLIGHT端子は、入力電圧（DC入力またはバッテリー電圧）が12V以上の場合は12Vに安定化されるため、バッテリー電圧の変化によってライトの明るさや色温度が変化することはありません。

ご注意

- 消費電力が50Wより大きいビデオライトを接続しないでください。
- 入力電圧（DC入力またはバッテリー電圧）が12V以下になった場合は、入力電圧の変化によってライトの明るさや色温度が変化します。

ビデオライトを取り付けるには

ビデオライトを取手のアクセサリースューに取り付け、ビデオライトコネクターをLIGHT端子に接続します。

ご注意

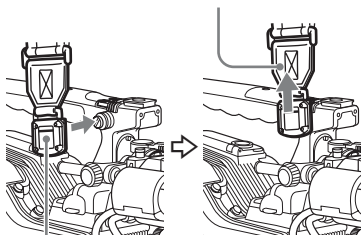
アクセサリースューは $1/4$ 型ネジタイプです。スライドシュータイプに変更する場合は、ソニーのサービス担当者にご相談ください。

ショルダーベルトの取り付け

ショルダーベルトを取り付けるには

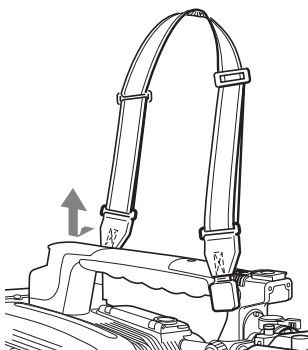
- 1 片方のクリップをショルダーベルト取り付け金具に取り付ける。

ベルトを上引っ張ってきちんと固定する



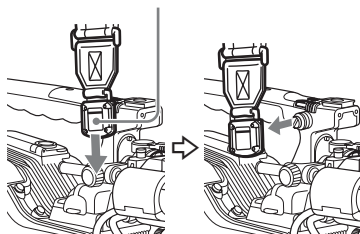
クリップ

- 2 同様にもう一方のクリップを、反対側のショルダーベルト取り付け金具に取り付ける。



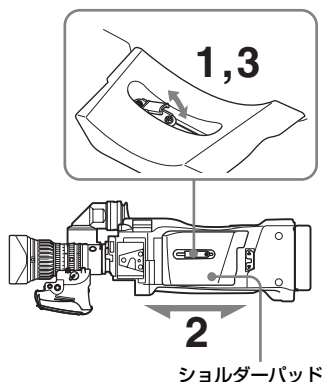
ショルダーベルトを取り外すには

ここを押したまま矢印の方向へ引く



ショルダーパッドの位置調整

ショルダーパッドは、中央位置(出荷時の位置)から前方に25mm、後方に10mmの範囲でスライドさせることができます。本機を肩にのせた状態で操作しやすくなるように、ショルダーパッドの位置を調整してください。



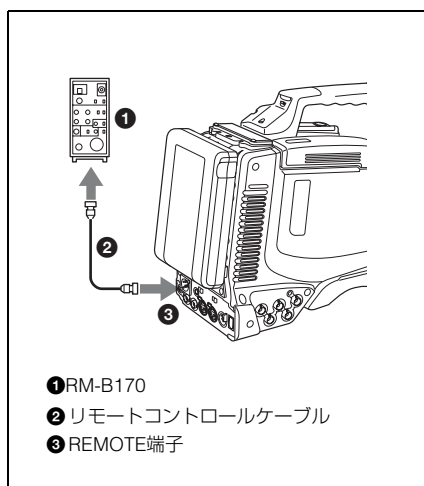
- 1 ショルダーパッドの中央のレバーを引き上げてロックを外す。
- 2 前後方向にスライドして、適当な位置を選ぶ。
- 3 レバーを倒して固定する。

リモートコントロールユニットの接続

ご注意

本機に対してリモートコントロールユニットの接続/取り外しを行うときは、必ず本機の電源をOFFにしてください。

リモートコントロールユニットRM-B170を接続して、カメラ部とVDR部の機能の一部をコントロールすることができます。リモートコントロールユニットをREMOTE端子(8ピン)に接続すると、本機は自動的にリモートコントロールモードに入ります。リモートコントロールユニットを取り外すと、リモートコントロールモードは解除されます。



- ① RM-B170
- ② リモートコントロールケーブル
- ③ REMOTE端子

リモートコントロールユニット接続時のスイッチの機能について

本機の以下のスイッチは動きません。

- GAINスイッチ
- OUTPUT/DCCスイッチ
- WHITE BALスイッチ
- AUTO W/B BALスイッチ

- SHUTTERスイッチ
- TURBO SWITCH機能が割り当てられている場合のASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、およびレンズのRETボタン
- REC STARTボタン（およびレンズのVTRボタン、REC SWITCH機能が割り当てられている場合のASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、およびレンズのRETボタン）（MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 2ページで、RM REC STARTがRMに設定されている場合）
- COLOR TEMP SW 3200K/4300K/5600K/6300K機能が割り当てられている場合のASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、およびレンズのRETボタン

リモートコントロールユニット接続時の画質調整項目について

カメラの画質調整項目（ペイントデータ）については、以前リモートコントロールユニットを接続したときに設定したパラメーターが再現されます。

リモートコントロールユニット接続時の記録開始/停止ボタンの機能について

リモートコントロールユニットを接続した場合の記録開始/停止ボタンの機能については、MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 2ページのRM REC START項目で選択できます。

RM REC START項目の設定値に対するボタンの機能

ボタン	RM REC START 項目の設定値		
	RM	CAM	PARA
本機のREC STARTボタン	無効	有効	有効
レンズのVTRボタン	無効	有効	有効

ボタン	RM REC START 項目の設定値		
	RM	CAM	PARA
記録開始/停止機能が割り当てられているASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、およびレンズのRETボタン	無効	有効	有効
リモートコントロールユニットのVTRボタン	有効	無効	有効

リモートコントロールユニットにモニターを接続する

RM-B170のMONITOR 端子（BNC型）からは、本機のTEST OUT端子と同じ信号が出力されます。

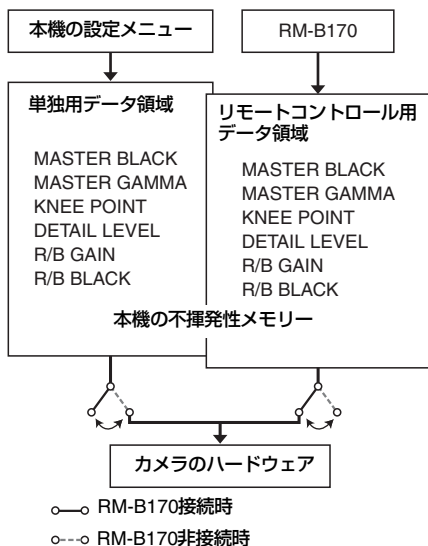
RM-B170のMONITOR 端子とモニターを接続する場合は、RM-B170に付属の黒いケーブルを使用してください。

リモートコントロールユニットを外したときは

本機はリモートコントロールユニットを接続する前の状態に戻ります。

カメラ画質調整データのデータ構造について

本機の持つカメラ画質調整データ（ペイントデータ）のデータ領域は、次図のように、リモートコントロールユニットを接続しないときに有効となる「単独用データ領域」と、リモートコントロールユニットを接続したときに有効となる「リモートコントロール用データ領域」があります。RM-B170などのリモートコントロールユニットの接続/非接続に応じて、「単独用データ領域」と「リモートコントロール用データ領域」が自動的に切り換えられて、カメラに出力されます。



リモートコントロールユニットを接続すると、ペイントデータのデータ領域は「リモートコントロール用データ領域」に切り替わり、以前にリモートコントロールユニットを接続していたときの状態が再現されます。

ただし、リモートコントロールユニット側で絶対値ボリューム¹⁾や絶対値スイッチ²⁾などが設定されているときは、絶対値ボリュームや絶対値スイッチのポジションに合わせて状態が変更されます。

また、リモートコントロールユニットを外すと、「単独用データ領域」が有効となり、リモートコントロールユニットを接続する前の状態に戻ります。

- 1) **絶対値ボリューム**：ボリュームの回転角度（位置）に対応したデータが出力される。これに対して、回転（変化）量に応じたデータが出力されるものを相対値ボリュームと呼ぶ。
- 2) **絶対値スイッチ**：トグルスイッチや、スライドスイッチ（原則としてモーメンタリー型を除く）のように、スイッチのレバー（またはつまみ）の位置とそのスイッチの機能の状態とが一致している必要があるスイッチ

MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 2 ページでRM COMMON MEMORYをONに

設定すると、リモートコントロールユニットを接続しても「リモートコントロールユニット用データ領域」を無効にしたまま「単独用データ領域」を使うことができます。この場合、リモートコントロールユニットは「単独用データ領域」のデータを更新することになり、外したときもリモートコントロールユニットで調整したままの画質が維持されます。ただし、カムコーダーのスイッチのポジションと状態が異なるときは、カムコーダーのスイッチが優先されます。

また、リモートコントロールユニットを接続したときに、接続前と比べて画質が変化しないようにすることができます。この場合は、リモートコントロールユニットのボリュームをすべて相対値ボリュームに設定しておく必要があります。

◆ 詳しくは、リモートコントロールユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。

3章 撮影のための調整と設定

記録フォーマットの設定

本機が対応している記録フォーマットは次のとおりです。

映像

記録フォーマット	解像度	システム周波数 ^{a)}
----------	-----	-----------------------

MPEG HD422 50	1080	59.94i/50i
(ビットレート： 50Mbps)		

MPEG HD420 HQ/SP	1080	59.94i/50i
(ビットレート： 35/25Mbps)		

a) **59.94i**：使用地域の設定がNTSC(J)AREA/NTSC AREAのとき

50i：使用地域の設定がPAL AREAのとき

音声

記録フォーマット	チャンネル数
----------	--------

24bit/48kHz	8ch ^{a)}
	4ch

16bit/48kHz	8ch
	4ch ^{b)}

a) 映像記録フォーマットがMPEG HD422 50のとき

b) 映像記録フォーマットがMPEG HD420 HQ/SPのとき

ご注意

- 1枚のディスクにフレーム周波数グループが異なる記録を混在させることはできません（63ページ参照）。
- 本機が記録できる音声は最大で4チャンネルです。音声チャンネル数が8chの記録フォーマットの場合、5～8チャンネルには無音が記録されます。

システム周波数を設定する

- 1 OPERATIONメニューのFORMATページを表示する。

```
?026OFORMAT          TOP
SYSTEM LINE       : 1080
SYSTEM FREQUENCY: 59.9i
REC FORMAT       : HD422 50

COUNTRY          : NTSC(J)AREA
```

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

- 2 「SYSTEM FREQUENCY」を選択し、MENUつまみを回して希望のシステム周波数を表示させる。
COUNTRYとSYSTEM LINEの設定の組み合わせに応じて、次表に示す周波数が選択できます。

COUNTRY	SYSTEM LINE	SYSTEM FREQUENCY
NTSC(J)AREA	1080	59.9i
NTSC AREA		
PAL AREA	1080	50i

必要に応じてCOUNTRYの設定を変更してください。

映像の記録フォーマットを設定する

- 1 OPERATIONメニューのFORMATページを表示する。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

- 2 「REC FORMAT」を選択し、MENU つまみを回して希望の記録フォーマットを表示させる。
HD422 50 ↔ HD420 HQ ↔ HD420 SP
と切り替わります。

記録フォーマットが異なるクリップの同一ディスク内への混在記録

フレーム周波数グループが一致する場合には限り、同一ディスク内に記録フォーマットが異なるクリップを記録したり、書き込んだりすることができます。¹⁾

ここでは、この機能を「フォーマット混在記録モード」と呼びます。

- 1) システム周波数、ビットレート、またはオーディオチャンネル数/ビット数のいずれかが一致しないとき、記録フォーマットが異なるクリップと見なされます。

ご注意

記録フォーマットが異なるクリップのつなぎ目をまたいで再生する場合、つなぎ目で映像と音声があったん停止した後、再生が継続されることがあります。

フレーム周波数グループ

本機が対応しているシステム周波数は、次表のようなフレーム周波数グループに分類されます。

フレーム周波数グループ	システム周波数
59.94Hz	59.94i
50Hz	50i

本機をフォーマット混在記録モードにすると、たとえば、HD422クリップとHD420SPクリップを1枚のディスクに記録することができます。

フォーマット混在記録モードを有効にするには

MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1 ページでMIXED RECORDINGをENABLに設定します。

記録フォーマットが異なるクリップの混在を禁止したい場合は、この設定をDSABLに記したままご使用ください。ただし、フォーマット混在記録モードの設定に関わらず、次のフォーマットグループ内では混在記録が可能です。

- HD420のHQ、SP、およびLP

ブラックバランス/ホワイトバランスの調整

本機を使用し、常に高画質の映像を得るためには、状況に応じたブラックバランスとホワイトバランスの調整が必要です。

ブラックバランスの調整

次のような場合に調整が必要です。

- 本機を初めて使用するとき
 - 長時間使用しなかった後に使用する時
 - 周囲の温度が大幅に変化した状況で使用するとき
 - USERメニューでGAINスイッチ（L/M/H）に設定しているゲイン値を変更したとき
- 通常は、電源を再び入れた場合でも調整し直す必要はありません。

ホワイトバランスの調整

照明条件が変わったときには、必ず調整し直してください。

ビューファインダー画面の表示について

USERメニューのVF DISP 1ページでVF DISP MODEが表示モード2または3に設定されている場合、ブラックバランスとホワイトバランスの調整を始めると、ビューファインダー画面に、調整経過や結果を知らせるメッセージが表示されます。

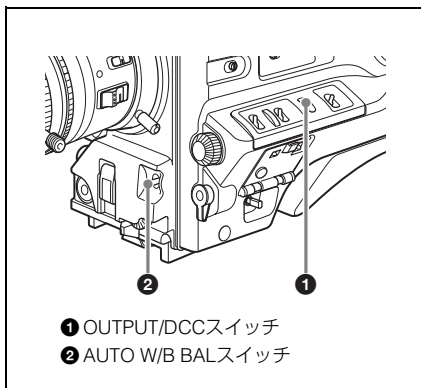
ご注意

本機で自動調整される調整値や各設定値は、本機のメモリーに記憶され、電源を切っても保持されています。

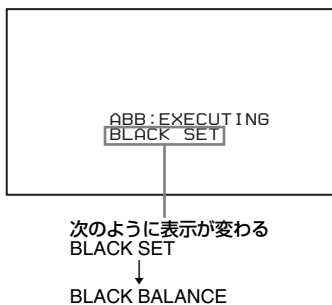
ブラックバランスを調整する

ブラックバランスの自動調整は、ブラックセット、ブラックバランスの順に実行されます。ブラックバランスは、設定メニューの操作によって手動調整することもできます。

- ◆ ブラックバランスの手動調整については、メンテナンスマニュアルをご覧ください。



- 1 OUTPUT/DCCスイッチをCAMにする。
- 2 AUTO W/B BALスイッチをBLK側に押し、指を離す。
スイッチは中央に戻り、調整が実行されます。調整中、ビューファインダー画面上に図のようなメッセージが表示されます。



数秒で調整が終了し、「ABB:OK」のメッセージが表示されます。調整値は自動的にメモリーに記憶されます。

ご注意

- ブラックバランス調整中、絞りは自動的に遮光状態になります。
- ブラックバランス調整中、ゲイン切り換え回路が自動的に働き、ビューファインダー画面上にフリッカーが数回現れますが、故障ではありません。

ブラックバランスの自動調整ができないとき

ブラックバランスの調整が正常に終了しなかったときは、ビューファインダー画面に約3秒間エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーメッセージは次のとおりです。

エラーメッセージ	意味
ABB: NG IRIS NOT CLOSE	レンズの絞りが閉らなかったため、調整できなかった。
ABB: NG TIME LIMIT	規定された調整回数以内で調整が終了しなかった。
ABB: NG R (またはG、B) : OVERFLOW	現在値と基準値の差が大き く、調整範囲を超えていた ため、調整できなかった。

上記のエラーメッセージが表示されたら、再度ブラックバランスの調整を試みてください。

その際、画面中央に-BLACK BALANCE-が表示された後に、再度-BLACK SET-の表示が出るまで、AUTO W/B BALスイッチをBLK側に押し続けてください。繰り返し調整を試みてもエラーメッセージが表示されるときは、内部点検をする必要があります。

◆内部点検については、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

ご注意

レンズの接続ケーブルがLENS端子にしっかり接続されていないと、レンズの絞りが遮光状態にならず、ブラックバランスはエラーになります。

ブラックバランスのメモリーについて

メモリーに記憶された値は、本機の電源を切った状態でも保存されます。

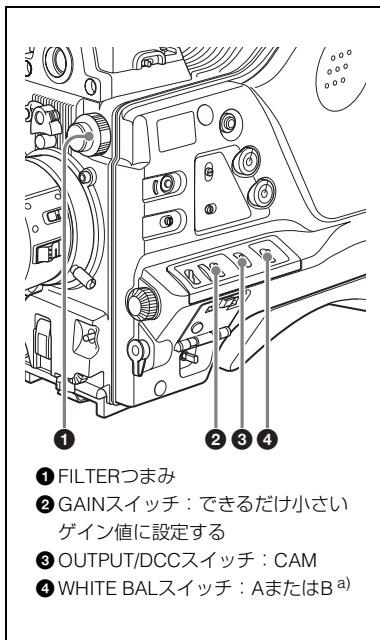
メモリーエラーが発生したときは

電源を入れたときに、「[: STORED DATA : NG]」のエラーメッセージがビューファインダー画面中央に点滅表示されたときは、メモリーの内容が消失しています。再度、ブラックバランスの調整を行ってください。再度調整を行ってもこのメッセージが表示される場合は、ソニーのサービス担当者にご相談ください。

◆詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

ホワイトバランスを調整する

1 図のようにスイッチを設定する。



- a) メモリー B に設定値が記憶されるのは、OPERATION メニューの WHITE SETTING ページで WHITE SWITCH が MEM に設定されているときのみです。

GAIN および WHITE BAL スイッチの設定を変更すると、ビューファインダー画面の設定変更/調整経過メッセージ表示部に、設定した位置を知らせるメッセージが約3秒間表示されます。

2 照明条件に合わせて、FILTER つまみの設定を切り換える。

FILTER つまみの設定と選択されるフィルターの対応は次のとおりです。

FILTER つまみの設定	ND フィルター
1	CLEAR (素通し)
2	1/4 ND
3	1/16 ND
4	1/64 ND

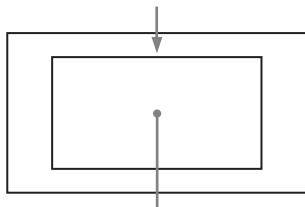
FILTER つまみの設定を変更すると、ビューファインダー画面の設定変更/調整経過メッセージ表示部に、設定した位置を知らせるメッセージが約3秒間表示されます (表示モードが3に設定されているとき)。

3 被写体の照明光源と同じ条件のところにホワイトパターンを置き、ズームアップして画面に白を映す。

被写体の近くの白いもの (白布、白壁) で代用することもできます。

最小限必要な白の面積は、図のとおりです。

画面センターを中心とする長方形
各辺の長さは、画面の高さ、または幅の70%。



この長方形内に、画面面積の10%以上の画面の白が必要

ご注意

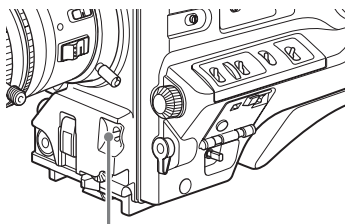
長方形内に高輝度スポットを入れないようにしてください。

4 レンズの絞りを調整する。

手動調整レンズの場合：絞りを適正值に合わせる。

自動絞り調整機能付きレンズの場合：レンズ側の絞り自動/手動切換スイッチを自動的に設定する。

5 AUTO W/B BAL スイッチを WHT 側に押し、指を離す。



AUTO W/B BAL スイッチ

スイッチは中央に戻り、ホワイトバランスの自動調整が実行されます。

調整中、ビューファインダー画面に「AWB: EXECUTING WHITE BALANCE」のメッセージが表示されます (表示モードが2または3に設定されているとき)。

約1秒で、図のようなメッセージが表示され、調整が完了します。調整値は、手順1で選択したメモリー (AまたはB) に自動的に記憶されます。



被写体のおおよその色温度

ご注意

自動絞り機能付きズームレンズを使用した場合、絞りがハンチング¹⁾を起こすことがあります。このような場合は、レンズに付いている絞りのゲインつまみ(G、IS、Sなどと表示されている)を調整してください。

◆詳しくは、レンズの取扱説明書をご覧ください。

1)ハンチング：オートアイリスの応答を繰り返し、映像が暗くなったり明るくなったりすること。

ホワイトバランスの自動調整ができないときは

ホワイトバランスの調整が正常に終了しなかったときは、ビューファインダー画面に約3秒間エラーメッセージが表示されます(表示モードが2または3に設定されているとき)。表示されるエラーメッセージは次のとおりです。

エラーメッセージ	意味
WHITE: NG LOW LEVEL	白の映像レベルが低すぎる。レンズの絞りを開けるか、ゲインを上げる。
WHITE: NG COLOR TEMP HIGH	色温度が高すぎる。
WHITE: NG COLOR TEMP LOW	色温度が低すぎる。
WHITE: NG TIME LIMIT	規定された調整回数以内に調整が終了しなかった。
WHITE: NG POOR WHITE AREA	白の領域を確認できなかった。
WHITE: NG OVER LEVEL	白の映像レベルが高すぎる。レンズを絞るか、NDフィルターを変える。

エラーメッセージが表示されたら、再度ホワイトバランスの調整を試みてください。繰り返し調整を試みてもエラーメッセージが表示される場合は、内部点検をする必要があります。

◆内部点検については、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

ホワイトバランスを調整する時間がないときは

WHITE BALスイッチをPRSTにします。COLOR TEMP.ボタンを押すことにより、5600Kにホワイトバランスが自動的に調整されます。

COLOR TEMP.ボタンを押したときの色温度は、OPERATIONメニューのASSIGNABLE SWページで3200K、4300K、5600K、または6300Kから選択することができます。また、ASSIGN 1/3/4スイッチ、またはレンズのRETボタンに各色温度を割り当てることもできます。

◆ホワイトバランスの自動調整について、詳しくは65ページをご覧ください。

NDフィルターの切り換えに合わせて色温度を変更するには

電氣的なCC(色補正)フィルターをNDフィルター(21ページ参照)に割り当てることによって、NDフィルターの切り換えに合わせて色温度を変更することができます。

1 MAINTENANCEメニューのWHITE FILTERページを表示する。

?M160WWHITE FILTER	TOP
ND FILTER CTEMP :	OFF
ND FLT CTEMP <1>:	3200K
ND FLT CTEMP 2-4:	5600K
ELECTRICAL CC<A>:	3200K
ELECTRICAL CC:	4300K
ELECTRICAL CC<C>:	5600K
ELECTRICAL CC<D>:	6300K

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 ND FILTER CTEMPを選択し、MENUつまみを回してONを表示させる。**3 電氣的CCフィルターをFILTERつまみのポジション番号1に割り当てると**

きは「ND FLT CTEMP <1>」を、ポジション番号2~4に割り当てるときは「ND FLT CTEMP 2-4」を選択する。

4 MENUつまみを回して希望の色温度を表示させる。

3200K ↔ 4300K ↔ 5600K ↔
6300Kと切り替わります。

5 必要に応じて、手順3と4を繰り返す。

電気的CCフィルターをASSIGNスイッチで切り換えるには

電気的CCフィルターの切り換え機能をASSIGNスイッチに割り当てることによって、ASSIGNスイッチを押すごとに最大で4つのポジション（A~D）に設定された色温度（3200K/4300K/5600K/6300K）を切り換えることができます。

また、ASSIGNスイッチへの機能割り当てに関わらず、リモートコントロールユニットから各ポジションに設定された色温度を切り換えることもできます。¹⁾

1)RM-B170接続時

1 MAINTENANCEメニューのWHITE FILTERページを表示する。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

2 CCフィルターを設定したいポジション「ELECTRICAL CC<A>~<D>」を選択し、MENUつまみを回して希望の色温度を表示させる。

3200K ↔ 4300K ↔ 5600K ↔
6300Kと切り替わります。

色温度を設定しないときは

ELECTRICAL CC<C>、<D>の設定時に「----」を選択します。

ASSIGNスイッチを押しても、そのポジションの設定は表示されません。たとえば、1つのポジションに「----」を設

定したときは、3つのポジションの切り換えになります。

3 必要に応じて、手順2を繰り返す。

4 ASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、またはレンズのRET ボタンに電気的CCフィルターの切り換え機能（ELECTRICAL CC）を割り当てる（224ページ参照）。

ホワイトバランスのメモリーについて

メモリーに記憶された値は、本機の電源を切った状態でも、再度ホワイトバランスを調整するまで保存されます。

ホワイトバランスのメモリーは、A、Bの2系統があり、WHITE BALスイッチの設定（AまたはB）に対応するメモリーに、NDフィルターごとの調整値を自動的に記憶させることができます。本機は4つのNDフィルターを内蔵しているため、合計4個の調整値を記憶できます。ただし、次の場合、メモリーの内容はNDフィルターに連動しません。

- OPERATIONメニューのWHITE SETTING ページでFILTER WHT MEMをOFFに設定することによって、A、B両系統のメモリー数を1個に限定したとき
- 電気的CCフィルター切り換え機能がASSIGNスイッチに割り当てられているとき、またはリモートコントロールユニット接続時（この場合、メモリーの内容は電気的CCフィルターのポジション（A~D）に連動します。）

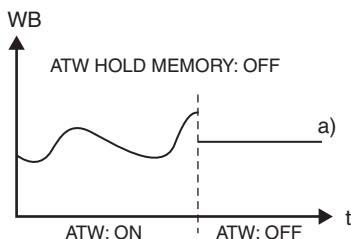
また、OPERATIONメニューのWHITE SETTINGページで、WHITE SWITCH をATWiに設定すると、WHITE BALスイッチがBの位置でATW（自動追尾ホワイトバランス）が動作し、照明条件の変化に応じて画像のホワイトバランスが自動追従します。

ATWによるホワイトバランス設定値を保持するには

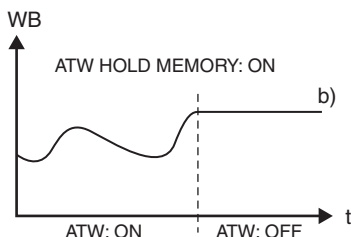
OPERATIONメニューのWHITE SETTINGページでATW HOLD MEMORYをONに設定すると、現在のWHITE BALスイッチの設定(AまたはB)に対応するメモリーに、ATWによるホワイトバランス設定値が書き込まれます。1)

この状態でATWをオフにすると、ATWをオフにする直前のホワイトバランス設定値で撮影を続けることができます。

- 1) WHITE BALスイッチの設定がPRSTのときは、この機能は働きません。リモートコントロールユニット接続時は、リモートコントロールユニットの設定に対応するメモリー (A、B、またはC) になります。



- a) メモリー A、B、またはCに記憶されているホワイトバランス設定値



- b) ATWをオフにする直前のホワイトバランス設定値

ATWオフ時に移行するホワイトバランス設定値
(WB: ホワイトバランス設定値、t: 撮影の経過時間)

メモリーエラーが発生したときは

電源を入れたときに、「: STORED DATA : NG」のエラーメッセージがビューファインダー画面中央に点滅表示されたときは、メモリーの内容が消失しています。再度ホワイトバランスを調整してください。再度調整を試みてもエラーメッセージが表示されるときは、ソニーのサービス担当者にご相談ください。

- ◆詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

電子シャッターの設定

シャッターモードについて

本機の電子シャッターで使用できるシャッターモードと、選択できるシャッタースピードは次のとおりです。

標準モード

動きの速い被写体を鮮明に撮影したい場合などに使用します。

システム	シャッタースピード (単位：秒)
59.94i	$\frac{1}{100}$ 、 $\frac{1}{125}$ 、 $\frac{1}{250}$ 、 $\frac{1}{500}$ 、 $\frac{1}{1000}$ 、 $\frac{1}{2000}$
50i	$\frac{1}{60}$ 、 $\frac{1}{125}$ 、 $\frac{1}{250}$ 、 $\frac{1}{500}$ 、 $\frac{1}{1000}$ 、 $\frac{1}{2000}$

ECS (拡張クリアスキャン) モード

モニター画面を、水平方向の縞模様が出ないように走査したい場合などに使用します。

システム	シャッタースピード (単位：Hz)
59.94i	30.00~4300
50i	25.00~4700

SLS (スロースピードシャッター) モード

低照度の被写体を撮影したいときに使用します。

シャッタースピード (単位：フレーム)
2、3、4、5、6、7、8、16

ご注意

- どのモードで電子シャッターを使用しても、シャッタースピードが速いほど、CCDの感度は低下します。
- 絞りが自動のときは、シャッタースピードが速くなるにつれ、絞りが開き、被写界深度も浅くなります。

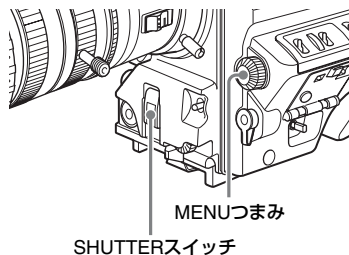
- 人工照明、特に蛍光灯や水銀灯などは、輝度が一定のように見えても、電源周波数に同期して、R、G、B各色の強さが変化しています。(これをフリッカーといいます。)このような照明下でシャッターを使用すると、フリッカーがより目立つ場合があります。特に、電源周波数60Hzの地域では、カラーフリッカーとなります。なお、50Hzの地域では、シャッタースピードを $\frac{1}{100}$ に設定すると、フリッカーを低減することができます。
- ECSモードで撮影する場合、画面いっぱいには高輝度の光源を入れると、CCD特有の現象により、画面の上側の画像が劣化することがあります。ECSモードを使うときは、あらかじめ撮影条件を確認してください。
- 選択できるシャッタースピードは、設定されているシステム周波数によって異なります。
- SLSモードでシャッタースピード(フレーム数)を大きな値に設定していくと、白点が見えやすくなります。SLSモード使用時の白点は、APRページ(200ページ参照)のAPR(SLS)を実行すると改善することがあります。

シャッターモード/シャッタースピードを設定する

シャッターモードおよび標準モードでのシャッタースピードの切り換え：

SHUTTERスイッチをSELECT側に繰り返し押しします(次項参照)。

ECSモード/SLSモードでのシャッタースピードの切り換え：SHUTTERスイッチでECSモードまたはSLSモードを選択し、MENUつまみを回します(71ページ参照)。



なお、OPERATIONメニューのSHT ENABLEページで、シャッタースピードの

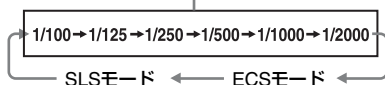
選択範囲を必要な範囲にあらかじめ制限したり、ECSモードやSLSモードを使用するかどうかあらかじめ選択したりすることができます。

シャッターモードおよび標準モードでのシャッタースピードを設定するには

1度選択したシャッタースピードは、本機の電源を切った状態でも保持されます。

- 1 「表示項目を選択する」(217ページ)の手順で、USERメニューのVF DISP 1ページでVF DISPLAY MODEを2または3に設定する。
- 2 SHUTTERスイッチを、ONの位置からSELECT側に押す。
ビューファインダー画面の設定変更/調整経過メッセージ表示部に、シャッターの現在の設定が約3秒間表示されず。
例: 「: SS :1/250」、 「: ECS : 60.0 Hz」
- 3 手順2の表示が消える前に、もう一度SHUTTERスイッチをSELECT側に押す。希望のモードまたはスピードが表示されるまで、この操作を繰り返す。
すべてのモードとスピードが表示される場合は、以下の順序で表示が切り替わります。

標準モード (システム周波数: 59.94iの場合) の表示例



あらかじめ必要なシャッターモードとシャッタースピードに設定されている場合は、設定したモードまたはスピードだけが表示されます。

- ◆ 出荷時には、「シャッターモードについて」(70ページ)の表にあるSLS以外の

すべてのモードとスピードが表示されるように設定されています。
OPERATIONメニューのSHT ENABLEページ(180ページ参照)でこれらの設定を変更することができます。

- ◆ 標準モードでのシャッタースピードは、MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 2ページにあるSHT DISP MODE (197ページ参照)で角度表示に切り換えることができます。

ECSモード/SLSモードのシャッタースピードを設定するには

- 1 シャッタースピードモードをECSまたはSLSに設定する(前項参照)。
- 2 MENUつまみを回して、希望の周波数またはフレーム数を表示させる。

RM-B170を接続しているときは

ECS/SLSのシャッタースピードはRM-B170で設定できます。

シャッターモード/スピードの選択範囲を変えるには

OPERATIONメニューのSHT ENABLEページで、シャッタースピードの選択範囲を制限したり、特殊動作モード(ECS/SLS)を使用するかどうかを選択しておくことができます。

ご注意

本機にリモートコントロールユニット(RM-B170など)を接続して外部から操作する場合は、OPERATIONメニューのSHT ENABLEページで選択した内容は無効になります。

- 1 OPERATIONメニューのSHT ENABLEページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆ メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

024OSHT ENABLE			
→SHUTTER	ECS	●	ON
SHUTTER	SLS	○	OFF
SHUTTER	1/100	○	ON
SHUTTER	1/125	○	ON
SHUTTER	1/250	○	ON
SHUTTER	1/500	○	ON
SHUTTER	1/1000	○	ON
SHUTTER	1/2000	○	ON

2 MENUつまみを回して、→マークを設定したいモードまたはシャッタースピードの位置に移動させ、MENUつまみを押す。

選択項目の→マークが●マークに変わり、設定値の●マークは、?マークに変わります。

3 MENUつまみを回してONを表示させ、MENUつまみを押す。

●マークが→マークに変わり、?マークが●マークに変わります。設定が確定します。

引き続き他のモードまたはスピードを選択したいときは、手順2に戻ります。

ONに設定してあるシャッタースピードのみSHUTTERスイッチで選ぶことができます。

4 メニュー操作を終了するときは、MENU ON/OFFスイッチをOFFにする。またはスイッチカバーを閉じる。メニュー画面が消え、ビューファインダー画面の上端と下端には本機の状態が表示されます。

オートアイリスの設定

逆光の被写体を適正な明るさで撮るときや、スポットライトが当てられた被写体の白つぶれなどを防ぐときなど、被写体の照明条件によってはオートアイリスの設定を変更する必要があります。レンズ絞りの基準値は、標準値に対して次の範囲に設定できます。

- 0.25~1 (0.25刻み) : 約0.25~1絞り分開きぎみになる。
- -0.25~-1 (0.25刻み) : 約0.25~1絞り分閉じぎみになる。

また、オートアイリスの対象となる範囲を設定しておくこともできます。

基準値を変更するには

(メニュー上での項目選択のしかた : MENUつまみを回して→を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのAUTO IRISページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

0180AUTO IRIS			
→IRIS OVERRIDE		●	OFF
IRIS SPEED		○	0
CLIP HIGH LIGHT		○	OFF
IRIS WINDOW		○	1
IRIS WINDOW IND		○	OFF
IRIS VAR WIDTH		○	245
IRIS VAR HEIGHT		○	72
IRIS VAR H POS		○	0
IRIS VAR V POS		○	0

2 →マークがIRIS OVERRIDEの位置にあることを確認し、MENUつまみを押す。

選択項目の▶マークが●マークに変わり、設定値の●マークは、?マークに変わります。

3 MENUつまみを回してONを表示させ、MENUつまみを押す。

●マークが▶マークに変わり、?マークが●マークに変わります。IRIS OVERRIDEはONに設定されます。

4 MENU ON/OFFスイッチをOFFにする。

AUTO IRISページがビューファインダー画面上から消えます。

5 MENUつまみを回して基準値を変更する。

ご注意

このとき、シャッターモードがECS以外のモードになっていることを確認してください。

変更した基準値は電源を切るまで保持されます。基準値を変更しても、電源を入れるたびに標準値に戻ります。

絞りを開きぎみにする場合

MENUつまみをカメラ正面から見て反時計方向に回します。

絞り値表示のFナンバーの左側上段に、インジケーターが次表のように点灯します。

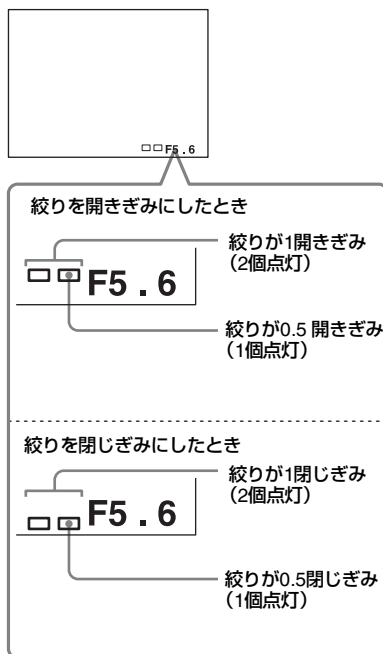
絞り値	インジケーター
0.25	■
0.5	□
0.75	■□
1	□□

絞りを閉じぎみにする場合

MENUつまみをカメラ正面から見て時計方向に回します。

絞り値表示のFナンバーの左側下段に、インジケーターが次表のように点灯します。

絞り値	インジケーター
-0.25	■
-0.5	□
-0.75	■□
-1	□□



RM-B170を接続しているときは

RM-B170のIRIS調整つまみで設定します(オートアイリス時)。インジケーターは表示されません。

オートアイリス検出ウィンドウを設定するには

1 前項の手順1と2の操作でAUTO IRISページを表示する。

2 MENUつまみを回して、▶マークをIRIS WINDOW INDの位置に移動させ、MENUつまみを押す。

選択項目の▶マークが●マークに変わり、設定値の●マークは、?マークに変わります。

3 MENUつまみを回してONを選択し、MENUつまみを押す。

●マークが▶マークに変わり、?マークが●マークに変わります。

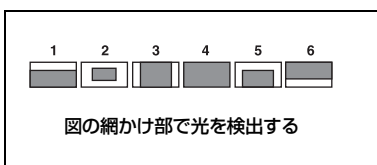
ビューファインダーの画面上に現在選択されているオートアイリスウィンドウが表示されます。

オートアイリスウィンドウを常に表示しておく必要がない場合は、OFFにします。

4 MENUつまみを回して、➡マークをIRIS WINDOWの位置に移動させ、MENUつまみを押す。

選択項目の➡マークが●マークに変わり、設定値の●マークは、?マークに変わります。

5 MENUつまみを回して希望のオートアイリスウィンドウを選択し、MENUつまみを押す。



●マークが➡マークに変わり、?マークが●マークに変わります。

VARIABLEを選ぶと、次表の項目が有効となり、希望の大きさのウィンドウを作成できます。各項目を設定してください。

項目	設定
IRIS VAR WIDTH	ウィンドウの幅
IRIS VAR HEIGHT	ウィンドウの高さ
IRIS VAR H POS.	ウィンドウの横方向の位置
IRIS VAR V POS.	ウィンドウの縦方向の位置

6 MENU ON/OFFスイッチをOFFにする。

ビューファインダー画面からメニュー画面が消え、ビューファインダー画面の上端、下端には本機の状態が表示されます。

高輝度の外乱による影響を軽減させるには

高輝度の画像が入ってきたためオートアイリスが閉じ過ぎて全体的に暗くなり過ぎ、白つぶれという状態になることがあります。このような場合は、ハイライトクリップ機能をONに設定すると、あるレベル以上のものにクリップをかけて、オートアイリスへの影響を低減することができます。

USERメニューのAUTO IRISページで、CLIP HIGH LIGHTをONに設定します。

音声レベルの調整

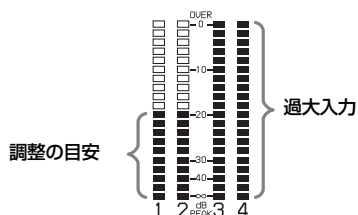
AUDIO SELECT CH-1/CH-2のスイッチをAUTOにすると、音声チャンネル1、2に記録される信号の入力レベルは自動的に調整されます。また、手動で調整することもできます。

音声チャンネル3、4の場合は、メニューの設定によって、自動調整、手動調整、または固定値から選択できます。

手動調整時の音声レベルの目安

-20 dBを目安に調整します。

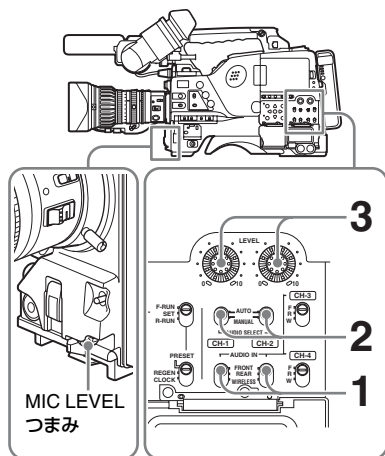
音声レベルメーターが0 dBまで表示されるときは、入力音量が過大です。



AUDIO IN CH1/CH2端子からの音声レベルを手動調整する

XLR接続自動検出機能がONのときは、AUDIO IN CH1/CH2端子にケーブルが接続されると、記録音声自動的に選択されるため、手順1は不要になります。手順2から操作してください。

◆XLR接続自動検出機能は、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページのREAR XLR AUTOでON/OFFすることができます。工場出荷時はOFFに設定されています。



1 AUDIO IN CH1/CH2端子への入力信号を記録、調整したいチャンネルに相当するAUDIO IN CH-1/CH-2スイッチをREARにする。

1、2チャンネルとも記録、調整する場合は、両方のAUDIO IN CH-1/CH-2スイッチをREARにする。

2 手順1で選んだチャンネルのAUDIO SELECTスイッチをMANUALにする。

3 手順1で選んだチャンネルのLEVELつまみで、通常の入力音量のときの音声レベルメーターが-20 dBまで表示されるように調整する。

記録レベル調整とつまみの対応について

MAINTENANCEメニューのAUDIO-3ページで、AUDIO IN CH1/CH2端子に入力される音声の記録レベルの調整をどのつまみで行うか、選択することができます。各メニュー項目の設定値とつまみの対応は以下のとおりです。

REAR1/WRR LEVEL：チャンネル1の記録レベル

設定値	つまみ
SIDE1	LEVEL (CH-1) つまみ (左側)
FRONT	MIC LEVELつまみ
F+S1	LEVEL (CH-1) つまみとMIC LEVELつまみの連動

REAR2/WRR LEVEL：チャンネル2の記録レベル

設定値	つまみ
SIDE2	LEVEL (CH-2) つまみ (右側)
FRONT	MIC LEVELつまみ
F+S2	LEVEL (CH-2) つまみとMIC LEVELつまみの連動

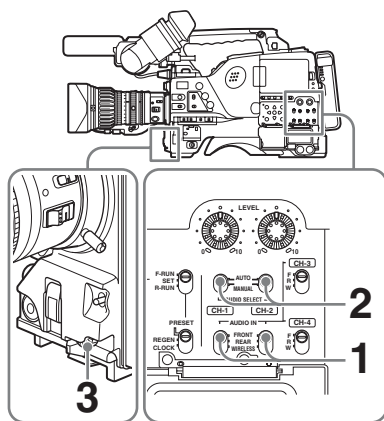
ご注意

LEVEL (CH-1/CH-2) つまみとMIC LEVELつまみの連動を選択した場合、MIC LEVELつまみが「0」に絞られているとチャンネル1、2の音声を記録できません。MIC LEVELつまみの位置を確認してから、LEVEL (CH-1/CH-2) つまみで調整してください。

MIC IN端子からの音声レベルを手動調整する

ご注意

XLR接続自動検出モードがONの状態ではAUDIO IN CH1/CH2端子にオーディオケーブルが接続されると、コネクタの挿入を自動的に検出して、AUDIO IN CH1/CH2端子からの入力 (REAR) に切り替わってしまいます。AUDIO IN CH1/CH2端子にケーブルが挿入されていないことを確認してください。または、MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページで、REAR XLR AUTOをOFFに設定してください。



- 1 使用するチャンネルのAUDIO INスイッチをFRONTに設定する。
- 2 手順1で選んだチャンネルのAUDIO SELECTスイッチをMANUALに設定する。
- 3 MIC LEVELつまみを回して、通常の入力音量のとき音声レベルメーターが-20 dBまで表示されるように調整する。

記録レベル調整とつまみの対応について

MAINTENANCEメニューのAUDIO-3ページで、フロントマイクから入力する音声の記録レベルの調整をどのつまみに割り当てるかを設定できます。各メニュー項目の設定値とつまみの対応は以下のとおりです。

MIC CH1 LEVEL：チャンネル1の記録レベル

設定値	つまみ
SIDE1	LEVEL (CH-1) つまみ (左側)
FRONT	MIC LEVELつまみ
F+S1	LEVEL (CH-1) つまみとMIC LEVELつまみの連動

MIC CH2 LEVEL：チャンネル2の記録レベル

設定値	つまみ
SIDE2	LEVEL (CH-2) つまみ (右側)
FRONT	MIC LEVELつまみ
F+S2	LEVEL (CH-2) つまみとMIC LEVELつまみの連動

ご注意

MIC LEVELつまみとLEVEL (CH-1/CH-2) つまみの連動を選択した場合、LEVEL (CH1/CH-2) つまみが「0」に絞られているとチャンネル1、2の音声が記録できません。LEVEL (CH-1/CH-2) つまみの位置を確認してから、MIC LEVELつまみで調整してください。

チャンネル3、4への音声の記録について

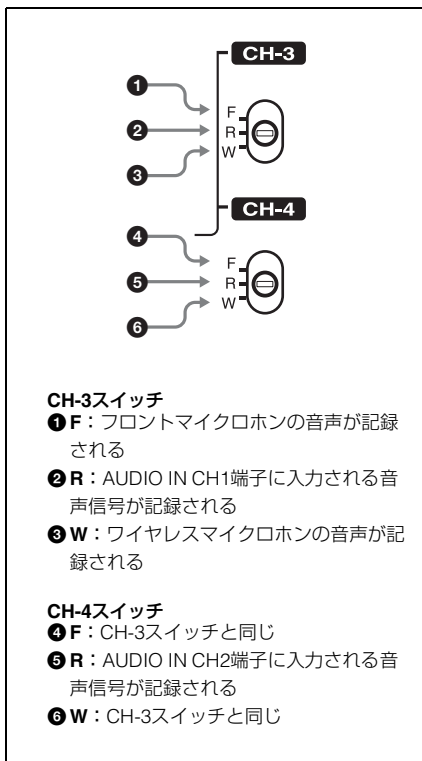
記録音声の選択について

音声チャンネル3、4に記録される音声は、AUDIO IN CH-3/CH4スイッチで選ぶことができます。

また、以下のように自動で選択されるようにすることもできます。

チャンネル1、2と同じ音声が自動で選択されるようにするには

MAINTENANCEメニューのAUDIO-1ページでAUDIO CH3/4 MODEを「CH 1/2」に設定します。



ご注意

LINE / AES/EBU / MICスイッチがLINEまたはMICに設定されている場合、音声チャンネル3、4に記録される音声の種類は、XLR自動検出機能には依存しません。スイッチの選択のみで決まります。

記録音声レベルを調整するには

自動調整するには

MAINTENANCEメニューのAUDIO-2ページで、「AU CH34 AGC MODE」を「STEREO」または「MONO」に設定します。

手動調整するには

- 1 MAINTENANCEメニューのAUDIO-2ページで、「AU CH34 AGC MODE」を「OFF」に設定する。
- 2 MAINTENANCEメニューのAUDIO-3ページで、「AUDIO CH3 LEVEL」

(音声チャンネル3の場合) および「AUDIO CH4 LEVEL」(音声チャンネル4の場合)を「FRONT」に設定する。

音声チャンネル3、4の音声レベルがMIC LEVELつまみで調整できるようになります。

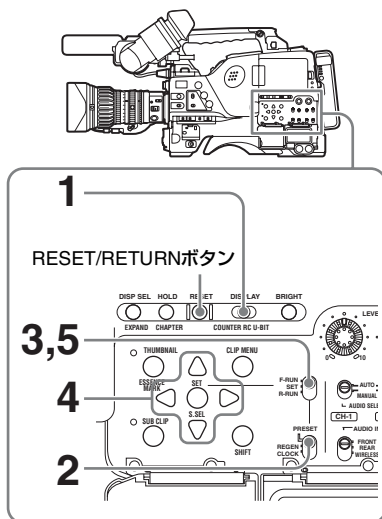
固定値にするには

前項「手動設定するには」の手順2で、各メニュー項目を「FIX」に設定します。

タイムデータの設定

タイムコードを設定する

タイムコードの設定可能範囲は、00:00:00:00~23:59:59:29(時:分:秒:フレーム)です。



- 1 DISP SELを押し、LCD画面をステータス表示にする。
- 2 PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをPRESETにする。
- 3 F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにする。
タイムコードの最上桁が点滅します。
- 4 上下矢印ボタンで数値を変更し、左右矢印ボタンで桁を移動して、すべての桁を設定する。

数値を00:00:00:00にリセットするにはRESET/RETURNボタンを押します。

- 5 希望の数値に設定した後、F-RUN/
SET/R-RUNスイッチを切り換える。
F-RUN：タイムコードは常に歩進する
R-RUN：タイムコードは記録時に歩進
する

DF/NDFの切り換えについて

MAINTENANCEメニューのTIMECODEページで、DF（ドロップフレームモード）/NDF（ノンドロップフレームモード）を切り換えることができます。

タイムコードを連続させるには

F-RUN/SET/R-RUNスイッチがR-RUNに設定されているときは、タイムコードは連続して記録されます。ただし、途中でディスクを交換して記録を行うと、再び元のディスクを入れてもタイムコードは連続しません。

このようなときは、PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをREGENにするとタイムコードを連続させることができます。

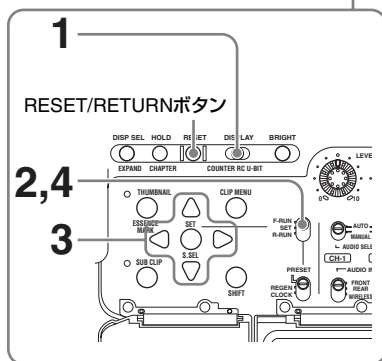
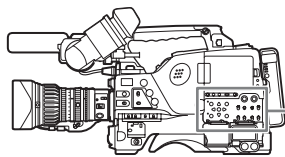
タイムコードに実時刻を入れるには

PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをCLOCKにすると、タイムコードに実時刻が入ります。実時刻の設定が必要な場合は、DIAGNOSISメニューのTIME/DATEページを使用します。

- ◆詳しくは、「内蔵時計の日付と時刻の設定」（49ページ）をご覧ください。

ユーザービットを設定する

ユーザービットを設定することにより、16進数8桁までのメモ（日付、時刻、シーン番号）などの情報をタイムコードトラックに記録することができます。



- 1 DISPLAYスイッチをU-BITにする。
- 2 F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにする。
ユーザービットの最上桁が点滅します。
- 3 上下矢印ボタンで数値を変更し、左右矢印ボタンで桁を移動して、すべての桁を設定する。
数値を00 00 00 00にリセットするにはRESET/RETURNボタンを押します。
- 4 希望の数値に設定した後、F-RUN/SET/R-RUNスイッチを希望のタイムコードの歩進モードに応じてF-RUNまたはR-RUNにする。

設定されたユーザービットは、LTCとVITCの両方に入ります。

ユーザービットのメモリー機能について

ユーザービットの設定内容（実時刻以外）は自動的にメモリーに記憶され、電源を切った後も保持されます。

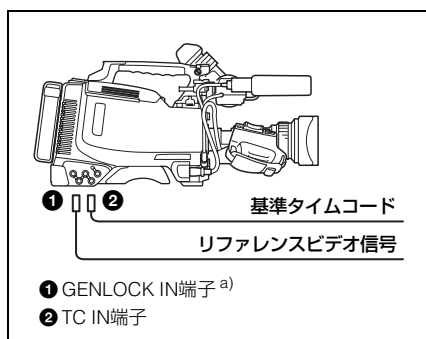
タイムコードを外部ロックさせる

本機の内部タイムコードジェネレーターを外部ジェネレーターにロックさせることができます。また、外部VTRのタイムコードジェネレーターを本機の内部ジェネレーターにロックさせることもできます。

接続例

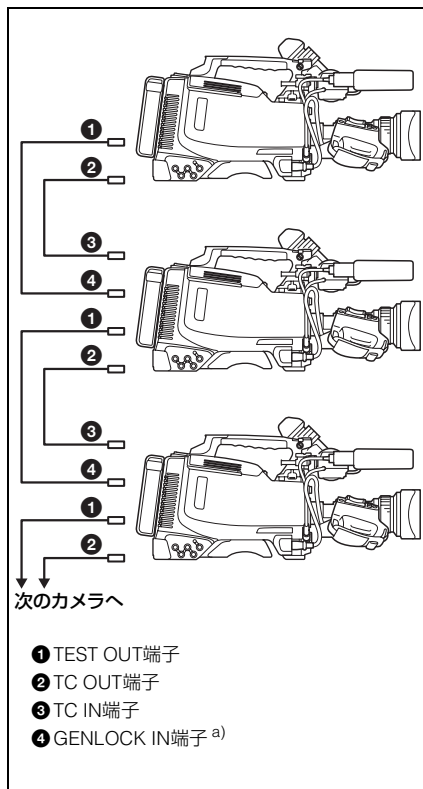
次図のように、リファレンスビデオ信号と基準タイムコードの両方を接続します。

例1：外部の信号にロックさせる場合



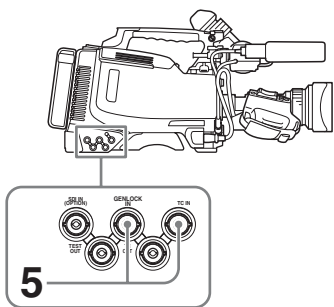
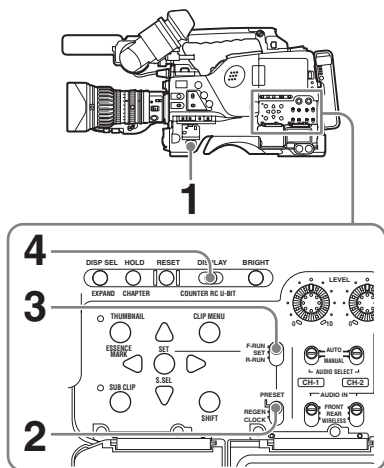
a) MAINTENANCEメニューのGENLOCKページでGENLOCKをOFFに設定している場合は、ONにしてください。

例2：本機を複数台接続し、1台をリファレンスとする場合



a) MAINTENANCEメニューのGENLOCKページでGENLOCKをOFFに設定している場合は、ONにしてください。

タイムコードを外部ロックさせるには



- 1 POWERスイッチをONにする。
- 2 PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをPRESETにする。
- 3 F-RUN/SET/R-RUNスイッチをF-RUNにする。
- 4 DISPLAYスイッチをTCにする。
- 5 SMPTEタイムコードの規格を満たした位相関係にある基準タイムコードとリファレンスビデオ信号を、TC IN端子とGENLOCK IN端子へそれぞれ入力する。

これで内部タイムコードジェネレーターは、基準タイムコードにロックします。ロックしてから約10秒経過した後は、外部からの基準タイムコードの接続を外しても、外部ロック状態は保たれます。ただし、記録中に接続したり外したりすると、記録される映像が乱れます。

ご注意

- 外部ロックの操作をすると、タイムコードは瞬時に外部のタイムコードにロックし、外部タイムコードの値と同じ値がカウンター表示部に表示されますが、シンクジェネレーターが安定するまでの数秒間は、記録を開始しないでください。
- リファレンスビデオ信号の周波数と本機のシステム周波数が一致しないと、正しくゲンロックできません。この場合、タイムコードも外部のタイムコードに正しくロックできません。
- MAINTENANCEメニューのGENLOCKページでGENLOCKをOFFに設定していると、リファレンスビデオ信号にゲンロックできません。この場合は、GENLOCKをONに設定してください。

外部ロック時のユーザービットの設定について

タイムコードの外部ロック時は、タイムデータのみが外部からのタイムコードのタイムデータにロックされます。したがって、ユーザービットは機器ごとに設定することができます。

MAINTENANCEメニューのTIMECODEページでEXT-LK UBITをEXTに設定すると、外部からのタイムコードのユーザービットにロックさせることができます。

外部ロックを解除するには

外部タイムコードの入力を停止してから、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをR-RUNに設定します。

外部ロック中に、電源をバッテリーパックから外部電源に切り換えるときタイムコードジェネレーターの電源の連続性を保つため、DC IN端子に外部電源をつないでから、バッテリーパックを外してください。バッテリーパックを先に外したと

きは、タイムコードの外部ロックの連続性は保証されません。

外部ロック中のカメラ部の外部ロックについて

外部ロック中、カメラ部はGENLOCK IN端子に入力されるリファレンスビデオ信号によってゲンロックがかかります。

ディスクの取り扱い

記録・再生が可能なディスク

本機では、以下のProfessional Disc¹⁾（プロフェッショナルディスク）での記録・再生が可能です。

- PFD23A（容量23.3GB）
- PFD50DLA（容量50.0GB）

1) Professional Discはソニー株式会社の商標です。

ご注意

- 以下のディスクを使って記録・再生することはできません。
 - Blu-ray Disc
 - Professional Disc for Data
- PFD50DLAは、DLマークの付いているXDCAM機器のみで使用できます（次図参照）。このマークの付いていないXDCAM機器では使用できません。



取り扱い上の注意

取り扱いかた

プロフェッショナルディスクはカートリッジに収納されているため、ほこりや指紋を気にせずに手軽に取り扱えるように設計されています。ただし、落下等により強い衝撃をカートリッジに与えると、破損、ディスクへの傷の原因となることもあります。傷などがつくと、録画できなくなったり、録画した内容を再生できなくなることがあ

りますので、取り扱いには充分注意し、大切に保管してください。

- カートリッジ内のディスクには直接触れないでください。
- 故意にシャッターを開けると破損の原因になります。
- カートリッジを分解しないでください。
- インデックスシールは付属のシールを推奨します。正しい位置にお貼りください。

保管のしかた

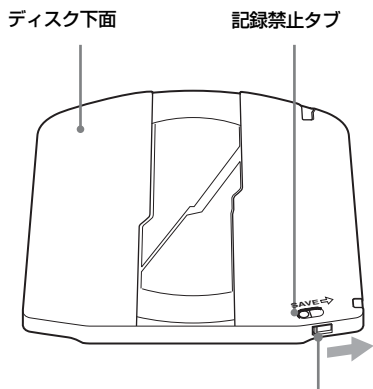
- 直接日光が当たるところなど、温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。
- カートリッジにほこりなどが入る可能性のあるところには放置しないでください。
- カートリッジはケースに入れて保存してください。

お手入れのしかた

- カートリッジ表面についたほこりやゴミは、乾いた布で軽くふき取ってください。
- 結露した場合は、充分乾いてからご使用ください。

誤消去を防止する

ディスクの記録内容を誤って消してしまうのを防ぐには、次図のようにディスク下面（ラベル面の裏側）にある記録禁止タブを矢印の方向に設定しておきます。



このつめを矢印の方向へスライドさせる

記録禁止タブの設定

SAVE →



記録可の状態

SAVE →



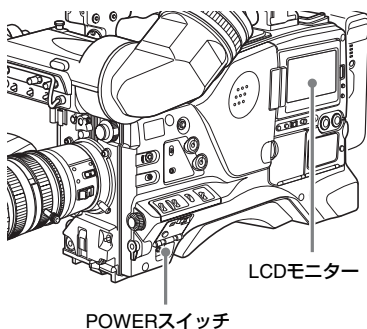
記録禁止の状態

- ◆クリップごとに削除を禁止することもできます。詳しくは、「クリップをロック（保護）する」（140ページ）をご覧ください。

ディスクを出し入れする

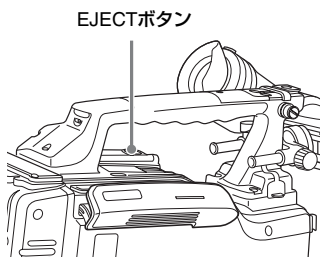
ディスクを入れるには

1 本機のPOWERスイッチをONにする。

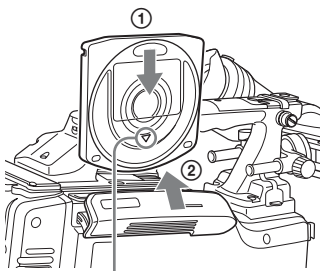


2 EJECTボタンを押す。

ふたが開きます。



3 ①ディスクを▼方向に挿入してから、②手でふたをきちんと閉める。



▼の側を外に向ける

ディスクが収納されます。

ご注意

ディスクを正しく入れるために、ディスクを入れる作業は取っ手を上側に立てた状態で行ってください。

ディスクを取り出すには

電源が入った状態でEJECTボタンを押します。

ふたが自動的に開き、ディスクが排出されたら、手で取り出します。

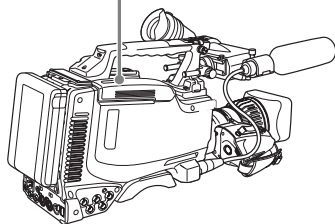
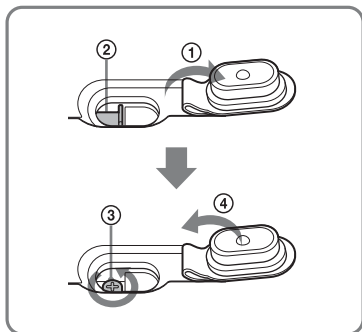
取り出した後すぐに再びディスクを入れない場合は、ふたを閉めておいてください。

電源が供給されない状態でディスクを取り出すには

バッテリー残量がなくなったときなどは、EJECTボタンを押してもディスクが取り出

せなくなります。このような場合は、緊急の処置として以下のように手動で取り出してください。

- 1 本機の電源を切る。
- 2 次図のように操作する。
 - ① ゴムキャップを開ける。
 - ② 中に見える金属板（黒）を、ドライバーなどで後面側に向かってスライドさせる。
ディスク挿入部のふたが開きます。
ゴムキャップの中に十字ネジ（赤）が見えます。
 - ③ 十字ネジにドライバーを差し込んで、反時計方向（ゴムキャップ上に記された方向）に回す。
ディスクが排出されます。
 - ④ ゴムキャップを確実に元どおりに閉める。



ディスクを取り出した後、ネジを元に戻す必要はありません。電源を入れることにより、再び通常どおり動作するようになります。

ご注意

ディスクが完全に排出されるまでは、ディスクに触れたり無理に取り出ししたりしないでください。

ディスクをフォーマットする

未使用のディスクの場合

未使用のディスクに記録する場合は、フォーマットの操作は不要です。本機にディスクを挿入すると、記録可能となるように自動的にフォーマットされます。

記録済みディスクの場合

◆ ディスクのフォーマットのしかたについて、詳しくは155ページをご覧ください。

ご注意

記録済みディスクをフォーマットすると、ディスクに記録されていたデータは消去されます。（ロックされているクリップ（140ページ参照）も消去されます。）

記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い（サルベージ機能）

記録中にバッテリーパックまたは電源コードを外したりすると、記録処理が正常に終了しません。その結果、ファイルシステムは更新されず、リアルタイムに記録されていたビデオ/オーディオデータはファイルとして認識されないため、そのときまでに記録したクリップの内容は失われます。

本機ではこのようなディスクを最小限の損失で復元する機能を備えており、これをサルベージ機能といいます。

なお、記録中にPOWERスイッチをOFFにした場合とバッテリーエンドを検出した場合は、記録処理を完了してからスタンバイ状態になるため、記録したクリップの内容は失われません。

ご注意

- 記録処理が終了し、ACCESSインジケータが消灯するまでは、バッテリーパックまたは電源コードを外したりしないでください。
- 本機能は、不慮の事故が発生した場合に、記録した素材をできるだけ救済するために搭載されていますが、復元を100%保証するものではありません。
- 本機能を実行しても、記録中断直前のデータは復元できません。データの消失量は以下のとおりです。
 - クイックサルベージ：記録中断直前の2～5秒間のデータ
 - フルサルベージ：記録中断直前の3～6秒間のデータ(本機に振動が加わっている場合、頻繁に記録と一時停止を繰り返した場合、およびピクチャーキャッシュ機能などを使用した場合は、さらに消失量が増えることがあります。)

クイックサルベージ

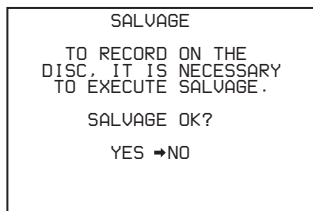
電源瞬断による記録中断が発生したとき、ディスクが入ったまま電源を再投入すると、不揮発性メモリーのバックアップデータとディスクに記録されているマーカーを元に自動的にクリップを復元します。処理時間は約5秒です。

フルサルベージ

電源瞬断による記録中断が発生した機器から、電源断のまま手動で取り出されたディスクを本機に挿入すると、ディスクに記録されているマーカーだけを元にクリップを復元します。したがって、クイックサルベージよりも処理に時間がかかります。(ディスクの状態によって異なりますが、30秒程度です。)
フルサルベージを行うには、以下のよう
操作します。

1 記録が正常終了していないディスクを挿入する。

以下のようなサルベージ画面が表示されます。



2 MENUつまみを回してマークをYESに移動し、MENUつまみを押す。

復元処理が始まり、「EXECUTING.」のメッセージが表示されます。

復元処理が終了すると、結果が表示されます。

- 成功した場合は、「COMPLETED.」と表示されます。
- 失敗した場合は、「INCOMPLETED.」と表示され、正常終了しなかったクリップは失われます。

クリップの復元処理を行わない場合

サルベージ画面でNOを選択すると、復元処理は行われません。

ただし、記録が正常に終了していない状態は保持されるため、ディスクの再挿入時または電源の再投入時にサルベージ画面が再度表示されます。

ご注意

- 復元処理を行わないと、正常に記録された部分を再生することはできませんが、新たに記録することはできません。
- 本機で記録したディスクをフルサルベージ処理できるのは、PDW-F1600/HD1500/F800/700/740/HR1です。これ以外のXDCAM機器で記録されたディスクは、フルサルベージを実行できません。記録が正常終了していないディスクを挿入して次のメッセージが現れたときは、表示されているコード「XXXX」に対応するXDCAM機器(次表参照)で当該ディスクのフルサルベージを実行してください。

SALVAGE
 DISC CANNOT BE
 RECORDED.
 FORMAT DISC OR CONTACT
 SERVICE TO RUN CLIP
 SALVAGE PROGRAM.
 (XXXX)
 PUSH ESCAPE SWITCH
 OR ROTARY ENCODER.

コード (XXXX)	機種名
0002	PDW-1500/530/510/R1 PDW-F70/F350/F330
0200	PDW-F70/F350/F330 (Ver. 1.9以上) PDW-F75/F355/F335
0300 ^{a)}	PDW-HD1500/HR1/700/ 740
0301 ^{a)}	PDW-HD1500/700/740 (Ver. 1.5以上) PDW-F1600/F800

a)本機では表示されません。

メッセージを消去して通常の操作に戻るには、使用可能なディスクに交換してから、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押すか、またはメニューつまみを押します。

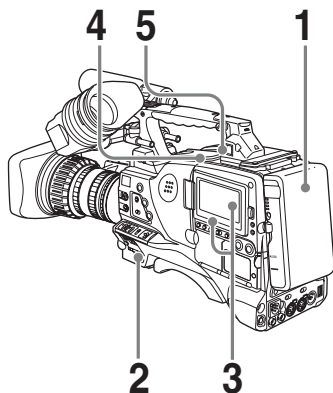
基本操作

ここでは、撮影・記録の基本操作手順を説明します。

実際に撮影に出発する際は、事前に点検を行って、カメラシステムが正常に機能することを確認してください。

◆点検のしかたについては、「撮影前の点検」(256ページ)をご覧ください。

電源の準備からディスクを入れるまで



- 1 充電済みのバッテリーパックを取り付ける。
◆詳しくは、「電源の準備」(44ページ)をご覧ください。
- 2 本機のPOWERスイッチをONにする。
- 3 DISP SEL/EXPANDボタンでLCDモニターをステータス表示に切り換えて、次のことを確認する。
 - バッテリー残量表示 (■) が5個以上点灯している。

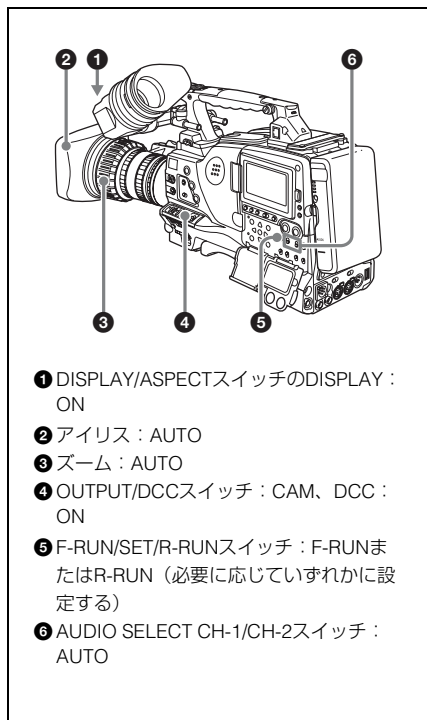
もし点灯していなければ、十分に充電したバッテリーと交換する。

- 4 ディスク挿入口の周辺にケーブルがないことを確認してから、EJECTボタンを押してふたを開ける。
- 5 ディスクが記録禁止（83ページ参照）の状態でないことを確認してからディスクを挿入し、ふたを閉める。

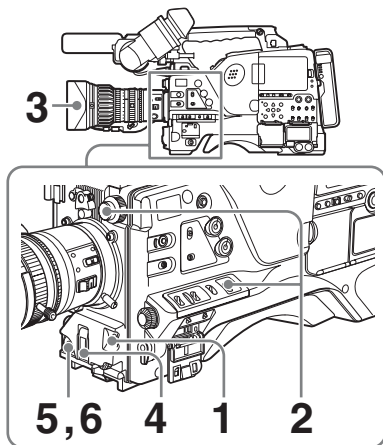
ブラックバランス/ホワイトバランスの調整から記録停止まで

スイッチの設定

電源を準備し、ディスクを入れた後、各スイッチを次のように設定してから操作を始めてください。



撮影するには



- 1 AUTO W/B BALスイッチを BLK側に押し、ブラックバランスを調整する。
◆調整のしかたについては、「ブラックバランスを調整する」（64ページ）をご覧ください。
- 2 照明条件に合わせてフィルターを選び、ホワイトバランスを調整する。
◆調整のしかたについては、「ホワイトバランスを調整する」（65ページ）をご覧ください。
- 3 カメラを被写体に向け、フォーカスとズームを調整する。
フォーカスアシスト機能（92ページ参照）を併用してフォーカス調整ができます。
- 4 電子シャッターを使用する場合は、適切なシャッターモード/スピードに設定する。
◆詳しくは、「電子シャッターの設定」（70ページ）をご覧ください。
- 5 REC STARTボタン、またはレンズのVTRボタンを押して記録を始める。
ASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、またはレンズのRETボ

タンにREC SWITCH機能が割り当てられている場合は、これらをREC STARTボタンとして使用することもできます。

◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

記録中は、ビューファインダー内のRECランプが点灯します。必要に応じて、ズームとフォーカスを操作してください。

ご注意

記録中（ACCESSランプの点灯中）は、絶対にバッテリーパックを取り外さないください。もし取り外すと、記録処理が正常に終了しないため、記録中断直前の数秒間のデータが失われるおそれがあります。

◆詳しくは、「記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い（サルベージ機能）」(85ページ)をご覧ください。

6 停止するには、もう一度REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押す。

ビューファインダー内のRECランプが消えます。

手順5と6の間に記録した画像が、1つのクリップとして記録されます。

最後の2秒間の記録内容を確認するには（レックレビュー）

レンズのRETボタンを押すと最後の約2秒間が再生されます。また、レンズのRETボタンを押したままにすると、記録終了位置の2秒前から低速逆方向再生サーチになり、ボタンを離すと、その位置から再生されます。再生後は再び記録開始待ちの状態になります。

ASSIGN 1/3/4スイッチまたはCOLOR TEMP.ボタンにLENS RET機能が割り当てられている場合は、これらをRETボタンとして使用することもできます。

◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

7 手順5と6を繰り返して、撮影を繰り返す。

ディスク上に順次クリップが作成されます。



ご注意

- 2秒以下のクリップを作成することはできません。たとえば記録を開始してから2秒以内に停止しても、2秒間は記録が継続します。また、記録を開始後すぐに停止し、最初の記録から2秒以内に再び記録を開始すると、最初の記録を含めた1つのクリップしか作成されません。
- 1枚のディスクに記録できるクリップ数は、最大300個です。クリップが300個記録されると、ディスクに空き容量があっても、「MAX # Clips」と表示され、記録できなくなります。

再生コントロールボタンの働きについて

記録中は、再生コントロールボタン（EJECT、F REV、F FWD、NEXT、PREV、PLAY/PAUSE、STOP）は働きません。

撮影したクリップを再生する

通常の再生をするには

PLAY/PAUSEボタンを押すと、ビューファインダーで白黒の再生画像を、LCDモニターでカラーの再生画像を、それぞれ見ることができます。このほか、再生画像を見る方法は次の2つがあります。

レックレビュー：記録された最後の約2秒間の内容を、白黒またはカラーの再生画像で見ることができます。

外部カラービデオモニターでの再生：カラーの再生画像を外部アダプターなしで見ることができます。

逆方向高速再生サーチ中や正方向高速再生サーチ中でも、再生画像を見ることができません。

◆再生時の音声出力の選択や音量の調整に使うスイッチやつまみ類については、23ページおよび31ページをご覧ください。

再生画像を静止画にするには

リモートコントロールユニットRM-B170からも、同様の操作ができます。

1 PLAY/PAUSEボタンを押して再生を開始する。

2 静止画にしたい箇所で、再度PLAY/PAUSEボタンを押す。

再生が停止し、静止画になります。表示窓内のタイムカウンターには、この静止画のタイムコードが表示されます。

PLAY/PAUSEランプは、点灯から点滅(1回/1秒)に変わります。

静止を解除して再生を続けるには
再度PLAY/PAUSEボタンを押します。

クリップの再生モード

クリップの再生モードは、次のいずれかに設定することができます。

連続再生モード：再生操作の対象はディスクに記録されているすべてのクリップ(工場出荷時の設定)

シングルクリップ再生モード：再生操作の対象は現在選択されているクリップのみ

シングルクリップ再生モードにするには

MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1ページでSINGLE CLIP MODEをONに設定します。

シングルクリップ再生モードの再生動作

再生、高速再生、逆高速再生によって、クリップの先頭または最後に到達すると停止します。前後にクリップが記録されていても、それらのクリップは再生されません。他のクリップに移動するには、PREV/NEXT/F REV+PREV/F FWD+NEXTボタンを押すか、またはサムネイルサーチを実行します。

ディスクの再生開始位置について

本機は光ディスクを使用しますが、VTRで使用するテープと同様な使い勝手が考慮されています。ディスクの再生開始位置は、以下のようにテープの場合と同じです。

停止後

STOPボタンを押した位置で停止します。PLAY/PAUSEボタンを押すと、停止した位置から再生を開始します。

記録後

記録を終了した位置で停止します。再生するには、PREVボタンを押して任意のクリップの先頭フレームに移動するか、またはF REVボタンを押して、任意の位置に移動してください。

ディスク挿入後

前回ディスクを取り出したときの位置で停止します。

PLAY/PAUSEボタンを押すと、前回ディスクを取り出したときの位置から再生を開始します。

再生位置はディスク取り出し時にディスクに保存されるため、他のXDCAM機器に挿入しても再生位置を再現することができます。

ご注意

記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されているディスクを挿入しているときは、再生位置は保存されません。

再生コンディションについて

再生コンディションの悪化の要因には、次のようなものがあります。

- ディスク表面の傷、および表面に付着した埃や汚れ
指紋などの皮脂、空気中の塵や埃、たばこのヤニなどによる汚れを含みます。記録前に付いた傷や汚れは欠陥としてディスクに登録され、登録された欠陥を避けて記録が行われるため、再生しても問題はありません。記録後に付いた傷や汚れは、再生コンディションを悪化させる場合があります。
- ディスクの記録膜の経年劣化
ディスクの記録膜が数十年の期間にわたって経年劣化し、再生コンディションを悪化させる場合があります。
- レーザーダイオードの劣化
オプティカルヘッドに使用しているレーザーダイオードが経年などにより劣化すると、再生コンディションを悪化させる場合があります。
- ◆ オプティカルヘッドの交換時期の目安について、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

再生コンディションを悪化させないためには

以下の点に注意してディスクを使用してください。

- ディスクカートリッジのシャッターを開けて、ディスクに直接手を触れない。
- 埃の多い場所や送風機の風が直接当たる場所に長期間置かない。
- 直射日光の当たる場所や高温になる場所で長期間保存しない。

再生コンディションが悪化したら

再生コンディションの悪化が進行すると、読み出しエラーが発生します。読み出しエラーが発生すると、「[DISC ERROR!]

と表示され、映像がフリーズし、音声はミュートされます。このような場合は、以下の項目を確認してください。

該当するディスクが他のXDCAM機器でも同様の再生コンディションになる場合：ディスク表面の傷や汚れ、またはディスクの記録膜の経年劣化が考えられます。このようなディスクは使用しないでください。

該当するXDCAM 機器にどのディスクを挿入しても同様の再生コンディションになる場合：レーザーダイオードの劣化が考えられます。オプティカルヘッドの累積光出力時間を確認してください。

撮影したクリップを削除する

- ◆ クリップの削除のしかたについて、詳しくは141ページをご覧ください。

フリーズミックス機能を使う

フリーズミックスは、撮影する映像に再生フリーズ画を重ねて表示する機能です。この機能を使うと、夏と冬に同じ風景を同じフレーミングで撮影したり、撮影を中断したときと同じフレーミングで撮影を再開することができます。

フリーズミックス機能を使うには、あらかじめASSIGN 1/3/4スイッチまたはCOLOR TEMP.ボタンにフリーズミックス機能を割り当てておく必要があります。

- ◆ 詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

- 1 フレーミングの基準にする映像が記録されたディスクを再生する。
- 2 目的の映像が表示されたら、PLAY/PAUSEボタンを押して一時停止状態にする。
- 3 フリーズミックス機能が割り当てられたボタンを押す。
再生画が白黒表示に変わり、撮影中の映像に重ねて表示されます。

基準の映像を変えるには

PLAY/PAUSEボタンやF REV/F FWDボタンなどを使用して別の映像を探し、再度手順2を実行します。

- 4 再生画と撮影映像のフレームを合わせる。
- 5 再度フリーズミックス機能が割り当てられたボタンを押す。
フリーズミックス機能が解除されます。
- 6 記録を開始する。

ご注意

ディスクを交換してから記録する場合は、本機を動かさないように注意してください。

フォーカスアシスト機能を使う

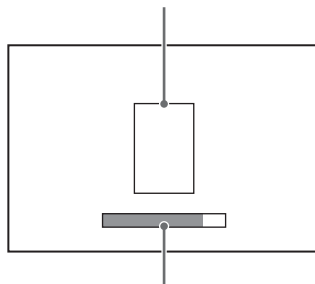
ビューファインダー画面上にフォーカスアシストインジケータを表示させると、フォーカシング操作が容易になります。ビューファインダーの映像だけではフォーカシングしづらい状況で役立ちます。

フォーカスアシストインジケータを表示するには

- 1 OPERATIONメニューのFOCUS ASSISTページを表示する。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 FOCUS ASSIST INDを選択し、MENUつまみを回してONを表示させる。
フォーカスアシストインジケータが表示されます。
- 3 必要に応じて、次の項目を設定する。
FOCUS IND POS：フォーカスアシストインジケータの表示位置をBOTTM(下)、LEFT(左)、TOP(上)、RIGHT(右)の中から選択する。

FOCUS AREA MARK：フォーカスの検出範囲枠をOFF(非表示)/ON(表示)する。

フォーカスの検出範囲枠



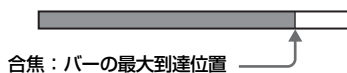
フォーカスアシストインジケータ

ご注意

- ゲイン値が18dB以上に設定されていると、フォーカスアシストインジケータは表示されません。
- フォーカスアシストインジケータを表示すると、OPERATIONメニューのMARKER 1ページで100% MARKERをONにして表示される有効画素エリアが表示されません。
- フォーカスの検出範囲枠を表示すると、OPERATIONメニューのMARKER 2ページでUser BoxをONにして表示されるボックスカーソルが表示されません。

フォーカスアシストインジケータの見かた

バーの最大到達位置が合焦位置です。バーが最大に振れるように、フォーカスリングを回して被写体のピントを合わせます。



ご注意

凹凸の少ない被写体や暗いシーンを撮影するときには、フォーカスアシストインジケータがほとんど変化しないことがあります。

応用操作

エッセンスマークを記録する

ショットマークをはじめとする各種のエッセンスマークをディスクに記録することができます。

映像/音声の重要なシーンにエッセンスマークを記録しておく、目的のシーンを容易に頭出しできるため、編集作業の効率化が可能です。

レンズのRETボタンを使用してショットマークを記録するには

以下の設定をすると、レンズのRETボタンを使用してショットマークを記録することができます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 MAINTENANCEメニューのESSENCE MARKページを表示する。

?M110	ESSENCE MARK	TOP
RET SHOT MARK 1	:	ON
RET SHOT MARK 2	:	ON
INDEX PIC POS	:	OSEC
FIND MODE	:	R.ST

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 ディスクに記録したいエッセンスマークを選択し、MENUつまみを押しONを表示させる。

3 必要に応じて、手順2を繰り返す。

ショットマーク1/2を記録するには

記録中または再生中に、レンズのRETボタンを次のように操作します。

ショットマーク1：1回押す

ショットマーク2：すばやく2回押す

ビューファインダー画面のタイムコード表示付近に「ShotMark1」または「ShotMark2」が約1秒間表示されます。

ASSIGN 1/3/4スイッチまたはCOLOR TEMP.ボタンにショットマーク1/2の記録が割り当てられている場合は、これらを使って記録することもできます。

◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

USB端子にWindows用USBキーボードを接続すると、0~9の数字キーを押すことにより各キーに対応したShot Mark0~Shot Mark9を記録することができます。

クリップフラグをスイッチで設定する

記録中、記録直後、または再生中のクリップに対して、3種類のクリップフラグ(OK/NG/KEEP)を設定することができます。各クリップにクリップフラグを設定しておくと、編集などを行うときに、必要なクリップを容易に選択できるようになります。クリップフラグをスイッチで設定するには、あらかじめASSIGN 1/3/4スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、またはレンズのRETボタンに、いずれかのクリップフラグ設定機能(CLIP FLAG OK/CLIP FLAG NG/CLIP FLAG KEEP)を割り当てておく必要があります(224ページ参照)。

設定するには

記録中、記録直後、またはクリップフラグを設定したいクリップの再生中(サーチ中、静止画状態を含む)に、クリップフラグ設定機能が割り当てられているボタンを1回押します。

ビューファインダー画面のタイムコード表示付近に約3秒間「*** ClipFlg」(*** : OK/NG/KEEP)と表示され、指定したクリップフラグが設定されます。

設定を解除するには

記録中またはクリップフラグが設定されているクリップの再生中に、クリップフラグ設定機能が割り当てられているボタンをすばやく2回押します。

約3秒間「ClipFlg DEL.」と表示され、設定が解除されます。

- ◆クリップフラグの設定および解除をGUI画面で行うこともできます。詳しくは、「クリップフラグを設定する」(140ページ)をご覧ください。

サムネイルを設定する

クリップをサムネイル表示(119ページ参照)するとき、どのフレームの画像をサムネイルにするかを設定します。

(工場出荷時はクリップの先頭フレームがサムネイルになるように設定されています。)たとえば、すべてのクリップの先頭フレームが同じ画像の場合、先頭から数秒後のフレームをサムネイルに指定することにより、クリップごとに異なるサムネイルを表示することができます。

(メニュー上での項目選択のしかた: MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

- 1 MAINTENANCEメニューの ESSENCE MARKページを表示する。
 - ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 INDEX PIC POSを選択し、MENUつまみを押す。
- 3 MENUつまみを回して希望の時間を表示させる。
- 4 MENUつまみを押す。

数秒前の映像から記録する(ピクチャーキャッシュ機能)

本機では、内蔵の大容量メモリーに、カメラで撮影している映像/音声データを常時数秒間(最大30秒間)分貯えておくことにより、REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押して記録を開始したとき、その数秒前からの映像を記録することができます。

ご注意

本機が次の状態のときは、ピクチャーキャッシュ機能の設定を行うことはできません。

- クリップコンティニユアスレック機能が有効なとき
- ライブロギング機能がライブビューモードに設定されているとき

ピクチャーキャッシュモード/ピクチャーキャッシュ時間の設定

ピクチャーキャッシュモードで記録を始めるには、あらかじめUSERメニューでピクチャーキャッシュモードおよびメモリーへの画像の蓄積時間(ピクチャーキャッシュ時間)を選択しておく必要があります。REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押して記録を始めたときに、ボタンを押した何秒前にさかのぼって記録できるかは、ピクチャーキャッシュ時間によって決まります。VDR SAVE/STBYスイッチを切り換えた直後や、次の「ご注意」に挙げるような特殊な場合では、さかのぼって記録できる時間が短くなる場合があります。

ご注意

- メモリーへの画像の蓄積は、ピクチャーキャッシュモードを選択してから開始されます。したがって、選択後すぐに記録を開始した場合は、ピクチャーキャッシュモード選択以前の映像は記録されません。
- 再生、レックレビュー、およびGUI画面表示を行っている間は、メモリーに映像を貯えないため、再生やレックレビューを行っていた間の映像をさかのぼって記録することはできません。

ピクチャーキャッシュモード/ピクチャーキャッシュ時間を設定するには
(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページを表示する。

0050REC FUNCTION	TOP
CACHE/INTVAL REC:	OFF
DISC EXCHG CACHE:	OFF
CLIP CONT REC :	OFF
LIVE LOGGING :	OFF

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 CACHE RECを選択し、MENUつまみを回してCACHEを表示させる。

3 CACHE REC TIMEを選択し、MENUつまみを回して希望のピクチャーキャッシュ時間を表示させる。

0-2 s ↔ 2-4s ↔ 4-6s ↔ 6-8s ↔ 8-10s ↔ 18-20s ↔ 28-30sと切り替わります。

一度選択したピクチャーキャッシュモードは、設定を変更するまで保持されます。ASSIGN 1/2/3/4スイッチ、COLOR TEMP. ボタン、またはレンズのRETボタンにピクチャーキャッシュモードのON/OFFを割り当てることもできます。

◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

ご注意

- 記録中もピクチャーキャッシュ時間のメニュー操作はできませんが、実際にカムコーダーのモードが変化するのは、記録が終了した後になります。
- ピクチャーキャッシュモードで動作中は、F-RUN/SET/R-RUNスイッチの設定に関わらず、F-RUNモードになります。

ピクチャーキャッシュモードで記録する場合の本機の動作について

記録の手順は通常とほぼ同じですが、カムコーダーの動作には通常と異なる点がありますので、以下の点に充分ご注意ください。

- ピクチャーキャッシュモードで動作中は、現在撮影している映像がディスクに記録されるのは、蓄積メモリーに蓄えられたピクチャーキャッシュ時間分のデータが記録された後になります。そのため、REC STARTボタンを押して記録を停止しても、しばらくディスクへのアクセスが停止しない場合があります。この間は、記録中と同様に、再生コントロールボタンは働きません。また、この間にREC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押すと、別クリップとして記録されます。
- ディスクへのアクセスが行われている間にREC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押して記録を開始した場合、実際に記録される映像の開始点が、設定されたピクチャーキャッシュ時間よりも遅くなる場合があります。記録クリップ数が多いほど遅くなるため、ピクチャーキャッシュモードでは、すばやい記録停止、記録開始操作はなるべく避けてください。
- 記録停止操作後にディスクへのアクセスが停止するまでの最大時間は、ピクチャーキャッシュ時間とほぼ同じです。ただし、ピクチャーキャッシュモードの選択やピクチャーキャッシュ時間の変更の設定を変えた直後、および再生やレックレビューを行った直後に、設定されたピクチャーキャッシュ時間内で記録を開始した場合は、蓄積メモリー上に設定時間分蓄えられないため、記録停止操作後にディスクへのアクセスが停止するまでの最大時間が、設定されたピクチャーキャッシュ時間よりも短くなります。
- ピクチャーキャッシュモードでは、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにしてタイムデータの設定を行うことはできません。タイムデータを設定する場合は、いった

んピクチャーキャッシュモードをOFFにしてください。

記録中に本機の電源が切れた場合

- 本機のPOWERスイッチを切った場合は、その瞬間の映像を記録するまで数秒間ディスクにアクセスしてから、自動的に電源が切れます。
- 記録中にバッテリーを取り外したり、DCケーブルを引き抜いたり、ACアダプター側の電源を切ったりした場合は、メモリーに蓄積されている映像/音声データが消滅するため、その瞬間までの映像は記録されません。バッテリー交換の際は、充分ご注意ください。

ご注意

本機が次の状態のときは、インターバルレック機能の設定を行うことはできません。

- ディスクエクステンジキャッシュ機能が有効なとき
- クリップコンティニュースレック機能が有効なとき
- ライブロギング機能がライブビューモードに設定されているとき

間欠的に映像を記録する（インターバルレック機能）

本機のメモリーを利用して間欠的に映像を取り込み、記録することができます（インターバルレック機能）。この機能には、次の2つの種類があります。

オートインターバルレック：撮影に要する時間（TAKE TOTAL TIME）とディスクに記録する時間（REC TIME）をあらかじめ設定することにより、1フレームずつ自動的に記録されます。

マニュアルインターバルレック：REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押すことにより、あらかじめ設定したフレーム数（NUMBER OF FRAME）が記録されます。ボタンを押すごとに記録されるモード（単発トリガーモード）と、ボタンを押した後、一定の間隔で繰り返し記録されるモード（連続トリガーモード）があります。

オートインターバルレックおよびマニュアルインターバルレックの連続トリガーモードでは、記録の前にライトを自動的に点灯させ、光量、色温度を安定させた状態で記録することもできます（プリライティング機能）。

記録中の動作制限

項目	内容
タイムコード	内蔵タイムコードジェネレータの歩進モードは、F-RUN/SET/R-RUNスイッチの設定に関わらず、R-RUNモードになります。
音声	記録されません。
再生コントロールボタン	<ul style="list-style-type: none"> オートインターバルレック/マニュアルインターバルレックの連続トリガーモード EJECT、F REV、F FWD、NEXT、PREV、PLAY/PAUSE、STOPは動きません。これらのボタンを使用するには、REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押して記録を中止してください。 マニュアルインターバルレックの単発トリガーモード F REV、F FWD、NEXT、PREV、PLAY/PAUSE、STOPは動きません。これらのボタンを使用するには、EJECTボタンを押してインターバルレックモードを終了してください。
メニュー操作	<p>OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでインターバルレック関連項目の設定は変更できません。変更するには、次のいずれかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> オートインターバルレック/マニュアルインターバルレックの連続トリガーモード REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押して記録を中止する。 マニュアルインターバルレックの単発トリガーモード EJECTボタンを押してインターバルレックモードを終了する。
本機の電源が切れた場合	<ul style="list-style-type: none"> 本機のPOWERスイッチをOFFにした場合は、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像を記録するため、ディスクにアクセスしてから、自動的に電源が切れます。 記録中にバッテリーを取り外したり、DCケーブルを引き抜いたり、ACアダプター側の電源を切ったりした場合は、その瞬間以前に撮影したショット（最大10秒）が記録されないことがあります。バッテリー交換の際は充分ご注意ください。

オートインターバルレックの設定と撮影

設定するには

- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページを表示する。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。
- CACHE/INTVAL RECを選択し、MENUつまみを回してA.INTを表示させる。

0050REC FUNCTION	TOP
→CACHE/INTVAL REC: ●	A.INT
TAKE TOTAL TIME :	5MIN
REC TIME :	5SEC
PRE-LIGHTING :	OFF
DISC EXCHG CACHE :	OFF
CLIP CONT REC :	OFF
LIVE LOGGING :	OFF

OFF ↔ CACHE ↔ A.INT ↔ M.INT
と切り替わります。

- TAKE TOTAL TIMEを選択し、MENUつまみを回して撮影に要する希望の時間を表示させる。
5MIN ↔ 10MIN ↔ 15MIN ↔ 20MIN
↔ 30MIN ↔ 40MIN ↔ 50MIN ↔
1H ↔ 2H ↔ 3H ↔ 4H ↔ 5H ↔
7H ↔ 10H ↔ 15H ↔ 20H ↔ 30H
↔ 40H ↔ 50H ↔ 70H ↔ 100Hと
切り替わります。
ここで、MINは分（5MIN：5分）、Hは
時間（1H：1時間）を意味します。
- REC TIMEを選択し、MENUつまみを回してディスクに記録する希望の時間を表示させる。
5SEC ↔ 10SEC ↔ 15SEC ↔
20SEC ↔ 30SEC ↔ 40SEC ↔
50SEC ↔ 1MIN... 85MINと切り替わ
ります。
ここで、SECは秒（5SEC：5秒）、MIN
は分（1MIN：1分）を意味します。

記録する時間（REC TIME）は撮影に要する時間（TAKE TOTAL TIME）の30分の1以上には設定できません。設定できる範囲内で設定値が切り替わります。例：TAKE TOTAL TIME=1Hの場合、REC TIMEは、60分÷30=2分が上限

5 必要に応じてPRE-LIGHTINGを選択し、MENUつまみを回して記録開始前のライト点灯時間を表示させる。OFF ↔ 2SEC ↔ 5SEC ↔ 10SECと切り替わります。

ご注意

ライトを記録前に点灯させる場合は、本機のLIGHTスイッチを「AUTO」に設定してください。ライトのスイッチもONしておく必要があります。このときライトが自動点灯/消灯します。ただし、消灯時間が5秒以下の場合、ライトは連続して点灯します。LIGHTスイッチを「MANUAL」に設定し、ライトのスイッチをONにすると、ライトは常時点灯します。（ライトは自動点灯/消灯しません。）

設定完了後、ビューファインダー画面下部に「AUTO INTERVAL ** M ** S」と表示されます。

「** M ** S」は撮影間隔を意味します。例：「AUTO INTERVAL 00M04S」と表示された場合、撮影間隔は4秒です。

本機の電源を切るとオートインターバルレックモードは解除されますが、TAKE TOTAL TIME、REC TIME、PRE-LIGHTINGの設定は保持されます。次回インターバルレックモードでの撮影時に再設定する必要はありません。

撮影するには

- 1 「基本操作」（87ページ）にしたがって、記録のための設定や準備を行った後、本機が動かないように固定する。
- 2 REC STARTボタン、またはレンズのVTRボタンを押す。
オートインターバルレックモードによる撮影が始まります。PRE-LIGHTING

機能を使用する場合は、ライトが点灯してから記録が始まります。

本機は、メモリーに約10秒間の映像を格納してから実際の記録動作に入るため、ディスクへのアクセスは間欠的になります。

オートインターバルレックモードでの撮影中は、ビューファインダー内のTALLY（グリーンタリー）ランプが点滅（4回/秒）し、ビューファインダー画面内で「AUTO INTERVAL ** M ** S」の表示が点滅します。

メモリーに映像を取り込むときは、ビューファインダー内のREC（記録・レッドタリー）ランプが点灯します。設定されたディスクに記録する時間（REC TIME）が過ぎると、本機は自動的に記録を終了します。

撮影を中止するには

REC STARTボタン、またはレンズのVTRボタンを押します。

本機は、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像を記録するため、ディスクにアクセスすることがあります。

続けて撮影するには

再度、REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押します。

オートインターバルレックモードを終了するには

次のいずれかを実行します。

- POWERスイッチをOFFにする。
- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでCACHE/INTVAL RECの設定をOFFにする。

撮影に要する時間とディスクに記録する時間について

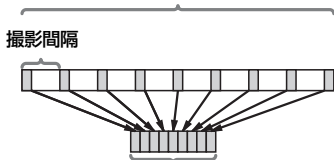
オートインターバルレックは、主に動きの少ない被写体を撮影するとき有効です。撮影時の条件を決めるために、撮影に要する時間（TAKE TOTAL TIME）とディスクに記録する時間（REC TIME）の2つを設定する必要があります。

撮影に要する時間とは、動きの少ない被写体の変化をとらえるために必要な時間で、

この間、本機は常時被写体をフレーミングしておく必要があります。

これに対し、ディスクに記録する時間は、収録をどれぐらいの長さに収めるかを示すものです。本機では、この2つの設定値をもとに撮影間隔（インターバル）を計算します。

撮影に要する時間（TAKE TOTAL TIME）



ディスクに記録する時間（REC TIME）

マニュアルインターバルレックの設定と撮影

マニュアルインターバルレックには、次の2つの動作モードがあります。

単発トリガーモード：REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押すごとに、設定されたフレーム数の映像が単発的にメモリーに取り込まれます。

連続トリガーモード：REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押すと、設定されたフレーム数の映像が、設定された時間間隔で繰り返し取り込まれます。

設定するには

- 1 OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページを表示する。
 - ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。
- 2 CACHE/INTVAL RECを選択し、MENUつまみを回してM.INTを表示させる。

0050REC FUNCTION	TOP
→CACHE/INTVAL REC: ● M. INT	
NUMBER OF FRAME: 1	
TRIGGER INTERVAL: M	
DISC EXCHG CACHE: OFF	
CLIP CONT REC: OFF	
LIVE LOGGING: OFF	

OFF ↔ CACHE ↔ A.INT ↔ M.INT と切り替わります。

M. INTを表示させると、本機はマニュアルインターバルレックモードになり、ビューファインダー内のTALLY（グリーンタリー）ランプが点滅します。

- 3 NUMBER OF FRAMEを選択し、MENUつまみを回して1回に記録する希望のフレーム数を表示させる。

1 ↔ 3 ↔ 6と切り替わります。

- 4 TRIGGER INTERVALを選択し、MENUつまみを回して希望のトリガーモードまたはトリガー間隔を表示させる。

M ↔ 1SEC ↔ 2SEC ↔ 3SEC ↔ 4SEC ↔ 5SEC ↔ 6SEC ↔ 7SEC ↔ 8SEC ↔ 9SEC ↔ 10SEC ↔ 15SEC ↔ 20SEC ↔ 30SEC ↔ 40SEC ↔ 50SEC ↔ 1MIN ↔ 2MIN ↔ 3MIN ↔ 4MIN ↔ 5MIN ↔ 6MIN ↔ 7MIN ↔ 8MIN ↔ 9MIN ↔ 10MIN ↔ 15MIN ↔ 20MIN ↔ 30MIN ↔ 40MIN ↔ 50MIN ↔ 1H ↔ 2H ↔ 3H ↔ 4H ↔ 6H ↔ 12H ↔ 24Hと切り替わります。

ここで、SECは秒（5SEC：5秒）、MINは分（1MIN：1分）を意味します。

M：1回の操作ごとに記録する「単発トリガーモード」。ビューファインダー内のTALLY(グリーンタリー)ランプが2回/秒で点滅します。

「M」以外の設定値：1回の操作で記録と停止を繰り返す「連続トリガーモード」。ビューファインダー内のTALLY(グリーンタリー)ランプが4回/秒で点滅します。

5 手順4で「M」以外の設定値（連続トリガーモード）を選択したときは、必要に応じてPRE-LIGHTINGを選択し、MENUつまみを回して記録開始前のライト点灯時間を表示させる。OFF ↔ 2SEC ↔ 5SEC ↔ 10SECと切り替わります。

ご注意

ライトを記録前に点灯させる場合は、本機のLIGHTスイッチを「AUTO」に設定してください。ライトのスイッチもONにしておく必要があります。このときライトが自動点灯/消灯します。ただし、消灯時間が5秒以下の場合、ライトは連続して点灯します。LIGHTスイッチを「MANUAL」に設定し、ライトのスイッチをONにすると、ライトは常時点灯します。（ライトは自動点灯/消灯しません。）

設定完了後、ビューファインダー画面下部に次のように表示されます。

単発トリガーモード：MANU INTERVAL * FRAME

連続トリガーモード：INTERVAL * SEC (MIN/H) * FRAME

「* SEC」、「* MIN」、「* H」はトリガー間隔を、「* FRAME」はフレーム数をそれぞれ意味します。

本機の電源を切るとマニュアルインターバルレックモードは解除されますが、NUMBER OF FRAME、TRIGGER INTERVAL、PRE-LIGHTINGの設定は保持されます。次回インターバルレックモードでの撮影時に再設定する必要はありません。

撮影するには

1 「基本操作」(87ページ)にしたがって、記録のための設定や準備を行った後、本機が動かないように固定する。

2 REC STARTボタン、またはレンズのVTRボタンを押す。
マニュアルインターバルレックモードによる撮影が始まります。PRE-

LIGHTING機能を使用する場合は、ライトが点灯してから記録が始まります。マニュアルインターバルレックモードでの撮影中は、ビューファインダー内のTALLY（グリーンタリー）ランプが点滅（2または4回/秒）し、ビューファインダー画面内で「MANU INTERVAL (* SEC) * FRAME」の表示が点滅します。

撮影を終了するには

次のいずれかを実行します。

- 単発トリガーモードの場合は、EJECTボタンを押す。
- 連続トリガーモードの場合は、記録停止の操作を行う（REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押す）。
- POWERスイッチをOFFにする。

終了すると、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像がディスクに記録されます。

マニュアルインターバルレックモードを終了するには

次のいずれかを実行します。

- POWERスイッチをOFFにする。
- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでCACHE/INTVAL RECの設定をOFFにする。

記録を継続しながらディスクを交換する（ディスクエクスチェンジキャッシュ機能）

撮影中にディスクの空き容量がなくなったとき、本機内蔵の大容量メモリーを利用して、記録状態を継続したままディスクを交換することができます（ディスクエクスチェンジキャッシュ機能）。1枚のディスクに収録できない長時間の撮影において、シームレスな撮影を可能にします。

ご注意

- 本機が次の状態のときは、ディスクエクスチェンジキャッシュ機能の設定を行うことはできません。
 - インターバルレック機能が有効なとき

- クリップコンティニュースレック機能が有効なとき
 - ライブロギング機能がライブビューモードに設定されているとき
- ディスクの交換に時間がかかると、メモリー容量の制限により、交換中の映像/音声は途切れることがあります。

設定するには

- 1 OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページを表示する。
 - ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 DISC EXCHG CACHEを選択し、MENUつまみを回してONを表示させる。

ビューファインダー内のTALLY (グリーンタリー) ランプが点灯します。

機能を有効にしてディスクを交換するには

以下の手順でディスクを交換することによってディスクエクステンジキャッシュ機能が有効になり、記録を継続することができます。

- 1 REC STARTボタン、またはレンズのVTRボタンを押して記録を開始する。

ビューファインダー内のREC (記録・レッドタリー) ランプ、およびタリーランプが点灯します。
- 2 記録状態のままEJECTボタンを押す。

ビューファインダー内のREC (記録・レッドタリー) ランプ、およびタリーランプが点滅 (1回/秒) し、ディスクが排出されます。

ディスク容量を使い切り「DISC FULL!」と表示されたときは

映像/音声は内蔵メモリーに保存され続けるため、記録を継続することができます。

ます。EJECTボタンを押して手順3に進んでください。

ご注意

EJECTボタンを押す前に記録を停止しないでください。記録を停止すると内蔵メモリーに映像/音声は保存されないため、機能が動きません。

3 すばやくディスクを取り出し、フォーマット済みのブランクディスクを挿入してふたを閉める。

ディスクが収納されると、ビューファインダー内のREC (記録・レッドタリー) ランプ、およびタリーランプが点灯に変わり、記録が継続されます。

ディスク交換中にRECランプおよびタリーランプの点滅が早くなったときは各ランプが2回/秒の点滅に変わったときは、内蔵メモリーの容量が残り少なくなったことを示しています。速やかにディスクを交換してください。

ご注意

- 記録できないディスク (空き容量のないディスクや記録禁止タブが記録禁止に設定されているディスクなど) を挿入した場合、本機はこれらのディスクを認識後、直ちに排出します。
- 未使用 (未フォーマット) のディスクや多数のクリップが記録されたディスクを使用すると、ディスクを挿入してもすぐに記録が始まらず、交換中の映像/音声は途切れることがあります。

クリップコンティニュースレック機能を使って記録する

通常は記録開始、停止のたびに1つのクリップが独立したファイルとして生成されますが、本機能を使用すると、記録と停止を繰り返しても、機能が停止または解除されるまで連続した1つのクリップが生成されません。短いクリップを数多く生成したくないとき、または記録できるクリップ数の上限 (300個) を意識しないで記録したいときに便利な機能です。記録の開始点にはRec

Startエッセンスマークが記録されるため、記録開始位置の検索も容易です。

1 OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページを表示する。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 CLIP CONT RECを選択し、MENUつまみを回してONを表示させる。

ビューファインダーに「CONT」と表示され、機能が有効になります。

ASSIGN 1/2/3/4スイッチ、COLOR TEMP. ボタン、またはレンズのRETボタンにクリップコンティニューアスレック機能のON/OFFを割り当てることもできます。

- ◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

ご注意

本機が次の状態のときは、クリップコンティニューアスレック機能の設定を行うことはできません。

- ピクチャーキャッシュ機能が有効なとき
- インターバルレック機能が有効なとき
- ディスクエクスチェンジキャッシュ機能が有効なとき
- ライブロギング機能がライブビューモードに設定されているとき

機能を停止するには

機能が有効なとき、以下の操作を実行すると本機能が停止します。(次に記録を実行すると、新たなクリップが生成されます。)

- クリップ操作 (クリップのロック、削除、または名前の変更)
- ネットワーク接続
- ディスクの取り出し
- 記録フォーマットの変更
- 電源のオフ

機能を解除するには

OPERATIONメニューのREC FUNCTION ページでCLIP CONT RECをOFFにします。

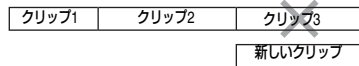
直前のクリップを撮り直す (リテイク機能)

直前に記録したクリップを簡単な操作で消し、撮り直すことができます。これをリテイク機能と呼びます。

リテイク機能を使うには、あらかじめASSIGN 1/3/4スイッチまたはCOLOR TEMP. ボタンにリテイク機能を割り当てておく必要があります。

- ◆詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」(224ページ)をご覧ください。

例：クリップ3を記録した後、これをディスクに残さず、クリップ2の次に新たにクリップ3を撮り直す場合



リテイク操作を行うには

記録一時停止またはレックレビュー (89ページ参照) 終了後の状態で、以下のよう
に操作します。

1 リテイク機能を割り当てたボタンを押す。

押ししている間は、最後に記録したクリップの最終画像と以下のようなメッセージが表示されます。
「PUSH RET FOR CLIP DELETE」

2 その状態のままRETボタンを押す。

「DELETING LAST CLIP」と表示され、最後に撮影したクリップが削除されます。
削除が完了すると、「LAST CLIP WAS DELETED」と表示されます。

ご注意

- クリップコンティニューアスレック機能が有効なとき、リテイク機能は使用できません。
- 記録終了後にレックレビューを除く他の操作を行うと、記録一時停止状態でもリテイク機能は使用できません。

この場合、「RE-TAKE NOT ALLOWED!」と表示されます。他の操作後に撮り直しを行う場合は、該当するクリップを削除してください(141ページ参照)。

リテイクの操作を行うと、その後に記録操作を行わなくても、その時点で最後に撮影したクリップは削除されます。

記録時にクリップに自動でタイトルを付ける

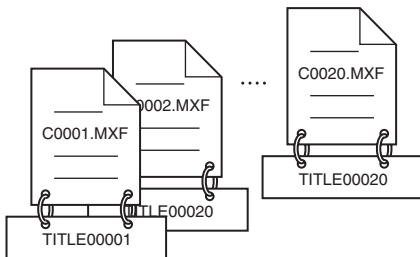
クリップタイトル自動生成機能について

クリップにはディスクごとに名前(C0001.MXF~C9999.MXF)が付けられるため、複数のディスク間で同じ名前を持つクリップが存在することになります。

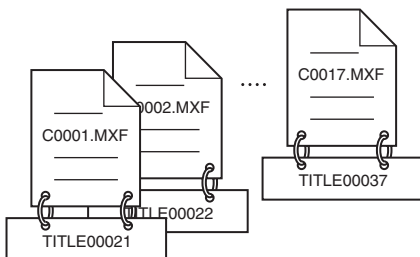
タイトルの自動生成機能を使用すると、複数のディスクに記録される各クリップに任意のタイトルを付けることができ、クリップの管理が容易になります。

たとえば、ディスク1に記録したC0001.MXF~C0020.MXFのクリップにTITLE00001~TITLE00020というタイトルを付けるように設定した場合、続けて記録したディスク2のC0001.MXF~C0017.MXFのクリップには、自動的にTITLE00021~TITLE00037というタイトルが付けられます。

タイトル名は、「TITLE00001」のように、文字列(最大10桁)と数字列(5桁)で構成されます。



ディスク1に記録されたクリップ



ディスク2に記録されたクリップ

文字列の設定

内部メモリーに保存されているリストから選択する方法と、直接入力する方法があります。

ただし、リストから選択するためには、あらかじめコンピューターで文字列のリストを作成し、このリストをUSBメモリーで本体内部メモリーに転送しておく必要があります。

数字列の開始番号の設定

開始番号を「00001」(デフォルト値)または任意に設定できます。その値から、1クリップ記録することに自動で1ずつ増加して生成され、「99999」の次は「00001」に戻ります。

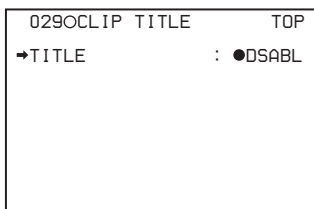
ご注意

いくつかのクリップを記録したあとで数字列の設定値を元に戻した場合や設定値によっては、すでに生成されたタイトルと重複したタイトルが生成されます。数字列の設定の際にはご注意ください。

記録時にクリップタイトルが自動生成されるように設定するには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

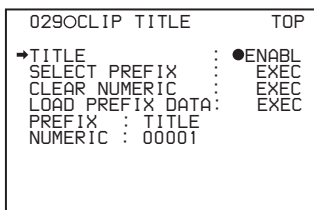
1 OPERATIONメニューのCLIP TITLEページを表示する。



◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 「TITLE」を選択し、MENUつまみを押す。

3 MENUつまみを回して「ENABL」を表示させ、MENUつまみを押す。



この状態で記録を行うと、クリップタイトルが自動生成されます。
「PREFIX」の欄の文字列と
「NUMERIC」の欄の数字列が、次に記録するクリップのタイトルになります。

タイトル名(文字列)のリストを作成するには

あらかじめ、以下のルールにしたがってデータを作成しておきます。

ファイル名

「TITLES.TXT」とします。

入力形式

タイトル名を1項目ずつ記入し、<改行>で区切ります。

1項目で使用できる文字数は10文字まで、項目数は20項目までです。

使用できる文字

- 数字：0～9
- アルファベット：a～z、A～Z
- 以下の記号：!、#、\$、%、&、'、(、)、~、=、-、^、@、[、]、{、}、+、; (セミコロン)、, (カンマ)、. (ピリオド)、_ (アンダーバー)
- スペース

リスト作成例

Tennis<改行>

Basketball<改行>

Skiing_1<改行>

Skiing_2<改行>

タイトル名(文字列)のリストを本体内部メモリーに転送するには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 USBメモリーに以下のディレクトリーを作成し、あらかじめ作成したファイル(TITLES.TXT)をコピーする。 ¥MSSONY ¥PRO ¥XDCAM ¥GENERAL ¥VAL_LIST

2 作成したファイル(TITLES.TXT)が保存されたUSBメモリーを本体に接続する。

3 OPERATIONメニューのCLIP TITLEページ(181ページ参照)で「LOAD PREFIX DATA」を選択し、MENUつまみを押す。

「USB MEMORY ACCESS」と表示され、USBメモリー内のファイル

(TITLES.TXT)が本体の内部メモリーに転送されます。

転送が終了すると、「COMPLETE!」と表示されます。

ご注意

タイトル名(文字列)のリストが検出されない場合は、「FILE NOT FOUND!」と表示されません。

USBメモリー内のファイルの保存場所などを確認してください。

タイトル名(文字列)のリストから文字列を選択するには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのCLIP TITLEページを表示する。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 「SELECT PREFIX」を選択し、MENUつまみを押す。

最大20個のタイトルが表示されます。

?P00	TITLE	PREFIX	ESC
001:	Tennis		
002:	Basketball		
003:	Skiings_1		
004:	Skiings_2		
005:	Athletics		
006:	Aquatics		
007:	Cycling		
008:	Softball		
009:	Fencing		
➡010:	Sailing		●

ご注意

本体内部メモリーにタイトル名(文字列)のリストが転送されていない場合は、初期値の「TITLE」のみが表示されます。

3 リストの中から希望の文字列を選択し、MENUつまみを押す。

CLIP TITLEページに戻り、選択された文字列が「PREFIX」の欄に表示されません。

タイトル名(文字列)を直接入力するには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのCLIP TITLEページを表示する。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 「PREFIX」を選択し、MENUつまみを押す。

選択文字群が現れます。

029	CLIP TITLE	TOP
TITLE	:	ENABL
SELECT PREFIX	:	EXEC
CLEAR NUMERIC	:	EXEC
LOAD PREFIX DATA	:	EXEC
PREFIX	:	TITLE
!#\$%&'()*+,-.0123456789;		
=@ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ		
^_`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{~		
INS DEL RET		ESC END

3 変更したい文字の上に■マークを移動し、MENUつまみを押す。

4 MENUつまみを回して、文字選択群上で■マークを移動し、目的の文字上でMENUつまみを押す。

5 手順3と4を繰り返して残りの文字を入力する。

6 文字の入力が終了したら、MENUつまみを回して■マークをENDに合わせ、MENUつまみを押す。

文字入力モードが終了し、CLIP TITLEページに戻ります。

タイトル名(数字列)の開始番号を設定するには

「00001」(デフォルト値)または任意の数字(5桁)を開始番号に設定することができます。

開始番号を「00001」に戻すには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのCLIP TITLEページを表示する。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

- 2 「CLEAR NUMERIC」を選択し、MENUつまみを押す。
「CLEAR OK? →YES NO」のメッセージが表示されます。
- 3 「YES」を選択し、MENUつまみを押す。
NUMERICの値が「00001」(デフォルト値)に戻ります。

開始番号を任意の値に設定するには
(メニュー上での項目選択のしかた: MENUつまみを回して→を項目に合わせる。)

- 1 OPERATIONメニューのCLIP TITLEページを表示する。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

- 2 「NUMERIC」を選択し、MENUつまみを押す。
- 3 変更したい数字の上に■マークを移動し、MENUつまみを押す。
- 4 MENUつまみを回して、数字選択群上で■マークを移動し、目的の数字上でMENUつまみを押す。
- 5 手順3と4を繰り返して残りの数字を入力する。
- 6 数字の入力が終わったら、MENUつまみを回して■マークをENDに合わせ、MENUつまみを押す。
数字入力モードが終了し、CLIP TITLEページに戻ります。

記録したクリップのタイトルを確認するには

THUMBNAILボタンを押してサムネイル画面を表示し、タイトルを確認したいクリップを選択します。
画面の左上に選択したクリップのタイトルが表示されます。

- ◆詳しくは、「クリップサムネイル画面」(121ページ)をご覧ください。

ご注意

- 開始番号に「00000」を設定することはできません。「00000」を入力しても、数字入力モードが終了すると「00001」になります。
- 数字列の数値は、タイトルが生成されることに自動的にカウントアップしていき、99999に達すると、次は00001から始まります。
- いくつかのクリップを記録した後で数字列の設定値を元に戻した場合や設定値によっては、すでに生成されたタイトルと重複したタイトルが生成されます。数字列の設定の際にはご注意ください。

クリップおよびクリップリストに任意の名前を付ける

XDCAM機器でクリップやクリップリストを記録・作成すると、自動的に次のような標準形式の名前が付けられます。

クリップ: C0001.MXF~C9999.MXF

クリップリスト: E0001E01.SMI~E0099E01.SMI

クリップやクリップリストの記録・作成時に、標準形式ではない、任意の名前を付けることができます。クリップやクリップリストにそれらの内容がわかるような名前を付けておくと、ファイルとして管理する場合に便利です。

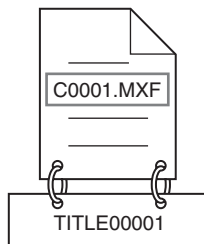
制限事項

- Unicode 2.0の文字セットの数字、文字、記号が使用できます
ただし、以下の制御文字と記号は使用できません。
- 制御文字: U+0000~U+001F、U+007F
- 記号: ", *, /, :, <, >, ?, \, |
- 付けられる名前(「C*」の部分)の長さ
は、文字種によっては14文字に制限されることがあります。(通常の漢字であれば18文字まで、ASCII文字であれば56文字までとなります。)
- ファイル名の拡張子は、すべて大文字に変換されます。

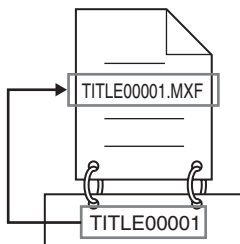
- 本機で名前を付ける場合は、タイトル名がクリップの名前になります。したがって、使用できる文字はタイトル機能の制約を受けます。
- クリップやクリップリストに伴って生成されるファイルにも同じ名前が付けられます（以下のファイル名の「C*」または「E*」の部分）。
 - クリップ：メタデータファイル（C*M01.XML）、ユーザーメタデータファイル（C*M02.KLV）、プロキシA Vデータファイル（C*S01.MXF）
 - クリップリスト：メタデータファイル（E*M01.XML）
- 以下の名前は付けることができません。
 - クリップ：C0000.MXF
 - クリップリスト：E0000E01.SMI、E0100E01.SMI～E9999E01.SMI、E0000.SMI、E0100.SMI～E9999.SMI
- 以下の名前は使用しないことをおすすめします。
 - クリップ：C5000.MXF～C9999.MXF
 - クリップリスト：E0001.SMI～E0099.SMI

クリップに付ける名前を本機で設定するには

クリップに付けたタイトルがクリップの名前（ファイル名）になります。



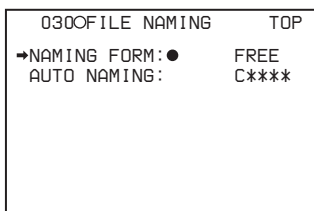
AUTO NAMINGを「C****」に設定したとき



AUTO NAMINGを「TITLE」に設定したとき

（メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。）

- 1 あらかじめOPERATIONメニューのCLIP TITLEページでTITLEをENABLEに設定し、タイトルを設定しておく（104ページ参照）。
 - ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。
- 2 OPERATIONメニューのFILE NAMINGページを表示する。
- 3 「NAMING FORM」を選択し、MENUつまみを押す。
- 4 MENUつまみを回して「FREE」を表示させ、MENUつまみを押す。任意形式の名前の付与が可能になります。



5 MENUつまみを回して「AUTO NAMING」を選択し、MENUつまみを押す。

6 MENUつまみを回して「TITLE」を表示させ、MENUつまみを押す。

新たに記録するクリップにタイトルと同じ名前が付けられます。

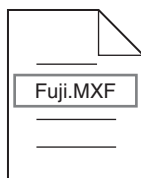
ご注意

- ファイル名にASCII文字以外のUnicode文字を使用する場合は、UTF-8に対応したFTPクライアントソフトウェアが必要です。コマンドプロンプトのFTPコマンドはUTF-8に対応していません。
- CLIP AUTO TITLINGで設定したタイトル文字列の先頭部分がスペースまたはピリオド(.)の場合は、この部分を除いた文字列がファイル名になります。

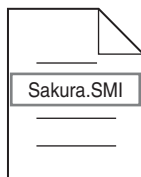
FTP経由でクリップ名やクリップリスト名を使用するには

「クリップに付ける名前を本機で設定するには」(107ページ)の手順2~4を実行します。

任意の名前を付けたクリップ/クリップリストの書き込み/転送や名前の変更が、FTP接続(248ページ参照)の操作で可能になります。



FTP経由で任意のクリップ名の使用が可能



FTP経由で任意のクリップリスト名の使用が可能

クリップ名を確認するには

THUMBNAILボタンを押してサムネイル画面を表示し、名前を確認したいクリップを選択します。

画面の左上に、選択したクリップの名前が表示されます。

◆詳しくは、「クリップサムネイル画面」(121ページ)をご覧ください。

ご注意

画面左上の項目は、次のような優先順位にしたがって表示されます。

タイトル>任意形式のクリップ名>標準形式のクリップ名

したがって、タイトルの有無によって表示項目が以下のように変わります。

- 本機でクリップ名としてタイトルを設定した場合、本機で記録されたクリップは、タイトルが表示されます。
- タイトルを持たない任意名または標準名のクリップは、そのクリップ名が表示されます。

クリップの情報(名前、タイトルなど)を確認するには

◆詳しくは、「クリップ情報を確認する」(137ページ)をご覧ください。

プランニングメタデータを使う

プランニングメタデータとは、撮影・記録する計画情報が記述されているメタデータファイルです。

プランニングメタデータを使うには、撮影前にプランニングメタデータファイルを本機のメモリーに読み込んでおく必要があります。

ファイルの読み込み方には、次の3通りがあります。

- FTP経由でプロフェッショナルディスクの下記ディレクトリーに書き込まれたファイルを、自動的に読み込む。
ファイルを自動的に読み込ませたくない場合は、PlanningMetadataタグに「false」を指定したload属性（記述例の網掛け部分）を追記してください。
記述例： <PlanningMetadata ...
`sp load="false" sp version="1.00">`
- プロフェッショナルディスクまたはUSBメモリーの下記ディレクトリーに書き込まれたファイルを、GUI画面の操作によって読み込む（152ページ参照）。
- ウェブブラウザを使用してプランニングメタデータを読み込む（157ページ参照）。

ファイルの作成ルール

ファイルの保存場所	ファイル名
プロフェッショナルディスク：General/Sony/Planningディレクトリー ^{a)}	<ul style="list-style-type: none"> Generalディレクトリーで使用可能な形式（247ページ参照） 拡張子：XML
USBメモリー：General/Sony/Planningディレクトリー	<ul style="list-style-type: none"> ASCII文字（拡張子を含めて最大63文字） 拡張子：XML

a) ディスクをフォーマットすると、General/Sony/Planningディレクトリーが自動的に生成されます。

ご注意

前記の保存場所に100個以上のプランニングメタデータファイルを保存しないでください。100個以上保存すると、ファイルを正しく読み込めないことがあります。

- ◆ Wi-Fiアダプター CBK-WA01（別売）に付属のアプリケーションソフトウェアSony Planning Metadata Add-inを使用すると、プランニングメタデータに関する操作が可能になります。詳しくは、Wi-FiアダプターCBK-WA01（別売）の取扱説明書をご覧ください。

プランニングメタデータを利用してクリップ名を設定するには

プランニングメタデータには、次の2種類のクリップ名文字列を記述することができます。

- ビューファインダー画面上に表示されるASCII形式の名称¹⁾
- 実際にクリップ名として登録されるUTF-8形式の名称²⁾

- 1) UTF-8形式のクリップ名を表示したり、クリップ名を表示しないこともできます（154ページ参照）。
- 2) UTF-8形式のクリップ名文字列が省略された場合は、ASCII形式のクリップ名文字列が実際のクリップ名として登録されます。

クリップ名文字列の記述形式

テキストエディターを使用して、<Title>タグの内容（「クリップ名文字列の記述例」の網掛け部分）を変更します。

前者はASCII形式（50文字以下）、後者はUTF-8形式（50バイト以下）で記述します。

クリップ名文字列の記述例

```
<?xml_sp version="1.0" _sp encoding="UTF-8"?>←
<PlanningMetadata_sp xmlns="http://
xmlns.sony.net/pro/metadata/
planningmetadata" _sp assignId="
P0001" _sp creationDate="
2008-01-20T17:00:00+09:00" _sp
lastUpdate="
2008-03-28T10:30:00+09:00" _sp
version="1.00">←
```

```
<Properties_sppropertyId="
assignment" _spupdate="
2008-01-20T09:00:00+09:00" _sp
modifiedBy="Chris">←
<Title_spusAscii="Typhoon" _sp
xml:lang="ja">台風東京上陸
</Title>←
</Properties>←
</PlanningMetadata>←
```

ここで、`_sp`はスペース、`←`は改行を意味します。

ご注意

- 実際にファイルを作成する場合は、改行位置でのみ改行し、指定なきスペースは入れずに1つの文として記述してください。
- UTF-8形式の文字列が50バイトを超えると、ASCII形式の文字列がクリップ名文字列として使用されます。ASCII形式が記述されていない場合は、標準名となります。ASCII形式の文字列が50文字を超え、UTF-8形式の文字列も50バイトを超えるとクリップ名は、標準形式となります。

クリップ名の設定

- 1 クリップ名を記述したプランニングメタデータファイルを本機のメモリーに読み込む (152 ページ、157 ページ参照)。
- 2 「クリップに付ける名前を本機で設定するには」(107ページ)の手順2～5を実行する。
- 3 MENUつまみを回して「PLAN」を表示させ、MENUつまみを押す。記録を行うたびに、プランニングメタデータファイルに記述したクリップ名が、アンダーバー () と5桁の通し番号 (00001～99999) が付加された形式で自動生成されます。

クリップ名の生成例

- ビューファインダーに表示されるクリップ名：Typhoon_00001、Typhoon_00002、...¹⁾

- 実際に登録されるクリップ名：台風東京上陸_00001、台風東京上陸_00002、...

- 1) ASCII形式のクリップ名を表示設定した場合 (154ページ参照)

ご注意

- 通し番号が99999まで達したら、次の記録操作で00001に戻ります。
- 本機の電源を切ったり、ディスクを交換したりしても、通し番号はリセットされません (連番が生成されます)。
- ASCII形式のクリップ名文字列が14文字を超えると、ビューファインダー画面には「先頭7文字+■(伏せ字)+末尾5文字」の13文字が表示されます。通し番号は、Disc Menuの「Planning Clip Name Suffix」で変更することができます (126ページ参照)。

プランニングメタデータを利用してユーザーディスクIDを設定するには

プランニングメタデータにASCII形式またはUTF-8形式のディスク名文字列を記述して、ディスク内のユーザーディスクIDに名称を定義することができます。

ご注意

- 実際にユーザーディスクIDに名称が反映されるのは、記録実行後になります。
- すでにユーザーディスクIDに名称が定義されているディスクに対して、名称を定義することはできません。次のいずれかを使用してユーザーディスクIDを変更するか、あらかじめユーザーディスクIDを消去してください。
 - ソフトウェアキーボード画面 (152ページ参照)
 - アプリケーションソフトウェア

ディスク名文字列の記述形式

テキストエディターを使用して、「ディスク名文字列の記述例」の網掛け部分をASCII形式 (127文字以下) またはUTF-8形式 (3バイト文字は約42文字以下) で記述します。

ディスク名文字列の記述例

```
<?xml_spversion="1.0" _spencoding="UTF-8"?>←
```

```

<PlanningMetadata xmlns="
http://xmlns.sony.net/pro/metadata/
planningmetadata" _sp_assignId="
H00123" _sp_creationDate="
2009-09-10T08:00:00-05:00" _sp
lastUpdate="2009-09-10T13:43:52-
05:00" _sp_version="1.00">←
<Properties propertyId="assignment" _sp
class="original" _sp_update="
2009-09-10T15:00:00-05:00" _sp
modifiedBy="Chris">←
  <Title usAscii="Football
Game" _sp_xml:lang="ja">Football
Game 10/09/2009</Title>←
  <Meta name="MediaName" _sp
content="Football"/>←
</Properties>←
</PlanningMetadata>←

```

ここで、_spはスペース、←は改行を意味します。

ユーザー定義したディスク名文字列は、ユーザーディスクIDとしてDisc Properties画面で確認することができます（151ページ参照）。

ご注意

実際にファイルを作成する場合は、改行位置でのみ改行し、ディスク名文字列以外では指定なきスペースは入れずに1つの文として記述してください。

プランニングメタデータを利用してエッセンスマーク名を設定するには

USBキーボードの0~9の数字キーに対応して記録されるエッセンスマークShot Mark0~ShotMark9の名前を、プランニングメタデータでユーザー定義することができます。ユーザー定義によるエッセンスマーク名文字列が記述されたプランニングメタデータを本機のメモリーに読み込んでおくと、数字キーに対応して記録されるエッセンスマークが任意名で表示されます。

◆エッセンスマークの記録については93ページ、ファイルの読み込み方については109ページをご覧ください。

エッセンスマーク名文字列の記述形式

テキストエディターを使用して、「エッセンスマーク名文字列の記述例」の網掛け部分をASCII形式（32文字以下）、またはUTF-8形式（16文字以下）で記述します。

ご注意

ASCII形式以外の文字が1文字以上含まれていれば、その文字列の最大長は16文字になります。

エッセンスマーク名文字列の記述例

```

<?xml _sp_version="1.0" _sp_encoding="
UTF-8"?>←
<PlanningMetadata xmlns="http://
xmlns.sony.net/pro/metadata/
planningmetadata" _sp_assignId="
H00123" _sp_creationDate="
2009-04-15T08:00:00Z" _sp_lastUpdate="
2009-04-15T15:00:00Z" _sp_version=
"1.00">←
<Properties propertyId=
"assignment" _sp_class="original" _sp
update="2009-04-15T15:00:00Z" _sp
modifiedBy="Chris">←
  <Title usAscii="Football
Game" _sp_xml:lang="ja">
Football Game 15/04/2009</
Title>←
  <Meta name="_ShotMark1" _sp
content="Goal"/>←
  <Meta name="_ShotMark2" _sp
content="Shoot"/>←
  <Meta name="_ShotMark3" _sp
content="Corner Kick"/>←
  <Meta name="_ShotMark4" _sp
content="Free Kick"/>←
  <Meta name="_ShotMark5" _sp
content="Goal Kick"/>←
  <Meta name="_ShotMark6" _sp
content="Foul"/>3

```

```

<Meta name="_ShotMark7" sp
content="PK"/>3
<Meta name="_ShotMark8" sp
content="1st Half"/>←
<Meta name="_ShotMark9" sp
content="2nd Half"/>←
<Meta name="_ShotMark0" sp
content="Kick Off"/>←
</Properties>←
</PlanningMetadata>←

```

ここで、spはスペース、←は改行を意味します。

ユーザー定義したエッセンスマーク名文字列は、User Defined Essence Marks画面で確認することができます（155ページ参照）。

ご注意

実際にファイルを作成する場合は、改行位置でのみ改行し、エッセンスマーク名文字列以外では指定なきスペースは入れずに1つの文として記述してください。

外部機器からの映像を記録する

本機では、カメラ撮影または外部入力のどちらの映像を記録するかを、メニューまたはASSIGN 2スイッチで切り換えることができます。

ご注意

- ASSIGN 2スイッチを使用するには、あらかじめ映像の切り換え機能をASSIGN 2スイッチに割り当てておく必要があります（224ページ参照）。
- メニューによる切り換えよりもASSIGN 2スイッチによる切り換えが優先されます。（ASSIGN 2スイッチに映像切り換え機能を割り当てた場合は、メニューによる切り換えはできません。）
- 記録中に映像を切り換えると、切り換え部分で映像が乱れることがあります。
- 記録する映像を外部入力に切り換えても、SDI IN (OPTION)端子またはGENLOCK IN端子に外部ビデオ信号が入力されていないときは、カメラの映像が記録されます。

- 外部入力映像は、アスペクト比を変更して記録することはできません。

SDI信号を記録するには

SDI IN端子に入力したHD-SDI信号を記録することができます。

ご注意

- 本機の設定とシステム周波数および解像度が異なる入力信号は記録できません。
- 音声信号は、AUDIO IN CH-1/CH-2/CH-3/CH-4スイッチの設定に関わらず、SDI信号にエンベデッドされた音声のみが記録されます。

1 OPERATIONメニューのSOURCE SELページを表示する。

```

?0270SOURCE SEL      TOP
FRONT MIC SELECT: ?  STREO
REC VIDEO SOURCE:    CAM
EXT VIDEO SOURCE:    HOSDI

```

- メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

2 REC VIDEO SOURCEを選択し、MENUつまみを回してEXTを表示させる。

設定完了後、本機のSDI IN端子にSDI信号を入力すると、外部ビデオ信号が記録できるようになります。

ライブロギング機能を使う

ライブロギングとは、撮影しながら同時にプロキシAVデータをコンピューターに転送したり、コンピューターとの間でメタデータを送受信する機能です。

本機では、イーサネットまたは無線LAN経由でデータ転送を行います。¹⁾

この機能を使用すると、コンピューター上で以下のような操作を行うことができます。

- プロキシAVデータを閲覧する。
- メタデータ（タイトル、コメント、エッセンスマークなど）に追加や変更を加える。
- クリップリストを作成する。

また、追加、変更後のメタデータやクリップリストは、コンピューターから本機に転送して元のディスクに書き戻すことができます。

- 1) 無線LAN接続を行うには、Wi-Fiアダプター CBK-WA01（別売）またはワイヤレスアダプター CBK-WA100（別売）が必要です。

◆ 無線LANの設定について詳しくは、228 ページをご覧ください。

ライブロギングには、ライブモードとライブビューモードの2つの操作モードがあり、各操作モードの機能は次のとおりです。

操作モード	本機から見た主な機能
ライブ	<ul style="list-style-type: none"> • クリップメタデータの送信 • 編集されたクリップメタデータのディスクへの書き戻し • プランニングメタデータの受信 • クリップリストの受信
ライブビュー	<ul style="list-style-type: none"> • 上記と同じ機能 • プロキシAVデータの送信

ご注意

- ライブビューモードでは、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにしてタイムデータの設定を行うことはできません。タイムデータを設定するときは、いったんライブビューモード以外の操作モードに切り換えてください。
- ライブビューモードで動作中は、F-RUN/SET/R-RUNスイッチの設定に関わらず、F-RUNモードになります。
- ライブビューモードでは、PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをREGENにしてディスクに記録されたタイムコードを読み取り、その値に連続するようタイムコードを記録することはできません。

ライブロギング機能を有効にして記録するには

OPERATIONメニューのREC FUNCTION ページでLIVE LOGGINGを次のいずれかに設定します。

LIVE：ライブモード

VIEW：ライブビューモード

ご注意

- 本機が次の状態のときは、ライブロギング機能を有効にすることはできません。
 - プロキシデータ記録機能が有効なとき
- 本機が次の状態のときは、ライブロギング機能をライブビューモードに設定することはできません。
 - ピクチャーキャッシュ機能が有効なとき
 - インターバルレック機能が有効なとき
 - ディスクエクステンジキャッシュ機能が有効なとき
 - クリップコンティニユアスレック機能が有効なとき
- プロキシデータ記録機能を有効にすると、ライブロギング機能は自動的に無効になります。

プロキシデータを記録する

記録中のクリップまたはディスク内のクリップのプロキシAVデータとメタデータ（ここでは、総称して「プロキシデータ」と呼びます）を、USB端子に接続したUSBメモリーに保存することができます。¹⁾

このUSBメモリーをコンピューターに接続すると、記録されたプロキシAVデータを閲覧したり、メタデータ（タイトル、コメント、エッセンスマークなど）に追加や変更を加えたり、クリップリストを作成したりすることができます。

- 1) プロキシデータの記録終了時、(もしあれば) 本機に読み込まれているプランニングメタデータもUSBメモリーにコピーされます。各データは、USBメモリーのマウント時に自動生成される次のディレクトリーに保存されます。

- プロキシAVデータ：¥MSSONY¥PRO¥XDCAM¥MEMDISC¥PROAVID¥Sub
- メタデータ：¥MSSONY¥PRO¥XDCAM¥MEMDISC¥PROAVID¥Clip

- ・プランニングメタデータ：¥MSSONY¥PRO
¥XDCAM¥MEMDISC¥PROAVID¥
General¥Sony¥Planning

ご注意

- ・USBメモリーはFAT32ファイルシステムでフォーマットされている必要があります。FAT32以外のファイルシステムでフォーマットされている場合は、本機でフォーマットしてから使用してください（116ページ参照）。
- ・USBメモリーへのアクセス中（本体のACCESSランプが点灯中）は、絶対にUSBメモリーや、バッテリーパック、電源コードを取り外さないでください。もし取り外すと、データが破壊されてUSBメモリーが使用できなくなるおそれがあります。

機能を有効にするには

あらかじめ、OPERATIONメニューのPOWER SAVEページでETHERNET/USBを「ENABL」に設定しておきます。

1 OPERATIONメニューのMEMORY RECページを表示する。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

2 MEMORY RECを選択し、MENUつまみを回してENABLを表示させる。

0310MEMORY REC	TOP
→MEMORY REC	:●ENABL
COPY CURRENT CLP	: EXEC
COPY ALL CLIPS	: EXEC
ABORT COPY	: EXEC
DEL ALL MEM CLP	: EXEC
FORMAT MEMORY	: EXEC

プロキシデータ記録機能、およびディスクからUSBメモリーへのコピー機能が有効になります。

ご注意

- ・本機が次の状態のときは、プロキシデータ記録の設定を行うことはできません。
 - 無線 LAN 接続が有効なとき
- ・プロキシデータ記録機能を有効にすると、ライブプロギング機能は自動的に無効になります。

ディスク記録に同期しながらプロキシデータを記録するには

- 1 USB端子にUSBメモリーを接続する。
- 2 メモリーシンボルとメモリー残量の表示（40ページ参照）を確認する。
- 3 メモリー残量が充分にあることを確認してから、REC STARTボタンまたはレンズのVTRボタンを押して、通常の記録を行う。¹⁾
ディスクへの記録に同期して、クリップのプロキシデータが記録されます。

1)本体の電源を入れた後、しばらくはメモリーシンボルが表示されませんが、装着されたUSBメモリーのメモリー残量が充分にあり、記録可能な状態であれば、メモリーシンボルが表示される前に記録を開始しても、ディスク上に記録されるクリップのプロキシデータと同じデータがUSBメモリーに記録されます。

ご注意

- ・本体の電源を入れて直ちに記録を開始し、すぐに記録を停止しても、USBメモリーを認識してUSBメモリーにプロキシデータを記録するまで動作が継続します。なお、本機能が有効な状態でUSBメモリーを接続せずに記録を行うと、USBメモリーがないことを認識するまで時間がかかるため、その分だけ記録動作時間が長くなります。
- ・書き込み禁止に設定されたUSBメモリーを接続してアクセスすると、「USB MEMORY INHIBIT!」または「USB M. INHI」と表示されます。この場合は、いったんUSBメモリーを取り外して記録可能な状態にしてから、再び接続してください。
- ・USBメモリーが接続されていない状態で記録を開始すると、「MEM REC NG!」と表示されます。記録を停止した後、USBメモリーを接続してから、「ディスク内のクリップのプロキシデータをUSBメモリーにコピーするには」を参照して記録できなかったプロキシデータをコピーしてください。
- ・クリップコンティニュースレック機能が有効なとき、途中からプロキシデータを記録しようとすると、「MEM REC NG!」と表示され、USBメモリーに記録することはできません。記録を停止した後、「ディスク内のクリップのプロキシデータをUSBメモリーにコピーするには」を参

照して記録中のクリップをUSBメモリーにコピーしてから、撮影を再開してください。

- USBメモリーへの記録中（本体のACCESSランプが点灯中）は、絶対にバッテリーパックや電源コードを取り外さないでください。もし取り外すと、記録処理が正常に終了しないため、記録中断直前にUSBメモリーに記録していたクリップのプロキシデータが失われます。
- USBメモリーへの記録中（本体のACCESSランプが点灯中）にUSBメモリーの残量がなくなると「MEM REC NG!」と表示され、直前にUSBメモリーに記録していたクリップのプロキシデータは失われます。この場合は、USBメモリーを交換してから、「ディスク内のクリップのプロキシデータをUSBメモリーにコピーするには」を参照して、記録できなかったプロキシデータをコピーしてください。
- USBメモリーにのみプロキシデータを記録することはできません。

記録を停止するには

ディスク記録を停止すると、USBメモリーへの記録も同時に停止します。

USBメモリーへの記録のみを停止するには、OPERATIONメニューのMEMORY RECページでMEMORY RECを「DSABL」に設定します。

ディスク内のクリップのプロキシデータをUSBメモリーにコピーするには

すでにディスクに記録されたクリップを選択し、プロキシデータを1つずつUSBメモリーにコピーします。

ご注意

コピーの実行中は、次の機能が停止します。

- 再生時の頭出し
- ピクチャーキャッシュ記録

- 1 コピーしたいクリップの映像（再生中または停止中）をサーチする。
- 2 OPERATIONメニューのMEMORY RECページでCOPY CURRENT CLPを選択し、MENUつまみを押す。「EXECUTE OK?」と表示されます。

3 「YES」を選択し、MENUつまみを押す。

コピー実行中は、ビューファインダーとLCDモニターに「MEMORY ACCESS **%」（コピー処理の進捗率、**：0～99）と表示され、処理が完了すると「COMPLETE!」と表示されます。再生中または停止中のクリップのプロキシデータが、USBメモリーに書き込まれます。

ディスク内のすべてのクリップのプロキシデータをUSBメモリーにコピーするには

すでにディスクに記録されたクリップのプロキシデータをすべてUSBメモリーにコピーします。

ご注意

コピーの実行中は、次の機能が停止します。

- 再生時の頭出し
- ピクチャーキャッシュ記録

- 1 OPERATIONメニューのMEMORY RECページでCOPY ALL CLIPSを選択し、MENUつまみを押す。「EXECUTE OK?」と表示されます。
- 2 「YES」を選択し、MENUつまみを押す。
コピー実行中は、ビューファインダーとLCDモニターに「MEMORY ACCESS **%」（コピー処理の進捗率、**：0～99）と表示され、処理が完了すると「COMPLETE!」と表示されます。ディスク内のすべてのクリップのプロキシデータが、USBメモリーに書き込まれます。

ご注意

「M. Shortage」（コピーするデータのサイズがメモリー残量より大きい）と表示されたときは、コピーは実行されません。メモリー残量が充分にあるUSBメモリーに交換してください。

USBメモリーへのコピーを中止するには

- 1 OPERATIONメニューのMEMORY RECページでABORT COPYを選択し、MENUつまみを押す。
「EXECUTE OK?」と表示されます。
- 2 YESを選択し、MENUつまみを押す。
コピー中止処理の実行中は、ビューファインダーとLCDモニターに「ABORTING」と表示され、処理が完了すると「ABORT」と表示されます。

記録したプロキシデータを削除するには

ディスクに記録された内容とUSBメモリー内のプロキシデータを同時に削除するには、ThumbnailメニューのDELETE CLIPを実行します（141ページ参照）。

USBメモリー内のプロキシデータのみを削除するには、次のように操作します。

- 1 OPERATIONメニューのMEMORY RECページでDELE ALL MEM CLPを選択し、MENUつまみを押す。
「EXECUTE OK?」と表示されます。
- 2 YESを選択し、MENUつまみを押す。
削除の実行中は、ビューファインダーとLCDモニターに「MEMORY ACCESS」と表示され、処理が完了すると「COMPLETE」と表示されます。USBメモリー内のすべてのプロキシデータが削除されます。

USBメモリーをフォーマットするには


USBメモリーをFAT32ファイルシステムでフォーマットします。

- 1 OPERATIONメニューのMEMORY RECページでFORMAT MEMORYを選択し、MENUつまみを押す。
「EXECUTE OK?」と表示されます。
- 2 YESを選択し、MENUつまみを押す。
フォーマット実行中は、ビューファインダーとLCDモニターに「MEMORY ACCESS」と表示され、処理が完了すると「COMPLETE」と表示されます。USBメモリー内のすべてのデータは削除されます。

GPSの測位情報を取得する





位置情報を記録するには

カムコーダーのOPERATIONメニューのGPS SETUPページで、GPSをONに設定します。

ビューファインダー右上にが表示され、測位準備が行われます。測位できた場合、動画の撮影時に測位情報を記録します。

画面に表示されるアイコンについて

GPS衛星からの電波の受信状況によって画面に表示されるアイコンが以下のように変わります。

測位状況	画面表示	GPS 受信状況
機能切	非表示	GPS SETTINGがOFFになっている。またはエラーが起きている。
測位困難		GPS信号を受信できないため、測位情報が取れない。空の開けた場所に移動してください。
衛星検索中		衛星を検索中です。測位中になるまで数分かかることがあります。
測位中		弱いGPS信号を受信中
測位中		GPS信号を受信中。測位情報を取得できる。
測位中		強いGPS信号を受信中。測位情報を取得できる。

ご注意

- 数分待ってもアイコンが測位中にならないときは、受信困難な状態です。そのまま撮影を始めるか、空の開けた場所に移動してください。そのまま撮影すると測位情報は記録されません。
- 屋内や高い建物のそばでは電波をうまく受信できません。空の開けた場所に移動してください。
- 「測位中」と表示されていても、電波の受信状況によりGPS情報の記録が途切れることがあります。

ビューファインダー画面にGPSデータの受信状態を表示させるには

OPERATIONメニューのVF DISP 2ページでDISP GPSをONに設定すると、通常の撮影画面にGPSデータの受信状態を常時表示させておくことができます。

GPSの測位位置を確認するには

GPSデータを記録または再生しているとき、ビューファインダーに表示されるGPS INFORMATION画面で測位位置を確認できます。

GPS INFORMATION画面をビューファインダー上に表示させるには

- 1 OPERATIONメニューのSET STATUSページでSTATUS GPSをONに設定する。
- 2 カムコーダーのSTATUS ON/SEL/OFFスイッチをON/SEL側に押し上げる。

押し上げるたびに表示される画面が切り換わるので、GPS INFORMATION画面が表示されるまで押し上げる。

以下のようなGPS INFORMATION画面が数秒間表示されます。

GPS INFORMATION	
LATITUDE	: N 35 40 ' 12.36
LONGITUDE	: E 135 25 ' 13.31
ALTITUDE	: +0123m
CALC	: 13-03-31T12:45:35Z
REAL	: 13-03-31T12:45:36Z
TIME_ZONE	: +9:00
GPS■■■■	DOP:02

表示される項目

項目	内容
LATITUDE	緯度a)
LONGITUDE	経度a)
ALTITUDE	高度a)
CALC	測位日時 b)
REAL	現在日時 c)
TIME_ZONE	時差

- a) 記録時は、現在の緯度・経度・高度情報を表示します。再生時は、記録された情報を表示します。
- b) 測位日時は、衛星が3つ以上補足して測位ができるとその測位できた時刻を表示します。一度測位できた後、測位不能になるとその時刻で停止します。測位できるようになるとそこから時刻が始まります。正常に測位ができていると測位日時は現在日時と同じ時刻になります。なお、再生時に測位時刻は表示されません。
- c) 現在日時は、衛星が1つ以上補足できた時に正常な時刻を表示します。
(GPS衛星の時計に一致します。それ以外の時は、モジュール内部水晶時計を表示します。)
再生時は、ディスクに記録された時の測位時刻になります。

GPSを受信できずに撮影すると、[-----]などのバーが表示されます。

GPS使用時の現象について

GPSの電波を受信できない

障害物の影響でGPS衛星の電波が受信できないことがあります。

その場合は、見晴らしの良い場所に移動してください。電波の届かない場所について詳しくは、「GPSについて」(282ページ)をご覧ください。

測位している位置がずれる

周囲の建物などで反射したGPSの電波を受信した場合、また受信したGPSの電波が弱い場合など、最大で数百メートルの誤差を生じます。

概要

シーンの検索、検索したシーンの再生、およびシーンセレクション（クリップリスト編集）などの操作をGUI（グラフィカルユーザーインターフェース）画面から行うことができます。GUI画面は、ディスクお

よびディスク上のデータに対するさまざまな操作の入口となります。（GUI画面では、ヨーロッパ言語、日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語による、クリップ名やタイトルなどの表示に対応しています。）

画面表示を切り換える

代表的なGUI画面には次の2種類があります。

クリップサムネイル画面：ディスク上のクリップのサムネイル一覧表示。画面のタイトルとして、左上部に「Clip」と表示されます（120ページ参照）。

クリップリストサムネイル画面：クリップリスト内のサブクリップのサムネイル一覧表示。画面のタイトルとして、左上部に「Clip List」と表示されます（120ページ参照）。

GUI画面以外の画面には、次の2種類があります。

クリップ再生画面：通常のビデオ再生画面

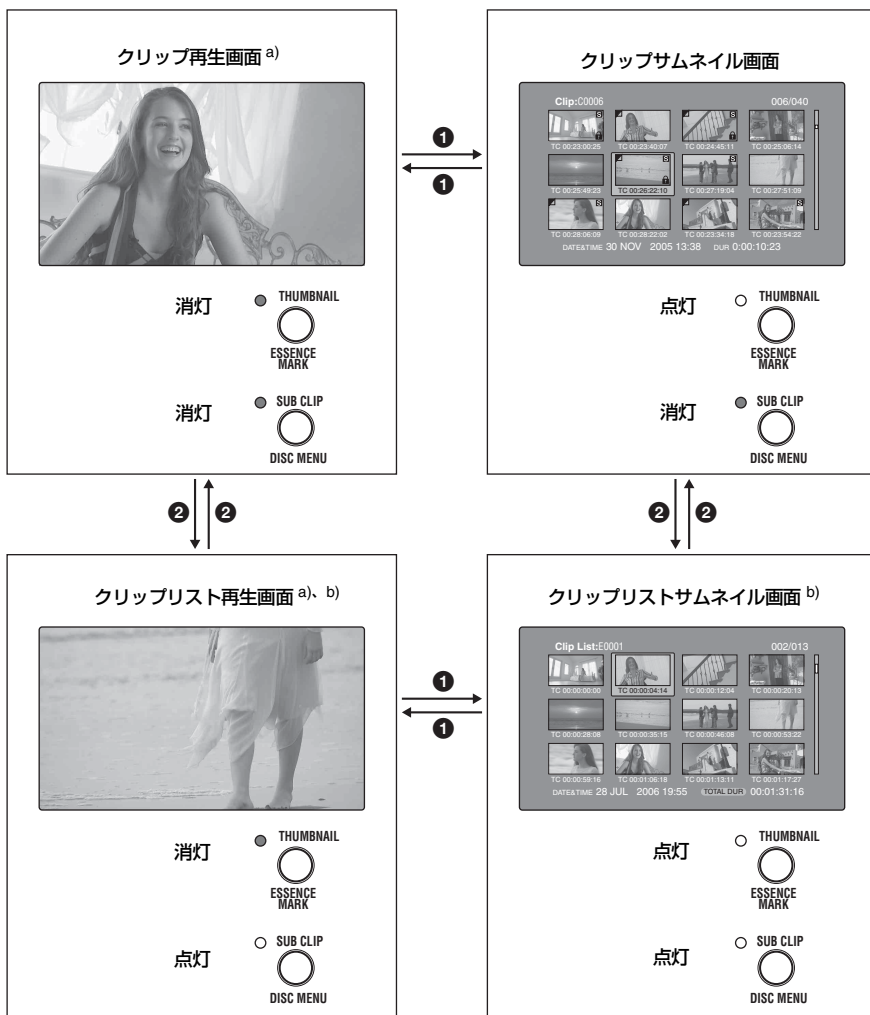
クリップリスト再生画面：クリップリストによるビデオ再生画面

これら4つの画面を切り換えるには、THUMBNAIL/ESSENCE MARKボタン①とSUB CLIP/DISC MENUボタン②を使用します。次図に示すように、それぞれのボタンを押すごとに画面表示が切り替わります。

また、サムネイルインジケータとサブクリップインジケータが表示画面に応じて次のように点灯または消灯します。

ご注意

これら4つの画面を切り換えるには、クリップが記録されたディスクが本機に挿入されている必要があります。



a) 本機の表示画面が、文字情報付きの映像 (CHAR) または文字情報なしの映像 (MONI) に切り替わっているとき表示されます。表示画面は、DISP SEL/EXPANDボタンで切り換えることができます (26ページ参照)。

b) クリップリストが本機のメモリーに読み込まれているとき表示されます (150ページ参照)。

前記のサムネイル画面のほかに次のサムネイル画面があります。

- エクスパンドサムネイル画面
- チャプターサムネイル画面
- エッセンスマークサムネイル画面

サムネイル画面の見かた

クリップ名/クリップリスト名の表示について

各サムネイル画面のクリップ名またはクリップリスト名が表示されるエリアでは、タイトルを優先表示したり、表示言語を変更することができます。

クリップまたはクリップリストにタイトルが設定されているとき（106ページ参照）、タイトルを優先表示するには、Disc MenuのSettings > Display Titleの設定で次のいずれかを選択します。

On: Title1 "title1"：タイトル1、タイトル2、クリップ名/クリップリスト名の順に優先表示される。

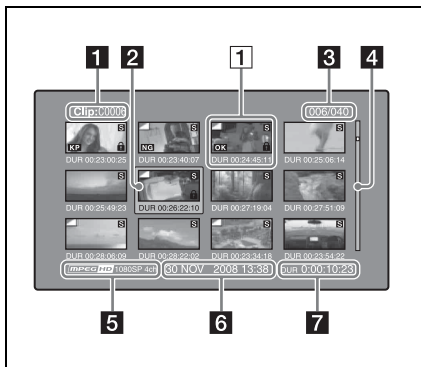
On: Title2 {title2}：タイトル2、タイトル1、クリップ名/クリップリスト名の順に優先表示される。

表示言語を変更するには、Disc MenuのSettings > Select Fontの設定で希望の言語を選択します。

使用地域の設定	Select Fontの設定	表示可能な言語
NTSC(J)AREA (日本国内向け)	—	英語/日本語
NTSC AREA (日本以外の地域向け)/PAL AREA	European Alphabet	英語/ヨーロッパ言語
	Korean	英語/韓国語
	Simplified Chinese	英語/簡体字中国語
	Traditional Chinese	英語/繁体字中国語

クリップサムネイル画面

ディスクに記録されているクリップのサムネイルを、記録された順に表示します。クリップに関する各種操作（削除、保護、代表画の設定、クリップリストへの追加など）を、この画面から行うことができます。



1 クリップ名

選択されているクリップの名前またはタイトルが表示されます（121ページ参照）。

2 サムネイル選択枠

サムネイルが選択されていることを表しています。別のサムネイルを選択するには、この枠を移動します（129ページ参照）。複数のサムネイルを選択したときは、複数の選択枠が表示されます（130ページ参照）。

3 クリップ番号/クリップ総数

ディスク上のクリップの総数に対して何番目のクリップが選択されているかを表示します。

4 スクロールバー

サムネイル表示エリアにすべてのサムネイルを表示できないとき、現在表示されているサムネイル一覧が全体のどの位置にあるかをスライダーの位置で、どの程度の割合を占めているかをスライダーの長さで表示します。

サムネイルの数が多いたときは、スキップスクロール機能で目的のサムネイルにすばやく移動することができます（129ページ参照）。

5 記録フォーマット

選択されているクリップの記録フォーマットが、以下の情報の組み合わせで表示されます。

- ビデオフォーマットロゴ
- システムライン数
- 記録画質
- オーディオチャンネル数

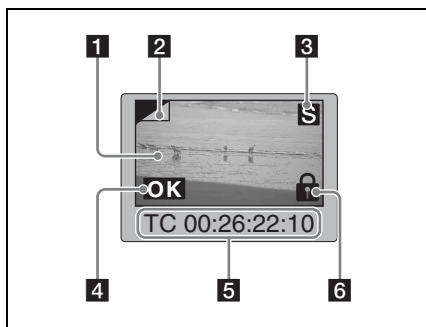
6 撮影/記録日時

選択されているクリップの撮影/記録日時が表示されます。

7 デュレーション

選択されているクリップのデュレーション（記録時間）が表示されます。複数のクリップが選択されている場合は、それらの合計の記録時間が表示されます。

1 サムネイルの表示項目



1 代表画

クリップの内容を表す画像を代表画として表示します。通常はクリップの先頭フレームが代表画に設定されます。

2 代表画変更マーク

クリップの先頭フレーム以外のフレームに代表画が変更されているとき、このようなページの隅を折ったマークが表示されます（136ページ参照）。

ご注意

クリップを頭出しする場合、代表画がクリップの先頭フレーム以外に設定されていても、常にクリップの先頭フレームが頭出しされます。

3 Sマーク

ショットマークなどのエッセンスマークが設定されているとき、このマークが表示されます（93ページ参照）。

このマークが表示されているクリップは、チャプターサムネイル画面を表示することができます（124ページ参照）。

4 クリップフラグアイコン

クリップにクリップフラグ（OK/NG/KP（KEEP））が設定されているとき、いずれかのアイコンが表示されます（140ページ参照）。

5 クリップ/フレーム情報

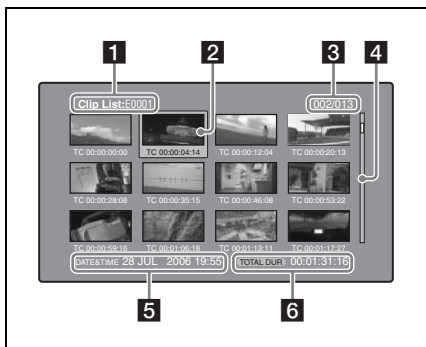
Thumbnail MenuのClip Informationで設定されているクリップまたはフレームの情報が表示されます（136ページ参照）。工場出荷時はクリップの先頭タイムコード、またはサムネイルのタイムコードが表示されるように設定されています。

6 錠前アイコン

クリップがロック（保護）されているとき、このアイコンが表示されます（140ページ参照）。このアイコンが表示されているクリップに対して、削除やクリップ情報の変更はできません。

クリップリストサムネイル画面

読み込まれているクリップリストの内容をサムネイル表示します。この画面でクリップリストの作成や編集を行うことができます。



1 クリップリスト名

クリップリストの名前またはタイトルが表示されます (121ページ参照)。

2 サムネイル選択枠

◆「クリップサムネイル画面」(121ページ)の説明をご覧ください。

3 サブクリップ番号/サブクリップ総数

クリップリスト内のサブクリップの総数に対して何番目のサブクリップが選択されているかを表示します。


4 スクロールバー

◆「クリップサムネイル画面」(121ページ)の説明をご覧ください。

5 作成/変更日時

クリップリストの作成日時または最終変更日時が表示されます。編集中のクリップリストがディスクに保存されていないときは、作成/変更日時の後ろに* (アスタリスク)が表示されます。

ご注意

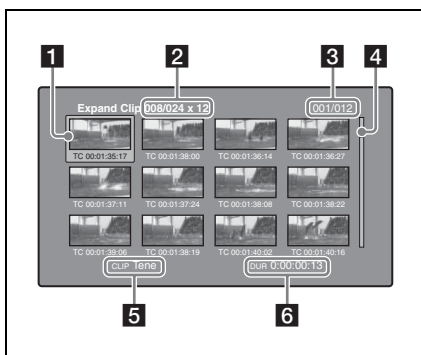
- クリップリストが本機のメモリーに読み込まれていない場合や、本機のメモリーからクリアされた場合は「New File」と表示されます。
- ディスクが記録禁止の状態のとき、作成/変更日時の前に  マークが表示されます。このとき、クリップリストの作成はできますが、保存はできません。

6 合計デュレーション

クリップリストに登録されているサブクリップの合計デュレーションが表示されません。

エクスパンドサムネイル画面

1つの選択したクリップを、時間で等間隔に分割してサムネイル表示します。



1 サムネイル選択枠

◆「クリップサムネイル画面」(121ページ)の説明をご覧ください。

2 クリップ番号/クリップ総数×分割数

ディスク上のクリップの総数に対して何番目のクリップが選択されていて、そのクリップが何分割されているかを表示します。

3 サムネイル番号/サムネイル分割総数

分割されたサムネイルの総数に対して、何番目のサムネイルが選択されているかを表示します。

4 スクロールバー

◆「クリップサムネイル画面」(121ページ)の説明をご覧ください。

5 クリップ名

エクスパンド表示されているクリップの名前またはタイトルが表示されます（121ページ参照）。

6 デュレーション

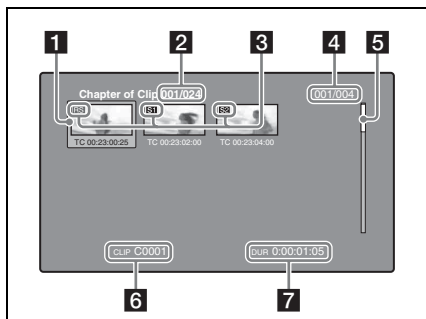
選択されているサムネイルから次のサムネイルまでの時間を表示します。

チャプターサムネイル画面

クリップに設定されたショットマーク、Rec Start（記録開始）などの任意のエッセンスマークで区切られた区間をチャプターと呼びます。この画面では、選択したクリップに設定されているチャプターをサムネイル表示することができます。

ご注意

ショットマークは記録時および再生中に自由に設定することができ、削除や移動も可能です。これに対し、ショットマーク以外のエッセンスマークは自動的に設定され、これを削除したり移動したりすることはできません。



1 サムネイル選択枠

◆「クリップサムネイル画面」（121ページ）の説明をご覧ください。

2 クリップ番号/クリップ総数

ディスク上のクリップの総数に対して、何番目のクリップに設定されているチャプターが表示されているかを示します。

エッセンスマーク名がユーザー定義されている場合は、「Chapter: "Touch Down"」のように" "で囲まれて表示されます（155ページ参照）。

3 S1/S2/RSマーク

「S1」、「S2」、「RS」はそれぞれShot Mark1、Shot Mark2、Rec Start（記録開始）エッセンスマークが設定されたフレームであることを示します。

4 チャプター番号/チャプター総数

チャプターの総数に対して、何番目のチャプターが選択されているかを表示します。

ご注意

チャプターの総数は、指定されたクリップのみに含まれるチャプターの合計数を示します。

5 スクロールバー

◆「クリップサムネイル画面」（121ページ）の説明をご覧ください。

6 クリップ名

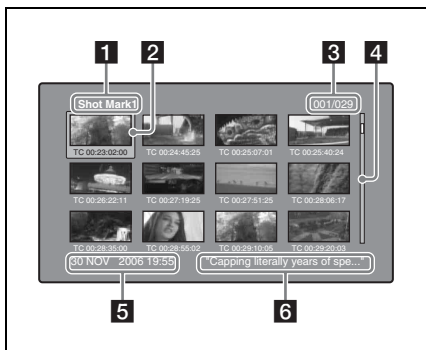
チャプター表示されているクリップの名前またはタイトルが表示されます（121ページ参照）。

7 デュレーション

選択されているチャプターの先頭フレームから次のチャプターの先頭フレームまでの時間を表示します。

エッセンスマークサムネイル画面

指定したエッセンスマークが設定されているサムネイルを、ディスク上の全クリップから検索して表示します。



1 エッセンスマーク名

表示されているエッセンスマークの名称（ここではShot Mark1）が表示されます。ショットマーク名がユーザー定義されている場合は、" "で囲まれて表示されます（155ページ参照）。

2 サムネイル選択枠

◆「クリップサムネイル画面」（121ページ）の説明をご覧ください。

3 エッセンスマーク番号/エッセンスマーク総数

表示されたエッセンスマークの総数に対して何番目のエッセンスマークが選択されているかを表示します。

ご注意

エッセンスマークの総数は、ディスク上のすべてのクリップに含まれる指定されたエッセンスマークの合計数を示します。

4 スクロールバー

◆「クリップサムネイル画面」（121ページ）の説明をご覧ください。

5 撮影/記録日時

選択されているサムネイルが含まれているクリップの記録日時または最終変更日時が表示されます。

6 クリップ名

選択されているフレームが含まれているクリップの名前またはタイトルが表示されません（121ページ参照）。

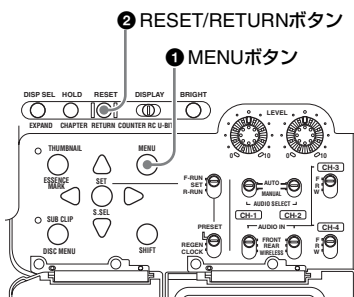
各種のメニューを表示する

Thumbnail Menu（サムネイルメニュー）

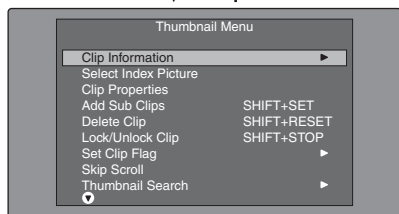
現在表示されているサムネイル画面に応じて、その画面で有効なメニュー項目がThumbnail Menuに表示されます。

Thumbnail Menuを表示するには

Thumbnail Menuを表示するには、サムネイル画面を表示している状態でMENUボタンを押します。元の画面に戻るには、MENUボタンまたはRESET/RETURNボタンを押します。



サムネイル画面^{a)}



Thumbnail Menu^{b)}

a)図はクリップサムネイル画面

b)図はクリップサムネイル画面のThumbnail Menu

ショートカット操作について

ショートカットボタンで操作できるコマンドには、メニュー上にショートカットボタン名が表示されています（167ページ参照）。

ご注意

() 内に表示されているショートカットは、メニューを閉じた状態で操作してください。

Thumbnail Menuのサブメニューについて

- Thumbnail Searchメニューには、サムネイルサーチで使用する基本的なコマンドが用意されています。
- Thumbnail Viewメニューには、ほかの画面に移動するための基本的なコマンドが用意されています。

Disc Menu (ディスクメニュー)

Disc Menuでは、次の操作が可能です。(操作/設定欄で下線が引いてある値が工場出荷時の設定です。)

項目名	操作 / 設定
Load Clip List	クリップリストを本機のメモリーに読み込む
Save Clip List	クリップリストをディスクに上書き保存する
Save Clip list as...	クリップリスト名を指定してディスクに保存する
Delete Clip List	ディスクに記録されたクリップリストを削除する
Clear Clip List	本機のメモリーに読み込まれたクリップリストをクリアする
Load Planning Metadata/Select Drive	メディアを選択してプランニングメタデータを本機のメモリーに読み込む
Planning Metadata Properties	プランニングメタデータ情報を表示する
Planning Clip Name Suffix	プランニングメタデータを利用したクリップ名に付加される通し番号を変更する。
Clear Planning Metadata	本機のメモリーに読み込まれたプランニングメタデータをクリアする
Lock or Delete All Clips	サブ項目
	Lock All Clips
	Unlock All Clips
	Delete All Clips
Delete All Voice	すべてのボイスデータを削除する

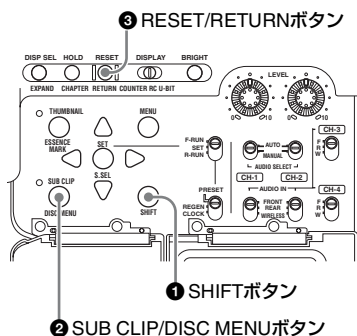
項目名	操作 / 設定
Disc Properties	ディスク情報を表示する。または、ユーザーディスクID、タイトル1、およびタイトル2を編集する
Format Disc	ディスクをフォーマット（初期化）する
Download Clip via Direct FTP	リモートデバイス/リモートコンピューターから本機にクリップを転送する
Settings	サブ項目
SET Key on Thumbnail	ひとつのサムネイルを選択した状態でSET/S.SELECTまたはMENUつまみを押したときの動作を設定する Cue up & Still : 選択したサムネイルを頭出しする Cue up & Play : 選択したサムネイルを頭出しして再生を開始する
Sort Clip List by...	クリップリストの並べ換え方法を選択する Name (A-Z) : クリップリスト名の昇順 Date (Newest First) : クリップリストの作成日時が新しい順番
Sort Planning Metadata by...	プランニングメタデータの並べ換え方法を選択する Name (A-Z) : ファイル名の昇順 Date (Newest First) : ファイルの作成日時が新しい順番
Display Title	クリップおよびクリップリストのタイトルを表示するかどうかを設定する On: Title1 "title1" : タイトル1、タイトル2、クリップ名/クリップリスト名の優先順位でタイトルを表示する On: Title2 {title2} : タイトル2、タイトル1、クリップ名/クリップリスト名の優先順位でタイトルを表示する Off : タイトルを表示しない。常にクリップ名およびクリップリスト名を表示する
Planning Clip Name in Clip Info. Area	プランニングメタデータを読み込んだとき、ファイルに記述されているタイトルの表示形式を設定する ASCII Clip Name : ASCII形式のタイトルを表示する Clip Name : UTF-8形式のタイトルを表示する
Planning Clip Name Display	プランニングメタデータを読み込んだとき、ファイルに記述されているタイトルをビデオモニター画面に表示するかどうかを設定する。 Disable : タイトルを表示しない Enable : タイトルを表示する
Setting Format Disc	Format Discコマンドを使用禁止にするかどうかを設定する Disable : 使用禁止にする Enable : 使用可能にする
Select Font	クリップ名、クリップリスト名、およびタイトル2の表示言語（フォント）を選択する
Select USB Keyboard Language	ソフトウェアキーボード画面で使用するUSBキーボードの言語を選択する
Select Mouse Pointer Speed	ソフトウェアキーボード画面で使用するUSBマウスのポインター速度を次の中から選択する 5 Fast/4/3 Middle/2/1 Slow

Disc Menuを表示するには

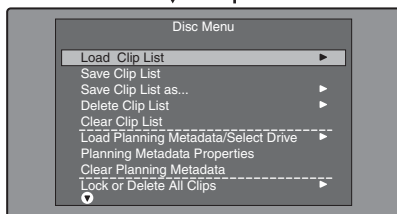
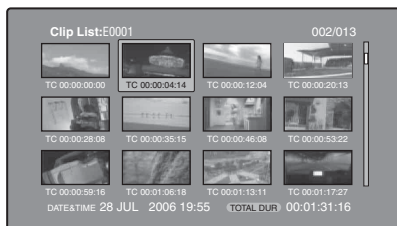
Disc Menuを表示するには、次のいずれかの画面で、SHIFTボタンを押したままSUB CLIP/DISC MENUボタンを押します。

- クリップサムネイル画面
- クリップリストサムネイル画面
- クリップ再生画面
- クリップリスト再生画面

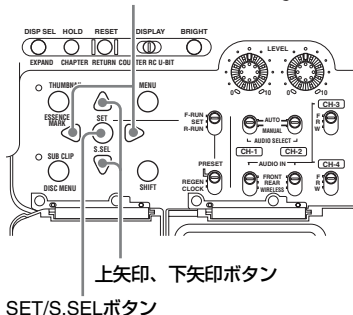
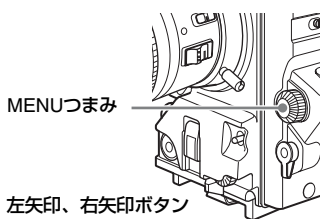
元の画面に戻るには、RESET/RETURNボタンを押します。



クリップリストサムネイル画面



GUI画面の操作



項目を選択するには

サムネイル、メニュー項目、タイムコードの桁、その他の項目を選択するには、次のいずれかを実行します。

- MENUつまみを回す。
- 上矢印、下矢印、左矢印、または右矢印ボタンを押す。
- PREVまたはNEXTボタンを押す。
- SHIFTボタンを押したまま、PREVまたはNEXTボタンを押す（先頭または最後の項目に移動する）。
- F REVボタンを押したままPREVボタンを押す、またはF FWDボタンを押したままNEXTボタンを押す（先頭または最後の項目に移動する）。
- SHIFTボタンを押したまま、上矢印または下矢印ボタンを押す（1つ前または次のページに切り替わる）。
- F REVまたはF FWDボタンを押す（1つ前または次のページに切り替わる）。

複数のサムネイルを選択するには

次のいずれかを実行します。

- SHIFTボタンを押したまま、MENUつまみを回す。
- SHIFTボタンを押したまま、左矢印または右矢印ボタンを押す。

1つ前の画面に戻るには

RESET/RETURNボタンを押します。

メニュー階層間を移動するには

▶または◀が表示されているメニュー項目は、右矢印または左矢印ボタンを使用して階層間を移動できます。

隠れている文字列を表示するには

▶または◀が表示されている項目は、右矢印または左矢印ボタンを使用して1文字ずつスクロールすることができます。上矢印または下矢印ボタンを押すと、文字列の先頭または最後が表示されます。

数値を増減するには

次のいずれかを実行します。

- 上矢印または下矢印ボタンを押す。
- MENUつまみを回す。

選択を確定するには

SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

サムネイル操作

サムネイル画面を使って、クリップの検索や情報の表示、保護や削除など、さまざまなクリップの操作を視覚的に確認しながら行うことができます。

サムネイルを選択する

現在選択されているサムネイルは、サムネイル選択枠（123ページ参照）に囲まれて表示されます。

サムネイル選択枠を移動するには

MENUつまみを回すか、または矢印ボタンを押します。

複数のサムネイルをスキップして移動するには（スキップスクロール機能）

エクスパンドサムネイル画面のようにサムネイルの数が多いときは、スキップスクロール機能を使うと目的のサムネイルの位置にすばやく移動することができます。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップサムネイル画面またはエクスパンドサムネイル画面などでThumbnail Menuを表示する。

2 Skip Scroll（スキップスクロール）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

現在選択されているサムネイルが、全体のどの位置にあるかを表す吹き出しがスクロールバーに表示されます。



3 MENUつまみを回すか、または上下矢印ボタンを押す。

現在の位置が、サムネイル総数の $\frac{1}{10}$ 単位で移動します。

4 移動したい位置でSET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

吹き出しに表示された現在の位置のサムネイルを含むサムネイル画面¹⁾が表示されます。

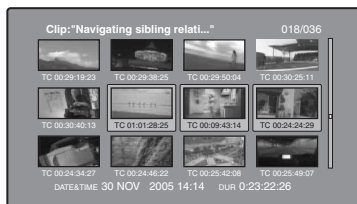


1)図はエクスパンドサムネイル画面

複数のサムネイルを選択するには

選択したいサムネイルの先頭にサムネイル選択枠を移動した状態で、SHIFTボタンを押したまま、MENUつまみを回すか、または右矢印ボタンを押します。

SHIFTボタンを押さずに選択枠を移動すると、複数選択は解除されます。



サムネイル検索を行う

各サムネイル画面に表示されるサムネイルを使って、クリップやサブクリップの頭出し、および再生を簡単に行うことができます。

クリップのサムネイルを使って検索するには

クリップサムネイル画面には、ディスクに記録されているすべてのクリップのサムネイルが表示されます。この画面では、選択したクリップの頭出し、または再生を行うことができます(133ページ参照)。

◆サムネイルの選択方法については、(129ページ参照)をご覧ください。

エクスパンド機能を使って検索するには

エクスパンド機能を使うと、選択したクリップを時間で等間隔に分割して一覧表示することができます。この機能により、クリップの内容をすばやく把握して、目的のシーンを効率よく検索できます。12分割、144分割、1728分割の3種類の分割数を選択できます。



ご注意

記録時間が短いクリップをエクスパンドすると、最大分割数が1728以外に設定される場合があります。この場合には、エクスパンドされたサムネイルのフレーム間隔が1フレームに固定で表示されるため、等しい時間間隔でのエクスパンド表示を見ることができます。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面で目的のシーンが含まれているクリップのサムネイルを選択する。
- 2 DISP SEL/EXPANDボタンを押す。選択したクリップが12分割され、各ブロックの先頭フレームがサムネイルとしてエクスパンドサムネイル画面（123ページ参照）に一覧表示されます。
- 3 さらに分割したいクリップのサムネイルを選択する。
- 4 必要に応じて、手順2と3をあと2回まで繰り返す。

ご注意

分割されたサムネイルのデュレーションが1フレームになると、それ以上分割することはできません。

1段階前のエクスパンドサムネイル画面に戻すには

SHIFTボタンを押したままDISP SEL/EXPANDボタンを押します。

前後のクリップのエクスパンドサムネイル画面を表示するには

エクスパンドサムネイル画面を表示させたまま、PREVボタンまたはNEXTボタンを押します。

チャプター機能を使って検索するには

ショットマーク、またはRec Startなどの任意のエッセンスマークで区切られた部分をチャプターと呼びます。

Rec Startエッセンスマークは記録開始時に自動的に設定されますが、ショットマークは記録時および再生中に任意のシーンに設定することができます。

チャプター機能により、クリップのチャプターをサムネイル表示することができます。

◆ショットマークの設定方法については、93ページをご覧ください。

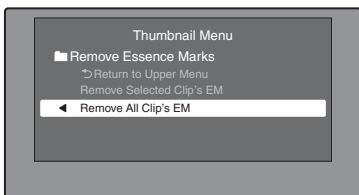
◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面でチャプターが設定されているクリップのサムネイルを選択する。
チャプターが設定されたクリップのサムネイルには「S」マークが表示されています。
- 2 HOLD/CHAPTERボタンを押す。
チャプターサムネイル画面（124ページ参照）が表示され、チャプターが設定されている位置のフレームがサムネイル表示されます。
サムネイル上に表示される「S1」、「S2」、「RS」はそれぞれShot Mark1、Shot Mark2、Rec Start（記録開始）エッセンスマークが設定されたフレームであることを示します。

チャプター位置のショットマークを削除するには

チャプターサムネイル画面でチャプター位置のショットマーク（Shot Mark0～9）を削除することができます。（Rec Startは削除できません。）

- 1 Thumbnail Menuを表示する。
- 2 Remove Essence Marks（エッセンスマークの削除）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Remove Essence Marks画面が表示されます。

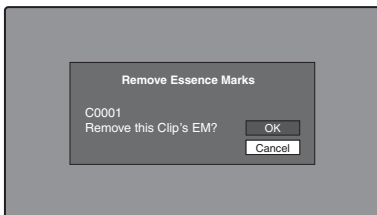


選択したクリップのエッセンスマークを削除するには

- 1 Thumbnail MenuでRemove Selected Clip's EMを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

削除を実行するかどうか確認するメッセージが表示されます。

選択したクリップがロックされている場合、または削除できるエッセンスマークが無い場合は操作できません。

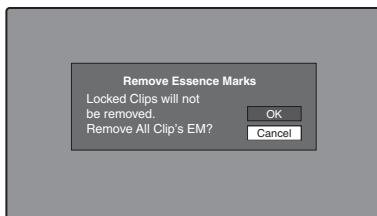


- 2 削除を実行する場合は「OK」を、削除を中止するときは「Cancel」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

すべてのクリップのエッセンスマークを削除するには

- 1 Thumbnail MenuでRemove All Clip's EMを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

削除を実行するかどうか確認するメッセージが表示されます。

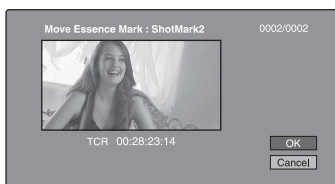


- 2 削除を実行する場合は「OK」を、削除を中止するときは「Cancel」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

チャプター位置のショットマークの位置を修正するには

チャプターサムネイル画面でチャプター位置のショットマーク（Shot Mark0～9）の位置を修正することができます。（Rec Startエッセンスマークの位置は修正できません。）

- 1 チャプターサムネイル画面で修正したいショットマーク位置のサムネイルを選択する。
- 2 Thumbnail Menuを表示する。
- 3 Move Essence Mark（エッセンスマークの移動）を選択する。
Move Essence Mark画面が表示されます。



この画面では、再生やサーチが可能です。

- 4 PLAY/PAUSEボタンやF REV/F FWDボタンを使用して、希望のフレームを表示する。
MENUつまみを回してジヨグ再生を行うこともできます。

5 「OK」を選択し、SET/S.SELボタン またはMENUつまみを押す。

チャプターを含む前後のクリップの チャプターサムネイル画面を表示する には

チャプターサムネイル画面を表示させたまま、PREVボタンまたはNEXTボタンを押します。

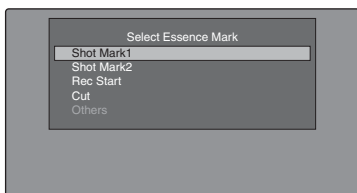
チャプターが設定されているクリップを、前後のクリップから検索して表示します。

エッセンスマークを使って検索する には

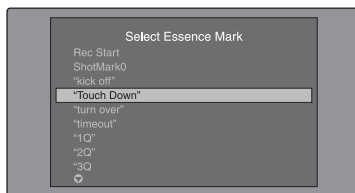
- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップ再生画面またはクリップサム ネイル画面で、SHIFTボタンを押した ままTHUMBNAIL/ESSENCE MARK ボタンを押す。

Select Essence Mark（エッセンスマーク選択）画面が表示されます。ディスクに記録されていないエッセンスマーク名は灰色で表示されます。



ユーザー定義によるエッセンスマークが記述されたプランニングメタデータが読み込まれているとユーザー定義されたエッセンスマークを選択することができます（155ページ参照）。



2 希望のエッセンスマークを選択し、 SET/S.SELボタンまたはMENUつま みを押す。

選択したエッセンスマークが設定されているフレームが、エッセンスマークサムネイル画面（124ページ参照）に一覧表示されます。

Rec Startエッセンスマークサムネイル 画面を直接表示するには

あらかじめMAINTENANCEメニューのESSENCE MARKページでFIND MODEを「R.ST」に設定しておきます。

Rec Startエッセンスマークサムネイル画面を表示しているとき、THUMBNAIL/ESSENCE MARKボタンを押すごとにクリップ再生画面との間で画面が切り替わります（レジューム機能）。この設定は、クリップコンティニユアスレック機能で記録されたクリップの記録開始点を確認するときのショートカット操作として利用できません。

Rec Startエッセンスマークサムネイル画面からクリップサムネイル画面に戻るには、RESET/RETURNボタンを押します。クリップ再生画面では、PREVまたはNEXTボタンを押すと、記録開始点が設定されているフレームにキューアップします。

検索したサムネイルを再生する

前項「サムネイルサーチを行う」（130ページ）で説明した、さまざまな方法で検索したサムネイルの頭出しや再生ができます。

検索したサムネイルの位置を頭出しするには

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 頭出ししたいサムネイルを選択する。



2 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

SET/S.SELボタンを押した場合の再生方法を変更するには

Disc MenuのSettings > SET Key on Thumbnailを「Cue up & Play」に設定すると、SET/S.SELボタンを押したときもPLAY/PAUSEボタンを押したときと同様に、選択したフレーム位置から再生を開始することができます。

検索したサムネイルの位置から再生するには

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 再生したいサムネイルを選択する。

2 PLAY/PAUSEボタンを押す。



クリップを選別する（クリップフィルタリング機能）

ディスク内に記録されたクリップを、特定の条件で選別することができます（クリップフィルタリング機能）。たとえば、次のような操作を行うことができます。

- 映像フォーマットの異なるクリップが記録されているディスクから、同じ映像フォーマットのクリップだけを選び出して連続再生する。
- クリップフラグとして「NG」が設定されたクリップだけを選び出して一括削除する。
- プランニングメタデータによる取材指示に基づいて記録されたクリップを選び出し、ダイレクトFTP機能を使用して外部機器に転送する（159ページ参照）。

クリップを選別するには

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

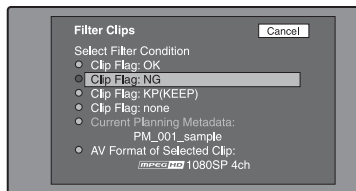
1 クリップサムネイル画面を表示する。

2 映像フォーマットによってクリップを選別する場合は、該当するクリップのサムネイルを選択しておく。

3 Thumbnail Menuを表示する。

4 Filter Clips（クリップの選別）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Filter Clips画面が表示されます。



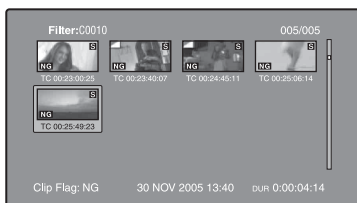
5 クリップの選別条件を選択する。

項目名	選別条件
Clip Flag: OK	クリップに設定されているクリップフラグ (OK/
Clip Flag: NG	NG/KP(KEEP)/なし)
Clip Flag: KP(KEEP)	
Clip Flag: none	
Current Planning Metadata	現在読み込まれているプランニングメタデータの取材指示に基づいて記録されたクリップ
AV Format of Selected Clip	選択されているクリップの映像フォーマット

6 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

選択した条件によって選別されたクリップだけが、フィルターサムネイル画面に表示されます。

また、選別条件が画面の左下に表示されます。



7 条件をさらに指定してクリップを絞り込む場合は、手順2~6を繰り返す。(手順4で選択するコマンド名は、Filter Clips(Narrowing) (クリップの選別 (絞り込み)) に変わります。)

選別されたクリップを連続再生するには

選別されたクリップを自動的に生成されるクリップリストに登録し、このクリップリストを再生します。

- 1 フィルターサムネイル画面で Thumbnail Menuを表示する。
- 2 Copy to Clip List (クリップリストにコピー) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

選別されたクリップがクリップリストに登録され、クリップリストサムネイル画面に表示されます。



- 3 PLAY/PAUSEボタンを押す。
クリップリスト再生画面に切り替わり、再生が始まります。

フィルタリング結果に対する各種の操作

フィルターサムネイル画面のThumbnail Menuから、次の機能を実行することができます。

項目名	機能
Clip Information	サムネイルの下部に表示されるクリップ情報を選択する
Lock or Delete All Filtered Clips >Lock All Filtered Clips	選別されたすべてのクリップをロック (保護) する
Lock or Delete All Filtered Clips >Unlock All Filtered Clips	選別されたすべてのクリップをアンロック (保護解除) する
Lock or Delete All Filtered Clips >Delete All Filtered Clips	選別されたすべてのクリップを削除する
Filter Clips(Narrowing)	フィルタリング結果をさらに絞り込む
Copy to Clip List	選別されたすべてのクリップを新規クリップリストにコピーする
Upload Clips via Direct FTP	選別されたすべてのクリップを外部機器にネットワーク転送する

クリップの選別条件をTitle2として表示するには

Copy to Clip Listコマンドで作成したクリップリストのTitle2として、クリップの選別条件を表示することができます。

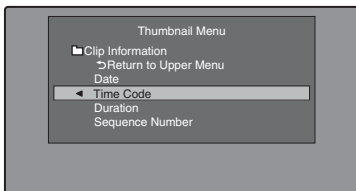
あらかじめDisc MenuのSettings > Display Titleを「On: Title2 {title2}」に設定しておく、Load Clip List画面などで自動的にクリップの選別条件が表示されます。

サムネイルの表示情報を切り換える

サムネイル画面の各サムネイルの下部に表示される情報を切り換えることができます。

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面でThumbnail Menuを表示する。
- 2 Clip Information (クリップ情報) を選択する。
表示情報の選択画面が表示されます。



- 3 表示したい項目を選択する。
Return to Upper Menu : Thumbnail Menuに戻る
Date : 作成日時または最終変更日時
Time Code : 先頭タイムコード
Duration : 再生時間
Sequence Number : サムネイルの連番

サムネイル画面を表示したときに、設定した項目の情報が各サムネイルの下部に表示されます。

クリップの代表画を変更する

クリップサムネイル画面では、サムネイルとしてクリップの「代表画」が表示されます。通常は、クリップの先頭のフレームが代表画として表示されますが、クリップの任意の画像を代表画に設定することもできます。

ご注意

代表画を変更できるのはクリップサムネイル画面に限られます。クリップリストサムネイル画面、エクスパンドサムネイル画面、チャプターサムネイル画面などでは、そこで表示されるサムネイルを変更することはできません。

画像を確認しながらクリップの代表画を選択するには

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面で代表画を変更するクリップを選択する。
- 2 Thumbnail Menuを表示する。
- 3 Select Index Picture (代表画の選択) を選択する。
Select Index画面が表示されます。



この画面では再生やサーチが可能です。

- 4 PLAY/PAUSEボタンやF REV/F FWDボタンを使用して、希望のフレームを表示する。
MENUつまみを回してジョグ操作を行うこともできます
- 5 上矢印ボタンで「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

エクスパンド機能/チャプター機能を使ってクリップの代表画を選択するには

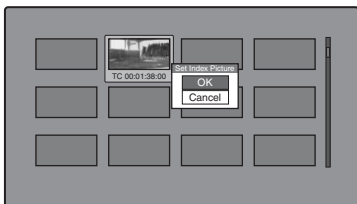
エクスパンド機能（130ページ参照）やチャプター機能（131ページ参照）を使って検索したフレームを、クリップの代表画に設定することができます。

ここでは、エクスパンドサムネイル画面からの操作方法について説明します。

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 エクスパンドサムネイル画面で代表画に設定するサムネイルを選択する。
- 2 Thumbnail Menuを表示する。
- 3 Set Index Picture（代表画の設定）を選択する。

代表画に設定するかどうかを確認する画面が表示されます。



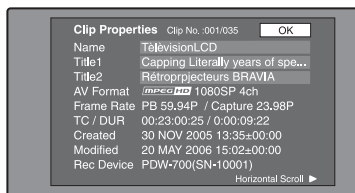
- 4 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
RESET/RETURNボタンを押してクリップサムネイル画面に戻ると、設定したフレームが代表画として表示されていることが確認できます。

クリップ情報を確認する

タイトルやタイムコード、デュレーション、作成日時、最終修正日時などの詳細情報を確認することができます。

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面でThumbnail Menuを表示する。
- 2 Clip Properties（クリップのプロパティ）を選択する。
Clip Properties画面が表示されます。



Clip No. : クリップ番号/クリップ総数

Name : クリップ名¹⁾

Title1 : タイトル1

Title2 : タイトル2¹⁾

AV Format : 記録フォーマット

Frame Rate : 撮影時のフレームレート。

TC/DUR : 先頭タイムコード/記録時間

Created : 作成日時

Modified : 最終修正日時

Rec Device : クリップを作成した機器の製品名（製品番号）

- 1)本機の使用地域が「NTSC(J)AREA」（日本国内用）に設定されているときは、日本語で表示することができます。

隠れている文字列を表示するには

▶または◀が表示されている項目は、右矢印または左矢印ボタンを押すと1文字ずつスクロールします。

上矢印または下矢印ボタンを押すと、文字列の先頭または最後が表示されます。

前後のクリップ情報を見るには

PREVまたはNEXTボタンを押します。

クリップサムネイル画面に戻るには

SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

クリップ情報を編集するには

クリップ名¹⁾、タイトル1、およびタイトル2は、ソフトウェアキーボードを使用して編集することができます。

1) OPERATIONメニューのFILE NAMINGページで、NAMING FORMがFREEに設定されている必要があります (181ページ参照)。

ご注意

- 入力できる文字は、ソフトウェアキーボードに表示される英数字、記号、および本バージョンでサポートしているフォントの文字だけです。漢字などを入力することはできません。
- 各項目で規定されている文字数を超えて入力することはできません。
- クリップ名においては、使用が禁止されている記号のキーは無効になります。

◆ GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 Clip Properties画面でMENUつまみを回し、編集したい項目 (Name、Title1¹⁾、またはTitle2) を選択する。

1) Title1にはASCII文字のみが使用可能です。

2 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

選択した項目に応じた編集画面が表示されます。

(使用地域の設定がNTSC AREA/PAL AREAのときはDisc MenuのSettings > Select Fontの設定に応じた言語のキーボード、NTSC(J)AREAのときは日本語キーボードが表示されます。)



3 エディットボックス内の文字列を編集する。

文字を入力するには

矢印ボタンを使用するかMENUつまみを回してキーを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

特殊キーの働き

キー	働き
◀、▶	カーソルを1文字前または後ろに移動する
⬅、➡	カーソルを先頭または最後に移動する
Back Space	カーソルの前の文字を削除する
CapsLock	Shiftキーが押された状態に固定し、英大文字や他の記号の入力を可能にする
⇄Shift	英大文字や他の記号の入力を可能にする。1文字入力後、解除される

4 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Clip Properties画面に戻り、編集結果がクリップ情報に反映されます。

USBキーボードやUSBマウスを使って文字を入力するには

USB端子 (35ページ参照) にWindows用USBキーボードやWindows用USBマウスを接続すると¹⁾、ソフトウェアキーボードと併用して文字を入力することができます。使用地域の設定がNTSC(J)AREAのときは日本語キーボードを接続してください。²⁾ 使用地域の設定がNTSC AREA/PAL AREAのときはDisc MenuのSettings > Select Fontの設定に応じた言語のキーボードを接続してください。

1) USBキーボード、USBマウスによっては、「Unknown USB」のアラームが表示され、使用できない場合があります。

2) 日本語キーボードからはASCII文字のみが入力可能です。

クリップ名、クリップリスト名、およびタイトル2の表示言語 (フォント) を変更するには : Disc MenuのSettings > Select Fontで次の中から希望の言語 (フォント) を選択します。

- European Alphabet (ヨーロッパ言語) : キーボードの言語は、Disc

MenuのSettings >USB Keyboard Languageで任意の言語を選択できます（次項参照）。

- Korean（韓国語）：自動的に韓国語キーボードが選択されます。韓国語仕様のUSBキーボードを接続すると、ハングル文字の入力が可能です。
- Simplified Chinese（簡体字中国語）：自動的にEnglish [United States]と同じ配列のキーボードが選択されます。ASCII文字のみが入力可能です。
- Traditional Chinese（繁体字中国語）：自動的にEnglish [United States]と同じ配列のキーボードが選択されます。ASCII文字のみが入力可能です。

キーボードの言語を変更するには：Disc

MenuのSettings >Select USB Keyboard Languageで次の中から希望の言語を選択します。

- English [United Kingdom]
- English [United States]
- French [France]
- German [Germany]
- Italian [Italy]
- Polish (Programmers) [Poland]
- Russian [Russia]
- Spanish [Spain]

- ◆ 各言語で入力できる文字については、「使用可能なUSBキーボード一覧」（277ページ）をご覧ください。

ご注意

次の場合、キーボードの言語を変更することはできません。

- 使用地域の設定がNTSC(J)AREAのとき
- 使用地域の設定がNTSC AREA/PAL AREAで、かつDisc MenuのSettings >Select Fontで「Korean」、「Simplified Chinese」、または「Traditional Chinese」が選択されているとき

USBキーボードが正しく認識され、本機での使用が有効になると、ソフトウェアキーボード上のキーボードアイコンがハイライト表示されます。また、USBマウスが有効になると、ソフトウェアキーボード上のマ

ウスアイコンがハイライト表示され、マウスポインターが表示されます。



ご注意

- 使用地域の設定に合わせたUSBキーボードを使用してください。使用地域の設定と異なるキーボードを使うと、一部の文字が正しく入力できません。
- 日本語キーボードを使用しても、日本語の入力はできません。

USBキーボードの特殊キーの働き

ソフトウェアキーボードの特殊キーに加え、USBキーボードでは、次の特殊キーが使用できます。

キー	働き
↑、↓	エディットボックスにカーソルがあるとき：カーソルを先頭または最後に移動する 「OK」または「Cancel」にフォーカスがあるとき：「OK」と「Cancel」の間でフォーカスを移動する
Delete	カーソルの後の文字を削除する
Shift+←、Shift+→	カーソルの前の文字列または後の文字列を選択する
Ctrl+C、X、V、A、Z	Ctrl+C ：選択されている文字列をコピーする Ctrl+X ：選択されている文字列を切り取る Ctrl+V ：コピーされた文字列、または切り取られた文字列を貼り付ける Ctrl+A ：すべての文字列を選択する Ctrl+Z ：直前の操作を取り消す
Enter	エディットボックスにカーソルがあるとき：「OK」にフォーカスを移動する 「OK」または「Cancel」にフォーカスがあるとき：ソフトウェアキーボードを終了する
Esc	エディットボックスにカーソルがあるとき、「Cancel」にフォーカスを移動する
Tab	「OK」と「Cancel」の間でフォーカスを移動する

USBマウスの働き

ソフトウェアキーボード上でマウスカーソルを移動させ、入力したいキーの上で左クリックすると、文字が入力できます。

マウスポインターの速度を変更するには：

Disc MenuのSettings > Select Mouse Pointer Speedで希望の速度を選択します。接続したマウスに合わせて調整してください。

USBキーボードからソフトウェアキーボードを終了するには

1 エディットボックスにカーソルがある状態で、Enterキーを押して「OK」にフォーカスを移動する。

2 次のいずれかを実行する。

編集を確定してソフトウェアキーボードを終了するには：「OK」が選択された状態でEnterキーを押す。

編集を破棄してソフトウェアキーボードを終了するには：USBキーボードの]キー、またはTabキーを押して「Cancel」に移動し、Enterキーを押す。

編集を続けるには：Enterキー、Escキー、およびTabキー以外のキーを押す。

クリップフラグを設定する

記録中または再生中のクリップに対して、3種類のクリップフラグ（OK/NG/KP（KEEP））を設定することができます。各クリップにクリップフラグを設定しておくことで、編集などを行うときに、必要なクリップを容易に選択できるようになります。

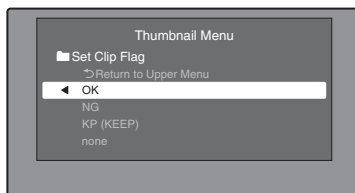
◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップサムネイル画面でクリップフラグを設定したいクリップのサムネイルを選択する。

2 Thumbnail Menuを表示する。

3 Set Clip Flag（クリップフラグの設定）を選択する。

クリップフラグの設定画面が表示されます。



4 設定したいクリップフラグ（OK/NG/KP（KEEP））を選択する。

クリップフラグを設定したクリップのサムネイルにクリップフラグアイコン（122ページ参照）が表示されます。

クリップフラグの設定を解除するにはクリップフラグが設定されているクリップに対して手順1～3を実行し、手順4で「none」を選択します。

◆クリップフラグの設定および解除をスイッチで行うこともできます。詳しくは、「クリップフラグをスイッチで設定する」（93ページ）をご覧ください。

クリップをロック（保護）する

サムネイル画面では、選択したクリップが削除、変更されないようにロックすることができます。

以下の操作からクリップを保護します。

- 削除
- FTP経由での名前の変更
- 代表画の設定
- ショットマークの追加・削除
- クリップフラグの設定・解除

ご注意

- ディスクをフォーマットすると、ロックしたクリップも削除されます。
- ディスクの記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されている場合は、クリップをロックアンロック（ロックを解除）することはできません。

クリップをロックするには

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面でロックしたいクリップのサムネイルを選択する。
- 2 Thumbnail Menuを表示する。
- 3 Lock/Unlock Clip（クリップのロック/解除）を選択する。
- 4 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
ロックしたクリップのサムネイルに錠前アイコン（122ページ参照）が表示されます。

手順1の状態では、SHIFTボタンを押したままSTOPボタンを押してショートカット操作を行うこともできます。

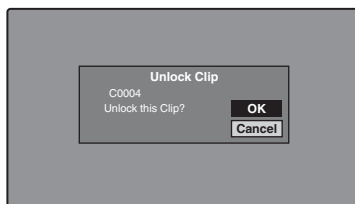
すべてのクリップをロックするには

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Lock or Delete All Clips（全クリップのロックまたは削除）を選択し、Lock All Clips（全クリップのロック）を選択する。
すべてのクリップをロックするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 実行する場合は「OK」を、中止するときは「Cancel」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

クリップのロックを解除するには

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップサムネイル画面でロックを解除したいクリップのサムネイルを選択する。
- 2 Thumbnail Menuを表示する。
- 3 Lock/Unlock Clip（クリップのロック/解除）を選択する。
ロックの解除を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



- 4 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

手順1の状態では、SHIFTボタンを押したままSTOPボタンを押してショートカット操作を行うこともできます。

すべてのクリップのロックを解除するには

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Lock or Delete All Clips（全クリップのロックまたは削除）を選択し、Unlock All Clips（全クリップのロックの解除）を選択する。
すべてのクリップのロックを解除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 実行する場合は「OK」を、中止するときは「Cancel」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

クリップを削除する

内容を確認しながら任意のクリップを削除することができます。

ご注意

- ディスクの記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されている場合は、クリップを削除することはできません。
- ロックされているクリップは削除されません。
- 削除対象のクリップがクリップリストから参照されているときは、そのクリップリストも削除されます。
- 削除対象クリップがカレントクリップリストから参照されている場合には、参照しているサブクリップのみが同時に削除されます。

- ◆ サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップサムネイル画面で削除したいクリップのサムネイルを選択する。

2 Thumbnail Menuを表示する。

3 Delete Clip (クリップの削除) を選択する。

削除確認画面が表示され、削除対象となるクリップ内の4枚のフレーム（先頭フレーム、中間フレーム1、中間フレーム2、最終フレーム）がサムネイル表示されます。同時に、クリップ名、タイトル1、作成日時、デュレーションが表示されます。

また、クリップがクリップリストから参照されているかどうかによって、次のメッセージが表示されます。

クリップリストから参照されていないとき：「Delete Clip」

クリップリストから参照されているとき：「Delete Clip & Clip List」（削除対象のクリップを参照しているすべてのクリップリストも同時に削除されます。）



4 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。 選択したクリップが削除され、クリップサムネイル画面に戻ります。

手順1の状態では、SHIFTボタンを押したままRESET/RETURNボタンを押してショートカット操作を行うこともできます。

すべてのクリップを削除するには

1 Disc Menuを表示する。

2 Lock or Delete All Clips (全クリップのロックまたは削除) を選択し、Delete All Clips (全クリップの削除) を選択する。

すべてのクリップを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 実行する場合は「OK」を、中止するときは「Cancel」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

ご注意

ロックされているクリップは削除されません。

シーンセクション (クリップリスト編集)

シーンセクションとは

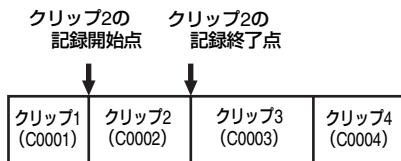
シーンセクションとは、ディスクに記録されている素材(クリップ)から必要な素材を選び、カット編集する機能です。本機のみで行うことができます。

- シーンセクション機能は、収録現場などのオフライン環境でカット編集を行うのに便利です。
- シーンセクションではクリップリスト(編集データ)を作成します。素材そのものに手を加えないので、何度でもやり直しをすることができます。
- シーンセクションで作成した編集リストは、本機上で再生することができます。
- シーンセクション機能では、クリップ単位の追加、クリップの一部の追加、チャプターを使った追加、再生順序の入れ換え、IN点、OUT点の修正、削除などの操作を、本機上で簡単に行うことができます。
- シーンセクション機能を使って作成されたクリップリスト(編集データ)は、本格的なノンリニア編集システム(XPRIなど)でも利用できます。

クリップのしくみ

本機を使ってディスクに記録された素材は、「クリップ」と呼ばれる単位で管理されます。記録開始点から記録終了点までが1つのクリップとなります。

クリップは、C0001のようにCで始まる番号で管理されます。



- ◆ クリップ番号の代わりに、クリップにタイトルを付けて管理することもできます。詳しくは、「記録時にクリップに自動でタイトルを付ける」(103ページ)をご覧ください。

クリップリストのしくみ

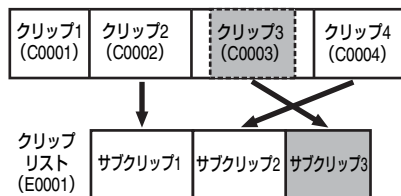
シーンセクション機能を使い、ディスクに保存されたクリップから希望のクリップを選べると、「クリップリスト」と呼ばれるデータが作成されます。

クリップリストはE0001のようにEで始まる番号で管理され、ディスクに99個まで保存できます。

サブクリップ(クリップリストの中のクリップ)のしくみ

クリップリストで指定されたクリップ(またはクリップの一部)は、「サブクリップ」と呼ばれます。サブクリップは、元のクリップデータを書き換えず、使用するクリップの範囲を指定した仮想の編集データです。クリップとサブクリップの関係を次図に示します。

ディスク上のクリップ



上記の例では、サブクリップ1としてクリップ2の全体が、サブクリップ2としてクリップ4の全体が指定されています。

サブクリップ3は、クリップ3の一部分を切り出しています。したがって、クリップリストE0001を再生すると、クリップ2の後にクリップ4が再生され、その次にはクリップ3のグレーの部分のみが再生されます。

クリップリストの編集のしくみ (カレントクリップリスト)

ディスク上のクリップリストを編集するには、対象のクリップリストをディスクから本機のメモリーに読み込む必要があります。本機のメモリーに読み込まれたクリップリストは、「カレントクリップリスト」と呼ばれます。

サブクリップの追加・編集やクリップリストの再生は、常に本機のメモリー上（カレントクリップリスト）で行われます。作成・編集されたクリップリストは、ディスクに保存する必要があります。

本機のメモリー

カレントクリップリスト編集
(サブクリップの追加/削除、
順序の入れ換えなど)が可能

→ クリップリスト再生やサムネール表示

SAVE (保存) ↓ ↑ LOAD (読み込み)

ディスク



C0001 (クリップ1)	E0001 (クリップリスト1)
C0002 (クリップ2)	E0002 (クリップリスト2)
C0003 (クリップ3)	E0003 (クリップリスト3)
⋮	⋮
⋮	⋮
	E0099 (クリップリスト99)

クリップリストの再生のしくみ

クリップとクリップリストは、一緒にディスクに保存されています。

ディスクを本機に挿入し、再生したいクリップリストを読み出してPLAY/PAUSEボタンを押すと、クリップは、クリップリストデータにしたがって再生されます。

クリップリストを作成/編集する

シーンセレクション機能によるクリップリストの作成/編集の操作手順は次のとおりです。

(太枠内は必ず実行しなければならない操作です。それ以外の操作は、必要に応じて実行してください。)

1	<p>サブクリップを追加する：Add Sub Clipsコマンドにより、使いたいシーンをクリップリストに追加します。1つのクリップリストには最大300個のサブクリップを追加することができます。この操作は、以下のサムネール画面で実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クリップサムネール画面 • エクスバンドサムネール画面 • チャプターサムネール画面 • クリップリストサムネール画面
2	<p>サブクリップの順番を入れ換える：Move Sub Clipsコマンドにより、クリップリスト上のサブクリップの順番を入れ換えます。</p> <p>サブクリップを削除する：Delete Sub Clipsコマンドにより、クリップリスト上の任意のサブクリップを削除します。</p> <p>サブクリップをトリミングする：Trim Sub Clipコマンドにより、各サブクリップのIN点、OUT点を調整します。この機能を使って、クリップリスト全体のデューレーションを調整することもできます。</p> <p>先頭タイムコードを設定する：Set Start Time Codeコマンドにより、クリップリストの先頭タイムコードを設定します。</p>
3	<p>クリップリストを再生する：PLAYボタンなどを操作してクリップリストを再生し、編集内容を確認します。</p>
4	<p>クリップリストを保存する：Save Clip ListまたはSave Clip List as...コマンドにより、作成したクリップリストをディスクに保存します。</p>

ディスク上のクリップリストを再編集するには

Load Clip Listコマンドで編集したいクリップリストを読み込み、前記の操作項目2~4を実行します。

このほかに、ディスク上のクリップリストを削除したりすることもできます。

◆詳しくは、「クリップリストを管理する」(150ページ)をご覧ください。

ご注意

ディスクの記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されている場合でも、クリップリストの作成/編集操作を行うことができます。ただし、クリップリストの保存が必要な場合は、ディスクをあらかじめ記録可能な状態に設定してから、クリップリストの作成/編集操作を行ってください。

サブクリップを追加するには

サブクリップをクリップリストに追加する操作は、クリップサムネイル画面およびクリップリストサムネイル画面のどちらからでも実行できます。ただし、クリップリストの編集はクリップリストサムネイル画面で行います。

クリップサムネイル画面から追加する場合

エキスパンドサムネイル画面、およびチャプターサムネイル画面からも同様に操作できます。エキスパンドサムネイル画面からは、分割表示したクリップをサブクリップとして追加できます。また、チャプターサムネイル画面からは、チャプターをサブクリップとして追加することができます。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップサムネイル画面でサブクリップとして追加するクリップを選択する(複数選択可能)。

2 Thumbnail Menuを表示する。

3 Add Sub Clips (サブクリップの追加)を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Add Sub Clip画面が表示されます。この画面の上部には、手順1で選択したクリップが表示され、下部(Scene Selectionウィンドウ)にはクリップリストの内容が表示されます。Scene Selectionウィンドウに表示されているI型カーソルは、現在選択されているサ

ブクリップが追加される位置を示します。



選択しているクリップの追加後の合計デュレーションを表示するにはSHIFTボタンを押します。

4 Scene SelectionウィンドウでI型カーソルを移動し、クリップを追加する位置を決める。(I型カーソルを中心にしてサムネイルが移動する。)

5 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Scene Selectionウィンドウに、選択したクリップがサブクリップとして追加され、サムネイル上に「+」マークが表示されます。

追加結果を確認するにはカーソルを移動します。

6 RESET/RETURNボタンを押す。クリップサムネイル画面に戻ります。

7 手順1~6を繰り返し、必要なだけクリップを追加する。

8 クリップリストを保存する(149ページ参照)。

手順1の状態では、SHIFTボタンを押したままSET/S.SELボタンを押してショートカット操作を行うこともできます。また、手順5の状態ではDisc MenuのSave Clip List(クリップリストの上書き保存)を実行しても、クリップリストを保存することができます。

クリップリストサムネイル画面から追加する場合

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Thumbnail Menuを表示する。
- 2 Add Sub Clips (サブクリップの追加) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Clip List (Add)画面が表示されます。



- 3 追加したいサブクリップを画面の上部 (サムネイルが8個表示されている部分) から選択する (複数選択可能)。

分割表示したサムネイルから選択するには
DISP SEL/EXPANDボタンを押して、エクスパンドサムネイル画面を表示します。

チャプター表示したサムネイルから選択するには
HOLD/CHAPTERボタンを押して、チャプターサムネイル画面を表示します。

- 4 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

サムネイルの選択が確定し、Clip List (Add)画面の下部 (Scene Selection ウィンドウ) にI型カーソルが表示されます。I型カーソルは、現在選択されているサブクリップが追加される位置を示します。

選択しているクリップの追加後の合計デュレーションを表示するには
SHIFTボタンを押します。

- 5 Scene SelectionウィンドウでI型カーソルを移動し、サブクリップを追加する位置を決める。(I型カーソルを中心にしてサムネイルが移動する。)

- 6 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
I型カーソルの位置にサブクリップが追加され、クリップリストサムネイル画面に戻ります。
サブクリップの追加結果を確認することができます。
- 7 手順1~6を繰り返し、必要なだけクリップを追加する。
- 8 クリップリストを保存する (149ページ参照)。

手順1の状態、SHIFTボタンを押したままSET/S.SELボタンを押してショートカット操作を行うこともできます。

サブクリップの順番を入れ換えるには

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面で移動したいサブクリップのサムネイルを選択する (複数選択可能)。
- 2 Thumbnail Menuを表示する。
- 3 Move Sub Clips (サブクリップの移動) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Clip List (Move)画面が表示されます。



- 4 選択されているサムネイルを移動したい位置にI型カーソルを移動する。
- 5 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

I型カーソルの位置にサブクリップが移動します。

6 必要に応じて手順1～5を繰り返す。

7 クリップリストを保存する (149ページ参照)。

サブクリップのIN点、OUT点の位置を調整するには (トリミング)

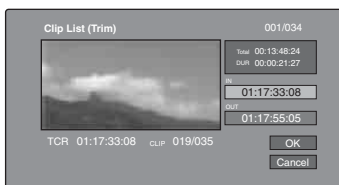
IN点およびOUT点を変更して希望のシーンの範囲を設定します。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップリストサムネイル画面でサムネイルを1つだけ選択する。

2 Thumbnail Menuを表示する。

3 Trim Sub Clip (サブクリップのトリミング) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Clip List (Trim)画面が表示されます。



この画面では、クリップ再生画面と同様に、ディスク内の全クリップの再生やサーチが可能です。

IN点およびOUT点に関する操作を一覧表示するには
MENUボタンを押します。

4 新たに開始点にしたい場面を探してから「IN」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
IN点のタイムコード表示部に変更後のタイムコードが表示され、Total (合計デュレーション)、DUR (デュレーション) が更新されます。

5 新たに終了点にしたい場面を探してから「OUT」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
OUT点のタイムコード表示部に変更後のタイムコードが表示され、Total (合計デュレーション)、DUR (デュレーション) が更新されます。

IN点またはOUT点の画像を頭出しするには

Thumbnail Menuを表示してCue up InpointまたはCue up Outpointを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

IN点またはOUT点の設定を解除するには

Thumbnail Menuを表示してReset InpointまたはReset Outpointを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。
IN点またはOUT点の設定が、変更前の値に戻ります。

6 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

7 必要に応じて手順1～6を繰り返す。

8 クリップリストを保存する (149ページ参照)。

サブクリップを削除するには

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

1 クリップリストサムネイル画面で削除したいサブクリップのサムネイルを選択する (複数選択可能)。

2 Thumbnail Menuを表示する。

3 Delete Sub Clips (サブクリップの削除) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
削除の実行を確認するメッセージが表示されます。

- 4 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 5 必要に応じて手順1~4を繰り返す。
- 6 クリップリストを保存する（149ページ参照）。

クリップリストを再生するには

ご注意

本機がシングルクリップ再生モード（90ページ参照）に設定されているときは、選択されているサブクリップのみが再生されます。

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

GUI画面を使って再生するには

- 1 クリップリストサムネイル画面で、再生を開始したいサブクリップのサムネイルを選択する。

クリップリストの先頭から再生を開始するには

先頭のサブクリップのサムネイルを選択します。

- 2 PLAY/PAUSEボタンを押す。

クリップリスト再生画面を使って再生するには

- 1 クリップリスト再生画面を表示する。
- 2 PREVボタンまたはNEXTボタンを押し、再生したいサブクリップを表示する。

先頭のサブクリップから再生を開始するには

SHIFT+PREVボタンを押して、先頭のサブクリップに移動します。

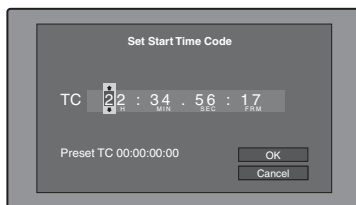
- 3 PLAY/PAUSEボタンを押す。

クリップリストの先頭タイムコードを変更するには

クリップリストのタイムコードには、クリップの元のタイムコードとは無関係な連続したタイムコードが使用されます。また、クリップリストの先頭タイムコード（LTC）は、初期状態では「00:00:00:00」に設定されていますが、任意の値を指定することができます。

- ◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面でThumbnail Menuを表示する。
- 2 Set Start Time Code（先頭タイムコードの設定）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Set Start Time Code画面が表示されます。



- 3 左矢印ボタンまたは右矢印ボタンを押して数値を変更したい桁を選択する。
- 4 MENUつまみを回して数値を変更する。
- 5 必要に応じて手順3と4を繰り返す。

タイムコードを「00:00:00:00」にリセットするには

Thumbnail MenuのReset to Zero（タイムコードをゼロにリセット）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

よく使うタイムコードをプリセットしておくには

Thumbnail MenuのSave Preset TC（タイムコードのプリセット値を保存）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。
手順3と4で設定したタイムコードがプリセットとして保存されます。

プリセットしたタイムコードを呼び出すには

Thumbnail MenuのRecall Preset TC（タイムコードのプリセット値を呼び出し）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

- 6 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
「OK」が選択されます。
- 7 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 8 クリップリストを保存する（149ページ参照）。

クリップリストを保存するには

クリップリスト名を指定して保存する場合

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面でDisc Menuを表示する。
- 2 Save Clip List as...（クリップリストに名前を付けて保存）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
クリップリストが一覧表示されます。



クリップリストの表示を切り換えるには

右矢印ボタンを押します。
押すごとに「短縮ファイル名+作成日時」→「短縮ファイル名+タイトル」→「ファイル名+短縮作成日時」→...の順に表示が切り替わります。

クリップリストを並べ換えるには

Disc MenuのSettings > Sort Clip List by...で次のいずれかの並べ換え方法を選択します。

Name (A-Z)：クリップリスト名の昇順

Date (Newest First)：クリップリストの作成日時が新しい順番

- 3 希望のクリップリストを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

上書き保存する場合

クリップリストサムネイル画面に表示されているクリップリスト名で上書きされます。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面でDisc Menuを表示する（128ページ参照）。
- 2 Save Clip List（クリップリストの上書き保存）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
クリップリストサムネイル画面に表示されているクリップリスト名が「(no name)」のときは、Save Clip List as...（クリップリストに名前を付けて保存）が実行されます。

ご注意

クリップリストが保存されていない状態でEJECTボタンを押すと、クリップリストの内容を破棄して操作を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。この場合は、メッセージにしたがって操作してください。

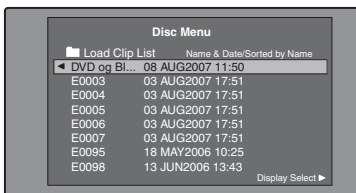
クリップリストを管理する

クリップリストを読み込むには

ディスクに保存されているクリップリストをカレントクリップリストとして本機のメモリーに読み込みます。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面でDisc Menuを表示する。
- 2 Load Clip List（クリップリストの読み込み）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
ディスクに保存されているクリップリストが一覧表示されます。



- 3 希望のクリップリストを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
ここで選択されたクリップリスト名がクリップリストサムネイル画面に表示されます。また、Disc MenuのSave Clip Listを実行すると、この名前でのクリップリストが保存されます。

クリップリストを新規に作成するには「New File」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

クリップリストをクリアするには

カレントクリップリストを本機のメモリーからクリアします。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

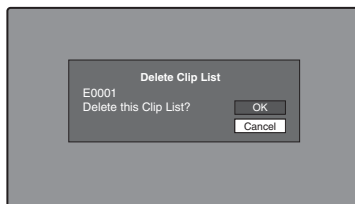
- 1 クリップリストサムネイル画面でDisc Menuを表示する。
- 2 Clear Clip List（クリップリストのクリア）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
クリアの実行を確認するメッセージが表示されます。
- 3 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
カレントクリップリストは名前が確定していない状態「(no name)」に戻ります。

クリップリストを削除するには

ディスクに保存されているクリップリストを削除します。

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面でDisc Menuを表示する。
- 2 Delete Clip List（クリップリストの削除）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
クリップリストが一覧表示されます。
- 3 削除したいクリップリストを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
削除の実行を確認するメッセージが表示されます。



- 4 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

クリップリストを並べ換えるには

◆サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 クリップリストサムネイル画面でDisc Menuを表示する。
- 2 Settings (設定) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 3 Sort Clip List by... (クリップリストの並べ換え) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 4 次のいずれかの並べ換え方法を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Name (A-Z) : クリップリスト名の昇順

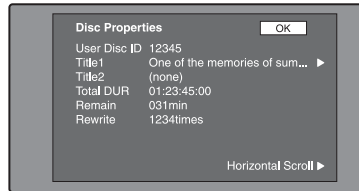
Date (Newest First) : クリップリストの作成日時が新しい順番
次回にクリップリストの読み込みなどを実行すると、指定した並び順でクリップリストが表示されます。

ディスク操作

ディスク情報を確認する

◆GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Disc Properties (ディスクプロパティ) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Disc Properties画面が表示されます。



User Disc ID : ユーザーディスクID

Title1 : タイトル1

Title2 : タイトル2¹⁾

Total DUR : 総記録時間

Remain : 残り記録時間

Rewrite : 書き込み回数

1) 本機の使用地域が「NTSC(J)AREA」(日本国内用)に設定されているときは、日本語で表示することができます。

隠れている文字列を表示するには

▶または◀が表示されている項目は、右矢印または左矢印ボタンを押すと1文字ずつスクロールします。

上矢印または下矢印ボタンを押すと、文字列の先頭または最後が表示されます。

元の画面に戻るには

SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

ディスク情報を編集するには

ユーザーディスクID、タイトル1¹⁾、およびタイトル2は、ソフトウェアキーボードを使用して編集することができます。

1)タイトル1にはASCII文字のみが使用可能です。

- ◆ 操作について詳しくは、「クリップ情報を編集するには」(138ページ)をご覧ください。

プランニングメタデータを使う

プランニングメタデータとは、撮影・記録する計画情報が記述されているメタデータファイルです。

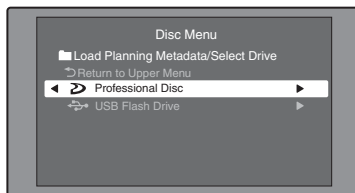
プランニングメタデータを使うには、あらかじめメディアの指定した場所にファイルを保存し、本機にそのメディアを挿入しておく必要があります。

- ◆ 詳しくは、「プランニングメタデータを使う」(109ページ)をご覧ください。

プランニングメタデータを読み込むには

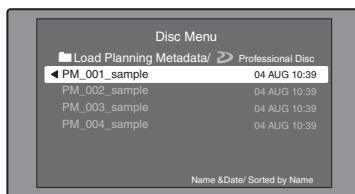
- ◆ GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Load Planning Metadata/Select Drive (プランニングメタデータの読み込み/メディアの選択) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
メディアを選択する画面が表示されます。



- 3 プランニングメタデータが保存されているメディアを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

メディアに保存されているプランニングメタデータが一覧表示されます。



ご注意

- OPERATIONメニューのMEMORY RECページでMEMORY RECがENABLに設定されていると、書き込み禁止に設定されたUSBメモリーからプランニングメタデータを読み込むことができません。あらかじめMEMORY RECをDSABLに設定しておくか、USBメモリーを記録可能な状態にしてから再度接続してください。
- USBメモリー接続時に「USB M. INHI」と表示された場合は、いったんUSBメモリーを取り外し、USBメモリーを記録可能な状態にしてから再度接続してください。
- USBメモリーからプランニングメタデータを読み込む場合、USBメモリーを接続した直後にこの操作行くと、USBメモリーの種類によっては、データが一覧表示されないことがあります。このような場合は、USBメモリーを接続し直すか、いったんメニューを抜けて再度この操作を行うと、データが正しく一覧表示されます。

- 4 希望のプランニングメタデータを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

選択したプランニングメタデータが本機のメモリーに読み込まれ、Planning

Metadata Properties画面が表示されま
す。

5 内容を確認し、SET/S.SELボタンま たはMENUつまみを押す。

◆本機とコンピューターをネットワー
ク接続することによって、ウェブブラウ
ザーを使用してプランニングメタデー
タを読み込むことができます。詳しく
は、「ウェブブラウザーを使用してプラン
ニングメタデータを読み込むには」
(157ページ)をご覧ください。

プランニングメタデータを並べ換 えるには

「クリップリストを並べ換えるには」(151
ページ)と同様に操作します。ただし、手
順3でSort Planning Metadata by...を選択し
ます。

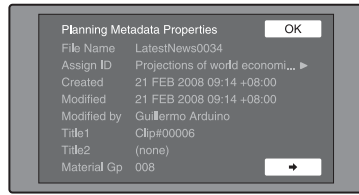
次回にプランニングメタデータの読み込み
を実行すると、指定した並び順でプラン
ニングメタデータが表示されます。

プランニングメタデータ情報を確 認するには

本機のメモリーに読み込んだプランニング
メタデータのファイル名や作成日時、タイ
トルなどの詳細情報を確認することができ
ます。

◆GUI画面の操作について、詳しくは128ペ
ージをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Planning Metadata Properties (プラン
ニングメタデータプロパティ)を
選択し、SET/S.SELボタンまたは
MENUつまみを押す。
Planning Metadata Properties画面が表示
されます。



File Name : プランニングメタデー
タのファイル名

Assign ID : アサインID

Created : 作成日時

Modified : 最終修正日時

Modified by : 修正作業者

Title1 : タイトル1¹⁾

Title2 : タイトル2

Material Gp : このプランニングメ
タデータで収録したクリップ数

1)クリップ名として設定することができます
(109ページ参照)。

隠れている文字列を表示するには

▶または◀が表示されている項目は、右矢印
または左矢印ボタンを押すと1文字ずつスク
ロールします。

上矢印または下矢印ボタンを押すと、文字
列の先頭または最後が表示されます。

元の画面に戻るには

SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押
します。

プランニングメタデータを利用し たクリップ名の通し番号を変更す るには

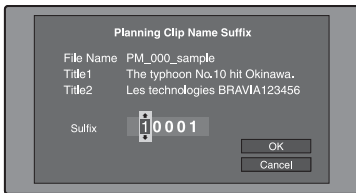
プランニングメタデータを利用してクリッ
プ名を設定した際に付加される通し番号を
変更することができます。

◆GUI画面の操作について詳しくは、134ペ
ージをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Planning Clip Name Suffix (プラン
ニングメタデータによるクリップ名

通し番号の変更) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Planning Clip Name Suffix画面が表示されます。



- 3 左矢印ボタンまたは右矢印ボタンを押して数値を変更したい桁を選択する。
- 4 上矢印または下矢印ボタンを押すか、MENUつまみを回して数値を変更する。
- 5 必要に応じて手順3と4を繰り返す。
- 6 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
「OK」が選択されます。
- 7 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

プランニングメタデータをクリアするには

◆GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Clear Planning Metadata (プランニングメタデータのクリア) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
クリアの実行を確認するメッセージが表示されます。
- 3 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
プランニングメタデータが本機のメモリーからクリアされます。

LCDモニターとビューファインダー画面上のタイトル表示を切り換えるには

本機のメモリーにプランニングメタデータを読み込んだとき、どの形式のタイトルをLCDモニターとビューファインダーに表示するかを選択することができます。

◆GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Settings (設定) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 3 Planning Clip Name in Clip Info. Area (クリップ情報エリアへのクリップ名の表示) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
◆クリップ情報エリアについて、詳しくは39ページをご覧ください。
- 4 次のいずれかの設定を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
ASCII Clip Name : ASCII形式のタイトルを表示する (109ページ参照)
Clip Name : UTF-8形式のタイトルを表示する (109ページ参照)

ビューファインダー画面上のクリップ情報エリアにクリップ名を表示するには

- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Settings (設定) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 3 Planning Clip Name Display (ビューファインダー画面へのクリップ名表

示の有無)を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

- 4 「Enable」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

ステータス表示状態のLCDモニター上では、常に警告表示エリアに、クリップ情報が表示されます。

ユーザー定義されたエッセンスマークを確認する

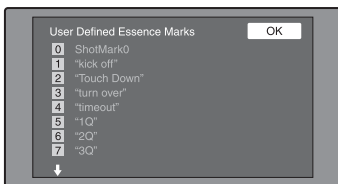
プランニングメタデータ内でユーザー定義されたエッセンスマークShot Mark0~Shot Mark9の名前 (UTF-8形式で最大32バイト) を表示することができます。

- 1 本機のメモリーに読み込んだプランニングメタデータのPlanning Metadata Properties画面を表示する (153ページ参照)。

ユーザー定義されているエッセンスマークがあるときは、→ボタンが有効になります (111ページ参照)。

- 2 →を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

User Defined Essence Marks (ユーザー定義エッセンスマーク) 画面が表示されます。

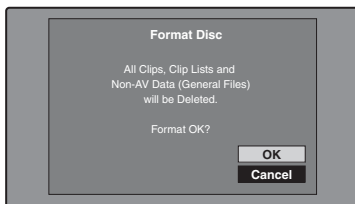


ディスクをフォーマットする

◆GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。

- 2 Format Disc (ディスクのフォーマット) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
フォーマットの実行を確認するメッセージが表示されます。



- 3 「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

フォーマットを中止するには「Cancel」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

続けてフォーマットを行うにはディスクを交換してから「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

フォーマットを終了するには「Exit」が選択されている状態でSET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

Format Discコマンドを使用禁止にするには

不用意にディスクをフォーマットして記録内容を消してしまう事故を防ぐために、Format Discコマンドを使用禁止にすることができます。

◆GUI画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

- 1 Disc Menuを表示する。
2 Settings (設定) を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
3 Setting Format Disc (Format Discの有効/無効を設定する) を選択し、

SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

- 4 Disableを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

各種情報をウェブブラウザに表示する

本機とコンピューターをネットワーク接続することによって、コンピューターにインストールされているウェブブラウザにディスク情報やクリップ情報を表示することができます（ウェブサムネイル機能）。また、Clip Propertiesページでは、本機からクリップの高解像度データ、プロキシAVデータ、およびメタデータをダウンロードしてコンピューターに保存することができます。さらに、Planning Metadata画面では、プランニングメタデータを直接本機のメモリーに読み込ませることができます。

推奨ブラウザ

次のウェブブラウザのご使用をおすすめします。

- Internet Explorer 8¹⁾
- Internet Explorer 9¹⁾

1)64bit版のWindowsをお使いの場合、32bit版のInternet Explorerでは本機能が正常に動作しないことがあります。64bit版のWindowsには、64bit版のInternet Explorerをお使いください。

XDCAMウェブページを表示するには

- 1 本機とコンピューターをネットワーク接続する（248ページ参照）。
- 2 コンピューターのウェブブラウザを起動し、アドレスバーに「http://<IPアドレス>/」と入力し、Enterキーを押す。
本機のIPアドレスが「192.168.001.010」に設定されている

ときは、「http://192.168.1.10/」と入力します。

接続が正常に行われると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

- 3 ユーザー名とパスワードを入力し、Enterキーを押す。

ユーザー名とパスワードは、工場出荷時は以下の値が設定されています。

- ユーザー名：admin
- パスワード：機種名（「pdw-750」）

ユーザー名とパスワードが認証されると、XDCAMウェブページが表示されます。

各種情報を表示するには

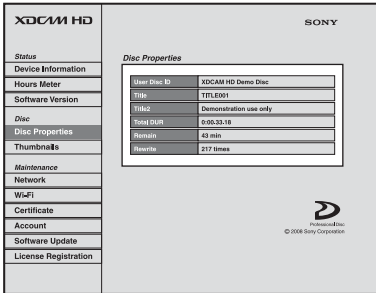
- 1 本機にディスクを挿入し、本機を以下の状態にする。

- 記録、再生、サーチなどのディスク操作：停止
- THUMBNAILボタン：消灯
- Disc Menuの「Lock or Delete All Clips」、「Format Disc」などによるディスクへのアクセス：停止
- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでのCACHE/INTVAL RECの設定：OFF
- ファイル操作を目的としたFTP接続：未接続（切断またはログアウト）
- 外部機器からの映像記録：無効
- 本機とコンピューター間のライブロギング機能による接続：未接続
- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでのLIVE LOGGINGの設定：VIEW以外（OFFまたはLIVE）
- MENU ON/OFFスイッチ：OFF

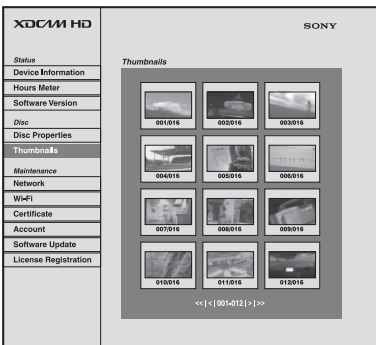
- 2 コンピューターのウェブブラウザにXDCAMウェブページを表示する（前項参照）。

ディスク情報を表示するにはDiscメニューの「Disc Properties（ディスクプロパティ）」をクリックします。

本機のディスク情報が、Disc Propertiesページに表示されます。
◆各表示項目について詳しくは、「ディスク情報を確認する」(151ページ)をご覧ください。



クリップのサムネイルを表示するには Discメニューの「Thumbnails (サムネイル)」をクリックします。ディスクに記録されているクリップのサムネイルが、Thumbnailsページに1ページあたり12個ずつ表示されます。各サムネイルには、本機のGUI画面と同様に代表画変更マーク、Sマーク、クリップフラグアイコン、および錠前アイコンも表示されます(122ページ参照)。

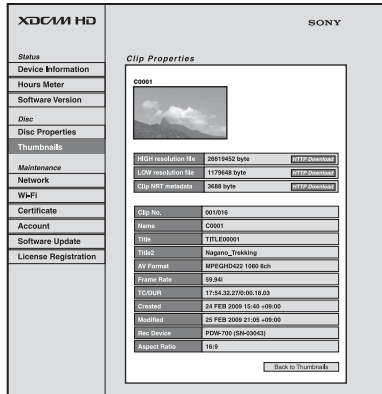


複数のページが存在するとき、ページを切り換えるには、<< (5ページ戻る)、< (1ページ戻る)、> (1ページ進む)、または>> (5ページ進む) をクリックします。

クリップ情報を表示するには

Thumbnailsページで、クリップ情報を表示したいクリップのサムネイルをクリックします。クリップ情報が、Clip Propertiesページに表示されます。

◆各表示項目について詳しくは、「クリップ情報を確認する」(137ページ)をご覧ください。



クリップの高解像度データ (HIGH resolution file)、プロキシAVデータ (LOW resolution file)、またはメタデータ (Clip NRT metadata) をダウンロードするには、各項目の右側にあるHTTP Downloadをクリックして表示されるダイアログで「保存」をクリックし、保存先を指定します。本機からコンピューターの指定した場所にクリップが転送されます。

ウェブブラウザを使用してプランニングメタデータを読み込むには

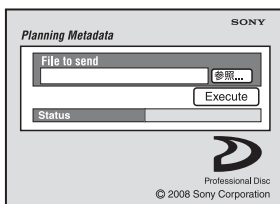
1 本機にディスクを挿入し、本機を以下の状態にする。

- 記録、再生、サーチなどのディスク操作：停止
- THUMBNAİLボタン：消灯

- Disc Menuの「Lock or Delete All Clips」、「Format Disc」などによるディスクへのアクセス：停止
- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでのCACHE/INTVAL RECの設定：OFF
- ファイル操作を目的としたFTP接続：未接続（切断またはログアウト）
- 外部機器からの映像記録：無効
- 本機とコンピューター間のライブロギング機能による接続：未接続
- OPERATIONメニューのREC FUNCTIONページでのLIVE LOGGINGの設定：VIEW以外（OFFまたはLIVE）
- MENU ON/OFFスイッチ：OFF

2 コンピューターのウェブブラウザにXDCAMウェブページのPlanning Metadata画面を表示する。

Planning Metadata画面を表示するには、「XDCAMウェブページを表示するには」（156ページ）と同様に操作します。ただし、手順2でアドレスバーに「http://<IPアドレス>/mobile.htm」と入力します。



- 3 「参照…」をクリックして、「ファイルの選択」ダイアログを表示する。
- 4 コンピューターに保存したプランニングメタデータのXMLファイルを選択し、「開く」をクリックする。

「File to send」欄に、選択したファイルのパスが表示されます。

5 「Execute」をクリックする。

プランニングメタデータが本機のメモリーに読み込まれ、ディスク上の/General/Sony/Planningディレクトリーに格納されます。

転送が完了すると「Status」欄に「OK」が表示されます。

クリップ転送（ダイレクトFTP機能）

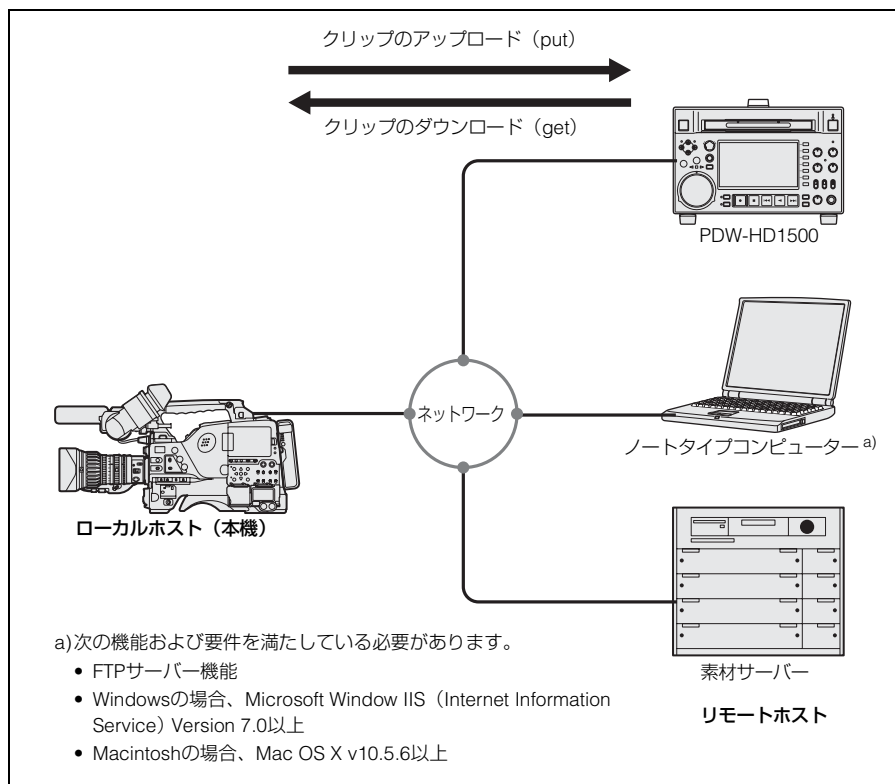
本機と外部機器との間でクリップ（MXFファイル）をネットワーク転送することができます。本機はダイレクトFTP機能を備えているため、XDCAM機器やFTPサーバー機能を持つコンピュータと接続すると、GUI画面上の簡単な操作でクリップ転送を実行できます。

本機が実行できるクリップ転送の種類は、次表のとおりです。

転送の方向	転送の対象	機能
アップロード	1つ以上のクリップ	put
	クリップリストを伴う複数のクリップ	
	クリップの一部	partial put
ダウンロード	1クリップ	get

ご注意

クリップ（高解像度データ）およびクリップリスト以外のファイルを転送することはできません。これら以外のファイル（プロキシAVデータ、GeneralまたはUserDataディレクトリー内のファイルなど）を転送するには、FTP接続によるファイル操作（242ページ参照）を実行してください。



クリップ転送の準備

以下の項目を確認してください。

- 本機とクリップ転送の対象機器（XDCAM機器またはコンピューター）に安定した電源が供給されており、それぞれがネットワーク接続されている。
- MAINTENANCEメニューのNETWORK 1 ページの設定がネットワーク接続できる設定になっている。
- OPERATIONメニューのPOWER SAVE ページでETHERNET/USBがENABLEに設定されている。
- UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能がサポートされているXDCAM機器で、UPnP機能が有効になっている（設定は任意）。

ご注意

- セキュアでないネットワーク環境をお使いの場合は、UPnP を無効（Disable）にしてお使いください。
- MAINTENANCEメニューのNETWORK SETTINGページでSECURITYをLEVEL2に設定している場合、ダイレクトFTP機能は使用できません。

UPnP機能を有効にするには

UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能を備えた機器とは簡単にネットワーク接続することができます。UPnP機能をサポートしているXDCAM機器は次のとおりです。

- PDW-F1600/HD1500/HD1200
- PDW-HR1
- PDW-F800/700/740/680
- PDW-750/850

本機においてUPnP機能を有効にするには、MAINTENANCEメニューのNETWORK SETTINGページでUPnPをENABLEに設定してから、いったん本機の電源を切り、再度電源を入れます。

- ◆ その他のXDCAM機器の設定については、それぞれのオペレーションマニュアルをご覧ください。

クリップをアップロードする

クリップ単位でアップロードするには

選択したクリップ、またはディスクに記録されているすべてのクリップとクリップリストをアップロードするには、次のように操作します。

- ◆ サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

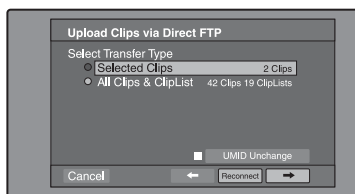
1 クリップサムネイル画面で、アップロードするクリップを選択する（複数選択可能）。

ディスクに記録されているすべてのクリップとクリップリストをアップロードする場合は、手順2から始める。

2 Thumbnail Menuを表示する。

3 Upload Clips via Direct FTP（FTP経由でクリップをアップロード）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Upload Clips via Direct FTPのSelect Transfer Type（転送方法の選択）画面が表示されます。



4 クリップの転送方法を選択する。

Selected Clips : 手順1で選択したクリップ

All Clips & ClipList : ディスクに記録されているすべてのクリップとクリップリスト

転送元クリップのUMIDを保存した状態で転送するには

「UMID Unchange」オプションのチェックをオンにします。

ご注意

リモートホストがコンピューターの場合は、この設定に関わらず、UMIDが保存された状態でクリップが転送されます。

接続に成功したリモートホストに再接続するには

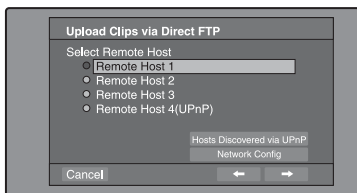
前回の操作で任意のリモートホストへの接続に成功した場合、Reconnect (再接続) ボタンが有効になります。「Reconnect」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、このリモートホストが自動的に選択され、Connecting Status画面 (手順9参照) に直接切り替わります。

ご注意

前回の操作で任意のリモートホストへの接続に失敗した場合は、Reconnectボタンは有効になりません。

5 →を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Select Remote Host (リモートホストの選択) 画面が表示されます。



6 リモートホスト (クリップ転送の対象機器) を選択する。

リモートホストの設定は、4つまで登録できます。

Remote Host 1～3：設定画面から登録する。

Remote Host 4(UPnP)：UPnP (ユニバーサルプラグアンドプレイ) 機能に対応しているリモートホストが検出され、自動的に登録される (「UPnP機能を有効にするには」(160ページ) 参照)。

UPnP機能によって検出されたリモートホストを確認するには

「Hosts Discovered via UPnP」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。(本機のUPnP機能が無効のときは、UPnP機能を有効にする確認画面が表示されます。「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押してください。本機の電源を入れ直すと、UPnP機能が有効になります。)

Select Host Discovered via UPnP (UPnP機能によって検出されたリモートホストの選択) 画面が表示されます。(検索のため、時間がかかることがあります。)

この画面でリモートホストを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、ネットワーク設定画面が表示されます (手順7参照)。接続を実行すると、設定内容がRemote Host 4に保存されます。次回から「Remote Host 4(UPnP)」を選択した場合は、ここで選択したリモートホストに接続されます。

本機のネットワーク設定を確認するには

「Network Config」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、ネットワーク設定に関する次の項目が表示されます。

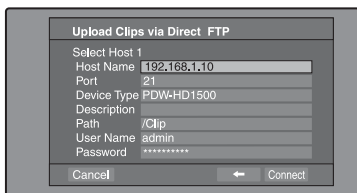
項目名	設定値
Host Name	ホスト名
IP Address	IPアドレス ^{a)}
Subnet Mask	サブネットマスク
DHCP	DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得するかどうかの設定 Enabled ：自動取得する Disabled ：自動取得しない
Address Status	IPアドレスの設定手段 Manual Set ：手動 DHCP ：DHCP機能 AutoIP ：自動IPアドレッシング機能 Undefined ：設定されていない
Default Gateway	デフォルトゲートウェイ

a) DHCPサーバーにより決定されたIPアドレスは、瞬時にこの欄に表示されます。

OKを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、元の画面に戻ります。

7 →を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

リモートホストのネットワーク設定画面が表示されます。



項目名	設定値
Host Name	ホスト名またはIPアドレス (ホスト名の場合、接続したネットワークでDNSサーバーが使用できる必要がある。IPアドレスの設定を推奨)
Port	FTPサーバーが使用するポート番号 (通常は「21」)
Device Type	リモートホストの種別 <ul style="list-style-type: none"> XDCAM機器の場合は、モデル名リストから機種名または「Other XDCAM model」(リストに機種名がない場合)を選択する^{a)} コンピューターの場合は、モデル名リストから「Others(PC Server)」を選択する
Description	リモートホストに関するコメント (UTF-8形式で127バイト以下。この設定は、接続には影響しない) 設定すると、Select Remote Host画面 (手順5参照) でリモートホスト名として表示される
Path	リモートホストがコンピューターの場合、転送先ディレクトリーのフルパス (XDCAM機器の場合は不要)

項目名	設定値
User Name	FTPでログインする際のユーザー名 (XDCAM機器の場合、デフォルトは「admin」)
Password	FTPでログインする際のパスワード (XDCAM機器の場合、デフォルトは機種名 - 「pdw-750」 など)

a) Device TypeとしてXDCAM機器を設定すると、PortとPathは設定不要、User NameとPasswordはデフォルト値が設定されるため、Host Name (必要に応じてDescription) を設定するだけで接続に必要な条件が満たされます。

接続する機器のUser NameまたはPasswordが変更されている場合は、それらの内容を設定してください。

8 各項目を設定する。

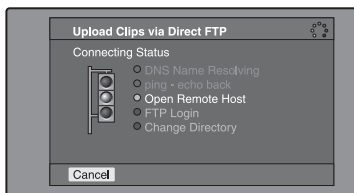
項目を選択するには

MENUつまみを回してカーソルを移動し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押します。

ソフトウェアキーボード画面が現れ、設定値を入力することができます。

9 「Connect」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

設定が保存され、Connecting Status (接続の処理状況) 画面が表示されます。



各項目で実行される処理内容は次のとおりです。

項目名	処理内容
DNS Name Resolving	IPアドレスではなくホスト名が設定されている場合、DNSサーバーにIPアドレスを問い合わせる
ping - echo back	リモートホストに対してping (疎通確認) コマンドを発行し、応答を待つ

項目名	処理内容
Open Remote Host	指定されたポート番号でリモートホストに接続する
FTP Login	設定されているユーザー名、パスワードでリモートホストにログインする
Change Directory	Pathが設定されている場合、指定のディレクトリに変更する

各項目に表示されるステータスインジケータは、処理の進行とともに黄色（処理中）から緑色（完了）に変わります。

エラーが発生すると

ステータスインジケータが赤色に変わります。

エラーの原因を取り除き、操作をやり直してください。

接続できないときは

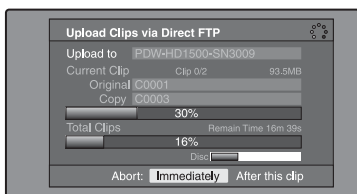
以下の項目を確認してください。

- 本機およびリモートホストがネットワークに正しく接続されていること。
- リモートホストがXDCAM機器の場合、GUI画面表示になっていないこと。
- リモートホストがXDCAM機器の場合、ディスクが挿入されていること。

接続が完了する（すべての項目のインジケータが緑色になる）と、Upload Clips via Direct FTP（クリップのアップロード）画面が表示されます。

リモートホスト側で接続を確認するには

リモートホストがXDCAM機器の場合、ディスプレイなどに「NETWORK!」と表示されることを確認します。



転送の処理状況がプログレスバーで表示され、複数のクリップを転送している場合は、転送の完了したクリップ数が表示されます。

リモートホストがXDCAM機器の場合はディスクの使用量が表示されます。（コンピューターの場合は表示されません。）

転送先に同名のファイルが存在するときは

転送先で重複しない別名に変更して転送されます。

転送元ファイルが「Original」欄に、転送先で名前が変更されたファイルが「Copy」欄に表示されます。¹⁾

- 1) クリップ名が標準名の場合、未使用のクリップ名の中で番号が最も小さいクリップ名に変更されます（例：C0001～C0020が使用されている場合、「C0021」）。クリップ名が任意名の場合、クリップ名の後ろに通し番号が付加されます（例：「EveningNews」の場合、「EveningNews(1)」）。

処理を中止するには

次のいずれかを実行します。

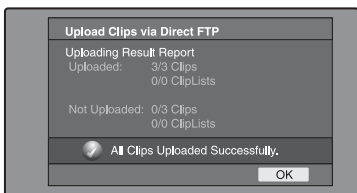
- 「Abort: Immediately」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
- 複数のクリップを転送しているとき、「Abort: After this clip」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。（現在のクリップの転送終了後、以降のクリップの転送が中止されます。）
- OPERATIONメニューのPOWER SAVEページでETHERNET/USBをDSABLに設定する。

ご注意

複数のクリップを転送する場合、最初に転送に失敗した時点で処理は中断され、それ以降のクリップは転送されません。

すべてのクリップの転送が完了すると、Uploading Result Report（アップロード結果報告）画面が表示されます。

SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、クリップサムネイル画面に戻ります。



クリップの一部分をアップロードするには

クリップの一部分だけをエクスパンドサムネイル画面やチャプターサムネイル画面で選択して、アップロードすることができます。

エクスパンドサムネイル画面：クリップのデュレーションが等分割して表示されるため、転送範囲を正確に指定する必要がないときに使用します。

チャプターサムネイル画面：転送範囲が決まっているときに使用します（あらかじめ転送範囲の始点と終点にエッセンスマークを設定しておくことにより、1フレームの精度で指定可能）。

1 クリップサムネイル画面でクリップを1つ選択し、EXPANDボタンまたはCHAPTERボタンを押す。

エクスパンドサムネイル画面、またはチャプターサムネイル画面が表示されます。

2 転送範囲を選択する。

複数のサムネイルを選択するにはSHIFTボタンを押したまま、MENUつまみを回すか、◀/INまたは▶/OUTボタンを押します。

転送範囲のデュレーションが画面右下に表示されます。

ご注意

エクスパンドサムネイル画面で選択した範囲（デュレーション）が2秒未満のときは、デュレーションが2秒になるように選択範囲が自動的に拡大されます。

3 前項「クリップ単位でアップロードするには」の手順2～9を実行する。

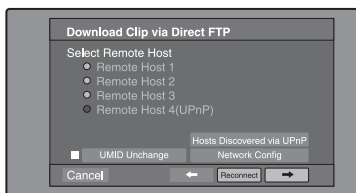
クリップをダウンロードする

リモートホスト（他のXDCAM機器や素材サーバーなど）に保存されているクリップをダウンロードするには、次のように操作します。

◆ サムネイル画面の操作について、詳しくは128ページをご覧ください。

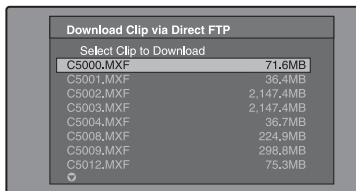
- 1 Disc Menuを表示する。
- 2 Download Clip via Direct FTP（FTP経由でクリップをダウンロード）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

Download Clip via Direct FTPのSelect Remote Host（リモートホストの選択）画面が表示されます。



3 「クリップ単位でアップロードするには」の手順6～9を実行する。

接続に成功すると、Select Clip to Download（ダウンロードするクリップの選択）画面が表示されます。



ご注意

- リモートホストがコンピューターの場合、Pathで指定されたディレクトリー内のMXFファイルのみが表示されます。
- リモートホストに301個以上のクリップが保存されている場合は、右上に表示されるクリップ総数の分母が「---」となり、301個目以降のクリップ名は表示されません。
- ASCII文字以外の文字（漢字など）が使用されたファイル名は表示されません。

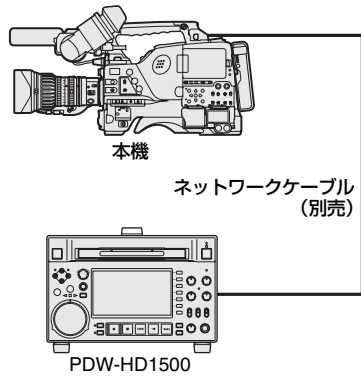
4 ダウンロードするクリップを選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。

ダウンロードが開始されます。
クリップの転送が完了すると、
Downloading Result Report（ダウンロード結果報告）画面が表示されます。
「OK」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、クリップサムネイル画面に戻ります。

XDCAM機器同士を直結してクリップをコピーする

ネットワーク環境のない撮影現場などでは、2台のXDCAM機器を直結して必要なクリップを別のディスクにコピー（アップロード）することができます。ここでは、本機からPDW-HD1500にクリップをコピーする方法を説明します。あらかじめ各機器にディスクを挿入し、次のように操作します。

- 1 本機とPDW-HD1500をネットワークケーブルで接続する。
接続には、クロスケーブル、ストレートケーブルのいずれも使用可能です。



2 各機器を次のように設定する。

本機の設定

項目	設定値
OPERATIONメニューのPOWER SAVEページ	ETHERNET/USB ENABLE
MAINTENANCEメニューのNETWORK SETTINGページ	DHCP ENABLE UPnP ENABLE

PDW-HD1500の設定

項目	設定値
メンテナンスメニュー項目M50: DHCP	ENABLE
メンテナンスメニュー項目M59: UPnP	ENABLE

- 3 いったん各機器の電源を切り、再度電源を入れて約3分間待つ。
- 4 各機器のIPアドレスが、自動IPアドレスリング機能（Auto-IP）によって次のように決定されていることを確認する。

本機のIPアドレス

項目	設定値
MAINTENANCE IP メニューの NETWORK SETTINGページ	169.254.XXX .XXX (X:任意の数 値)

PDW-HD1500のIPアドレス

項目	設定値
メンテナンスメニュー項目 M51: IP ADDRESS PRESET	169.254.XXX .XXX (X:任意の 数値)

- 5 本機のクリップサムネイル画面で、コピー（アップロード）するクリップを選択する。
- 6 Thumbnail Menuを表示する。
- 7 Upload Clips via Direct FTP（FTP経由でクリップをアップロード）を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
→が選択された状態で、Upload Clips via Direct FTPのSelect Transfer Type（転送方法の選択）画面が表示されま
す。
- 8 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
Select Remote Host（リモートホストの選択）画面が表示されます。
- 9 「Hosts Discovered via UPnP」を選択し、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
検出された接続先の機器（PDW-HD1500）が、Select Host Discovered via UPnP画面に表示されます。
- 10 SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
接続先の機器（PDW-HD1500）の詳細が表示されます。
- 11 「Connect」が選択された状態で、SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押す。
接続が完了すると、クリップの転送が始まります。

クリップの転送中は、接続先の機器（PDW-HD1500）のディスプレイに「NETWORK!」と表示されます。

クリップの転送が完了すると、Uploading Result Report（アップロード結果報告）画面が表示されます。SET/S.SELボタンまたはMENUつまみを押すと、クリップサムネイル画面に戻ります。

12 接続先の機器（PDW-HD1500）のクリップサムネイル画面で、コピーされたクリップを確認する。

ショートカット一覧

メニューを表示することなく実行できる機能があります（ショートカット操作）。

ショートカット操作が可能な機能は以下のとおりです。ここで、あるボタンを押したまま別のボタンを押すときは、「SHIFT+

RESET/RETURN」のようにボタンの名前を「+」記号でつないで示します。

ご注意

同じショートカット操作でも、どの画面から実行するかによって機能が異なります。

機能	操作
Clip List Thumbnail（クリップリストサムネイル画面の表示）	SUB CLIP/DISC MENU
Expand Thumbnail（エクスパンドサムネイル画面の表示）	DISP SEL/EXPAND
Chapter Thumbnail（チャプターサムネイル画面の表示）	HOLD/CHAPTER
Essence Mark Thumbnail（エッセンスマークサムネイル画面の表示）	SHIFT+THUMBNAIL/ESSENCE MARK
Add Sub Clip（サブクリップの追加）	SHIFT+SET/S.SEL
Delete Clip（クリップの削除）	SHIFT+RESET/RETURN
Lock/Unlock Clip（クリップのロック/アンロック）	SHIFT+STOP
Set Inpoint（IN点の設定）	左矢印+SET/S.SEL
Set Outpoint（OUT点の設定）	右矢印+SET/S.SEL
Cue up Inpoint（IN点の頭出し）	左矢印+PREVまたは左矢印+NEXT
Cue up Outpoint（OUT点の頭出し）	右矢印+PREVまたは右矢印+NEXT
Reset Inpoint（IN点の設定解除）	左矢印+RESET/RETURN
Reset Outpoint（OUT点の設定解除）	右矢印+RESET/RETURN
Cue up（頭出し）	SET/S.SEL a)
Cue up & Play（頭出ししてから再生）	PLAY/PAUSE b)
Page Down（次のページに切り換え）	SHIFT+下矢印またはF FWD
Page Up（1つ前のページに切り換え）	SHIFT+上矢印またはF REV
Go To End（最後の項目に移動）	SHIFT+NEXT
Go To Top（先頭の項目に移動）	SHIFT+PREV
Select Multi Clip（複数クリップの選択）	SHIFT+右矢印またはSHIFT+左矢印
Exit（サムネイル画面の終了）	THUMBNAIL/ESSENCE MARK

a) Disc MenuのSettings >SET Key on Thumbnail が「Cue up & Play」に設定されている場合は、頭出ししてから再生します。

b) Disc MenuのSettings >SET Key on Thumbnail が「Cue up & Play」に設定されている場合は、SET/S.SELボタンでも同様の操作ができます。

メニューの構成

本機のメニューは以下のように構成されています。

TOP MENU

- USER [A]
- USER MENU CUSTOMIZE
- ALL
- OPERATION [B]
- PAINT [C]
- MAINTENANCE [D]
- FILE [E]
- DIAGNOSIS [F]

[A] USERメニュー

- USER ———
- OUTPUT 1
- OUTPUT 2
- SUPERIMPOSE
- LCD
- REC FUNCTION
- ASSIGNABLE SW
- VF DISP 1
- VF DISP 2
- '!' LED
- MARKER 1
- GAIN SW
- VF SETTING
- VF DETAIL
- AUTO IRIS
- SHOT ID
- SHOT DISP
- SET STATUS
- LENS FILE
- USER FILE

[B] OPERATIONメニュー

- OPERATION ———
- OUTPUT 1
- OUTPUT 2
- SUPERIMPOSE
- LCD
- REC FUNCTION
- ASSIGNABLE SW
- POWER SAVE
- VF DISP 1
- VF DISP 2
- VF DISP 3
- VF DISP 4
- '!' LED
- MARKER 1
- MARKER 2
- FOCUS ASSIST
- GAIN SW
- VF SETTING
- VF DETAIL
- AUTO IRIS
- SHOT ID
- SHOT DISP
- SET STATUS
- WHITE SETTING
- OFFSET WHT
- SHT ENABLE
- LENS FILE
- FORMAT
- SOURCE SEL
- UMID SET
- CLIP TITLE
- FILE NAMING
- MEMORY REC
- GPS SETUP

[C] PAINTメニュー

- PAINT — SW STATUS
- WHITE
- BLACK/FLARE
- GAMMA
- BLACK GAMMA
- KNEE
- DETAIL 1
- DETAIL 2
- SD DETAIL
- SKIN DETAIL
- MTX LINEAR
- MTX MULTI
- V MODULATION
- SATURATION
- SATURATION MODE
- NOISE SUPPRESS
- SCENE FILE

[D] MAINTENANCEメニュー

- MAINTENANCE — WHITE SHADING
- BLACK SHADING
- LEVEL ADJUST
- BATTERY 1
- BATTERY 2
- AUDIO-1
- AUDIO-2
- AUDIO-3
- WRR SETTING
- TIMECODE
- ESSENCE MARK
- CAM CONFIG 1
- CAM CONFIG 2
- CAM CONFIG 3
- PRESET WHITE
- WHITE FILTER
- DCC ADJUST
- AUTO IRIS 2
- GENLOCK
- ND COMP
- AUTO SHADING
- APR
- NETWORK 1
- NETWORK 2
- WPS
- Wi-Fi
- META OUT

[E] FILEメニュー

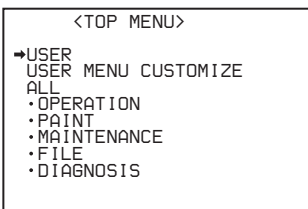
- FILE — USER FILE
- USER FILE 2
- ALL FILE
- SCENE FILE
- REFERENCE
- USER GAMMA
- LENS FILE 1
- LENS FILE 2
- LENS FILE 3
- USB MEMORY

[F] DIAGNOSISメニュー

- DIAGNOSIS — HOURS METER
- TIME/DATE
- ROM VERSION 1
- ROM VERSION 2
- ROM VERSION 3
- DEV STATUS

TOPメニューと第1階層のメニューについて

メニュー画面が消えている状態で、MENUつまみを押したままMENU ON/OFFスイッチをONにすると、TOPメニューが表示されます。TOPメニューには、第1階層のメニューのみが表示されます。



TOPメニューでいずれかのメニューを選択すると、そのメニューの最後に選択されていたページが表示されます。初めてそのメニューを選択したときは、CONTENTSページが表示されます。

◆メニューの使いかたについて、詳しくは208ページをご覧ください。

USERメニュー

OPERATION、PAINT、MAINTENANCE、FILE、DIAGNOSISの各メニューから任意

のページをコピーして設定できるメニューです。使用頻度の高いページをあらかじめ登録しておき、必要に応じてすぐに呼び出せます。
通常、MENU ON/OFFスイッチをONにすると、このメニューが表示されます。

USER MENU CUSTOMIZE メニュー

USERメニューにページを追加したり、削除したりできるメニューです。

ALLメニュー

OPERATION、PAINT、MAINTENANCE、FILE、DIAGNOSISの各メニューのページをひとつのメニューのように扱うことができます。

OPERATIONメニュー

カメラマンが本機を使用するとき、被写体の条件などによって設定を変更できるメニューです。

PAINTメニュー

波形モニターなどを使用してカメラの出力の波形を監視しながら、細かな画像調整をするときに設定するメニューです。通常、ビデオエンジニアのサポートが必要です。このメニューの設定項目は、外部のリモートコントロールユニットでも設定できますが、屋外で本機を単体で使用する場合に有効です。

MAINTENANCEメニュー

オーディオ、タイムコード、エッセンスマーク、バッテリーなどの設定に使用するメニューです。

FILEメニュー

本機で調整したデータをファイルとして内蔵メモリーやUSBメモリーに保存するためのメニューです。以下のようなファイルを保存できます。

ユーザーファイル

カスタマイズしたUSERメニューの設定項目と設定データを保存するファイルです。USBメモリーに100個まで保存することができます。このファイルをUSBメモリーに保存しておけば、次回はそのファイルを本機で読み込むことによって、USERメニューを好みの設定にセットアップすることができます。

- ◆ユーザーファイルについて詳しくは、「ユーザーファイルの保存と呼び出し」(234ページ)をご覧ください。

ALLファイル

すべてのメニューの設定データを保存するファイルです。USBメモリーに100個まで保存することができます。

1台目の設定後、このファイルをUSBメモリーに保存しておけば、2台目以降はそのファイルを読み込むことによって、1台目と同じ調整状態にセットアップすることができます。

ご注意

機器固有のデータ（機器ごとに調整が必要なシェイディングや出力レベルなど）は保存されません。

シーンファイル

撮影シーンに合わせて設定したペイント項目の設定値を保存するファイルです。本機の内蔵メモリーに5個、USBメモリーに100個まで保存することができます。たとえば、特定のシーンに合わせてリハーサル時に設定した値をシーンファイルに保存しておき、本番時にそのシーンファイルを呼び出してリハーサル時とまったく同じ状況を再現する、といった使いかたができます。

リファレンスファイル

PAINTメニューのSCENE FILEページにあるSTANDARD実行時の基準となる設定値を保存するファイルです。本機の内蔵メモリーとUSBメモリーに1個ずつ保存することができます。

レンズファイル

レンズ固有の特性を補正する設定データ（フレア、ホワイトシェーディング、オートアイリスゲイン）を保存するファイルです。本機の内蔵メモリーに32個、USBメモリーに100個まで保存することができます。

DIAGNOSISメニュー

デジタル時計、ROMのバージョン、本機内部のデバイスの状態などを表示するメニューです。

メニュー一覧

表の見かた

- No.が太字で表示されているページは、工場出荷時にUSERメニューに登録されているページです。
- 太字で表示されている設定値は、初期設定値です。
- -99~99を設定値に持つ項目の初期設定値は0です。
- () で囲まれている設定値は、相対値表示です。メニューに表示される設定範囲が本書の表記と異なる場合がありますのでご注意ください。

OPERATIONメニュー

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
01	OUTPUT 1	SDI OUT 1 SELECT	OFF/HDSDI/SDSDI	SDI OUT 1端子からの出力信号を選択する
		SDI OUT 2 SELECT	OFF/HDSDI/SDSDI/MF	SDI OUT 2端子からの出力信号を選択する
		SDI OUT 2 SUPER	OFF/ON	SDI OUT 2端子からの文字情報出力（スーパーインポーズ）を設定する ご注意 SDI OUT 2 SELECTがVFに設定されているときは、この設定に関わらず文字情報が表示されます。
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B	TEST OUT端子からの出力信号を選択する ご注意 R/G/Bに設定して本機の電源をOFF/ONすると、設定値はYに変わります。
		TEST OUT SUPER	OFF/ON	TEST OUT端子の文字情報出力（スーパーインポーズ）を設定する ご注意 TEST OUT SELECTがY/R/G/Bに設定されているときは、この設定に関わらず文字情報が表示されます。文字情報の表示中にこの項目をONからOFFに切り換えることによって、文字情報を非表示にすることができます。（ビューファインダーも非表示になります。）
02	OUTPUT 2	DOWN CON MODE	CROP/SQEZE	ダウンコンパート出力の変換モードを設定する
		WIDE ID	THROU/AUTO	SD出力信号にワイド画面情報を付加するかどうかを設定する THROU ：ワイド画面情報を付加せずにそのまま出力する AUTO ：DOWN CON MODEがSQUEZEに設定されているとき、ビデオ信号にワイド画面情報を付加して出力する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
03	SUPER IMPOSE	SUPER(VFDISP)	OFF/ON	OUTPUT 1ページのSDI OUT 2 SUPERまたはTEST OUT SUPERがONのとき、SDI OUT 2端子またはTEST OUT 端子からの文字情報（スーパーインポーズ）出力を、項目ごとにOFF/ONする
		SUPER(MENU)	OFF/ON	
		SUPER(TC)	OFF/ON	
		SUPER(MARKER)	OFF/ON	次の端子からの出力のマーカ表示をOFF/ONする <ul style="list-style-type: none"> SDI OUT 2端子（OUTPUT 1ページのSDI OUT 2 SELECTがHDSDI/SDSDIで、かつSDI OUT 2 SUPERがONのとき） TEST OUT端子（OUTPUT 1ページのTEST OUT SUPERがONのとき）
		SUPER(ZEBRA)	OFF/ON	以下の端子からの出力のゼブラ表示をOFF/ONする <ul style="list-style-type: none"> SDI OUT 2端子（OUTPUT 1ページのSDI OUT 2 SELECTがHDSDIまたはSDSDIで、かつSDI OUT 2 SUPERがONのとき） TEST OUT端子（OUTPUT 1ページのTEST OUT SUPERがONのとき）
04	LCD	LCD COLOR	(-99~99)	LCDモニターの色の濃さを調整する
		LCD MARKER&ZEBRA	OFF/ON	LCDモニターへのマーカとゼブラの表示をOFF/ONする

No.	ページ	設定項目	設定値	内容	
05	REC FUNCTION	CACHE/INTVAL REC	OFF /CACHE/A. INT/M. INT	◆ 詳しくは、「数秒前の映像から記録する（ピクチャーキャッシュ機能）」（94ページ）および「間欠的に映像を記録する（インターバルレック機能）」（96ページ）をご覧ください。	
		CACHE REC TIME	0-2S /2-4S/4-6S/6-8S/8-10S/18-20S/28-30S		
		TAKE TOTAL TIME	5MIN /10MIN/15MIN/20MIN/30MIN/40MIN/50MIN/1H/2H/3H/4H/5H/7H/10H/15H/20H/30H/40H/50H/70H/100H		
		REC TIME	5SEC /10SEC/15SEC/20SEC/30SEC/40SEC/50SEC/1MIN~85MIN		
		PRE-LIGHTING	OFF /2SEC/5SEC/10SEC		
		NUMBER OF FRAME	1 /3/6		
		TRIGGER INTERVAL	M /1SEC~10SEC/15SEC/20SEC/30SEC/40SEC/50SEC/1MIN~10MIN/15MIN/20MIN/30MIN/40MIN/50MIN/1H/2H/3H/4H/6H/12H/24H		
		DISC EXCHG CACHE	OFF /ON		◆ 詳しくは、「記録を継続しながらディスクを交換する（ディスクエクステンジキャッシュ機能）」（100ページ）をご覧ください。
		CLIP CONT REC	OFF /ON		◆ 詳しくは、「クリップコンティニュースレック機能を使って記録する」（101ページ）をご覧ください。
		LIVE LOGGING	OFF /LIVE/VIEW		◆ 詳しくは、「ライブロギング機能を使う」（112ページ）をご覧ください。
06	ASSIGNABLE SW	ASSIGN SW <1>		◆ 詳しくは、「ASSIGNスイッチに機能を割り当てる」（224ページ）をご覧ください。	
		ASSIGN SW <2>			
		ASSIGN SW <3>			
		ASSIGN SW <4>			
		ASSIGN SW <RET>			
		COLOR TEMP SW			
		ZOOM SPEED	0~ 20 ~99		
		RETURN VIDEO	OFF /ON		
07	POWER SAVE	ETHERNET/USB	DSABL /ENABL	◆ 詳しくは、「パワーセーブ機能を設定する」（227ページ）をご覧ください。	
		REC AUDIO OUT	EE /SAVE		
		TEST OUT SAVE	OFF/ ON		
		Wi-Fi	DSABL /ENABL		

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
08	VF DISP 1	VF DISP	OFF/ON	◆ 詳しくは、「表示項目を選択する」(217ページ)をご覧ください。
		VF DISP MODE	1/2/3	
		DISP EXTENDER	OFF/ON	
		DISP FILTER	OFF/ON	
		DISP WHITE	OFF/ON	
		DISP GAIN	OFF/ON	
		DISP SHUTTER	OFF/ON	
		DISP AUDIO	OFF/ON	
		DISP DISC	OFF/ON	
09	VF DISP 2	DISP IRIS	OFF/ON	
		DISP ZOOM	OFF/ON	
		DISP COLOR TEMP	OFF/ON	
		DISP BATT REMAIN	INT/VOLT/AUTO	
		DISP DC IN	OFF/ON	
		DISP WRR RF LVL	OFF/ON	
		DISP REC FORMAT	OFF/ON	
		DISP CLIP NO(PB)	OFF/ON	
		DISP TIME CODE	OFF/ON	
10	VF DISP 3	DISP ALAC	OFF/ON	
		DISP CLIP NAME	PLAN/AUTO	
		DISP SCENE FILE	OFF/ON	
		DISP CONT REC	OFF/ON	
		LOW LIGHT	OFF/ON	
		LOW LIGHT LEVEL	(-99~99)	
11	VF DISP 4	VF BATT WARNING	10%/20%	
		ABSOLUTE VALUE	OFF/ON	
		DISP GPS	OFF/ON	
		WIRELESS STATUS	OFF/ON	
12	'!' LED	EXT MEDIA REMAIN	OFF/ON	◆ 詳しくは、「表示ランプ」(37ページ)をご覧ください。
		SENDING CLIPINFO	OFF/ON	
		NW CLIENT MODE	OFF/ON	
		STREAMING STATUS	OFF/ON	
		GAIN <!>	OFF/ON	
		SHUTTER <!>	OFF/ON	
		WHITE PRESET <!>	OFF/ON	
		ATW RUN <!>	OFF/ON	
EXTENDER <!>	OFF/ON			
FILTER <!>	OFF/ON			
OVERVERRIDE <!>	OFF/ON			

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
13	MARKER 1	MARKER	OFF/ON	◆ 詳しくは、「マーカー表示を設定する」(219ページ)をご覧ください。
		CENTER	OFF/ON	
		CENTER MARK	1/2/3/4	
		SAFTY ZONE	OFF/ON	
		SAFTY AREA	80%/90%/92.5%/95%	
		ASPECT	OFF/ON	
		ASPECT SELECT	15:9/14:9/13:9/4:3/ 1.85/2.35	
		ASPECT MASK	OFF/ON	
		ASPECT MASK LVL	0~12~15	
		100% MARKER	OFF/ON	
14	MARKER 2	USER BOX	OFF/ON	
		USER BOX WIDTH	3~240~479	
		USER BOX HEIGHT	3~135~269	
		USER BOX H POS	-477~0~476	
		USER BOX V POS	-267~0~266	
		CENTER H POS	-480~0~479	
		CENTER V POS	-270~0~269	
		ASPECT SAFE ZONE	OFF/ON	
		ASPECT SAFE AREA	80%/90%/92.5%/95%	
		15	FOCUS ASSIST	
FOCUS IND POS	BOTTOM/LEFT/TOP/ RIGHT			
FOCUS AREA MARK	OFF/ON			
16	GAIN SW	GAIN LOW	-6dB/-3dB/0dB/ 3dB/6dB/9dB/12dB/ 18dB/24dB/30dB/ 36dB/42dB	◆ 詳しくは、「ゲイン切り換え値を設定する」(223ページ)をご覧ください。
		GAIN MID	-6dB/-3dB/0dB/3dB/ 6dB/9dB/12dB/18dB/ 24dB/30dB/36dB/42dB	
		GAIN HIGH	-6dB/-3dB/0dB/3dB/ 6dB/9dB/12dB/18dB/ 24dB/30dB/36dB/42dB	
		GAIN TURBO	-6dB/-3dB/0dB/3dB/ 6dB/9dB/12dB/18dB/ 24dB/30dB/36dB/ 42dB	
		TURBO SW IND	OFF/ON	
		SHOCKLESS GAIN	OFF/ON	

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
17	VF SETTING	ZEBRA	OFF/ON	◆ 詳しくは、「ビューファインダーを設定する」(220ページ)をご覧ください。
		ZEBRA SELECT	1/2/BOTH	
		ZEBRA1 DET LVL	20%~70%~107%	
		ZEBRA1 APT LVL	1%~10%~20%	
		ZEBRA2 DET LVL	52%~100%~109%	
18	VF DETAIL	VF DETAIL	OFF/ON	
		VF DETAIL LEVEL	(-99~99)	
		CRISP	(-99~99)	
		FREQUENCY	9M/14M/18M	
		FAT MODE	OFF/ON	
		FLICKER	OFF/ON	
		COLOR DETAIL	OFF/ON	
		COLOR SEL	BLUE/RED/YELL	
		PEAK COLOR	OFF/ON	
		CHROMA LEVEL	0%/25%/50%/100%	
19	AUTO IRIS	IRIS OVERRIDE	OFF/ON	◆ 詳しくは、「オートアイリスの設定」(72ページ)をご覧ください。
		IRIS SPEED	(-99~99)	
		CLIP HIGH LIGHT	OFF/ON	
		IRIS WINDOW	1/2/3/4/5/6/VAR	
		IRIS WINDOW IND	OFF/ON	
		IRIS VAR WIDTH	20~240~479	
		IRIS VAR HEIGHT	20~135~269	
		IRIS VAR H POS	-460~0~459	
IRIS VAR V POS	-250~0~249			
20	SHOT ID	ID-1	空白/最大12文字	◆ 詳しくは、「ショットIDを設定する」(221ページ)をご覧ください。
		ID-2	空白/最大12文字	
		ID-3	空白/最大12文字	
		ID-4	空白/最大12文字	
21	SHOT DISP	SHOT DATE	OFF/ON	◆ 詳しくは、「ショットデータをカラーバーにスーパーインポーズする」(220ページ)をご覧ください。
		SHOT TIME	OFF/ON	
		SHOT MODEL NAME	OFF/ON	
		SHOT SERIAL NO	OFF/ON	
		SHOT ID SEL	OFF/ID-1/ID-2/ID-3/ID-4	
		SHOT 16:9 CHARA	OFF/ON	
SHOT BLINK CHARA	OFF/ON			
22	SET STATUS	STATUS ABNORMAL	OFF/ON	◆ 詳しくは、「状態確認画面を表示する」(222ページ)をご覧ください。
		STATUS SYSTEM	OFF/ON	
		STATUS FUNCTION	OFF/ON	
		STATUS AUDIO	OFF/ON	
		STATUS GPS	OFF/ON	

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
23	WHITE SETTING	WHITE SWITCH 	MEM/ATW	WHITE BALスイッチをB側に設定したときの動作モードを設定する MEM ：オートホワイトバランス ATW ：自動追尾ホワイトバランス
		SHOCKLESS WHITE	OFF/1/2/3	WHITE BALスイッチ切り換え時の切り替わり遷移時間を設定する（1が最も速い）
		ATW HOLD MEMORY	OFF/ON	ATW（自動追尾ホワイトバランス）によるホワイトバランス設定値を、ATW専用メモリーだけでなく、WHITE BALスイッチの設定に対応したメモリー（AまたはB）にも書き込むかどうかを指定する OFF ：書き込まない ON ：書き込む ◆詳しくは、「ATWによるホワイトバランス設定値を保持するには」（69ページ）をご覧ください。
		ATW SPEED	1/2/3/4/5	ATW（自動追尾ホワイトバランス）の遷移スピードを切り換える（1が最も速い）
		AWB FIXED AREA	OFF/ON	画面中央部でAWB（オートホワイトバランス）を実行する
		FILTER WHT MEM	OFF/ON	FILTERつまみのポジション番号ごとにホワイトバランスのメモリー領域を設定する
24	OFFSET WHT	OFFSET WHITE <A>	OFF/ON	◆詳しくは、「オートホワイトバランスの設定値にオフセットを付ける」（231ページ）をご覧ください。
		WARM-COOL <A>	目安の色温度を表示	
		WARM-COOL BAL <A>	(-99~99)	
		OFFSET WHITE 	OFF/ON	
		WARM-COOL 	目安の色温度を表示	
		WARM-COOL BAL 	(-99~99)	

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
25	SHT ENABLE	SHUTTER ECS	OFF/ ON	
		SHUTTER SLS	OFF /ON	
		SHUTTER 1/32	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/33	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/40	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/48	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/50	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/60	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/96	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/100	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/120	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/125	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/250	OFF/ ON	
		SHUTTER 1/500	OFF/ ON	
SHUTTER 1/1000	OFF/ ON			
SHUTTER 1/2000	OFF/ ON			
26	LENS FILE	LENS FILE SELECT	1 ~32	◆詳しくは、「レンズファイルを選択する」(232ページ)をご覧ください。
		F.ID	表示のみ	
		L.ID	表示のみ	
		L.MF	表示のみ	
27	FORMAT	SYSTEM LINE	1080	◆「SYSTEM LINE」の設定によって、設定できる「SYSTEM FREQUENCY」の値は異なります。詳しくは、「記録フォーマットの設定」(62ページ)をご覧ください。
		SYSTEM FREQUENCY	59.9i/50i	
		REC FORMAT	HD422 50 /HD420 HQ/ HD420 SP	
		COUNTRY	NTSC(J)AREA/NTSC AREA/PAL AREA	
28	SOURCE SEL	FRONT MIC SELECT (ステレオマイク接続時)	MONO/ STREO	フロントマイクをモノラルにするか、ステレオにするかを選択する
		REC VIDEO SOURCE	CAM /EXT	◆詳しくは、「外部機器からの映像を記録する」(112ページ)をご覧ください。
		EXT VIDEO SOURCE	HDS DI	
29	UMID SET	COUNTRY CODE	空白/最大4文字	◆詳しくは、「UMIDデータを設定する」(232ページ)をご覧ください。
		ORGANIZATION	空白/最大4文字	
		USER CODE	空白/最大4文字	
		TIME ZONE	00 ~3F	

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
30	CLIP TITLE	TITLE	DSABL/ENABL	◆ 詳しくは、「記録時にクリップに自動でタイトルを付ける」(103ページ)をご覧ください。
		SELECT PREFIX (TITLEが「ENABL」のときのみ)	EXEC	
		CLEAR NUMERIC (TITLEが「ENABL」のときのみ)	EXEC	
		LOAD PREFIX DATA (TITLEが「ENABL」のときのみ)	EXEC	
		PREFIX (TITLEが「ENABL」のときのみ)	TITLE/最大10文字	
		NUMERIC (TITLEが「ENABL」のときのみ)	00001~99999	
31	FILE NAMING	NAMING FORM	C****/FREE	◆ 詳しくは、「クリップおよびクリップリストに任意の名前を付ける」(106ページ)をご覧ください。
		AUTO NAMING (NAMING FORMが「FREE」のときのみ)	C****/TITLE/PLAN	
32	MEMORY REC	MEMORY REC	DSABL/ENABL	◆ 詳しくは、「プロキシデータを記録する」(113ページ)をご覧ください。
		COPY CURRENT CLP	EXEC	
		COPY ALL CLIPS	EXEC	
		ABORT COPY	EXEC	
		DEL ALL MEM CLP	EXEC	
		FORMAT MEMORY	EXEC	
33	GPS SETUP	GPS	OFF/ON	◆ 詳しくは、「GPSの測位情報を取得する」(116ページ)をご覧ください。
		TIME ZONE		
		GPS DATUM		

PAINTメニュー

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
01	SW STATUS	GAMMA	OFF/ON	ガンマ補正をOFF/ONする
		BLACK GAMMA	OFF/ON	ブラックガンマ補正をOFF/ONする
		MATRIX	OFF/ON	リニアマトリックスおよびユーザーマトリックス補正全体をOFF/ONする
		KNEE	OFF/ON	ニー補正をOFF/ONする
		WHITE CLIP	OFF/ON	ホワイトクリップ補正をOFF/ONする
		DETAIL	OFF/ON	ディテール信号をOFF/ONする
		APERTURE	OFF/ON	アパーチャー機能をOFF/ONする
		FLARE	OFF/ON	フレア補正をOFF/ONする
		EVS	OFF/ON	EVSをOFF/ONする
		TEST SAW	OFF/ON	テスト信号を選択する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
02	WHITE	COLOR TEMP <A>	目安の色温度を表示	WHITE Aの色温度を設定する
		C TEMP BAL <A>	(-99~99)	COLOR TEMPで希望の色に設定できなかった場合、さらに細かく合わせ込む
		R GAIN <A>	(-99~99)	R GAIN値だけを変更する
		B GAIN <A>	(-99~99)	B GAIN値だけを変更する
		COLOR TEMP 	目安の色温度を表示	WHITE Bの温度を設定する
		C TEMP BAL 	(-99~99)	COLOR TEMPで希望の色に温度が設定できなかった場合、さらに細かく合わせ込む
		R GAIN 	(-99~99)	R GAIN値だけを変更する
		B GAIN 	(-99~99)	B GAIN値だけを変更する
03	BLACK/FLARE	MASTER BLACK	(-99~99)	マスターのブラックレベルを調整する
		R BLACK	(-99~99)	Rブラックレベルを調整する
		B BLACK	(-99~99)	Bブラックレベルを調整する
		MASTER FLARE	(-99~99)	マスターのフレアレベルを調整する
		R FLARE	(-99~99)	Rフレアレベルを調整する
		G FLARE	(-99~99)	Gフレアレベルを調整する
		B FLARE	(-99~99)	Bフレアレベルを調整する
		FLARE	OFF/ON	フレア補正回路をOFF/ONする
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B	TEST OUT端子からの出力信号を選択する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
04	GAMMA	GAMMA	OFF/ON	ガンマ補正機能をOFF/ONする
		STEP GAMMA	0.35~ 0.45 ~0.90	ガンマ補正カーブをステップで設定する
		MASTER GAMMA	(-99~99)	マスターのガンマ補正カーブを設定する
		R GAMMA	(-99~99)	Rのガンマ補正カーブを設定する
		G GAMMA	(-99~99)	Gのガンマ補正カーブを設定する
		B GAMMA	(-99~99)	Bのガンマ補正カーブを設定する
		TEST OUT SELECT	VBS /Y/R/G/B	TEST OUT端子からの出力信号を選択する
		GAMMA TABLE	STD /HG/USER	ガンマの種類を選択する STD : スタンダードガンマ HG : ハイパーガンマ USER : ユーザーガンマ
		GAM TABLE (STD)	1~ 5 ~6	スタンダードガンマの種類を選択する 1 : SDカムコーダー相当 2 : x4.5ゲイン 3 : x3.5ゲイン 4 : SMPTE-240M相当 5 : ITU-R709相当 6 : x5.0ゲイン
		GAM TABLE (HG)	1~ 4	ハイパーガンマの種類を選択する 1 : 325%のビデオ入力を100%のビデオ出力に圧縮する 2 : 460%のビデオ入力を100%のビデオ出力に圧縮する 3 : 325%のビデオ入力を109%のビデオ出力に圧縮する 4 : 460%のビデオ入力を109%のビデオ出力に圧縮する
GAM TABLE (USER)	1~5	ユーザーガンマの種類を選択する		
05	BLACK GAMMA	BLACK GAMMA	OFF/ON	ブラックガンマ補正をOFF/ONする
		BLACK GAM RANGE	LOW/L.MID/H.MID/ HIGH	ブラックガンマの効く範囲を設定する
		BLACK GAM LEVEL	(-99~99)	マスターのブラックガンマを調整する
		TEST OUT SELECT	VBS /Y/R/G/B	TEST OUT端子からの出力信号を選択する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
06	KNEE	KNEE	OFF/ON	二ー補正回路をOFF/ONする
		KNEE POINT	50.0%~ 95.0% ~109.0%	二ーポイントレベルを設定する
		KNEE SLOPE	(-99~99)	二ースロープレベルを設定する
		KNEE SATURATION	OFF/ON	二ーサチュレーション機能をOFF/ONする
		KNEE SAT LEVEL	(-99~99)	二ーサチュレーションレベルを設定する
		WHITE CLIP	OFF/ON	ホワイトクリップ機能をOFF/ONする
		WHITE CLIP LEVEL	NTSC : 90.0%~ 108.0% ~109.0% PAL : 90.0%~ 105.0% ~109.0%	ホワイトクリップレベルを設定する
07	DETAIL 1	DETAIL	OFF/ON	ディテール補正をOFF/ONする
		APERTURE	OFF/ON	高域補正機能をOFF/ONする
		DETAIL LEVEL	(-99~99)	ディテール信号の総合レベルを設定する
		APERTURE LEVEL	(-99~99)	高域補正レベルを設定する
		DTL H/V RATIO	(-99~99)	Vディテールを設定する
		CRISPENING	(-99~99)	クリスプニングレベルを設定する
		LEVEL DEPEND	OFF/ON	レベルディペンド機能をOFF/ONする
		LEVEL DEPEND LVL	(-99~99)	レベルディペンドのレベルを設定する
		DETAIL FREQUENCY	(-99~99)	Hディテール信号の周波数を設定する
08	DETAIL 2	KNEE APERTURE	OFF /ON	二ーアパーチャー機能をOFF/ONする
		KNEE APT LVL	(-99~99)	二ーアパーチャーレベルを設定する
		DETAIL LIMIT	(-99~99)	白黒両方向のディテールリミッターを設定する
		DTL WHT LMT	(-99~99)	白方向ディテールリミッターを設定する
		DTL BLK LMT	(-99~99)	黒方向ディテールリミッターを設定する
		DTL V-BLK LMT	(-99~99)	黒方向Vディテールリミッターを設定する
		V DTL CREATION	NAM/G/ R+G/Y	V DTL信号のソース信号を選択する
		H/V CONTROL MODE	H/V / V	DETAIL 1の「DTL H/V RATIO」の動作モードを選択する H/V : HとVの増減量が逆方向に動く V : V DTL量のみが動く

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
09	SD DETAIL	SD DETAIL	OFF/ON	SDのディテール補正をOFF/ONする
		SD DETAIL LEVEL	(-99~99)	SDのディテール信号の総合レベルを設定する
		SD CRISPENING	(-99~99)	SDのクリスピーングレベルを設定する
		SD DTL WHT LIMIT	(-99~99)	SDの白方向ディテールリミッターを設定する
		SD DTL BLK LIMIT	(-99~99)	SDの黒方向ディテールリミッターを設定する
		SD LEVEL DEPEND	OFF/ON	SDのレベルディペンド機能をOFF/ONする
		SD LV DEPEND LVL	(-99~99)	SDのレベルディペンドのレベルを設定する
		SD DTL FREQUENCY	(-99~99)	SDのHディテール信号の周波数を設定する
		SD DTL H/V RATIO	(-99~99)	SDのVディテールを設定する
		SD CROSS COLOR (FORMATページで NTSC(J)AREA/NTSC AREA選択時)	(-99~99)	SDのクロスカラー軽減レベルを設定する
10	SKIN DETAIL	SKIN DETAIL ALL	OFF/ON	SKIN DETAIL CH1/2/3のマスタースイッチをOFF/ONする
		SKIN DETECT	色検出画面に移行	SKIN DETAILの対象となる色を検出する
		SKIN AREA IND	OFF/ON	検出した色にゼブラをかける機能をOFF/ONする ONにすると、次の端子からゼブラ表示が出力される <ul style="list-style-type: none"> SDI OUT 2端子 (次の条件をすべて満たすとき: OUTPUT 1ページのSDI OUT 2 SELECTがHSDSI、SDI OUT 2 SUPERがON、SUPER IMPOSEページのSUPER(MENU)またはSUPER(ZEBRA)のいずれかがON) TEST OUT端子 (OUTPUT 1ページのTEST OUT SUPERがONで、かつSUPER IMPOSEページのSUPER(MENU)またはSUPER(ZEBRA)のいずれかがONのとき)
		SKIN DTL SELECT	1/2/3	SKIN DTLを選択する
		SKIN DETAIL	OFF/ON	CH1/2/3を個別にOFF/ONする
		SKIN DETAIL LVL	(-99~99)	検出した色のディテールレベルを設定する
		SKIN DTL SAT	(-99~99)	SKIN DTLの対象となる最低飽和度を調整する
		SKIN DTL HUE	0~359	SKIN DTLの対象となる色相を調整する
		SKIN DTL WIDTH	0~39~359	SKIN DTLの対象となる色相の範囲を設定する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
11	MTX LINEAR	MATRIX	OFF/ON	リニアマトリックスおよびユーザーマトリックス補正全体をOFF/ONする
		MATRIX(USER)	OFF/ON	ユーザーマトリックス補正全体をOFF/ONする
		MATRIX(PRESET)	OFF/ON	プリセットマトリックスをOFF/ONする
		MATRIX(PRST) SEL	1/2/3/4/5/6	プリセットマトリックスを選択する 1: SMPTE 240M相当 2: ITU-709相当 3: SMPTE WIDE相当 4: NTSC相当 5: EBU相当 6: ITU-601相当
		MATRIX(USER) R-G	(-99~99)	R-Gのユーザーマトリックスを任意に設定する
		MATRIX(USER) R-B	(-99~99)	R-Bのユーザーマトリックスを任意に設定する
		MATRIX(USER) G-R	(-99~99)	G-Rのユーザーマトリックスを任意に設定する
		MATRIX(USER) G-B	(-99~99)	G-Bのユーザーマトリックスを任意に設定する
		MATRIX(USER) B-R	(-99~99)	B-Rのユーザーマトリックスを任意に設定する
		MATRIX(USER) B-G	(-99~99)	B-Gのユーザーマトリックスを任意に設定する
		12	MTX MULTI	MATRIX
MATRIX (MULTI)	OFF/ON			マルチマトリックス補正全体をOFF/ONする
MATRIX AREA IND	OFF/ON			現在の設定で対象となる領域にゼブラをかける機能をOFF/ONする
MATRIX COLOR DET	色検出画面に移行			色を検出する
MTX(MULTI)PRESET	EXEC			MTX(MULTI)HUE、MTX(MULTI)SATを16軸分すべてプリセット値に戻す
MTX (MULTI) AXIS	B/B+/MG-/MG/MG+/R/R+/YL-/YL/YL+/G-/G/G+/CY/CY+/B-			マルチマトリックス補正機能の対象となる16軸の色相を設定する
MTX (MULTI) HUE	(-99~99)			色相補正を16軸モードごとに設定する
MTX (MULTI) SAT	(-99~99)			彩度補正を16軸モードごとに設定する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
13	V MODULATION	V MOD	OFF/ ON	Vモジュレーション機能をOFF/ONする
		MASTER VMOD	(-99~99)	マスターVモジュレーションレベルを調整する
		R VMOD	(-99~99)	RのVモジュレーションレベルを調整する
		G VMOD	(-99~99)	GのVモジュレーションレベルを調整する
		B VMOD	(-99~99)	BのVモジュレーションレベルを調整する
		TEST OUT SELECT	VBS /Y/R/G/B/LCD	TEST OUT端子からの出力信号を選択する
14	SATURATION	LOW KEY SAT	OFF /ON	LOW KEY SATURATION機能をOFF/ONする
		L KEY SAT LEVEL	(-99~99)	LOW KEY (低輝度) 部分の色の飽和度を調整する
		L KEY SAT RANGE	LOW/L.MID/H.MID/ KNEE /HIGH	LOW KEY SATURATIONを有効とする輝度レベルを選択する
15	SATURATION MODE	SATURATION MODE	KNEE /L KEY	サチュレーション機能のモードを切り換える (高輝度側の処理 (KNEE SAT) または低輝度側の処理 (BLACK GAMMA/LOWKEY AST) が選択できます)
		KNEE SATURATION	OFF/ ON	SATURATION MODEがKNEEのときに、ニーサチュレーション機能をOFF/ONする
		BLACK GAMMA	OFF /ON	SATURATION MODEがL.KEYのときに、ブラックガンマ補正をOFF/ONする
		LOW KEY SAT	OFF /ON	SATURATION MODEがL.KEYのときに、LOW KEY SATURATION機能をOFF/ONする
16	NOISE SUPPRESS	NOISE SUPPRESS	OFF/ ON	ノイズサプレッサー機能をOFF/ONする
		NOISE SUP LEVEL	OFF/ LOW /HIGH	ノイズサプレッサー機能のレベルを選択する
17	SCENE FILE	1	STANDARD	各番号に該当する本機のメモリーに保存されているシーンファイルを直接呼び出す
		2	STANDARD	
		3	STANDARD	
		4	STANDARD	
		5	STANDARD	
		STANDARD	-	現在のペイント調整量とスイッチの設定を、リファレンスファイルに保存されている標準値に戻す
		SCENE RECALL	EXEC	シーンファイルを本機のメモリーまたはUSBメモリーから呼び出す
		SCENE STORE	EXEC	シーンファイルを本機のメモリーまたはUSBメモリーに保存する
		F.ID	空白 /最大16文字	ファイルIDを設定する

MAINTENANCEメニュー

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
01	WHITE SHADING	WHT SHAD CH SEL	R/G/B/TEST	このメニューで調整するチャンネルを選択する。「TEST」に設定するとTEST OUT SELECTの設定と連動する
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B/LCD	TEST OUT端子からの出力信号を選択する
		R/G/B WHT H SAW	(-99~99)	HのSAWホワイトシェイディング補正を調整する
		R/G/B WHT H PARA	(-99~99)	Hのパラボラホワイトシェイディング補正を調整する
		R/G/B WHT V SAW	(-99~99)	VのSAWホワイトシェイディング補正を調整する
		R/G/B WHT V PARA	(-99~99)	Vのパラボラホワイトシェイディング補正を調整する
		WHITE SAW/PARA	OFF/ON	ホワイトシェイディングのSAW/PARA補正をOFF/ONする
02	BLACK SHADING	BLK SHAD CH SEL	R/G/B/TEST	このメニューで調整するチャンネルを選択する。「TEST」に設定するとTEST OUT SELECTの設定と同じになる。
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B/LCD	TEST OUT端子からの出力信号を選択する
		R/G/B BLK H SAW	(-99~99)	HのSAWブラックシェイディング補正を調整する
		R/G/B BLK H PARA	(-99~99)	Hのパラボラブラックシェイディング補正を調整する
		R/G/B BLK V SAW	(-99~99)	VのSAWブラックシェイディング補正を調整する
		R/G/B BLK V PARA	(-99~99)	Vのパラボラブラックシェイディング補正を調整する
		BLACK SAW/PARA	OFF/ON	ブラックシェイディングのSAW/PARA補正をOFF/ONする
03	LEVEL ADJUST	MASTER BLACK	(-99~99)	マスターのブラックレベルを調整する
		MASTER GAIN(TMP)	-6dB/-3dB/0dB/ 3dB/6dB/9dB/12dB/ 18dB/24dB/30dB/ 36dB/42dB	一時的にマスターゲインの値を調整する
		VBS VIDEO LEVEL	(-99~99)	コンポジット信号のビデオレベルを調整する
		HD-Y LEVEL	(-99~99)	HDのコンポーネント信号Yのビデオレベルを調整する
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B/LCD	TEST OUT端子からの出力信号を選択する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
04	BATTERY 1	Info BEFORE END	5% /10%/15%...95%/100%	バッテリーパックBP-GL65/GL95使用時のバッテリー BEFORE END容量を設定する ^{a)}
		Info END	0% /1%/2%/3%/4%/5%	バッテリーパックBP-GL65/GL95使用時のバッテリー END容量を設定する ^{b)}
		Sony BEFORE END	11.5V ~17.0V (0.1V刻み)	バッテリーパックBP-L60S/L80S使用時のバッテリー BEFORE END電圧を設定する ^{a)}
		Sony END	11.0V ~11.5V (0.1V刻み)	バッテリーパックBP-L60S/L80S使用時のバッテリー END電圧を設定する ^{b)}
		Other BEFORE END	11.5V~ 11.8V ~17.0V (0.1V刻み)	ソニー製以外のバッテリーパック使用時のBEFORE END電圧を設定する
		Other END ^{c)}	11.0V ~14.0V (0.1V刻み)	ソニー製以外のバッテリーパック使用時のEND電圧を設定する
		DC IN BEFORE END	11.5V~ 11.8V ~17.0V (0.1V刻み)	DC IN端子に外部電源を接続したときのBEFORE END電圧を設定する
		DC IN END	11.0V ~14.0V (0.1V刻み)	DC IN端子に外部電源を接続したときのEND電圧を設定する
		DETECTED BATTERY	Info/Sony/Other/DC IN	自動判別したバッテリー種別を示す

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
05	BATTERY 2	TYPE DETECTION	AUTO /OTHER	AUTO ：バッテリー種別を自動判別する OTHER ：バッテリー種別を「OTHER」 ^{o)} に固定して判定する
		SEGMENT NO.7	11.0V～ 17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント7が、設定した電圧未満で消灯する E ■■■■■■ F 1 2 3 4 5 6 7
		SEGMENT NO.6	11.0V～ 16.0V ～17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント6が、設定した電圧未満で消灯する (E ^{d)} とFは常時点灯)
		SEGMENT NO.5	11.0V～ 15.0V ～17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント5が、設定した電圧未満で消灯する
		SEGMENT NO.4	11.0V～ 14.0V ～17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント4が、設定した電圧未満で消灯する
		SEGMENT NO.3	11.0V～ 13.0V ～17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント3が、設定した電圧未満で消灯する
		SEGMENT NO.2	11.0V～ 12.0V ～17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント2が、設定した電圧未満で消灯する
		SEGMENT NO.1	11.0V ～17.0V (0.1V刻み)	「OTHER」判定時、残量表示セグメント1が、設定した電圧未満で消灯する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
06	AUDIO-1	FRONT MIC SELECT	MONO/ STREO	フロントマイクをモノラルにするか、ステレオにするかを選択する
		AUDIO CH3/4 MODE	CH1/2/ SW	AUDIO IN CH3/4に記録する入力信号を選択する CH1/2 : CH1/2と同じ信号 SW : AUDIO IN CH-3/CH-4スイッチで選択された入力信号
		REAR XLR AUTO	OFF /ON	背面のAUDIO IN端子にコネクターが接続されているかどうかを自動的に検出する機能をOFF/ONする
		FRONT MIC REF	-60dB/- 50dB /-40dB	フロントマイクの基準入力レベルを選択する
		REAR MIC REF	- 60dB /-50dB/-40dB	AUDIO IN CH1がMICに設定されているときの基準入力レベルを選択する
		MIN ALARM VOL	OFF /SET	ALARMつまみを絞りきったときの音量 OFF : ほぼ聞こえない SET : ある程度は聞こえる
		SP ATT LEVEL	OFF /3dB/6dB/9dB	モニタースピーカーからの音量を小さくする。イヤホンの音量には影響を与えない
		HEADPHONE OUT	MONO /STREO	後部のイヤホンをモノラルにするか、ステレオにするかを選択する
07	AUDIO-2	AU DATA LEN (IMX)	16bit /24bit	◆詳しくは、「記録フォーマットの設定」(62ページ)をご覧ください。
		AU REF LEVEL	- 20dB /-18dB/-16dB/-12dB/EBUL	1kHzテスト信号の出力レベルを設定する
		AU REF OUT	0dB /+4dB/-3dB/EBUL	REFレベルに対する出力レベルを設定する
		AU CH12 AGC MODE	MONO /STREO	CH1/2に記録するアナログオーディオ信号の入力レベル自動調整をCH1/2独立に行うか、ステレオモードで行うかを選択する
		AU CH34 AGC MODE	MONO /STREO/OFF	CH3/4に記録するアナログオーディオ信号の入力レベル自動調整をCH3/4独立に行うか、ステレオモードで行うか、OFFにするかを選択する
		AU AGC SPEC	- 6dB /-9dB/-12dB/-15dB/-17dB	AGCの特性(飽和レベル)を設定する
		AU LIMITER MODE	OFF /-6dB/-9dB/-12dB/-15dB/-17dB	オーディオ入力レベルの手動調整時、大きな入力信号に対するリミッター特性(飽和レベル)を設定する
		AU OUT LIMITER	OFF/ ON	オーディオ出力リミッターをOFF/ONする

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
08	AUDIO-3	AU SG (1kHz)	ON/OFF/AUTO	カラーパーモード時に1kHzのテスト信号を出力するかどうかを設定する ON : 出力する OFF : 出力しない AUTO : AUDIO SELECT CH-1スイッチがAUTOに設定されているときのみテスト信号を出力する
		MIC CH1 LEVEL	SIDE1/FRONT/F+S1	フロントマイクの音声をCH1に記録する場合、どのつまみで調節するかを選択する SIDE 1 : サイドパネルのLEVELつまみ (左側) FRONT : フロントパネルのMIC LEVELつまみ F+S1 : LEVELつまみ (左側)とMIC LEVELつまみ (両方連動する)
		MIC CH2 LEVEL	SIDE2/FRONT/F+S2	フロントマイクの音声をCH2に記録する場合、どのつまみで調節するかを選択する SIDE 2 : サイドパネルのLEVELつまみ (右側) FRONT : フロントパネルのMIC LEVELつまみ F+S2 : LEVELつまみ (右側)とMIC LEVELつまみ (両方連動する)
		REAR1/WRR LEVEL	SIDE1 /FRONT/F+S1	ワイヤレスマイクとリアパネルのAUDIO IN CH1端子に接続した機器をどのつまみで調節するかを選択する SIDE 1 : サイドパネルのLEVELつまみ (左側) FRONT : フロントパネルのMIC LEVELつまみ F+S1 : LEVELつまみ (左側)とMIC LEVELつまみ (両方連動する)
		REAR2/WRR LEVEL	SIDE2 /FRONT/F+S2	ワイヤレスマイクとリアパネルのAUDIO IN CH2端子に接続した機器をどのつまみで調節するかを選択する SIDE 2 : サイドパネルのLEVELつまみ (右側) FRONT : フロントパネルのMIC LEVELつまみ F+S2 : LEVELつまみ (右側)とMIC LEVELつまみ (両方連動する)
		AUDIO CH3 LEVEL ^{*)}	FIX /FRONT	CH3に記録される音声レベルを選択する FIX : 固定値 FRONT : 本機前面のMIC LEVELつまみで調整されたレベル
		AUDIO CH4 LEVEL ^{*)}	FIX /FRONT	CH4に記録される音声レベルを選択する FIX : 固定値 FRONT : 本機前面のMIC LEVELつまみで調整されたレベル

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
09	WRR SETTING	WRR VALID CH SEL ^{f)}	ALL /CH1	ワイヤレスレシーバーのCH1/2双方を有効にするか、CH1のみを有効にするかを選択する ALL ：CH1/2双方を有効にする CH1 ：CH1のみを有効にする。 モノラルワイヤレスレシーバーとして使用する場合に選択する
		WRR CH SELECT ^{f)}	TX1 /TX2	メニュー表示対象の受信チャンネルを選択する TX1 ：CH1の内容を表示する TX2 ：CH2の内容を表示する
		WRR DELAY COMP ^{f)}	OFF / ON	ワイヤレス入力音声の遅延補正機能を有効にするかどうかを設定する OFF ：無効にする ON ：有効にする（すべてのEE出力の音声が約8 ms遅延する）
		TX* (*：チャンネル番号) ^{f)}	—	WRR CH SELECTで選択されたチャンネルで受信している送信機の名前を表示する。 ここに表示されるチャンネル番号と名前が、クリップメタデータファイルC*M01.XML (*：0001～9999) の<Description>タグ内に記録される
		TX* AUDIO PEAK (*：チャンネル番号) ^{f)}	---/PEAK	WRR CH SELECTで選択されたチャンネルで受信している送信機のAFレベルがPEAK OVER（ピークオーバー）かどうかを表示する
		TX* INPUT LEVEL (*：チャンネル番号) ^{f)}	MIC/LINE	WRR CH SELECTで選択されたチャンネルで受信している送信機の入力レベルがMICとLINEのどちらに設定されているかを表示する
		TX* ATT LEVEL (*：チャンネル番号) ^{f)}	—	WRR CH SELECTで選択されたチャンネルで受信している送信機のATTレベルを設定する（設定値の変換範囲は、受信している送信機によって異なる場合がある）
		TX* LCF FREQ (*：チャンネル番号) ^{f)}	—	WRR CH SELECTで選択されたチャンネルで受信している送信機のLow Cut Filter周波数を設定する（設定値の変換範囲は、受信している送信機によって異なる場合がある）
		TX* SYSTEM DELAY (*：チャンネル番号) ^{f)}	AUTO /0.0ms～8.0ms	WRR CH SELECTで選択されたチャンネルの音声の遅延量を設定する AUTO ：ワイヤレスレシーバーから送られてくる音声の遅延量がゼロになるように自動的に遅延量を補正する 0.0ms～8.0ms ：オーディオミキサーなどを介して複数のワイヤレスシステムを使用している場合に、予測されるワイヤレスシステムの遅延量を設定する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
10	TIMECODE	TC OUT	AUTO /GENE	タイムコード出力を設定する AUTO ：記録時はタイムコードジェネレーターの値を出力し、再生時はタイムコードリーダーの値を出力する GENE ：記録時、再生時ともタイムコードジェネレーターの値を出力する
		DF/NDF (SYSTEM FREQUENCYが59.94i のときのみ)	DF /NDF	DF/NDFを設定する DF ：ドロップフレームモード NDF ：ノンドロップフレームモード
		EXT-LK DF/NDF (SYSTEM FREQUENCYが59.94i のときのみ)	INT /EXT	DF/NDFの設定が内部、外部どちらかに従うかを設定する INT ：内部 EXT ：外部
		EXT-LK UBIT	INT /EXT	タイムコードが外部ロックされているときのLTC UBITの設定値が内部、外部どちらかに従うかを設定する INT ：内部 EXT ：外部
		LTC UBIT	FIX /TIME	LTCのU-BITに記録するデータを設定する FIX ：ユーザーが設定したデータを記録する TIME ：現在の時刻を記録する
		VITC UBIT (SD)	FIX /TIME	VITCのU-BITに記録するデータを設定する FIX ：ユーザーが設定したデータを記録する TIME ：現在の時刻を記録する
		WATCH AUTO ADJ	OFF/ ON	外部タイムコードのU-BITに入っている実時刻データに内蔵時計を合わせる機能をOFF/ONする
		UBIT GROUP ID	000 /101	U-BIT GROUP IDを選択する
		VITC INS LINE 1	NTSC：12H~ 16H ~19H PAL：9H~ 19H ~22H	記録時のVITC挿入ラインを指定する
		VITC INS LINE 2	NTSC：12H~ 18H ~19H PAL：9H~ 21H ~22H	
11	ESSENCE MARK	RET SHOT MARK 1	OFF/ ON	◆ 詳しくは、「エッセンスマークを記録する」(93ページ)をご覧ください。
		RET SHOT MARK 2	OFF/ ON	
		INDEX PIC POS	0SEC ~10SEC (1秒刻み)	◆ 詳しくは、「サムネイルを設定する」(94ページ)をご覧ください。
		FIND MODE	R.ST /CLIP	PREVまたはNEXTボタンを押したときに頭出しするフレームを指定する R.ST ：Rec Startエッセンスマークが設定されているフレーム CLIP ：クリップの先頭フレーム

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
12	CAM CONFIG 1	REC TALLY BLINK	OFF/ON	バッテリー残量およびディスク空き容量がわずかになくなったときのタリ一点減をOFF/ONする
		REC START BEEP	OFF/ON	記録開始/停止時の警告音をOFF/ONする
		SDI REC CONTROL	OFF/RM/PARA	本機と同期した記録を可能にする機能を設定する。 RM ：SDI OUT端子に接続したレコーダーにRECトリガー信号を出力する。 PARA ：本機と同期した記録制御を行う。
		HDSDI REMOTE I/F	CHARA/G-TLY/R-TLY	本機のSDI OUT 1/2端子 (HDSDI出力) ⑨に接続された外部機器に対する記録動作制御機能を使用するかどうかを設定する。使用する場合、外部機器が記録状態であることの表示方法を選択する CHARA ：ビューファインダー画面上の状態表示の外部機器制御表示で表示する (42ページ参照) G-TLY ：ビューファインダー内のTALLYランプで表示する R-TLY ：ビューファインダー内のRECランプで表示する
				ご注意 R-TLY選択時は、本機が記録中でなくてもTALLYランプが点灯します。
		MATCH CLIP NAME	OFF/ON	SDIOUT 1/2端子 (HDSDI出力) にクリップ名情報を重畳するかどうかを設定する。対応した機器で本体と同じクリップ名でクリップが作成されます。
		PROAV DISPLAY	DSABL/ENABL	FTP接続によるファイルアクセス時、PROAVディレクトリーを表示するかどうかを設定する DSABL ：表示しない ENABL ：表示する
		MIXED RECORDING	DSABL/ENABL	◆詳しくは、「記録フォーマットが異なるクリップの同一ディスク内への混在記録」(63ページ)をご覧ください。
		SINGLE CLIP MODE	OFF/ON	◆詳しくは、「クリップの再生モード」(90ページ)をご覧ください。

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
12	CAM CONFIG 1	PB POSITION	KEEP/TOP	<p>クリップ再生画面とクリップリスト再生画面を切り換えたときの、クリップまたはサブクリップの再生開始位置を指定する</p> <p>KEEP：前回停止した位置から再生する</p> <p>TOP：先頭クリップまたは先頭サブクリップの先頭フレームから再生する</p>

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
13	CAM CONFIG 2	TEST SAW SELECT	SAW/REC	テスト信号を選択する
		COLOR BAR SELECT	ARIB/100%/75%/SMPTE	カラーバーの種類を選択する
		USER & ALL ONLY	OFF/ON	TOP MENUにUSERメニュー以外を載せない設定をOFF/ONする
		RM COMMON MEMORY	OFF/ON	リモートコントロールユニット接続時と単体使用時の設定を共有するかどうかを設定する
		RM REC START	RM/CAM/PARA	リモートコントロールユニット接続時にどちらの記録開始/停止ボタンを有効にするかを設定する RM ：リモートコントロールユニット CAM ：カムコーダー PARA ：両方
		SHT DISP MODE	SEC/DEG	シャッター表示の選択 (秒/角度)
		RM F NO DISPLAY	CTRL/RET	MSU-900などのリモートコントロールユニット上でのアイリスF値の表示方式を切り換える CTRL ：カメラからの制御値を元に表示する RET ：レンズからの位置情報を元に表示する
		FAN CONTROL	AUTO/R.MIN/MIN	冷却ファンの制御方式を選択する (この設定は、本機の電源を切っても保持されます) AUTO ：冷却ファンの回転を自動制御する R.MIN ：記録時のみ冷却ファンを低速回転にする (低温環境のため本機の内部温度が上昇しないときは、回転を停止する) MIN ：冷却ファンを低速回転にする (低温環境のため本機の内部温度が上昇しないときは、回転を停止する)
		FOCUS MAG SW	MTRY/ALT	FOCUS MAG機能をASSIGNスイッチに割り当てたときの操作方法を選択する MTRY ：押している間だけONになる ALT ：押すたびにON/OFFが切り替わる (ONにして5秒経過すると自動的にOFFになる)

ご注意

本項目の設定に関わらず、本機の内部温度がアラーム発生寸前まで上昇すると、冷却ファンは高速回転します。

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
14	CAM CONFIG 3	ALAC	OFF/AUTO	<p>収差補正機能を動作させるかどうかを設定する</p> <p>OFF：動作させない</p> <p>AUTO：収差補正対応レンズが装着されているときは、収差補正機能を動作させる</p> <p>ご注意</p> <p>収差補正対応レンズによっては、本項目が「AUTO」に設定されていても電源投入直後に収差補正機能が動作しない（ビューファインダー画面上に「ALAC」と表示されない）ことがあります。このようなときは、レンズのズームリングとフォーカスリングをいったん端まで動かして、ビューファインダー画面上に「ALAC」の表示が出ることを確認してから使用してください。</p> <p>◆ 収差補正対応レンズについては、ソニーのサービス担当者または営業担当者にお問い合わせください。</p>
15	PRESET WHITE	COLOR TEMP <P>	目安の色温度を表示	ホワイトバランスのプリセット値を設定する
		C TEMP BAL <P>	(-99~99)	COLOR TEMPで希望の色に設定できなかった場合、さらに細かく合わせ込む
		R GAIN <P>	(-99~99)	Rゲインのプリセット値を設定する
		G GAIN <P>	(-99~99)	Gゲインのプリセット値を設定する
		AWB ENABLE <P>	OFF/ON	WHITE BALスイッチがPRSTのとき、AWB（オートホワイトバランス）の実行を許可する機能をOFF/ONする
16	WHITE FILTER	ND FILTER CTEMP	OFF/ON	電氣的CCフィルターをNDフィルターに割り当てる機能をOFF/ONする
		ND FLT CTEMP <1>	3200K/4300K/5600K/6300K	電氣的CCフィルターをNDフィルターに割り当てるときの色温度を設定する
		ND FLT CTEMP 2-4	3200K/4300K/ 5600K /6300K	<p>◆ 詳しくは、「NDフィルターの切り換えに合わせて色温度を変更するには」（67ページ）をご覧ください。</p>
		ELECTRICAL CC<A>	3200K/4300K/5600K/6300K	電氣的CCフィルターの切り換え機能をASSIGNスイッチに割り当てるときの色温度を設定する
		ELECTRICAL CC	3200K/ 4300K /5600K/6300K	<p>◆ 詳しくは、「電氣的CCフィルターをASSIGNスイッチで切り換えるには」（68ページ）をご覧ください。</p>
		ELECTRICAL CC<C>	3200K/4300K/ 5600K /6300K/-----	
		ELECTRICAL CC<D>	3200K/4300K/5600K/ 6300K /-----	

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
17	DCC ADJUST	DCC FUNCTION SEL	DCC /FIX	OUTPUT/DCCスイッチをCAM、DCC：ONにしたときの二ポイントの設定方法を選択する DCC ：二ポイントを被写体の輝度に合わせて自動調整する FIX ：二ポイントを固定値にする
		DCC D RANGE	400%/450%/500%/550%/ 600%	OUTPUT/DCCスイッチをCAM、DCC：ONにしたときのダイナミックレンジを設定する
		DCC POINT	(-99~99)	DCCの最小二ポイントを調整する
		DCC GAIN	(-99~99)	DCCの検出値に対するゲインを調整する
		DCC DELAY TIME	(-99~99)	DCCの反応速度を調整する
		DCC PEAK FILTER	(-99~99)	DCCの検出値のピークに対する応答感度を調整する
		18	AUTO IRIS 2	IRIS WINDOW
IRIS WINDOW IND	OFF /ON			オートアイリス検出ウィンドウの枠をマーカーで表示する機能をOFF/ONする
IRIS LEVEL	(-99~99)			オートアイリスの目標値のレベルを調整する
IRIS APL RATIO	(-99~99)			オートアイリス検出値のピークと平均値の混合比を調整する
IRIS VAR WIDTH	20~ 240 ~479			アイリスウィンドウを「VAR」に設定したときの検出枠の幅を調整する
IRIS VAR HEIGHT	20~ 135 ~269			アイリスウィンドウを「VAR」に設定したときの検出枠の高さを調整する
IRIS VAR H POS	-460~ 0 ~459			アイリスウィンドウを「VAR」に設定したときの検出枠の水平位置を調整する
IRIS VAR V POS	-250~ 0 ~249			アイリスウィンドウを「VAR」に設定したときの検出枠の垂直位置を調整する
IRIS SPEED	(-99~99)			オートアイリスの速度を調整する
CLIP HIGH LIGHT	OFF /ON			オートアイリス時、高輝度部の検出を無視して、高輝度に対する反応を鈍くさせる機能をOFF/ONする
19	GENLOCK	GENLOCK	OFF/ ON	ゲンロック機能をOFF/ONする
		GL HD H PHASE	(-99~99)	ゲンロック時のHD出力のH位相を設定する
		GL SD H PHASE	(-99~99)	ゲンロック時のSD出力のH位相を設定する
		REFERENCE	INTERNAL/GENLOCK/ SDI IN	本機が使用している基準信号の種類を表示する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
20	ND COMP	ND OFFSET ADJUST	OFF/ON	NDフィルターの色ずれを補正する機能をOFF/ONする
		CLEAR ND OFFSET	EXEC	NDフィルターの色ずれ補正値をクリアする
21	AUTO SHADING	AUTO BLK SHADING	EXEC	ブラックシェイディングの自動補正機能を実行する
		RESET BLK SHD	EXEC	ブラックシェイディング補正値をクリアする
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B/LCD	TEST OUT端子からの出力信号を選択する
		MASTER GAIN(TMP)	-6dB/-3dB/0dB/ 3dB/6dB/9dB/12dB/ 18dB/24dB/30dB/ 36dB/42dB	一時的にマスターゲインの値を設定する
22	APR	APR	EXEC	自動ピクセルノイズリダクション機能を実行し、白点の発生を軽減する
		APR(SLS)	EXEC	自動ピクセルノイズリダクション機能を実行し、SLS（スロースピードシャッター）モード時の白点の発生を軽減する ^{h)}
		APR PRESET	EXEC	APRおよびブラックバランスの自動調整の実行によって追加登録された白点データを削除する
		APR ON ABB	OFF/ON	OFF ：ABB時にAPR機能を実行しない ON ：ABB時にAPR機能を実行する

ご注意

この機能の実行時間は約30分です。本機の内部温度が低い場合は、さらに時間がかかります。

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
23	NETWORK 1	NETWORK SETUP	EXEC	ネットワーク設定を行うためのNETWORK SETTINGページを表示する
		ご注意		
	ワイヤレスアダプター CBK-WA100使用時、このメニューは使用しません。	SECURITY	表示のみ	ネットワークセキュリティのレベル
		DHCP	表示のみ	DHCPサーバーからのIPアドレス自動取得機能の有効/無効
		IP ADDRESS	表示のみ	IPアドレス
		SUBNET MASK	表示のみ	サブネットマスク
		DEF.GATEWAY	表示のみ	デフォルトゲートウェイ
		LINK SPEED	表示のみ	通信速度
		DUPLEX	表示のみ	通信方式
		DNS1	表示のみ	DNSサーバー 1
		UPnP	表示のみ	UPnP機能の有効/無効
	NETWORK SETTING	SECURITY	LEVEL1/LEVEL2	LEVEL1 ：HTTP通信のユーザー名/パスワードを暗号化しない。クリップ転送はFTP通信で行われる。 LEVEL2 ：HTTP通信のユーザー名/パスワードを暗号化する。クリップ転送はFTPS通信で行われる。 ダイレクトFTP転送、ライブロギング機能、ウェブページでのサムネイル表示不可。
		ご注意		
	ワイヤレスアダプター CBK-WA100使用時、このメニューは使用しません。	DHCP	ENABLE/ DISABLE	セキュアでないネットワーク環境をお使いの場合、LEVEL2に設定することを推奨します。 DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得するかどうかを設定する
		ご注意		
		<ul style="list-style-type: none"> DHCPを「ENABLE」に設定すると、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、およびDNSサーバー 1/2は設定できません。 自動取得した設定値を確認するには、メニューをいったん閉じてから開き直してください。 		
		IP ADDRESS	xxx.xxx.xxx.xxx 192.168.1.10	IPアドレスを設定する
		SUBNET MASK	xxx.xxx.xxx.xxx 255.255.255.0	サブネットマスクを設定する
		DEF.GATEWAY	xxx.xxx.xxx.xxx 0.0.0.0	デフォルトゲートウェイを設定する
		LINK SPEED	AUTO /10Mbps/ 100Mbps	通信速度を設定する
		DUPLEX	AUTO /FULL/HALF	通信方式を設定する
		DNS1	xxx.xxx.xxx.xxx 0.0.0.0	DNSサーバー 1を設定する
		DNS2	xxx.xxx.xxx.xxx 0.0.0.0	DNSサーバー 2を設定する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
23	NETWORK SETTING	UPnP	DISABLE /ENABLE	UPnP (ユニバーサルプラグアンドプレイ) 機能を有効にするかどうかを設定する DISABLE : 無効にする ENABLE : 有効にする
		ご注意		
		ワイヤレスアダプター CBK-WA100使用時、このメニューは使用しません。		
24	NETWORK 2	NET CFG RESET	EXEC	ネットワークの設定を出荷時の設定にリセットする
		MAC	表示のみ	本機のMACアドレス
25	WPS	Wi-Fi	DSABL /ENABL	◆ 詳しくは、「WPS操作により接続先を指定するには」(230ページ) をご覧ください。
		WPS MODE	ONE PUSH /PIN CODE	
		PIN	UPDATE	
		WPS START	EXEC	
		WPS STATUS	表示のみ	
26	Wi-Fi	Wi-Fi SETUP	EXEC	無線LAN設定を行うためのWi-Fi SETTINGページを表示する
		ご注意		
		ワイヤレスアダプター CBK-WA100使用時、このメニューは使用しません。		
		Wi-Fi STATUS	[----]/[■□■□■□]/CONNECT (表示のみ)	通信/接続状態 ■□■□■□ : 信号強度を■の数で示す CONNECT : 接続シーケンス実行中
		WIRELESS MODE	----/802.11b/802.11g/802.11n (表示のみ)	IEEE 802.11の規格
		SSID	(unknown)/最大32文字 (表示のみ)	ネットワーク名
		NETWORK TYPE	----/INFRA/ADHOC (表示のみ)	接続モード
		CH	--/1~14 (表示のみ、13、14は自動検出時のみ)	無線チャンネル
		AUTH	----/OPEN/SHARED/WPA/WPA2 (表示のみ)	ネットワーク認証
		ENCRYPTION	----/DISABLE/WEP/TKIP/AES (表示のみ)	データの暗号化
	Wi-Fi SETTING	SCAN NETWORKS	EXEC	◆ 詳しくは、「無線LANを設定する」(228ページ) をご覧ください。
		SSID	空白/最大32文字	
		NETWORK TYPE	INFRA/ ADHOC	
		CH	1 ~11	
		AUTH	OPEN /SHARED/WPA/WPA2	
		ENCRYPTION	DISABLE /WEP/TKIP/AES	
		WEP KEY INDEX	1 /2/3/4	
		INPUT SELECT	ASCII5 /ASCII13/HEX10/HEX26	
		KEY	空白/最大26文字	
27	META OUT	META DATA ITEM OUT	OFF/ ON	

a) BATTERY 2のTYPE DETECTIONで「OTHER」が選択されている場合は、Other BEFORE ENDの設定に従います。

b) BATTERY 2のTYPE DETECTIONで「OTHER」が選択されている場合は、Other ENDの設定に従います。

- c) BATTERY 2 のTYPE DETECTIONで「AUTO」が選択されている場合は、ソニー製BPシリーズバッテリーとアントンパワー社のインテリジェントバッテリーシステム以外のバッテリーは、「Others」に分類されます。
- d) BEFORE ENDで1回/秒点滅、ENDで4回/秒点滅
- e) AUDIO-2ページのAU CH34 AGC MODEがOFFに設定されているときに必要な設定項目

- f) デジタルワイヤレスレシーバー DWR-S02DN/S03Dが装着されているときに必要な設定項目
- g) OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページでSDI OUT 1 SELECTまたはSDI OUT 2 SELECTをHDSDIに設定する必要があります。
- h) ブラックバランスの自動調整（64ページ参照）でも補正機能（ビクセルノイズリダクション）が働きますが、検出回数に制限があります。より確実に補正するには、APRを実行してください。
- APRの実行後に「No More White Pixel」と表示されたら、検出可能な白点は残っていません。

FILEメニュー

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
01	USER FILE	USER FILE LOAD	EXEC	◆ 詳しくは、「ユーザーファイルの保存と呼び出し」（234ページ）をご覧ください。
		USER FILE SAVE	EXEC	
		F.ID	空白/最大16文字	◆ 詳しくは、「USERメニューの全項目の設定値を標準設定に戻す」（216ページ）をご覧ください。
		USER PRESET	EXEC	
02	USER FILE 2	STORE USR PRESET	EXEC	USERに登録されているメニュー群を標準設定値として保存する
		CLEAR USR PRESET	EXEC	USERに登録されているメニュー群の標準設定値をクリアする
		CUSTOMIZE RESET	EXEC	USERに登録されているメニュー群を工場出荷時の状態にする
		LOAD CUSTOM DATA	OFF/ON	USER FILEページのUSER FILE LOAD実行時、ページおよび項目のカスタマイズ情報を読み込むかどうかを選択する
		LOAD OUT OF USER	OFF/ON	USER FILEページのUSER FILE LOAD実行時、USER FILE内にあるデータのうち、現在のUSERメニュー項目以外のデータを読み込むかどうかを選択する
		BEFORE FILE PAGE	OFF/ON	USER FILEページのUSER FILE LOAD実行時、USERメニュー内のUSER FILE以降のページ内の項目のデータを読み込むかどうかを選択する
		USER LOAD WHITE	OFF/ON	USER FILEページのUSER FILE LOAD実行時、ホワイトバランスのデータを読み込むかどうかを選択する

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
03	ALL FILE	ALL FILE LOAD	EXEC	ALLファイル呼び出す
		ALL FILE SAVE	EXEC	ALLファイルを保存する
		F.ID	空白/最大16文字	ALLファイルに名前を付ける
		ALL PRESET	EXEC	すべての項目をプリセット値に戻す
		STORE ALL PRESET	EXEC	すべての項目の現在の設定値をプリセット値として保存する
		CLEAR ALL PRESET	EXEC	すべての項目のプリセット値をクリアする
		3SEC CLR PRESET	OFF/ON	CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に3秒間押しただままにすると項目ごとにプリセット値をクリアする機能をOFF/ONする
		NETWORK DATA	OFF/ON	ネットワーク関連データを読み込むかどうかを選択する
04	SCENE FILE	1	STANDARD	◆詳しくは、「シーンファイルの保存と呼び出し」(237ページ)をご覧ください。
		2	STANDARD	
		3	STANDARD	
		4	STANDARD	
		5	STANDARD	
		STANDARD	—	
		SCENE RECALL	EXEC	
		SCENE STORE	EXEC	
05	REFERENCE	REFERENCE STORE	EXEC	USBメモリー内のリファレンスファイルを内部メモリーに保存する
		REFERENCE CLEAR	EXEC	リファレンスファイルをクリアする
		REFERENCE LOAD	EXEC	リファレンスファイル呼び出す
		REFERENCE SAVE	EXEC	リファレンスファイルをUSBメモリーに保存する
		F.ID	空白/最大16文字	リファレンスファイルに名前を付ける
		SCENE WHITE DATA	OFF/ON	SCENE FILEページのSCENE RECALLまたはSTANDARD実行時、ホワイトバランスのデータを読み込むかどうかを選択する
06	USER GAMMA	GAMMA LOAD	EXEC	USBメモリー内のユーザー作成によるガンマテーブルデータ(ユーザーガンマファイル)を内部メモリーに読み込む
		GAMMA RESET	EXEC	内部メモリー上のユーザーガンマファイルをクリアする
		F.ID	—	内部メモリー上のユーザーガンマファイル名が表示される
		F.ID	—	USBメモリー内のユーザーガンマファイル名が表示される
		DATE	—	USBメモリー内のユーザーガンマファイルの作成日時が表示される

No.	ページ	設定項目	設定値	内容		
07	LENS FILE 1	LENS FILE RECALL	EXEC	レンズファイルを読み出す		
		LENS FILE STORE	EXEC	レンズファイルを保存する		
		F.ID	No Offset /最大16文字	最後に呼び出したレンズファイルの名称を設定する		
		SOURCE	MEMORY1	選択しているレンズファイルの番号が表示される		
		LENS NO OFFSET	EXEC	レンズファイルをクリアする		
		LENS AUTO RECALL	OFF /ON/S.No	シリアル通信対応レンズ装着時に、該当するレンズファイルを自動的に呼び出すかどうかを設定する OFF ：この機能を使用しない ON ：機種名に対応するレンズファイルを読み出し、その内容を反映する S.No ：シリアル番号の通信が可能なレンズの場合は、機種名とシリアル番号に対応するレンズファイルを読み出し、その内容を反映する。シリアル番号の通信ができないレンズの場合は、機種名に対応するレンズファイルを読み出す（ONに設定したときと同じ）		
		L.ID	—	装着されたシリアル通信対応レンズの機種名が表示される		
		L.MF	—	装着されたシリアル通信対応レンズのメーカー名が表示される		
		08	LENS FILE 2	LENS M VMOD ^{a)}	(-99~99)	レンズファイルのV SAWシェイディングを調整する
				LENS CENTER H ^{a)}	-480~ 0 ~479	レンズファイルのセンターマーカの水平位置を補正する
LENS CENTER V ^{a)}	-270~ 0 ~269			レンズファイルのセンターマーカの垂直位置を補正する		
TEST OUT SELECT	VBS /Y/R/G/B/LCD			TEST OUT端子からの出力信号を選択する		
LENS R FLARE ^{a)}	(-99~99)			レンズファイルのフレア (R) を調整する		
LENS G FLARE ^{a)}	(-99~99)			レンズファイルのフレア (G) を調整する		
LENS B FLARE ^{a)}	(-99~99)			レンズファイルのフレア (B) を調整する		
LENS W-R OFST ^{a)}	(-99~99)			レンズファイルのホワイトバランス (R) の補正値を調整する		
LENS W-B OFST ^{a)}	(-99~99)			レンズファイルのホワイトバランス (B) の補正値を調整する		

No.	ページ	設定項目	設定値	内容
09	LENS FILE 3	SHADING CH SEL	R/G/B/TEST	このメニューで調整するチャンネルを選択する。「TEST」にするとTEST OUT SELECTの設定に連動する
		TEST OUT SELECT	VBS/Y/R/G/B/LCD	TEST OUT端子からの出力信号を選択する
		LENS R/G/B H SAW ^{a)}	(-99~99)	HのSAWホワイトシェイディング補正を調整する
		LENS R/G/B H PARA ^{a)}	(-99~99)	Hのパラボラホワイトシェイディング補正を調整する
		LENS R/G/B V SAW ^{a)}	(-99~99)	VのSAWホワイトシェイディング補正を調整する
		LENS R/G/B V PARA ^{a)}	(-99~99)	Vのパラボラホワイトシェイディング補正を調整する
10	USB MEMORY	USB IN > JUMP TO	OFF/USER/ALL/ SCENE/LENS/ REFER/USER1	◆ 詳しくは「USBメモリー接続時にファイル関連ページを表示する」(241ページ)をご覧ください。

a) エクステンダーがONのときは「EX」が、シュリンカーがONのときは「08」が、それぞれ追加表示されます。

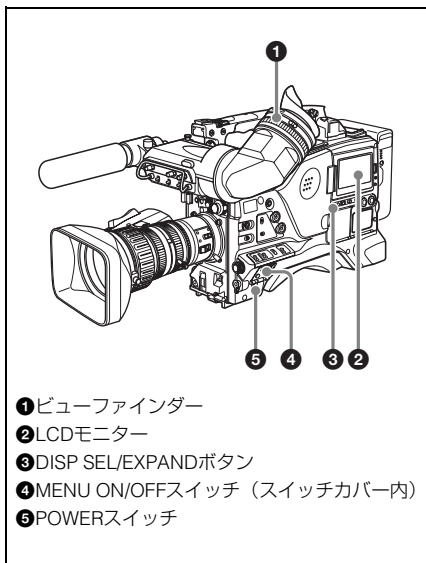
DIAGNOSISメニュー

No.	ページ	項目	備考
01	HOURS METER	OPERATION	本機に電源が投入されている時間を累積して1時間単位で表示する
		LASER	オプティカルヘッドの光出力パラメーターを累積して表示する
		OPERATION (rst)	本機に電源が投入されている時間を累積して1時間単位で表示する (リセット可能)
		SPINDLE (rst)	スピンドルが回転している時間を累積して1時間単位で表示する (リセット可能)
		LOADING (rst)	ディスクの挿入回数を累積して表示する (リセット可能)
		SEEK (rst)	オプティカルヘッドのシーク動作時間を累積して1時間単位で表示する (リセット可能)
02	TIME/DATE	ADJUST	◆ 詳しくは、「内蔵時計の日付と時刻の設定」(49ページ)をご覧ください。
		GPS ADJUST	
		HOUR	
		MIN	
		SEC	
		YEAR	
		MONTH	
		DAY	

No.	ページ	項目	備考
03	ROM VERSION 1	PACKAGE: X.XX	ROMのバージョンが表示される
		SY1: X.XX	
		SY2K: X.XX	
		SY2U: X.XX	
		DRV: X.XX	
		AT: X.XX	
		FP: X.XX	
04	ROM VERSION 2	LVIS: X.XX	
		TSYS: X.XX	
		TMBP: X.XX	
		CHRN: X.XX	
		BRDG: X.XX	
		PIER: X.XX	
		CAVA: X.XX	
05	ROM VERSION 3	DSP0: X.XX	
		PRXA: X.XX	
		GPS: X.XX	
06	DEV STATUS	I/O : FP、CN、DCP、VF	本機内部の各デバイスの状態が表示される
		D/A : DCP1、DCP2	
		EEPROM : CN、DCP、DR	
		FRAM : AT	
		FAN : MB	
		LSI : DCP1、DCP2、TG	
		SCI : SY、RM	

メニューの使いかた

メニューの表示



メニュー操作部のスイッチカバーを開けるとMENU ON/OFFスイッチが使用できるようになります。

本機のPOWERスイッチをONにし、MENU ON/OFFスイッチをONにすると、ビューファインダー画面とLCDモニターにメニューが表示されます。

本機の電源を入れた後、メニューを操作していないときは、USERメニューが表示されます。

本機の電源を入れた後、メニューを操作したときは、前回操作したページが表示されます。

LCDモニターにメニューが表示されないときは

LCDモニターの下にあるDISP SEL/EXPANDボタンでCHAR画面を表示します。

メニューを消すには

MENU ON/OFFスイッチをOFFにします。(スイッチカバーを閉めると、スイッチは自動的にOFFの位置になります。)

なお、ビューファインダーのDISPLAY/ASPECTスイッチのDISPLAYがONに設定されている場合は、ビューファインダー画面に本機の状態が表示されます。

◆詳しくは、「表示項目を選択する」(217ページ)をご覧ください。

TOPメニューを表示するには

メニュー画面が消えている状態で、MENUつまみを押したまま、MENU ON/OFFスイッチをONにします。

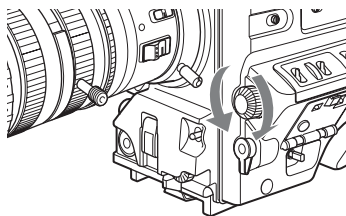
◆本機内部のスイッチ設定により、TOPメニューの表示を禁止することもできます。詳しくは、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

メニューの基本操作

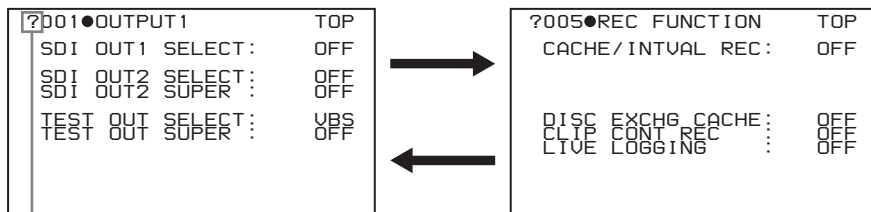
本機はMENUつまみを回したり押ししたりして、メニューを設定できます。以下では主にLCDモニターの表示を例にして説明しますが、ビューファインダー画面にも同様に表示されます。

メニューや設定項目、設定値を選択するには

次の操作では、MENUつまみを回します。

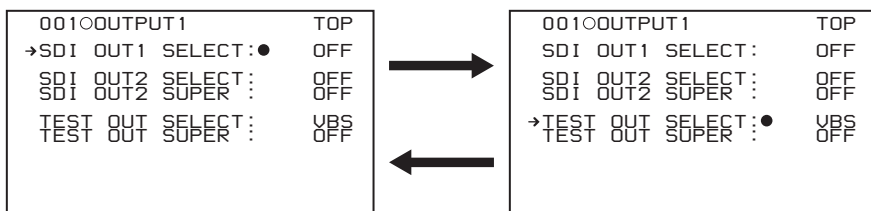


ページをスクロールするとき



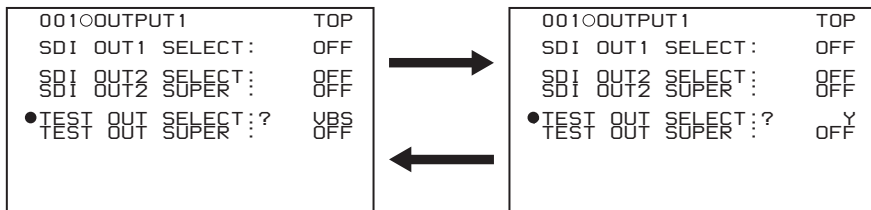
?が点滅しているとき、回すとページが切り替わる

メニューや設定項目を選択するとき



●が表示されているとき、回すと→が移動する

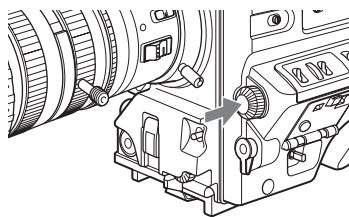
設定値を変更するとき



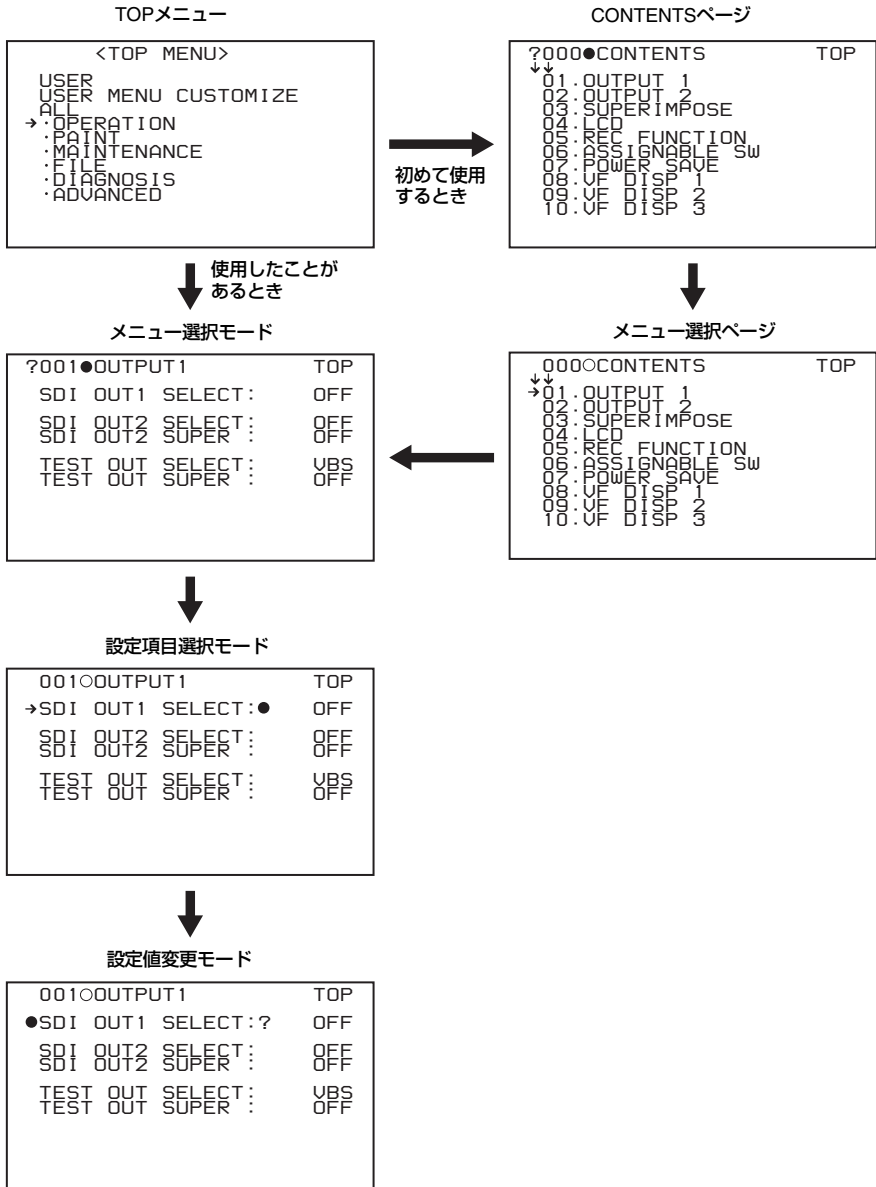
?が点滅しているとき、回すと設定値のON/OFFや数値が切り替わる

メニューや設定項目、設定値を決定するには

MENUつまみを押すと、次のようにメニュー画面が切り替わります。



例：OPERATIONメニューの場合



ご注意

本機の電源を入れた後、TOPメニューを1度も表示していない場合は、上記画面右上のTOPは表示されないため、上記の画面からTOPメニューに移動することはできません。この場合は、「TOP メ

ニューを表示するには」(208ページ)の操作を行ってください。

他のメニューからTOPメニューを表示するには

メニューの各ページの右上に表示されているTOPに➡を合わせ、MENUつまみを押します。または、TOPメニューが表示されるまで、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に繰り返し押します。

USERメニューを操作する（メニューの操作例）

ここでは、USERメニューを例にメニュー操作の手順を説明します。ALL、OPERATION、PAINT、MAINTENANCE、FILE、DIAGNOSISの各メニューで設定するときも操作方法は同じです。

◆USER MENU CUSTOMIZEメニューの操作方法については、「USERメニューを編集する」（212ページ）をご覧ください。

1 MENU ON/OFFスイッチをONにする。

通常はUSERメニューが表示されます。USERメニューが表示されないときは、TOPメニューでMENUつまみを回して➡をUSERに合わせ、MENUつまみを押します。

USERメニューをすでに操作したことがあるときは、前回最後に操作したページが表示されます。そのまま手順2に進んでください。

初めてUSERメニューを使用するときは、CONTENTSページが表示されます。引き続き以下の操作を行います。

①MENUつまみを押してから回して➡を表示したいページに合わせる。

?100●CONTENTS	TOP
➡01: OUTPUT 1	
02: OUTPUT 2	
03: SUPERIMPOSE	
04: LCD	
05: REC FUNCTION	
06: ASSIGNABLE SW	
07: VF DISP 1	
08: VF DISP 2	
09: LED	
10: MARKER 1	

ページをスクロールできる

②もう一度、MENUつまみを押す。

①で➡を合わせたページが表示されます。

手順3に進んでください。

ALL、OPERATION、PAINT、MAINTENANCE、FILE、DIAGNOSISメニューを設定するときは、TOPメニューで各メニューに➡を合わせて、MENUつまみを押します。

2 MENUつまみを回して、目的のページまでページをスクロールする。

?005●REC FUNCTION	TOP
CACHE/INTVAL REC:	OFF
DISC EXCHG CACHE:	OFF
CLIP CONT REC :	OFF
LIVE LOGGING :	OFF

3 MENUつまみを押す。

➡と●が表示されます。

005OREC FUNCTION	TOP
➡CACHE/INTVAL REC:●	OFF
DISC EXCHG CACHE:	OFF
CLIP CONT REC :	OFF
LIVE LOGGING :	OFF

4 MENUつまみを回して➡を設定したい項目に合わせ、MENUつまみを押す。

➡が●に、●が?に変わります。

- 5 MENUつまみを回して、設定値を変更する。**
 回す方向により、設定値が増減したり、ON/OFFが切り替わります。
設定を中断するには
 MENU ON/OFFスイッチをOFFにします。
 なお、もう1度MENU ON/OFFスイッチをONにすると、中断前の表示に戻り、設定操作を続けることができます。
- 6 MENUつまみを押す。**
 ●が▶に、?が●に戻り、設定が確定します。
- 7 続けて同じページの設定項目を変更するときは、手順4～6を繰り返す。**
- 8 メニュー操作を終了するときは、MENU ON/OFFスイッチをOFF側に倒す。**
 メニュー表示が消え、画面の上端と下端に本機の現在の状態を示す表示が現れます。

変更を取り消したり、標準設定値に戻すには

注意

設定項目によっては、標準設定値に戻す機能のみ有効な場合もあります。

- 1 前記の手順6でMENUつまみを押す前に、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。**
 「CANCEL DATA OK?」と表示されます。
- 2 もう一度、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。**
 「CANCEL DATA」と表示され、変更が取り消されます。

- 3 MENUつまみを押した後に標準設定値に戻すには、さらにCANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。**
 「PRESET DATA OK?」と表示されます。
- 4 もう一度、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。**
 設定値が標準設定値に戻ります。

他のページに移るには

?U05●REC FUNCTION	TOP
CACHE/INTVAL REC:	OFF
DISC EXCHG CACHE:	OFF
CLIP CONT REC :	OFF
LIVE LOGGING :	OFF

ページ番号の前に?が表示されているとき

MENUつまみを回すと、ページが切り替わります。

ページ番号の前に何も表示されていないとき

▶をページ番号に合わせてMENUつまみを押してから前記の操作を行います。

USERメニューを編集する

USER MENU CUSTOMIZEメニューでページの追加や削除、順番入れ換えなどを行い、USERメニューをより使いやすく編集できます。

新しいページを作るには

USER MENU CUSTOMIZEメニューには、USERメニューに新しいページを追加する機能があります。

工場出荷時、EDITページにはすでに項目が入っていますが、EDIT USER 1~EDIT USER 19 ページは、白紙の状態です。これらのページには、空白行も含めて最大10項目を登録できます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 TOPメニューを表示する (208ページ参照)。

2 USER MENU CUSTOMIZEを選択し、MENUつまみを押す。

USER MENU CUSTOMIZEメニューを初めて使用するときは、CONTENTSページが表示されます。

```
?E00●CONTENTS TOP
↓
01. EDIT PAGE
02. EDIT LOGIC 1
03. EDIT LOGIC 2
04. EDIT LOGIC 3
05. EDIT LOGIC 4
06. EDIT LOGIC 5
07. EDIT LOGIC 6
08. EDIT LOGIC 7
09. EDIT LOGIC 8
10. EDIT LOGIC 9
```

3 CONTENTSページが表示されているときは、MENUつまみを押してからEDIT USER 1~EDIT USER 19を選択し、MENUつまみを押す。

CONTENTSページ以外のページが表示されているときは、MENUつまみを回して希望のページまでページをスクロールさせ、MENUつまみを押す。

例：EDIT USER 9ページを選んだ場合

```
E100EDIT USER 9 TOP
➡
```

4 MENUつまみを押してから、設定項目を追加したい場所を選択し、MENUつまみを押す。
EDIT FUNCTIONページが表示されず。

```
EDIT FUNCTION ESC
➡INSERT
MOVE
DELETE
BLANK
```

5 「INSERT」を選択し、MENUつまみを押す。

次のページが表示されます。

```
?P00●CONTENTS TOP
↓
01. OUTPUT 1
02. OUTPUT 2
03. SUPERIMPOSE
04. LCD
05. REC FUNCTION Sw
06. BPS SIGNATURE Sw
07. POWER SAVE
09. VF DISP 1
09. VF DISP 2
10. VF DISP 3
```

6 次の操作を行い、設定項目を追加する。

- ① MENUつまみを押してから、希望の設定項目があるページまでページをスクロールし、MENUつまみを押す。
- ② もう一度MENUつまみを押してから希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

EDIT USER 9ページに戻り、追加した設定項目が表示されます。

7 手順4~6を繰り返して、残りの設定項目を追加する。

最大10項目まで登録できます。

スイッチを使用してページ内の設定項目を削除するには

- 1** 「新しいページを作るには」(212ページ)の手順1~3を行う。
- 2** MENUつまみを押してから削除したい項目を選択する。
- 3** CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。
「DELETE ITEM OK?」と表示されます。

- もう一度、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。

メニューを使用してページ内の設定項目を削除するには

- 「新しいページを作るには」(212ページ)の手順1~3を行う。
- MENUつまみを押してから削除したい項目を選択し、MENUつまみを押す。
EDIT FUNCTIONページが表示されません。
- 「DELETE」を選択し、MENUつまみを押す。
元の画面表示に戻り、「DELETE OK ? YES ▶NO」と表示されます。
- 「YES」を選択し、MENUつまみを押す。

ページ内の項目の順番を入れ換えるには

- 「新しいページを作るには」(212ページ)の手順1~3を行う。
- MENUつまみを押してから移動したい項目を選択し、MENUつまみを押す。
EDIT FUNCTIONページが表示されません。
- 「MOVE」を選択し、MENUつまみを押す。
元の画面表示に戻ります。
- 移動先を選択し、MENUつまみを押す。
手順2で選択した設定項目が、手順4で選択した移動先の上に移動します。

空白行を入れるには

- 「新しいページを作るには」(212ページ)の手順1~3を行う。

- MENUつまみを押してから空白を入れる項目を選択し、MENUつまみを押す。

EDIT FUNCTIONページが表示されません。

- 「BLANK」を選択し、MENUつまみを押す。

元の画面表示に戻り、指定した項目の上に空白行が挿入されます。

ご注意

すでに項目が10個あるページには、空白行を入れることはできません。

ページの追加/削除/入れ換えをするには

USER MENU CUSTOMIZEメニューのEDIT PAGEで、USERメニューに新しいページや既存のページを追加したり、削除したり、入れ換えることができます。

ページを追加するには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して▶を項目に合わせる。)

- TOPメニューを表示する (208ページ参照)。
- USER MENU CUSTOMIZEを選択し、MENUつまみを押す。
USER MENU CUSTOMIZEメニューを初めて使用するときは、CONTENTSページが表示されます。
すでにUSER MENU CUSTOMIZEメニューを操作したことがあるときは、前回操作したページが表示されます。
- CONTENTSページが表示されているときは、MENUつまみを押してからEDIT PAGEを選択し、MENUつまみを押す。
他のページが表示されているときは、MENUつまみを回してEDIT PAGEまでページをスクロールさせる。
EDIT PAGEが表示されます。

```

?E01●EDIT PAGE TOP
↓
01: OUTPUT 1
02: OUTPUT 2
03: SUPERIMPOSE
04: LCD
05: REC FUNCTION
06: ASSIGNABLE SW
07: VF DISP 1
08: VF DISP 2
10: MARKER 1

```

- 4 MENUつまみを押してから、ページを追加したい場所を選択し、MENUつまみを押す。

EDIT FUNCTIONページが表示されます。

- 5 「INSERT」を選択し、MENUつまみを押す。

CONTENTSページが表示されます。

- 6 追加するページを選択し、MENUつまみを押す。

手順4で選択した場所の上に、手順6で選択したページが追加されます。

ページの追加を中止するとき

手順6でMENUつまみを押す前に、画面右上のESCを選択し、MENUつまみを押します。

EDIT PAGEに戻ります。

スイッチを使用してページを削除するには

- 1 「ページを追加するには」(214ページ)の手順1~3を行う。

- 2 MENUつまみを押してから削除したいページを選択する。

- 3 CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。

「DELETE PAGE OK?」と表示されます。

- 4 もう一度、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押す。

メニューを使用してページを削除するには

- 1 「ページを追加するには」(214ページ)の手順1~3を行う。

- 2 MENUつまみを押してから削除したいページを選択し、MENUつまみを押す。

EDIT FUNCTIONページが表示されます。

- 3 「DELETE」を選択し、MENUつまみを押す。

画面表示が戻り、右上に「DELETE OK? YES →NO」と表示されます。

- 4 「YES」を選択し、MENUつまみを押す。

ページの順番を入れ換えるには

- 1 「ページを追加するには」(214ページ)の手順1~3を行う。

- 2 MENUつまみを押してから移動したいページを選択し、MENUつまみを押す。

EDIT FUNCTIONページが表示されます。

- 3 「MOVE」を選択し、MENUつまみを押す。

画面表示が戻ります。

- 4 移動先の場所を選択し、MENUつまみを押す。

手順2で選択したページが移動します。

ページの名前を変更するには

EDIT USER 1~EDIT USER 19で作成されたページの名前 (USER 1~USER 19) を任意の名前 (最大15文字) に変更することができます。

ご注意

ASSIGN ITEM SELページの名前は変更できません。

- 1 USER MENU CUSTOMIZEメニューのEDIT PAGE NAME1またはEDIT PAGE NAME2を表示する。

EDIT PAGE NAME1 : USER1~
USER10の名前を変更するとき
EDIT PAGE NAME2 : USER11~
USER19の名前を変更するとき

```
E220EDIT PAGE NAME1 TOP
→USER 1 :D USER 1
USER 2 :D USER 2
USER 3 :D USER 3
USER 4 :D USER 4
USER 5 :D USER 5
USER 6 :D USER 6
USER 7 :D USER 7
USER 8 :D USER 8
USER 9 :D USER 9
USER 10 :D USER 10
```

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

- 2 名前を変更したいページ (USER 1~USER 19) を選択し、MENUつまみを押す。

選択文字群が現れます。

```
E220EDIT PAGE NAME1 TOP
●USER 1 :?
USER 2 :?
USER 3 :?
USER 4 :?
USER 5 :?
USER 6 :?
USER 7 :?
USER 8 :?
USER 9 :?
USER 10 :?
!#$%&'()*+,-./012345678
9:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNPO
QRSTUVWXYZ[^\]abcdefghijklmnop
lmnopqrstuvwxyz~
INS DEL RET ESC END
```

- 3 「ショットIDを設定する」(221ページ)の手順3~4の操作で文字を入力する。

- 4 文字の入力が終了したら、MENUつまみを回して■マークをENDに合わせ、MENUつまみを押す。

設定した名前が表示されます。

```
E220EDIT PAGE NAME1 TOP
→USER 1 :D SPECIAL ITEM
USER 2 :D SPECIAL ITEM
USER 3 :D SPECIAL ITEM
USER 4 :D SPECIAL ITEM
USER 5 :D SPECIAL ITEM
USER 6 :D SPECIAL ITEM
USER 7 :D SPECIAL ITEM
USER 8 :D SPECIAL ITEM
USER 9 :D SPECIAL ITEM
USER 10 :D SPECIAL ITEM
```

USERメニューの全項目の設定値を標準設定に戻す

USERメニューの各項目の設定値を一度に標準設定に戻すことができます。(メニュー上での項目選択のしかた: MENUつまみを回して◆を項目に合わせる。)

- 1 FILEメニューのUSER FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

```
?F01●USER FILE TOP
USER FILE LOAD :● EXEC
F.ID : 0000000000000000
USER PRESET : EXEC
```

- 2 MENUつまみを押してからUSER PRESETを選択し、MENUつまみを押す。

「PRESET OK? YES◆NO」と表示されます。

```
F010USER FILE TOP
PRESET OK? YES→NO
USER FILE LOAD : EXEC
F.ID : 0000000000000000
→USER PRESET :D EXEC
```

- 3 「YES」を選択し、MENUつまみを押す。

「COMPLETE」と表示され、USERメニューの各設定項目のすべての設定が標準設定に戻ります。

ビューファインダー画面・LCDモニターの状態表示を設定する

ここでは、ビューファインダー画面の表示に関するメニュー設定について説明します。これらの設定はLCDモニターでの表示にも適用されます。

表示項目を選択する

ビューファインダーのDISPLAY/ASPECTスイッチのDISPLAYがONのときにビューファインダー画面やLCDモニターに表示させる項目は、OPERATIONメニューのVF DISP 1/2/3ページで選択できます。(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのVF DISP 1/2/3ページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

VF DISP 1/2/3ページでは、次の設定項目の表示のON/OFFを切り換えることができます。

VF DISP 1ページ

設定項目	設定内容
VF DISP	ビューファインダー表示のON/OFF ^{a)}
VF DISPLAY MODE	表示モードの選択 ^{b)}
DISP EXTENDER	エクステンダー表示
DISP FILTER	NDフィルターの種類
DISP WHITE	選択されているホワイトバランスのメモリー表示
DISP GAIN	ゲイン設定値表示

設定項目	設定内容
DISP SHUTTER	シャッタースピード/ECSモード表示
DISP AUDIO	音声レベル表示
DISP DISC	ディスク残量表示
DISP IRIS	レンズの絞り値表示

- a)ビューファインダーのDISPLAY/ASPECTスイッチでもON/OFFが切り替わります。
b)詳しくは、「表示モードと設定変更/調整経過メッセージ」(218ページ)をご覧ください。

VF DISP 2ページ

設定項目	設定内容
DISP ZOOM	ズームポジション表示
DISP COLOR TEMP	色温度表示
DISP BATT REMAIN ^{a)}	内部バッテリー(バッテリーパック)、または外部バッテリー(DC IN端子に接続したバッテリー)の残量、電圧表示
DISP DC IN	外部バッテリー(DC IN端子に接続したバッテリー)から電源が供給されたとき表示
DISP WRR RF LVL	ワイヤレスマイクロホンの受信レベル表示
DISP REC FORMAT	記録フォーマット表示
DISP CLIP NO(PB)	再生時のクリップ番号/クリップ総数表示
DISP TIME CODE	タイムコード表示
DISP ALAC	収差補正機能表示

- a)アントンパワー社のバッテリーシステム、またはバッテリーパックBP-GL65/GL95が装着されているときは、本項目の設定によってはバッテリー残量が%(パーセント)で表示されます。
INT：上記バッテリー装着時で、バッテリー残量に変化したときまたは少ないとき、残量が%(パーセント)で表示される。
AUTO：上記バッテリー装着時はバッテリー残量(%)が、それ以外ときは電圧(VOLT)が、常に表示される。
VOLT：常時、電圧(VOLT)が表示される。

VF DISP 3ページ

設定項目	設定内容
DISP CLIP NAME	クリップ名表示条件 ^{a)}
DISP SCENE FILE	現在呼び出されているシーンのファイル番号表示のOFF/ON
DISP CONT REC	クリップコンティニユアスレック表示のON/OFF
LOW LIGHT	映像の平均レベルが、ある値以下になったときの画面警告表示のOFF/ON
LOW LIGHT LEVEL	LOW LIGHTの臨界値の設定
VF BATT WARNING	ビューファインダー画面上で点滅表示が開始されるときのパッケージ残量
ABSOLUTE VALUE	数値表示されているメニュー項目の設定値を絶対値表示するモードのON/OFF ^{b)}

- a)表示されるクリップ名は、Disc Menuの「Display Title」と「Planning Clip Name in Clip Info. Area」の設定にも連動します。
- b)STORE ALL PRESETなどで保存した標準設定値を含む値を絶対値表示することができます。

VF DISP4ページ

設定項目	設定内容
DISP GPS	GPS受信状態表示
WIRELESS STATUS	CBK-WA100のワイヤレス受信状態
EXT MEDIA REMAIN	CBK-WA100のSDカード残量表示
SENDING CLIPINFO	CBK-WA100へのクリップ転送進捗表示
NW CLIENT MODE	CBK-WA100のネットワーククライアントモード状態表示
STREAMING STATUS	CBK-WA100のストリーミング状態表示

MENUつまみを回して設定項目のON/OFF (ビューファインダー画面に表示する/しない) または値を設定し、MENUつまみを押す。

- 3** 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

表示モードと設定変更/調整経過メッセージ

設定変更の内容、および調整経過・結果を知らせるメッセージは、表示させる項目の一部に絞るか、まったく表示させないかなどの表示モードを選択できます。メッセージが表示される状況と表示モードの対応は次表のとおりです。

- ：メッセージが表示される。
×：メッセージが表示されない。

メッセージが表示される状況	メッセージ	表示モード		
		1	2	3
フィルターの選択を変えたとき	FILTER: n (n = 1, 2, 3, 4)	×	×	○
ゲインの設定を変えたとき	GAIN: n (n = -6 dB, -3dB, 0dB, 3dB, 6dB, 9dB, 12dB, 18dB, 24dB, 30dB, 36dB, 42dB)	×	×	○
WHITE BALスイッチの設定を変えたとき	WHITE: n (n = A CH, B CH, PRESET) またはATW: RUN	×	×	○
OUTPUT/DCCスイッチをDCC ONまたはOFFに設定したとき	DCC: ON (またはOFF)	×	○	○
シャッタースピード/モードの設定を変えたとき ^{a)}	: SHUTTER: 1/100 (または1/125, 1/250, 1/500, 1/1000, 1/2000, ECS)	×	○	○
ブラックバランス/ホワイトバランスの調整時	例: AWB: OK	×	○	○

- a)SHUTTERスイッチをONに設定したときも約3秒間表示されます。

表示モードを切り換えるには

- 1 OPERATIONメニューのVF DISP 1 ページを表示させ、MENUつまみを押す。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 VF DISP MODEを選択し、MENUつまみを押す。
- 3 希望の表示モードを選択し、MENUつまみを押す。

マーカー表示を設定する

センターマーカーとセーフティーゾーンマーカーの表示設定や、セーフティーゾーンマーカーで示す範囲(画面面積の80%/90%/92.5%/95%のいずれか)を選択します。
(メニュー上での項目選択のしかた: MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

- 1 OPERATIONメニューのMARKER 1/2ページを表示させ、MENUつまみを押す。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。
MARKER 1/2ページでは、次の設定を変更することができます。

MARKER 1ページ

設定項目	設定内容
MARKER	すべてのマーカーを非表示にするとOFFに設定する
CENTER	センターマーカーを表示するときONに設定する
CENTER MARK	センターマーカーの表示形態を選択する
SAFETY ZONE	セーフティーゾーンを表示するときONに設定する

設定項目	設定内容
SAFETY AREA	セーフティーゾーンの範囲(80%/90%/92.5%/95%)を選択する
ASPECT	アスペクトマーカーを表示するときONに設定する
ASPECT SELECT	アスペクトモード(15:9/14:9/13:9/4:3/1.85/2.35)を選択する
ASPECT MASK	指定されたアスペクト以外を暗くするときONに設定する
ASPECT MASK LVL	ASPECT MASKがONのとき、暗くなるレベルを設定する
100% MARKER ^{a)}	有効画素エリアを表示するときONに設定する

- a) フォーカスアシストインジケータを表示させると、100% MARKERは無効になります。

MARKER 2ページ

設定項目	設定内容
USER BOX ^{a)}	ボックスカーソルを表示するときONに設定する
USER BOX WIDTH	ボックスカーソルの幅(中心から左右端までの距離)を設定する
USER BOX HEIGHT	ボックスカーソルの高さ(中心から上下端までの距離)を設定する
USER BOX H POS	ボックスカーソルの中心の水平位置を設定する
USER BOX V POS	ボックスカーソルの中心の垂直位置を設定する
CENTER H POS	センターマーカーの水平位置を設定する
CENTER V POS	センターマーカーの垂直位置を設定する
ASPECT SAFE ZONE	アスペクトセーフティーゾーンを表示するときONに設定する
ASPECT SAFE AREA	アスペクトセーフティーゾーンの範囲(80%/90%/92.5%/95%)を選択する

- a) OPERATIONメニューのFOCUS ASSIST ページでFOCUS AREA MARKを「ON」に設定すると、USER BOXは無効になります。

- 3 MENUつまみを回して設定項目の値を設定し、MENUつまみを押す。
- 4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

ビューファインダーを設定する

ビューファインダーに関連する設定項目を選択します。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのVF SETTINGページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

VF SETTINGページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
ZEBRA	ゼブラ表示をON/OFFする ^{a)}
ZEBRA SELECT	ゼブラ(1/2/BOTH)を選択する
ZEBRA 1 DET. LVL	ゼブラ1表示のレベル(20%~70%~107%)を調整する
ZEBRA 1 APT. LVL	ゼブラ1のアパーチャーレベル(1%~10%~20%)を調整する
ZEBRA 2 DET. LVL	ゼブラ2表示のレベル(52%~100%~109%)を調整する
VF DETAIL LEVEL	VFディテール機能のレベル(-99~99)を調整する
CRISP	クリस्पニングレベルを調整する
FREQUENCY	ディテール信号の中心周波数を選択する
FAT MODE	ファット(ディテールを太くする)モードを設定する
FLICKER	フリッカー機能を設定する
COLOR DETAIL	カラーディテール機能を設定する
COLOR SEL	カラーディテールの色を選択する
PEAK COLOR	ピークカラー(カラーディテールのピーク時の色を変える)を設定する
CHROMA LEVEL	映像のクロマレベルを選択する

- a) ZEBRAスイッチの付いていないビューファインダーをご使用の場合は、本項目でON/OFFを切り換えます。ビューファイン

ダーにZEBRAスイッチが付いている場合は、ZEBRAスイッチまたは本メニュー項目のいずれかでON/OFFを切り換えることができます。

3 MENUつまみを回して設定項目の値を設定し、MENUつまみを押す。

4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

ショットデータをカラーバーにスーパーインポーズする

どのショットデータをカラーバーにスーパーインポーズして記録するかを選択できます。また、設定したショットID(1~4)のうち、どれをスーパーインポーズして記録するかも、ここで設定します。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのSHOT DISPページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

SHOT DISPページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
SHOT DATE	日付をスーパーインポーズ記録する(ON)かしない(OFF)かを切り換える
SHOT TIME	時刻をスーパーインポーズ記録する(ON)かしない(OFF)かを切り換える
SHOT MODEL NAME	本機のモデル名をスーパーインポーズ記録する(ON)かしない(OFF)かを切り換える
SHOT SERIAL NO	本機のシリアル番号をスーパーインポーズ記録する(ON)かしない(OFF)かを切り換える
SHOT ID SEL	SHOT IDページで設定したショットIDを選択する ^{a)}

設定項目	設定内容
SHOT 16:9 CHARA	アスペクト比4:3モードで表示しているとき、16:9の映像が切り落とされる場所に「16:9」をスーパーインポーズ記録する (ON) かしない (OFF) かを切り換える
SHOT BLINK CHARA	点滅する「*」をスーパーインポーズ記録する (ON) かしない (OFF) かを切り換える

- a) ショットIDをスーパーインポーズ記録しないときはOFFを、スーパーインポーズするときは記録したいショットIDの番号 (1～4) を選びます。

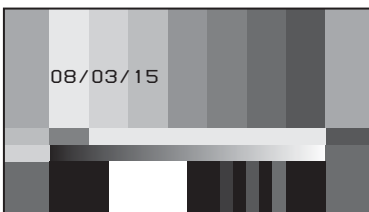
3 MENUつまみを回して設定項目のON/OFF (スーパーインポーズ記録する/しない) または値を設定し、MENUつまみを押す。

4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

スーパーインポーズ記録するには

SHOT DISPページで、スーパーインポーズ記録するように設定した項目を実際に記録するには、OUTPUT/DCC スイッチをBARS、DCC OFF にします。設定した項目がビューファインダー上に現れるとともに、そのまま記録されます。

表示例：SHOT DATAをONにした場合



ショットIDを設定する

12文字以内の英数字、記号、およびスペースをショットIDとして設定できます。ショットIDは、OUTPUT/DCCスイッチをBARS、DCC OFFに設定すると、カラー

バー信号とともに出力されます。設定できるショットIDは、ID-1～ID-4です。

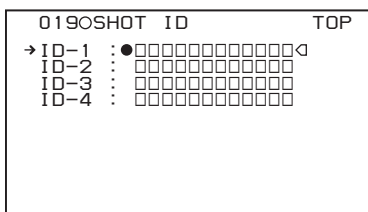
ご注意

メニューを表示しているときは、カラーバー信号を出力してもショットIDは表示されません。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

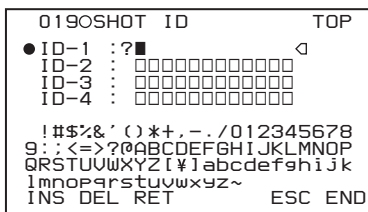
1 OPERATIONメニューのSHOT ID ページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。



2 ID (ID-1～ID-4) を選択し、MENUつまみを押す。

入力文字列の先頭文字の上に■が現れ、文字入力モードになります。



3 文字を入力または変更する。

初めてショットIDを入力する場合は、手順②に進んでください。

- ①MENUつまみを回して、文字を変更したい位置に■を合わせ、MENUつまみを押す。

```

0190SHOT ID TOP
● ID-1 : ? █
ID-2 : ██████████
ID-3 : ██████████
ID-4 : ██████████

!#$%&'()*+,-./012345678
9:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMN
OPQRSTUVWXYZ[¥]abcdefghijklmnop
lmnopqrstuvwxyz~
INS DEL RET ESC END

```

- ② MENUつまみを回して、選択文字群上で█を移動し、目的の文字上で MENUつまみを押す。
例：+の文字を入力する場合

```

0190SHOT ID TOP
● ID-1 : ?+ █
ID-2 : ██████████
ID-3 : ██████████
ID-4 : ██████████

!#$%&'()*+,-./012345678
9:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMN
OPQRSTUVWXYZ[¥]abcdefghijklmnop
lmnopqrstuvwxyz~
INS DEL RET ESC END

```

- 4 手順3を繰り返して残りの文字を入力する。
- 5 文字の入力が終了したら、MENUつまみを回して█をENDに合わせ、MENUつまみを押す。
文字入力モードが終了し、SHOT IDページに戻ります。

スペースを入れるには

前項の手順3で、「INS」に█を合わせて MENUつまみを押します。
スペースの挿入を中止には、█を「RET」に合わせて MENUつまみを押します。

文字を削除するには

「ショットIDを設定する」(221ページ)の手順3で、█を「DEL」に合わせて MENUつまみを押します。
ショットID列の█の位置の文字が削除されます。
削除を中止するには、█を「RET」に合わせて MENUつまみを押します。

入力したショットIDの変更を中止するには

「ショットIDを設定する」(221ページ)の手順5を実行する前に、ESCに▶を合わせ、MENUつまみを押します。または、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチを ESCAPE側に繰り返し押します。

状態確認画面を表示する

本機の各設定や状態が確認できる画面を表示することができます。

次の4つの画面があります。

ABNORMAL <!> 画面

ビューファインダー内の異常ランプが点灯しているとき、その原因を確認できます。ビューファインダーに異常ランプを点灯させる条件は、OPERATIONメニューの「!」LEDページで設定できます。

SYSTEM画面

システム周波数や記録フォーマット、TEST OUT端子出力のON/OFF、および出力信号の種類などを表示します。

FUNCTION画面

ASSIGN (アサイナブル) スイッチの機能、ZEBRAのON/OFF、検出レベルなどを表示します。

AUDIO STATUS画面

音声に関する次の項目を表示します。

- オーディオビットレート
- DF/NDFの設定状態
- フロントマイクの種類
- CH1/CH2/CH3/CH4の入力信号の種類
- CH1/CH2/CH3/CH4の入力レベル表示

OPERATIONメニューのSET STATUSページで、画面を表示させないようにすることもできます。

状態確認画面を表示させるには

MENU ON/OFFスイッチがOFFのとき（スイッチカバーが閉まっているとき）、CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチは、STATUS ON/SEL/OFFスイッチとして使用できます。

状態確認画面の項目を表示させないようにするには

（メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。）

1 OPERATIONメニューのSET STATUSページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

SET STATUSページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
STATUS ABNORMAL	ABNORMAL画面の表示 (ON) /非表示 (OFF) の選択
STATUS SYSTEM	SYSTEM画面の表示 (ON) /非表示 (OFF) の選択
STATUS FUNCTION	FUNCTION画面の表示 (ON) /非表示 (OFF) の選択
STATUS AUDIO	STATUS AUDIO画面の表示 (ON) /非表示 (OFF) の選択
STATUS GPS	STATUS GPS画面の表示 (ON) /非表示 (OFF) の選択

3 MENUつまみを回して設定項目のON/OFFを設定し、MENUつまみを押す。

4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

メニューで各機能を設定する

ゲイン切り換え値を設定する

映像アンプのゲイン値を切り換えるGAINスイッチの設定位置L、M、Hに対応するゲイン値を設定します。

（メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。）

1 OPERATIONメニューのGAIN SWページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

2 スイッチ位置に対する設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

GAIN SWページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
GAIN LOW	GAINスイッチのLに対応するゲイン値を設定する
GAIN MID	GAINスイッチのMに対応するゲイン値を設定する
GAIN HIGH	GAINスイッチのHに対応するゲイン値を設定する
GAIN TURBO	TURBO GAIN機能に対応するゲイン値を設定する
TURBO SW IND	OFF: TURBO GAIN機能を割り当てたボタンを押した後、GAINスイッチを操作した場合、そのゲイン値に切り替わる ON: TURBO GAIN機能を割り当てたボタンを押してTURBO GAINにしたとき、そのボタンを再度押さないと、GAINスイッチを操作してもゲインが切り替わらない
SHOCKLESS GAIN	ショックレスゲインのON/OFFを設定する

- 3 MENUつまみを回してゲイン値を選択し、MENUつまみを押す。**
L、M、H、TURBOには、-6、-3、0、3、6、9、12、18、24、30、36、42 dBの中から、値の大小に関係なく自由に設定できます。
- 4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。**

出力信号を選択する

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

- 1 OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページを表示させ、MENUつまみを押す。**
◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。**
OUTPUT 1ページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
SDI OUT 1 SELECT	SDI OUT1端子からの出力信号を選択する OFF ：映像を出力しない HD-SDI ：HD-SDIを出力する SD-SDI ：SD-SDIを出力する
SDI OUT 2 SELECT	SDI OUT2端子からの出力信号を選択する OFF ：映像を出力しない HD-SDI ：HD-SDIを出力する SD-SDI ：SD-SDIを出力する VF ：ビューファインダーと同じ映像を出力する
SDI OUT 2 SUPER	SDI OUT2端子からの出力信号に、文字情報をスーパーインポーズする (ON) かしないか (OFF) を切り換える
ご注意	
	SDI OUT 2 SELECTがVFの時は無効

設定項目	設定内容
TEST OUT SELECT	TEST OUT端子からの出力信号を選択する VBS ：コンポジットビデオ信号を出力する。VBSを選択した場合は、モニターのVIDEO IN端子に接続する Y ：HD-Y信号を出力する R/G/B ：HDのR/G/B信号を出力する
TEST OUT SUPER	TEST OUT端子からの出力信号に、文字情報をスーパーインポーズする (ON) かしないか (OFF) を切り換える

- 3 MENUつまみを回して設定項目の値を設定し、MENUつまみを押す。**
- 4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。**

ASSIGNスイッチに機能を割り当てる

ASSIGN (アサインابل) スwitchに希望の機能を割り当てることができます。
(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

- 1 OPERATIONメニューのASSIGNABLE SWページを表示させ、MENUつまみを押す。**
◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

機能の割り当ては、以下の設定項目で行います。

設定項目	設定内容
ASSIGN SW <1>	ASSIGN 1スイッチ(プッシュ型)に機能を割り当てる
ASSIGN SW <2>	ASSIGN 2スイッチ(スライド型)に機能を割り当てる
ASSIGN SW <3>	ASSIGN 3スイッチ(プッシュ型)に機能を割り当てる
ASSIGN SW <4>	ASSIGN 4スイッチ(プッシュ型)に機能を割り当てる
ASSIGN SW <RET>	レンズのRETボタンに機能を割り当てる
COLOR TEMP SW	COLOR TEMP.ボタンに機能を割り当てる

2 機能を割り当てたいスイッチまたはボタンを選択してMENUつまみを押す。

該当するスイッチまたはボタンの機能選択画面が表示されます。これらの画面では、以下の機能を割り当てることができます。

ASSIGN 1/3/4 (プッシュ型) スイッチ、COLOR TEMP.ボタン、およびレンズのRETボタンに割り当てられる機能

機能	内容
OFF	スイッチに機能を割り当てない場合はOFFにする
FRONT MIC	ステレオマイク接続時、ステレオ/モノラルを切り換える機能
PICTURE CACHE	ピクチャーキャッシュ記録を実行する機能
SUPER (VFDISP& MENU)	OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページでSDI OUT 2 SUPERまたはTEST OUT SUPERがONに設定されているとき、SDI OUT 2端子またはTEST OUT端子から出力する映像信号にビューファインダーとメニューの文字情報をミックスするかしないかの切換スイッチとしての機能
MARKER	すべてのマーカー表示のON/OFF ^{a)}
RETAKE ^{b)}	直前に撮影したクリップを削除する機能
ATW	ATW機能のON/OFFの切換スイッチとしての機能
RETURN VIDEO HD-Y	GENLOCK IN端子に入力されたHD-Y (1080i) 信号をビューファインダーに表示させる機能 ^{c)}
RETURN VIDEO HDSDI	SDI IN端子に入力されたHDSDI信号をビューファインダーに表示させる機能 ^{c)}
LENS RET	レックレビューなどを実行する機能
REC SWITCH	REC START (記録開始) ボタンとしての機能
TURBO SWITCH	TURBOボタンとしての機能
ZEBRA	ZEBRAスイッチとしての機能

機能	内容
FREEZE MIX	静止画 (白黒) とカメラ画像 (カラー) をミックスして表示する機能 (画角合わせなどに有効)
COLOR TEMP SW 3200K	ホワイトバランスを3200Kに切り換える機能
COLOR TEMP SW 4300K	ホワイトバランスを4300Kに切り換える機能
COLOR TEMP SW 5600K	ホワイトバランスを5600Kに切り換える機能
COLOR TEMP SW 6300K	ホワイトバランスを6300Kに切り換える機能
ELECTRICAL CC	電氣的CCフィルター (3200K/4300K/5600K/6300K) を切り換える機能
CC 5600K	電氣的に5600Kフィルターをかける機能
ZOOM TELE/WIDE ^{d)}	シリアル通信対応レンズ使用時、ASSIGN 3にZOOMのTELE機能を、ASSIGN 4にWIDE機能を、それぞれ割り当てる
ZOOM WIDE/TELE ^{d)}	シリアル通信対応レンズ使用時、ASSIGN 3にZOOMのWIDE機能を、ASSIGN 4にTELE機能を、それぞれ割り当てる
SHOT MARK1	ショットマーク1の機能
SHOT MARK2	ショットマーク2の機能
CLIP FLAG OK/CLIP FLAG NG	記録中または再生中のクリップに対して、OK/NG/KEEPフラグを設定または解除する機能
CLIP FLAG KEEP	
DIGITAL EXTENDER ^{e)}	画面中央部を電氣的に拡大する機能 (記録映像を含むすべての映像出力が拡大される) x2、x3、x4、x2x3x4の4パターンが選択可能。
CLIP CONT REC	クリップコンテンツスレック機能のON/OFFを割り当てる
UA01~UA10 ^{f)}	ASSIGN SELメニューに割り当てられた項目
VF COLOR DETAIL	VFカラーディテール機能
PLAY & SDI REC S/S	再生と同時に、SDI OUT端子に接続したレコーダーにRECトリガー信号を出力する機能

a) USERメニューのMARKERページのMARKERが非表示に設定されていても、本スイッチで表示/非表示の切り換えができます。

- b) レンズのRETボタンに割り当ててはできません。
- c) OPERATIONメニューのASSIGNABLE SW ページでRETURN VIDEOがOFFに設定されていても本スイッチでリターン信号を表示させることができます。
- d) Assign 3 SELとAssign 4 SEL画面にのみ表示されます。
- e) DIGITAL EXTENDERのON/OFF切り換え時には一瞬映像が真っ黒になり、音声はミュートされます。
- f) Assignメニューに何も割り当てられていない場合は、表示されません。

ASSIGN 2 (スライド型) スイッチに割り当てられる機能：

機能	内容
OFF	スイッチに機能を割り当てない場合はOFFにする
FRONT MIC	ステレオマイク接続時、ステレオ/モノラルを切り換える機能
PICTURE CACHE	ピクチャーキャッシュ記録を実行する機能
SUPER (VF DISP & MENU)	OPERATIONメニューのOUTPUT 1ページでSDI OUT 2 SUPERまたはTEST OUT SUPERがONに設定されているとき、SDI OUT 2端子またはTEST OUT端子から出力する映像信号にビューファインダーとメニューの文字情報をミックスするかしないかの切換えスイッチとしての機能
MARKER	すべてのマーカー表示のON/OFF ^{a)}
REC VIDEO SOURCE	記録する映像を、カメラ撮影の映像と外部機器からの入力映像(HD-SDI)のいずれかに切り換える
ZEBRA	ZEBRAスイッチとしての機能
FREEZE MIX	静止画(白黒)とカメラ画像(カラー)をミックスして表示する機能(画角合わせなどに有効)
DIGITAL EXTENDER ^{b)}	画面中央部を電氣的に拡大する機能(記録映像を含むすべての映像出力が拡大される) x2、x3、x4の3パターンが選択可能
CLIP CONT REC	クリップコンティニニアスレック機能のON/OFFを割り当てる

機能	内容
UA01~UA10 ^{c)}	ASSIGN SELメニューに割り当てられた項目
VF COLOR DETAIL	VFカラーディテール機能

- a) USERメニューのMARKERページのMARKERが非表示に設定されていても、本スイッチで表示/非表示を切り換えられます。
- b) DIGITAL EXTENDERのON/OFF切り換え時には一瞬映像が真っ黒になり、音声はミュートされます。
- c) Assignメニューに何も割り当てられていない場合は、表示されません。

ご注意

ASSIGN 2 (スライド型) スイッチに割り当てられた機能は他のメニューでの設定に関わらず、このスイッチでの設定が優先されます。メニューで設定を変更することはできません。

3 希望の機能を選択し、MENUつまみを押す。

機能が割り当てられ、ASSIGNABLE SWページに戻ります。

ASSIGNスイッチに割り当てられる設定項目を追加するには

工場出荷時、ASSIGNスイッチ機能の設定項目のうち、UA01~UA10は白紙の状態です。

この項目には空白行も含めて最大10項目を登録できます。

1 USER MENU CUSTOMIZEメニューのEDIT ASSIGN SELページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆ メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

```
E21OEDIT ASSIGN SEL TOP
→
```

2 設定項目を追加する行までMENUつまみで→を移動させ、MENUつまみを押す。

EDIT FUNCTIONページが表示されま

```
EDIT FUNCTION ESC
→INSERT
MOVE
DELETE
BLANK
```

3 INSERTを選択し、MENUつまみを押す。

```
?PO0●CONTENTS TOP
↓ ↓
→01. OUTPUT 1
02. OUTPUT 2
03. SUPERIMPOSE
04. LCD FUNCTION
05. ASSIGNABLE SW
06. POWER SAVE
08. V.F DISP 1
08. V.F DISP 2
10. V.F DISP 3
```

4 次の操作を行い、設定項目を追加する。

- ①MENUつまみを押してから、希望の項目があるページまでページをスクロールし、MENUつまみを押す。
- ②もう一度MENUつまみを押してから希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

EDIT ASSIGN SELページに戻り、追加した設定項目が表示されます。

5 手順2～4を繰り返して、残りの設定項目を追加する。

最大10項目まで登録できます。

UA01～UA10を割り当てたときの動作

ASSIGN 1/2/3/4スイッチに設定値がON/OFFの項目を割り当てた場合は、他の項目と同様に、スイッチを押すごとに機能がON/OFFされます。

それ以外の項目を割り当てた場合は、スイッチを押すとその項目と設定値がビューファインダー上に表示され、MENUつまみを押す/回すの操作で設定値を変更することができます。

ビューファインダーの表示は、最後に操作してから約3秒で消えます。

パワーセーブ機能を設定する

出力端子の働きを制限することによって、節電することができます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して→を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのPOWER SAVEページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

POWER SAVEページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
ETHERNET/ USB	ネットワーク端子およびUSB端子を、有効にするか無効にするかを切り換える
REC AUDIO OUT	AUDIO OUT端子を、EEモードにするかSAVEモードにするかを切り換える
TEST OUT SAVE	TEST OUT端子のパワーセーブ機能のON/OFFを切り換える ON ：ケーブルが接続されていない場合は信号を出力しない OFF ：ケーブル接続の有無に関わらず常に信号を出力する

設定項目	設定内容
Wi-Fi	無線LAN機能を、有効にするか無効にするかを切り換える

a) 設定の変更を有効にするには、いったん本機の電源を切り、再度電源を入れる必要があります。

- 3 MENUつまみを回して設定項目を希望の値に設定し、MENUつまみを押す。
- 4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

無線LANを設定する

Wi-Fiアダプター CBK-WA01（別売）を本機に取り付けて、無線LAN接続するための各種の設定をすることができます。

◆本機とコンピューターがネットワーク接続されている場合は、ここで行う設定をWebメニューで行うこともできます。詳しくは、Wi-Fiアダプター CBK-WA01（別売）の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 無線LAN接続を行うときは、Wi-Fiアダプター CBK-WA01（別売）の取扱説明書も併せてご覧ください。
- Wi-Fiアダプター CBK-WA01を本機に取り付けた状態で、電源を投入した直後に無線LANの設定を行おうとすると、「NO Wi-Fi ADAPTER!」と表示され、設定できないことがあります。このような場合は、しばらく待ってから操作をやり直してください。
- 設定変更時に「IEEE802.1X IS ENABLED!」と表示された場合は、MAINTENANCEメニューのNETWORK 2ページでNET CFG RESETを実行してから操作を行ってください。
- 無線LAN接続機能を有効にすると、プロキシデータ記録機能は自動的に無効になります。

あらかじめ、OPERATIONメニューのPOWER SAVEページでETHERNET/USBおよびWi-Fiを「ENABL」に設定しておきます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 MAINTENANCEメニューのWi-Fiページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

```

M260Wi-Fi TOP
→Wi-Fi SETUP :D EXEC
Wi-Fi STATUS : [----]
WIRELESS MODE : 802.11b
SSID : (unknown)
NETWORK TYPE : INFRA
CH : 1
AUTH : OPEN
ENCRYPTION : DISABLE

```

2 「Wi-Fi SETUP」を選択し、MENUつまみを押す。

Wi-Fi SETTINGページに切り替わります。

```

Wi-Fi SETTING ESC
→SCAN NETWORKS :D EXEC
SSID : 00:11:22:33:44:55
NETWORK TYPE : ADHOC
CH : 1
AUTH : OPEN
ENCRYPTION : DISABLE

SET

```

3 接続先を指定する（指定方法については、次項参照）。

自動検出により接続先を指定するには

1 Wi-Fi SETTINGページで「SCAN NETWORKS」を選択し、MENUつまみを押す。

NETWORKSページに切り替わり、接続先の自動検出を開始します。ネットワークの検出には数分かかります。

POONNETWORKS	SCAN	ESC
→01.SSID:		
TYPE:	ADHOC	LVL : 4
MODE:	802.11b/g/n	
02.SSID:		
TYPE:	INFRA	LVL : 3
MODE:	802.11b/g/n	

このページでは、各ネットワークについて次の項目が表示されます。

項目名	内容
SSID	ネットワーク名
TYPE	ネットワークの接続モード INFRA ：インフラストラクチャーモード ADHOC ：アドホックモード
LVL	信号強度0（最小）～4（最大）
MODE	IEEE 802.11の規格

- 2 検出されたアクセスポイントまたはコンピューターの中から希望の接続先を選択し、MENUつまみを押す。**
Wi-Fi SETTINGページに戻ります。各設定項目を確認してください。

Wi-Fi SETTINGページに戻るには

このページで接続先を指定しないとき、または接続先が検出されなかったときは、「ESC」を選択し、MENUつまみを押してWi-Fi SETTINGページに戻ります。

手動設定により接続先を指定するには

Wi-Fi SETTINGページで次の各項目を設定します。

項目名	設定値
SSID（ネットワーク名）	32文字以内の英数字、記号
NETWORK TYPE（接続モード）	INFRA ：インフラストラクチャーモード ADHOC ：アドホックモード
CH（無線チャンネル）	1～11（アドホックモード時のみ指定可能）

項目名	設定値
AUTH（ネットワーク認証）	OPEN ：オープンシステム認証 SHARED ：共有キー認証 WPA ：WPA（Wi-Fi Protected Access）認証 WPA2 ：WPA2（Wi-Fi Protected Access 2）認証
ENCRYPTION（データの暗号化）	DISABLE ：無効 WEP ：WEP（Wired Equivalent Privacy）方式 TKIP ：TKIP（Temporal Key Integrity Protocol）方式 AES ：AES（Advanced Encryption Standard）方式

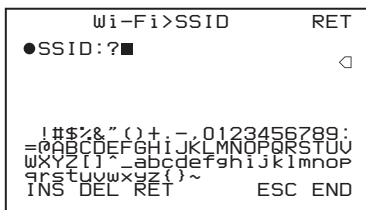
ご注意

「NETWORK TYPE」、「AUTH」、および「ENCRYPTION」の設定の組み合わせには制限があります。

SSIDを入力するには

SSIDを選択し、MENUつまみを押して表示されるWi-Fi>SSIDページでMENUつまみを押します。

さらに、MENUつまみを押すと、入力文字列の先頭文字の上に■が現れ、文字入力モードになります。



- ◆ 文字の入力方法については、「ショットIDを設定する」（221ページ）の手順3と4をご覧ください。

ENCRYPTIONのオプションを設定するには

ENCRYPTIONの設定値によって、次のオプションを設定する必要があります。

ENCRYPTION：WEPのとき

項目名	設定値
WEP KEY INDEX（WEPキーインデックス）	1～4

項目名	設定値
INPUT SELECT (ネットワーク キーのフォーマッ トと長さ)	ASCII5 : ASCII形式で5文字 ASCII13 : ASCII形式で13文 字 HEX10 : 16進形式で10桁 HEX26 : 16進形式で26桁
KEY (ネットワー クキー)	ASCII文字または16進数 (INPUT SELECTで指定した フォーマット)

ENCRYPTION : TKIPまたはAESのとき

項目名	設定値
INPUT SELECT (ネットワーク キーのフォーマッ トと長さ)	ASCII8-63 : ASCII 8ビット形 式で63文字 HEX64 : 16進形式で64桁
KEY (ネットワー クキー)	ASCII文字または16進数 (INPUT SELECTで指定した フォーマット)

◆キーの入力方法については、「ショットIDを設定する」(221ページ)の手順**3**と**4**をご覧ください。

WPS操作により接続先を指定するには

WPS (Wi-Fi Protected Setup) を使用すると、インフラストラクチャーモードに限り、接続先(アクセスポイント)を半自動で設定することができます。

ご注意

- WPSは次の接続モードおよび規格には対応していません。
 - アドホックモード
 - IEEE 802.1x
- アクセスポイントがWPSに対応している必要があります。
- ここでの設定とは別に、MAINTENANCEメニューのNETWORKページでネットワークに関する設定を行う必要があります。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 MAINTENANCEメニューのWPSページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 「ENABLE」を選択し、MENUつまみを押す。

操作画面に切り替わります。

M250WPS	TOP
→Wi-Fi	: ● ENABL
WPS MODE	: ONE PUSH
WPS START	: EXEC
WPS STATUS	: -----

3 WPS MODEを次のいずれかに設定する。

ONE PUSH : ワンプッシュ方式による
接続方法

PIN CODE : PINコード入力方式による
接続方法

「PIN CODE」を選択したときは

新たに表示される項目PINで「UPDATE」を実行すると、本機のPINコードが表示されます。

4 「WPS START」を選択し、MENUつまみを押す。

WPSが始まります。実行中はWPS STATUSに経過および結果が表示されます。

SCANNING : アクセスポイント検出中

OK : 検出成功

NG : 検出失敗

終了後、ACCESS PNTページに切り替わります。

5 検出されたアクセスポイントの中から希望の接続先を選択し、MENUつまみを押す。

色温度を手動で設定する

ホワイトバランスを色温度を設定することにより手動で調整できます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 PAINTメニューのWHITEページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

WHITEページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
COLOR TEMP <A>	希望の色温度に設定する。色温度の高い値では、誤差が大きくなるので、実際の映像を見ながら調整する
C TEMP BAL <A>	COLOR TEMPで希望の色温度が設定できなかった場合に、さらに細かく設定する。
R GAIN <A>	R GAIN値だけを変更する
B GAIN <A>	B GAIN値だけを変更する

上の表は、Aチャンネルのホワイトバランスの調整です。Bチャンネルのホワイトバランスの設定項目には、と表示されています。

3 MENUつまみを回して設定項目を希望の値に設定し、MENUつまみを押す。

4 手順2と3を繰り返して、希望の設定項目をすべて設定する。

オートホワイトバランスの設定値にオフセットを付ける

オートホワイトバランスの設定値にオフセットを付けることによって、映像に暖かみや冷たい感じを持たせることができます。(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのOFFSET WHTページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 希望の設定項目を選択し、MENUつまみを押す。

OFFSET WHTページでは、次の設定を変更することができます。

設定項目	設定内容
OFFSET WHITE <A>	ONにすると本ページで調整したオフセットが、Aチャンネルのホワイトバランスに付加される
WARM-COOL <A>	OFFSET WHITE <A>がONのとき、Aチャンネルのホワイトバランスに付加するオフセットを色温度で設定する。色温度の高い値では、誤差が大きくなるので、実際の映像を見ながら調整する
WARM-COOL BAL <A>	WARM-COOL <A>の調整で希望の映像にならなかった場合に、さらに細かく調整する
OFFSET WHITE 	ONにすると本ページで調整したオフセットがBチャンネルのホワイトバランスに付加される。
WARM-COOL 	OFFSET WHITE がONのとき、Bチャンネルのホワイトバランスに付加するオフセットを色温度で設定する。色温度の高い値では、誤差が大きくなるので、実際の映像を見ながら調整する
WARM-COOL BAL 	WARM-COOL の調整で希望の映像にならなかった場合に、さらに細かく調整する

3 WHITE BALスイッチを設定したい側のチャンネル (AまたはB) にする。

ご注意

WHITE BALスイッチをAまたはBにしないと、以降の操作をしても、調整値は映像出力に反映されません。

4 MENUつまみを回して設定項目を希望の値に設定し、MENUつまみを押す。

もう一方のチャンネルを設定したい場合は、手順2に戻ります。

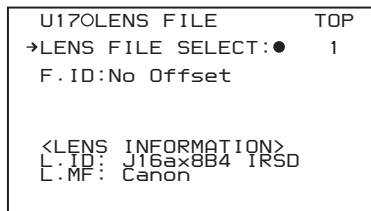
レンズファイルを選択する

使用するレンズに合わせ、レンズファイルを変更できます。
(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 USERメニューのLENS FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

現在選択されているレンズファイルの名称 (F.ID) が表示されます。
シリアル通信対応レンズ装着時は、レンズの機種名 (L.ID) とメーカー名 (L.MF) が表示されます。



2 LENS FILE SELECTを選択し、MENUつまみを押す。

3 MENUつまみを回して設定項目を希望の値に設定し、MENUつまみを押す。

UMIDデータを設定する

UMIDとは

UMID (Unique Material Identifier) は、メタデータを画像、音声、データごとに識別子 (ID) を付けて識別するために SMPTE 330M-2004 で定められた規格です。UMIDには、基本UMID (Basic UMID) 32バイトとSource Packを加えた拡張UMID (Extended UMID) 64バイトがあります。

- ◆詳しくは、SMPTE 330Mを参照してください。

本機では、収録単位ごとに、IDが自動的に記録されます。

拡張UMIDは、基本UMIDに加え、日時、会社IDなどの情報を付加できるメタデータセットです。

拡張UMIDを使用するには

使用者が、国名コード、組織コード、ユーザーコードを入力する必要があります。

国名コードはISO 3166の表から選択し、組織コードとユーザーコードは、独自に設定します。

- ◆詳しくは、「UMIDの所有権情報について」(233ページ)をご覧ください。

UMIDデータの記録によって可能になる機能

UMIDデータを記録することにより、以下のことができるようになります。

- クリップごとにグローバルユニークなIDが映像に付加されます。そのIDを利用して素材の検索、オリジナル素材とのリンクができるようになります。
- IDにより、その映像がオリジナルかコピーかの識別ができます。オリジナル映像には、Instance Numberに00が記録されています。
- 協定世界標準時で記録しているため、全世界で記録される素材の時系列による一元管理ができます。
- MJD (準ユリウス暦) で記録しているため、素材間の日差を簡単に計算できます。

UMIDの所有権情報を設定するには

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 OPERATIONメニューのUMID SETページを表示させ、MENUつまみを押す。

- ◆メニュー操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 以下の項目を設定する。

項目	設定内容
COUNTRY CODE	国名コード
ORGANIZATION	組織コード
USER CODE	ユーザーコード
TIME ZONE	UTC (協定世界時) からの時差

- ◆文字の入力方法について詳しくは、「ショットIDを設定する」(221ページ)をご覧ください。

3 MENUつまみを押す。

UMIDの所有権情報について

COUNTRY CODE (国名コード)

「COUNTRY CODE」には、ISO 3166-1で定義している短縮文字(4バイトのアルファベット文字列および数字)を入力します。国名は、約240種類あります。自国の文字列は下記のホームページをご覧ください。

ISO 3166-1参照：http://www.iso.org/iso/country-codes/iso_3166_code_lists.htm

国名コードが4バイト未満の場合、4バイトの最初から書いて残った部分をスペースキャラクタ(20h)で埋めます。

例：国名が日本の場合(2文字の場合は「JP」、3文字の場合は「JPN」になります。国名コードが2文字の場合は、以下のように入力します。

JP_ _

3文字の場合は、以下のように入力します。JPN_

(「_」は、スペースを示す。)

ORGANIZATION (組織コード)

「ORGANIZATION」には、各組織で運用する組織コード(4バイトのアルファベット文字列および数字)を入力します。

ご注意

- 組織コードはSMPTE登録局に申請して、初めて使用できるものです。取得していない場合は、「00」を入力することを原則とし、その他の任意の文字列を入力することは禁則となっています。特定の組織に属さないフリーランスの場合は、「~」を入力します。
- 組織コードを設定しなくても、映像・音声の記録再生に支障はありません。

USER CODE (ユーザーコード)

「USER CODE」には、ユーザーの識別用に4バイトのアルファベット文字列および数字を入力します。

ユーザーコードは、各々の組織においてローカルに登録されます。一般的に登録はされません。

ユーザーコードが4バイト未満の場合、4バイトの最初から書いて残った部分をスペースキャラクタ(20h)で埋めます。

運用の方法は、ユーザーに任されています。

ご注意

組織コードを入力していない場合は、ユーザーコードを入力できません。

TIME ZONE (時差)

「TIME ZONE」では、UTC(協定世界時)からの時差を設定します。

ご注意

- ローカルタイムからタイムゾーンを使ってUTCを計算するため、設定しないと正しいUTCは記録できません。
- タイムゾーンの設定を変更した場合は、カムコーダーの内蔵時計もその地域のローカル時刻に設定してください。設定し直した後は、いったん電源を切り、再度電源を入れてください。

ユーザーファイルの保
存と呼び出し

USERメニューの設定内容は、ユーザーファイルとしてUSBメモリーに保存することができます。このデータを使って、適切なセットアップ状態をすばやく再現できます。

USBメモリーにはユーザーファイルのほか、シーンファイル、リファレンスファイル、レンズファイル、ALLファイルを保存できます。

メニューが表示されている状態で、USBメモリーを接続すると、USBメモリーで主に使用しているファイルのページが表示されます。

ユーザーファイルをUSBメモ
リーに保存する

本機内に保存されているUSERメニューの設定データをユーザーファイルとしてUSBメモリーに100個まで保存できます。USBメモリーをUSB端子に接続してから、以下の手順で操作します。
(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのUSER FILEページを
表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

```
?F01●USER FILE      TOP
USER FILE SAVE  : EXEC
F.ID : 0000000000000000
USER PRESET    : EXEC
```

保存するデータにファイルIDを付ける
ときは

手順2に進む前に、ファイルIDを設定します。

◆詳しくは、「ファイルIDを設定するには」(239ページ)をご覧ください。

2 USER FILE SAVEを選択し、MENU
つまみを押す。

USER SAVEページが表示されます。USBメモリー接続時に使用できるページはP00～P19ページの20ページです。また、各ページでは5個までファイルを保存できます。

3 MENUつまみを回して、希望のファ
イル番号があるページまでスクロ
ールし、MENUつまみを押す。4 希望のファイル番号を選択し、
MENUつまみを押す。

「SAVE OK? YES ➡NO」と表示されます。

「NEW FILE」と表示されているファイル番号は空き番号です。すでにデータが保存されているファイル番号には、そのファイル名が表示されます。

5 保存を実行するときは、「YES」を選
択し、MENUつまみを押す。

保存を中止するときは、➡が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押す。

USBメモリーへの保存が完了すると、「COMPLETE」と表示されます。

USBメモリーが接続されていないときは

「NO USB MEMORY」と表示されます。USBメモリーを接続してから、もう1度操作してください。

既存のファイルを選んだときは

「OVERWRITE OK? YES ➔NO」と表示されます。

- 上書きしないときは、➔が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押しします。
- 上書きするときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押しします。

USER SAVE/USER LOADの各ページで表示されるファイル情報を変更できません。

◆詳しくは、「表示を切り換えるには」(239ページ)をご覧ください。

USBメモリーに保存されるUSERメニューの項目について

USBメモリーには、USERメニューのすべての項目がユーザーファイルとして保存されます。

ご注意

以下の項目は保存できません。

- USER FILE 2ページのLOAD CUSTOM DATA、LOAD OUT OF USER、BEFORE FILE PAGE、USER LOAD WHITE
- REFERENCEページのSCENE WHITE DATA
- REC FUNCTIONページのFRAME RATE
- LENS FILEページのLENS FILE SELECT
- FORMATページのSYSTEM LINE、SYSTEM FREQUENCY、SCAN MODE、COUNTRY
- CLIP TITLEページのNUMERIC
- SKIN DETAILページのSKIN AREA IND、SKIN DTL SELECT
- MTX MULTIページのMATRIX AREA IND、MTX(MULTI) AXIS

ファイルの保存が実行されないときは

USBメモリーへの保存操作中または操作後に次のエラーメッセージが表示されたときは、ユーザーファイルは保存されません。

エラーメッセージ	状況	対策
NO USB MEMORY (点滅)	USBメモリーが接続されていない	USBメモリーを接続するか、または接続し直す
USB MEMORY INHIBIT! (点滅)	USBメモリーのLOCKスイッチがONになっている	USBメモリーのLOCKスイッチをOFFにする
USB MEMORY ERROR (点滅)	回路の故障、またはUSBメモリーに異常がある	再確認して、ソニーのサービス担当者に相談する

ファイルIDを設定するには

データをユーザーファイルとして保存する前にファイルIDを設定しておく、ユーザーファイルの識別に役立ちます。設定したファイルIDは、データとともに保存されます。

ご注意

USBメモリーにファイルを保存する前に、ファイルIDを確定しないと、ファイルIDはデータとともに保存されません。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➔を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのUSER FILEページを表示する。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 「F.ID」を選択し、MENUつまみを押す。

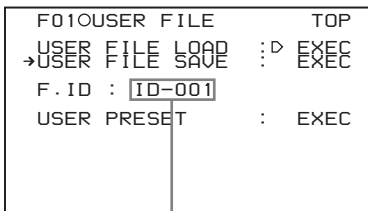
選択文字群が現れます。

```
F01USER FILE TOP
USER FILE LOAD : EXEC
USER FILE SAVE : EXEC
●F.ID :?■ ◀
i#%&'()*+,-./012345678
9:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOP
QRSTUVWXYZ[¥]abcdefghijklmnopqrstuvwxyz~
INS DEL RET ESC END
```

3 「ショットIDを設定する」(221ページ)の手順3~4の操作で文字を入力する。

4 文字の入力が終了したら、MENUつまみを回して■マークをENDに合わせ、MENUつまみを押す。

設定したファイルIDが表示されます。



設定されたファイルID

ユーザーファイルの保存操作(234ページ参照)を行うと、このファイルIDが、データとともにUSBメモリーに保存されます。

表示を切り換えるには

USBメモリーへの保存や呼び出しを行うためのUSER FILE SAVEページやUSER FILE LOADページ(P00~P19)で、表示される各ファイルの情報を切り換えることができます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 USER FILEメニューのUSER FILE LOADページまたはUSER FILE SAVEページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 DISPLAY MODEを選択し、MENUつまみを押す。

3 希望の表示方法を選択し、MENUつまみを押す。

設定項目	設定内容
ALL	ファイルID (10文字) と保存日 (年月日)
F.ID	ファイルID (16文字)
DATE	保存日時 (年月日、時分秒)
MODEL	機種情報

USBメモリーに保存されているユーザーファイルを呼び出す

ご注意

USBメモリーからファイルを読み出すと、本機内部に保存されているデータは上書きされます。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのUSER FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 USER FILE LOADを選択し、MENUつまみを押す。

USER LOADページが表示されます。

3 MENUつまみを回して、希望のファイル番号があるページまでスクロールし、MENUつまみを押す。

4 希望のファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。

「LOAD OK? YES ➡NO」と表示されます。

5 呼び出しを実行するときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押す。
呼び出しを中止するときは、➡が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押す。

アクセスランプが点灯します。USBメモリーからの呼び出しが完了すると、「COMPLETE」と表示され、アクセスランプが消灯します。

ファイルの呼び出しが実行されないとき

USBメモリーからの呼び出し操作中または操作後に次のエラーメッセージが表示された場合は、ファイルの呼び出しは行われません。

エラーメッセージ	状況	対策
NO USB MEMORY (点滅)	USBメモリーが接続されていない	USBメモリーを接続するか、または接続し直す
USB MEMORY ERROR (点滅)	回路の故障、またはUSBメモリーに異常がある	再確認して、ソニーのサービス担当者に相談する
FILE ERROR (点滅)	本機で呼び出せるデータではない	本機以外で書き込んだデータは呼び出せない

変更されたユーザーファイルの内容を標準設定値に戻す

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

- 1 FILEメニューのUSER FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。
- 2 USER PRESETを選択し、MENUつまみを押す。

シーンファイルの保存と呼び出し

いろいろな撮影シーンに応じて画質調整した値をシーンファイルに保存しておき、必要に応じて呼び出すことによって、画質を瞬時にそのシーン用に調整できます。シーンファイルは、本機内部のメモリーに5個、USBメモリーに100個まで保存できます。また、本機のメモリーに保存されているデータをUSBメモリーに保存したり、USBメモリーから本機のメモリーに呼び出したりすることもできます。

シーンファイルに保存されるデータ

次のデータはシーンファイルに保存できません。

- PAINTメニューを使用して調整した値
- 標準モードおよびECSモードでのシャッタースピードの設定
- ホワイトバランスのデータ
保存されるデータおよび呼び出されるデータは、FILEメニューのREFERENCEページのSCENE WHITE DATAの設定によって異なります。

シーンファイルを保存する

USBメモリーにシーンファイルを保存するときは、USBメモリーをUSB端子に接続してから以下の操作を行ってください。(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

- 1 FILEメニューのSCENE FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

?F04●SCENE FILE	TOP
□1 : STANDARD	
□2 : STANDARD	
□3 : STANDARD	
□4 : STANDARD	
□5 : STANDARD	
□STANDARD	
SCENE RECALL	: EXEC
SCENE STORE	: EXEC
F.ID: STANDARD	

保存するデータにファイルIDを付けるときは

手順2に進む前に、ファイルIDを設定します。

◆詳しくは、「ファイルIDを設定するには」(239ページ)をご覧ください。

2 SCENE STOREを選択し、MENUつまみを押す。

SCENE STOREページが表示されます。

3 MENUつまみを押してから、保存したいファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。

保存するファイルが選択されます。

USBメモリーが接続されていないときは

希望のメモリー番号を選択し、MENUつまみを押します。

保存が終了すると、SCENE FILEページが表示されます。

既存のファイルを選んだときは

「OVERWRITE OK? YES ▶NO」と表示されます。

- 上書きしないときは、▶が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押します。
- 上書きするときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押します。

USBメモリーが接続されているときは

USBメモリーにシーンファイルを保存する場合に使用できるページはP01～P20の20ページで、各ページに5個までファイルを保存できます。

- ①MENUつまみを回して希望のファイル番号があるページを表示させ、MENUつまみを押す。
- ②希望のファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。

「STORE OK? YES ▶NO」と表示されます。

- ③保存を実行するときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押す。
保存を中止するときは、▶が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押す。

SCENE STORE/SCENE RECALLの各ページで表示されるファイル情報を変更できます。

- ◆詳しくは、「表示を切り換えるには」(236ページ)をご覧ください。

本機のメモリーのシーンファイルをUSBメモリーに保存するには

本機のメモリーに保存されている5つのファイルをUSBメモリーに一度に保存できます。(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して▶を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのSCENE FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 SCENE STOREを選択し、MENUつまみを押す。

SCENE STOREページが表示されます。

3 MENUつまみを回して、希望のSCENE STOREページを表示させ、MENUつまみを押す。

4 5FILE SAVE ◀ MEM 1-5を選択し、MENUつまみを押す。

「STORE OK? YES ▶NO」と表示されます。

5 保存を実行するときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押す。

保存を中止するときは、▶が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押す。

保存が完了すると、「COMPLETE」と表示されます。

ご注意

手順3で選択したページで、USBメモリーにすでにファイルがある場合は、それらは本機のメモリーのシーンファイルによって上書きされます。たとえば、上記の操作では、001～005のファイルが一括して上書きされます。

ファイルIDを設定するには

データをシーンファイルとして保存する前にファイルIDを設定しておく、シーンファイルの識別に役立ちます。

設定したファイルIDは、データとともに保存されます。

シーンファイルのファイルIDは、FILEメニューのSCENE FILEページで設定します。

◆操作について詳しくは、「ファイルIDを設定するには」(235ページ)の手順2以降をご覧ください。

表示を切り換えるには

USBメモリーへの保存や呼び出しを行うためのSCENE STOREページやSCENE RECALLページ(それぞれP01～P20)に表示される各ファイルの情報を切り換えることができます。

シーンファイルの情報表示切り換えは、SCENE FILEメニューのSCENE STOREページまたはSCENE RECALLページで設定します。

◆操作について詳しくは、「表示を切り換えるには」(236ページ)の手順2以降をご覧ください。

シーンファイルを呼び出す

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのSCENE FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 本機のメモリーに保存されているシーンファイルを呼び出すときは、呼び出したいファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。

ファイル番号の前に表示されている口が■に切り替わり、シーンファイルが呼び出されます。

F04	SCENE FILE	TOP
<input type="checkbox"/>	01 : SCENE 25	
<input checked="" type="checkbox"/>	02 : SCENE 26	
<input type="checkbox"/>	03 : SCENE 27	
<input type="checkbox"/>	04 : SCENE 28	
<input type="checkbox"/>	05 : NO FILE	
<input type="checkbox"/>	OSTANDARD	
	SCENE RECALL	: EXEC
	SCENE STORE	
	F.ID : SCENE21	

OPERATIONメニューのVF DISP 3ページでDISP SCENE FILEを「ON」に設定すると、呼び出したシーンファイル番号がビューファインダー画面に表示されます(42ページ参照)。

キャンセルするとき

MENUつまみを回して➡を■に合わせ、もう1度MENUつまみを押します。
■が口に切り替わり、シーンファイルを呼び出す前の状態に戻ります。

USBメモリーに保存されているシーンファイルを呼び出すとき

- ①SCENE RECALLを選択し、MENUつまみを押す。
SCENE RECALLページが表示されます。
- ②MENUつまみを回して、希望のファイルが表示されているページを表示させ、MENUつまみを押す。
- ③希望のファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。
「RECALL OK? YES ➡NO」と表示されます。

3 呼び出しを実行するときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押す。

呼び出しを中止するときは、➡が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押す。指定したシーンファイルがUSBメモリーからカムコーダーに呼び出されると、「COMPLETE」と表示されます。

ファイルが保存されていないファイル番号には、「NO FILE」と表示されません。

USBメモリーに保存されているシーンファイルを本機のメモリーに保存するには

USBメモリーに保存されているファイルのうち、5つのファイルを一度に本機のメモリーに保存できます。

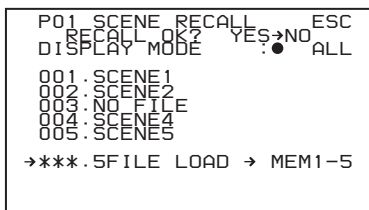
(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのSCENE FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 SCENE RECALLを選択し、MENUつまみを押す。
SCENE RECALLページが表示されます。

3 MENUつまみを回して、希望のシーンファイルがあるSCENE RECALLページを表示させ、MENUつまみを押す。

4 5FILE LOAD ➡ MEM 1- 5を選択し、MENUつまみを押す。
「RECALL OK? YES ➡NO」と表示されます。



5 呼び出しを実行するときは、「YES」を選択し、MENUつまみを押す。
呼び出しを中止するときは、➡が「NO」の位置のまま、MENUつまみを押す。

本機のメモリーへの保存が終了すると、「COMPLETE」と表示され、アクセスランプが消灯します。

ご注意

- 本機のメモリーに保存されているシーンファイルは、USBメモリーから呼び出されたファイルによって上書きされます。
- USBメモリーがUSB端子に接続されているときに、本機のメモリーに保存されているシーンファイルを呼び出すには、P00 SCENE RECALLページで希望のファイルを呼び出してください。
- NO FILEの場合は、そのファイル番号だけは上書きされません。手順4の例では、MEM3の内容は書き替わりません。

変更されたシーンファイルの内容を標準設定値に戻す

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのSCENE FILEページを表示させ、MENUつまみを押す。
◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 STANDARDを選択し、MENUつまみを押す。
STANDARDの前に表示されている口が■に切り替わります。さらに口に切り替わり、シーンファイルの内容は標準設定値に戻ります。

■が点灯中にもう1度MENUつまみを押すと、変更はキャンセルされ、シーンファイルの内容はSTANDARDを選択する前の状態に戻ります。

USBメモリー接続時にファイル関連ページを表示する

USBメモリーには、ユーザーファイル、シーンファイル、レンズファイル、リファレンスファイル、ALLファイルを保存できます。

メニュー画面が表示された状態で、これらのファイルが保存されたUSBメモリーをUSB端子に接続したとき、希望のファイル関連のメニューを自動的に表示させることができます。USBメモリーで主に保存・運用しているファイルのページを瞬時に表示できる便利な機能です。

(メニュー上での項目選択のしかた：MENUつまみを回して➡を項目に合わせる。)

1 FILEメニューのUSB MEMORYページを表示させ、MENUつまみを押す。

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」(208ページ)をご覧ください。

2 USB IN > JUMP TOを選択し、MENUつまみを押す。

USB IN > JUMP TOでは、次のファイルページを指定することができます。

設定項目	設定内容
OFF	本機能を使用しない。USBメモリーを接続してもメニュー画面は切り替わらない
USER	USER FILEページを表示する
ALL	ALL FILEページを表示する
SCENE	SCENE FILEページを表示する
LENS	LENS FILE 1ページを表示する
REFER	REFERENCEページを表示する
USER 1	USER 1 FILEページを表示する

3 MENUつまみを回して希望のファイルページ名を表示させ、MENUつまみを押す。

ご注意

次の状況では、USBメモリーを入れてもファイル関連ページは表示されません。

- USBメモリーを入れた後に、本機の電源を入れた場合
- USB IN > JUMP TOページで、OFFが選択されている場合
- すでに次のようなページが表示されている場合
 - USER FILE などのファイル関連のページ
 - USB MEMORY、ALL FILE、SCENE FILE、LENS FILE、REFERENCE、ROM VERSION の各ページ

8章 ファイル操作

概要

ファイル化して記録されたビデオやオーディオなどのデータは、本機にコンピューターをFTP接続して、コンピューター上で操作することができます。

本機とコンピューターのネットワーク端子同士をネットワークケーブルで接続します(248ページ参照)。

FTPSプロトコル対応

本機は、FTPプロトコルとFTPSプロトコルに対応しています(ソフトウェアバージョン3.0以降)。

セキュアでないネットワーク環境でお使いの場合は、FTPSプロトコルの使用を推奨します。

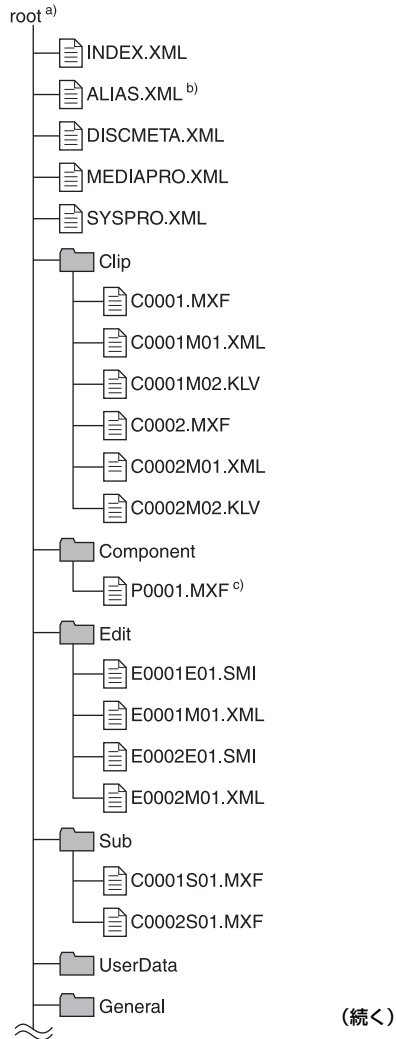
FTPSプロトコルを使用する場合は、MAINTENANCEメニューのNETWORK SETTINGページでSECURITYをLEVEL2に設定してください。

ディレクトリー構造

コンピューター上でみることができるディスク内のディレクトリー構造を次図に示します。

ご注意

実際にディスクに記録される構造とは異なります。



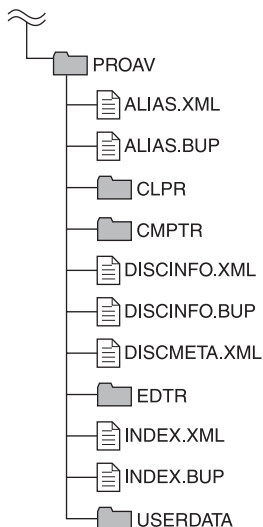
(続く)

a) ルートディレクトリー

b) OPERATIONメニューのFILE NAMINGページで、NAMING FORMがFREEに設定されているときのみ

c) PDW-HR1でボイスオーバー編集を実行すると生成されるファイル

(続き)



ファイル操作の項目

ここでは、ファイル操作項目の実行の可否について、それぞれのディレクトリーに格納されているファイルごとに表に示します。なお、ファイル操作項目の「読み出し」と「書き込み」には「部分読み出し」と「部分書き込み」があり、必要に応じてこれらを区別して説明します。

読み出し：ファイルの先頭から最後まで順番にデータを読み出すこと

部分読み出し：ファイルの一部分のデータのみを読み出すこと

書き込み：ファイルの先頭から最後まで順番にデータを書き込むこと

部分書き込み：ファイルの一部分にデータを書き込むこと

ご注意

操作項目のうち、読み出し/部分読み出し以外の操作は、ディスクの記録禁止タブが記録可に設定されているときのみ有効です。

ルートディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
INDEX.XML	ディスク内の素材の管理用データが記述されている	可	不可	不可	不可	不可
ALIAS.XML ^{a)}	クリップやクリップリストに任意の名前を付けるための変換テーブルが記述されている	可	不可	不可	不可	不可

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
DISCMETA.XML	ディスクの属性を示すメタデータが記述されている	可	可 ^{b)}	不可	不可	不可
MEDIAPRO.XML	ディスク内の素材の一覧、基本属性、関連情報、およびアクセス手段が記述されている	可	不可	不可	不可	不可
SYSPRO.XML	機器のシステム設定情報、およびメニュー設定情報が記述されている	可	不可	不可	不可	不可
その他のファイル	上記以外のファイル	—	不可	—	不可	—

a) OPERATIONメニューのFILE NAMINGページで、NAMING FORMがFREEに設定されているときのみ

b) XDCAMが書き込み可能なファイルのみ

ご注意

- ルートディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。
- ルートディレクトリー内のディレクトリー (Clip, Edit, Sub, UserData, General, およびPROAV) の削除、および名前の変更はできません。

Clipディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
C*.MXF ^{a)}	記録時に作成されるクリップファイル (MXFファイル) *: 0001~9999	可	不可 ^{b), c)}	可 ^{d)}	可 ^{c)}	可 ^{e)}
C*M01.XML ^{a)}	C*.MXFファイル作成時に自動生成されるメタデータファイル *: 0001~9999	可	可 ^{f)}	不可 ^{g)}	不可 ^{h)}	不可 ⁱ⁾
C*M02.KLV ^{a)}	FTP接続による記録において、XDCAM機器以外の機器で生成されたメタデータ情報がMXFファイル内に存在することを識別したとき、自動生成されるユーザーメタデータファイル *:0001~9999	可	可 ^{f)}	不可 ^{g)}	可 ^{f)}	可 ⁱ⁾
その他のファイル	上記以外のファイル	—	不可	—	不可	—

a) 「C*」の部分を任意に変更可能

b) 上書き不可

c) XDCAMが書き込み可能で、かつディスクの記録済み部分のフォーマット (システム周波数

(59.94i/50i、25P))と記録フォーマット(MPEG HD422) およびオーディオチャンネル数が一致しており、2秒以上のファイルのみ(部分書き込みは不可)

d)OPERATIONメニューのFILE NAMINGページで、NAMING FORMがFREEに設定されているときのみ

e)任意のクリップの削除が可能

f) XDCAMが書き込み可能なファイルのみ

g)C*.MXFファイルの「C*」の部分を変更すると、「C*」の部分と同じ名前のC*M01.XMLファイル

およびC*M02.KLVファイルが自動的に変更される

h)C*.MXFファイルを作成すると、「C*」の部分と同じ名前のC*M01.XMLファイルが自動的に生成される

i) C*.MXFファイルを削除すると、「C*」の部分と同じ名前のC*M01.XMLファイルおよびC*M02.KLVファイルが自動的に削除される

ご注意

Clipディレクトリ内にディレクトリを作成することはできません。

Componentディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
P*.MXF ^{a)}	PDW-HR1においてボイスオーバー編集実行時に生成されるオーディオクリップファイル(MXFファイル) *: 0001~0099	可	可 ^{b)} 、 ^{c)}	可 ^{e)}	可 ^{b)} 、 ^{d)}	可 ^{f)}
その他のファイル	上記以外のファイル	—	不可	—	不可	—

a)「P*」の部分が任意の名前であるファイルの扱いが可能

b)XDCAMが書き込み可能で、2秒以上のファイルのみ

c)上書きは不可

d)同時に複数のファイルを開くことはできない

e)OPERATIONメニューのFILE NAMINGページでNAMING FORMが「FREE」に設定されているときのみ

f) 任意のクリップの選択削除が可能

ご注意

Componentディレクトリ内にディレクトリを作成することはできません。

Editディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
E*E01.SMI ^{a)}	クリップリストファイル *: 0001~0099	可	可 ^{b)}	可 ^{c)}	可 ^{d)}	可
E*M01.XML ^{a)}	E*E01.SMIファイル作成時に自動生成されるメタデータファイル *: 0001~0099	可	可 ^{b)}	不可 ^{e)}	不可 ^{f)}	不可 ^{g)}
その他のファイル	上記以外のファイル	—	不可	—	不可	—

- a)「E*」の部分を任意に変更可能
 b)XDCAMが書き込み可能なファイルのみ、部分書き込みは不可
 c)OPERATIONメニューのFILE NAMINGページで、NAMING FORMがFREEに設定されているときのみ
 d)XDCAMが書き込み可能なファイルのみ
 e)E*E01.SMIファイルの「E*」の部分を変更すると、「E*」の部分が同じ名前のE*M01.XMLファイルが自動的に生成される
- f) E*E01.SMIファイルを作成すると、「E*」の部分が同じ名前のE*M01.XMLファイルが自動的に生成される
 g)E*E01.SMIファイルを削除すると、「E*」の部分が同じ名前のE*M01.XMLファイルが自動的に削除される

ご注意

Editディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。

Subディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
C*S01.MXF ^{a)}	C*.MXFファイル作成時に自動生成されるプロキシAVデータ (MXFファイル) *: 0001~9999	可	不可	不可 ^{b)}	不可 ^{c)}	不可 ^{d)}
その他のファイル	上記以外のファイル	—	不可	—	不可	—

- a)「C*」の部分を任意に変更可能
 b)C*.MXFファイルの「C*」の部分を変更すると、「C*」の部分が同じ名前のC*S01.MXFファイルが自動的に生成される
 c)C*.MXFファイルを作成すると、「C*」の部分が同じ名前のC*S01.MXFファイルが自動的に生成される
- d)C*.MXFファイルを削除すると、「C*」の部分が同じ名前のC*S01.MXFファイルが自動的に削除される

ご注意

Subディレクトリー内にディレクトリーを作成することはできません。

UserDataディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
任意のファイル		可	可	可 ^{a)}	可	可

- a)ファイル名に使用できる文字の上限は63バイト以下、使用可能な文字コードはUTF-8 (付けられるファイル名の長さ (拡張子含む) は、文字種によっては21文字までに制限されることがあります)
- ディレクトリーの作成 (UserDataディレクトリーを含めて62階層まで作成可能)
 - 作成したディレクトリーの削除および名前の変更

UserDataディレクトリー内では、ディレクトリーに関する以下の操作を行うことができます。

Generalディレクトリー

ファイル名	内容	操作項目				
		読み出し / 部分読み出し	書き込み / 部分書き込み	名前の変更	作成	削除
任意のファイル		可	可	可 ^{a)}	可	可

a) ファイル名に使用できる文字の上限は63バイト以下、使用可能な文字コードはUTF-8（付けられるファイル名の長さ（拡張子含む）は、文字種によっては21文字までに制限されることがあります）

Generalディレクトリー内では、ディレクトリーに関する以下の操作を行うことができます。

- ディレクトリーの作成（Generalディレクトリーを含めて63階層まで作成可能）
- 作成したディレクトリーの削除および名前の変更

ご注意

- 作成可能なファイル数は、1層ディスク1枚に対して最大で5000、2層ディスク1枚に対して最大で6000です（いずれの場合もディレクトリーを含む）。
- ファイルおよびディレクトリーの名前に使用できるのは、Unicode 2.0の文字セットの数字、文字、記号です。
ただし、以下の制御文字と記号は使用できません。
 - 制御文字：U + 0000 ~ U + 001F、U + 007F
 - 記号：", *、/、:、<、>、'、?、\、|
- Generalディレクトリー内にディレクトリーを新規作成する場合は、あらかじめデスクトップなどでディレクトリーを作成し、本機で使用できる文字で名前を変更してからGeneralディレクトリー内にドラッグ&ドロップしてください。

PROAVディレクトリー

ディスクに記録されているファイルを個別に表示します。

PROAVディレクトリーを表示させるには、MAINTENANCEメニューのCAM CONFIG 1ページでPROAV DISPLAYを「ENABL」に設定します。

FTPによるファイル操作

本機とコンピューターとの間でFile Transfer Protocol（ファイル転送プロトコル、以下FTPと呼びます）を利用してファイル操作を行います。

準備

1 本機とコンピューターのネットワーク端子同士をネットワークケーブルで接続する。または、コンピューターが接続されているネットワークに本機を接続する。

2 MAINTENANCEメニューのNETWORK SETTINGページで本機のIPアドレスなどを設定する。¹⁾

◆メニューの操作については、「メニューの基本操作」（208ページ）をご覧ください。

設定済みの場合は

本機のIPアドレスを確認しておいてください。

1)本機には、IPアドレスをDHCPサーバーから自動取得するDHCP機能があります。また、本機からDHCPサーバーに対するアクセスがタイムアウトしたとき、IPアドレスが自動的に割り当てられる自動IPアドレスシリング機能（Auto-IP）があります。DHCPの設定と割り当てられたIPアドレスは、MAINTENANCEメニューのNETWORK 1ページで確認できます。

ご注意

本機とWindows VistaまたはWindows 7のコンピューターを直接ネットワークケーブルで接続する場合には、次の設定を変更してください。

①コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」>「ネットワーク接続の管理」>「ローカルエリア接続」を開く。

②「ローカルエリア接続のプロパティ」を表示して、「インターネットプロトコルバージョン6（TCP/IPv6）」のチェックを外し、OKボタンをクリックする。

3 OPERATIONメニューのPOWER SAVEページを表示させ、MENUつまみを押す。

U070POWER SAVE	TOP
→ETHERNET/USB	: ● DSABL
REC AUDIO OUT	: EE
TEST OUT SAVE	: ON
Wi-Fi	: DSABL

4 ETHERNET/USBを選択し、MENUつまみを押す。

5 MENUつまみを回して「ENABL」を選択し、MENUつまみを押す。

FTP接続をする

本機とコンピューターをFTP接続するには、以下の方法があります。

- コマンドプロンプトを使用する。
- FTPクライアントソフトウェアを使用する。

ここでは、コマンドプロンプトを使用する方法を説明します。FTPクライアントソフトウェアについては、必要に応じてご用意ください。

ログインするには

1 本機にディスクを挿入し、以下の状態にする。

記録、再生、サーチなどのディスク操作：停止

サムネイルインジケーター：消灯
クリップの削除、ディスクフォーマットなどによるディスクへのアクセス：停止

ピックアップキャッシュ機能およびインターバルレック機能：停止

外部機器からの映像記録：無効
本機とコンピューター間のライブロギ
ング機能による接続：未接続

OPERATIONメニューの**REC**
FUNCTIONページでの**LIVE**
LOGGINGの設定：VIEW以外
(OFFまたはLIVE)

MENU ON/OFFスイッチ：OFF
保存していないカレントクリップリス
ト：保存またはクリアする

ご注意

本機が前記の状態でない場合は、ログイン
できません。

2 コマンドプロンプトを起動する。

3 「ftp <SP> <IPアドレス>」と入力し、 Enterキーを押す。(<SP>にはスペー スを入力してください。)

本機のIPアドレスが
「192.168.001.010」に設定されている
場合は、「ftp 192.168.1.10」と入力し
ます。

◆FTPコマンドについては、Windowsの
ヘルプを参照してください。

接続が正常に行われると、ユーザー名
の入力を求められます。

4 ユーザー名「admin」を入力し、 Enterキーを押す。

ユーザー名が認証されると、パスワー
ドの入力を求められます。

5 パスワードを入力し、Enterキーを押 す。

パスワードは、工場出荷時は機種名
(「pdw-750」)が設定されています。
パスワードが認証されると、ログイン
が完了します。

◆本機でサポートされているFTPプロトコ
ル上のコマンドについては、「コマンド
一覧」(249ページ)をご覧ください。

タイムアウトにより接続が切断された 場合は

前のコマンドを受信してから90秒以内
に次のコマンドを受信しないと、本機
はFTP接続を切断します。このような場

合は、ログアウトしてから(次項参照)
手順2~4を再度実行してください。

ご注意

FTP接続中に本機の電源を切ると、転送中の
データは破棄されます。

ログアウトするには

ファイル操作を終了してログアウトするに
は、コマンドプロンプトに「QUIT」と入力
して、Enterキーを押します。

コマンド一覧

本機でサポートされているFTPプロトコル
上のコマンドには、標準コマンド(次項参
照)と拡張コマンド(253ページ参照)が
あります。

ご注意

- FTPコマンドを実行するには、FTP機能を持つ
アプリケーションソフトウェアがコンピュー
ターにインストールされている必要があります。
- サポートされているコマンドは、アプリケー
ションソフトウェアによって異なります。
- ファイル名にASCII文字以外のUnicode文字を
使用する場合は、UTF-8に対応したFTPクライ
アントソフトウェアが必要です。コマンドプロ
ンプトのFTPコマンドはUTF-8に対応していま
せん。

標準コマンド

「構文」の<SP>はスペースの入力、
<CRLF>はEnterキーを押して改行するこ
を意味します。

USER

ユーザー名の認証を行う。

構文：USER <SP> <ユーザー名> <CRLF>

入力例：USER admin

PASS

パスワードの認証を行う。

構文：PASS <SP> </パスワード> <CRLF>

入力例：PASS pdw-750

- SIZE：バイトサイズ

入力例：TYPE I

QUIT

FTP接続を終了する。ファイルの転送中は、転送が終了してから終了する。

構文：QUIT <CRLF>

PORT

データ接続で使用するコンピューター側のIPアドレスとポート番号を本機に通知する。(本機側からデータ接続を行う。)

構文：PORT <SP> <h1,h2,h3,h4,p1,p2>
<CRLF>

h1 (上位バイト) ~h4 (下位バイト) :
IPアドレス
p1 (上位バイト)、p2 (下位バイト) :
ポート番号

入力例：PORT 10,0,0,1,242,48
(IPアドレス：10.0.0.1、ポート番号：
62000)

PASV

本機に対して、デフォルトのデータ接続ポート以外のポートを「Listen (待ち受け)」にするように要求する。(本機をPassiveモードにし、コンピューター側からデータ接続を行う。)

構文：PASV <CRLF>

TYPE

データタイプを指定する。

構文：TYPE <SP> <タイプコード (オプションは<SP>で区切る) > <CRLF>

以下のタイプコードがある。ただし、XDCAMの場合は、コードの指定に関わらず「I」で送信される。

- A：ASCII
 - N：ノンプリント
 - T：Telnetフォーマット
 - C：ASAキャリッジ制御
- E：EBCDIC
 - N：ノンプリント
 - T：Telnetフォーマット
 - C：ASAキャリッジ制御
- I：IMAGE (Binary) (デフォルト)
- L：LOCAL BYTE

STRU

データ構造を指定する。

構文：STRU <SP> <構造コード> <CRLF>

以下の構造コードがある。ただし、XDCAMの場合は、コードの指定に関わらず「F」で送信される。

- F：ファイル構造 (デフォルト)
- R：レコード構造
- P：ページ構造

入力例：STRU F

MODE

転送モードを指定する。

構文：MODE <SP> <モードコード>
<CRLF>

以下のモードコードがある。ただし、XDCAMの場合は、コードの指定に関わらず「S」で送信される。

- S：ストリームモード (デフォルト)
- B：ブロックモード
- C：圧縮モード

入力例：MODE S

LIST

本機からコンピューターにファイル一覧を送信する。

構文：LIST <SP> <オプション> <SP> <パス名> <CRLF>

以下のオプションがある。

- -a:「I」で始まる名前のファイルも表示する。
- -F:ディレクトリーの場合、ファイル名の後に「I」を付けて表示する。

<パス名>でのディレクトリーまたはファイルの指定の有無によって、以下のデータが送信される。

- ディレクトリー指定時：指定したディレクトリーのファイル一覧
- ファイル指定時：指定したファイルの情報

- 指定なし：現在のディレクトリーのファイル一覧

ファイル名にはワイルドカード〔「*」（複数文字列の置き換え）および「?」（任意の1文字の置き換え）〕を使用することができる。

入力例1：LIST -a Clip

入力例2：LIST Clip/*.MXF

NLST

本機からコンピューターにファイル名のみの一覧を送信する。

構文：NLST <SP> <オプションまたはパス名> <CRLF>

パス名を指定しない場合、以下のオプションを指定することができる

- -a：「.」で始まる名前のファイルも表示する。
- -l：ファイル名以外のファイル情報も表示する。（LIST コマンドと同様の結果が得られる。）
- -F：ディレクトリーの場合、ファイル名の後に「/」を付けて表示する。

<パス名>でのディレクトリーの指定の有無によって、以下のデータが送信される。

- ディレクトリー指定時：指定したディレクトリーのファイル名のみの一覧
- 指定なし：現在のディレクトリーのファイル名のみの一覧

ファイル名にはワイルドカード〔「*」（複数文字列の置き換え）および「?」（任意の1文字の置き換え）〕を使用することができる。

入力例1：NLST -l

入力例2：NLST Clip/*.MXF

RETR

本機の指定したパスにあるファイルのコピーを、コンピューターの現在のディレクトリーに転送する。

構文：RETR <SP> <パス名> <CRLF>

入力例：RETR Clip/C0001.MXF

STOR

コンピューターの指定したパスにあるファイルのコピーを、本機の現在のディレクトリーに転送す

る。転送するファイルの種類によっては、以下のアイテムが自動的に生成される。

- C*.MXFファイルの場合^{1)、3)}
 - C*M01.XMLファイル（メタデータ）
 - C*M02.KLVファイル（ユーザーメタデータ）
 - C*S01.MXFファイル（プロキシAVデータ）
 - UMID（コピー元ファイルのUMIDIは保存されない。ただし、直前に拡張コマンドSITE UMMDが発行された場合に限り、コピー元ファイルのUMIDが保存される。）
- E*E01.SMIファイルの場合^{2)、3)}
 - E*M01.XMLファイル（メタデータ）

1)*：0001～9999

2)*：0001～0099

3)「C*」および「E*」の部分が任意名のファイルを使用できる。

ご注意

- C*.MXFファイルの場合、ファイルヘッダーのヘッダーメタデータなどで一部の情報が欠落することがあります。
- 転送先のディレクトリーやファイルの種類によっては、転送できないことがあります。
- C*.MXFファイルの場合、コピー元ファイルのUMIDIは保存されません。ただし、STORコマンドの直前に拡張コマンドSITE UMMDが発行された場合に限り、コピー元ファイルのUMIDが保存されます。

◆詳しくは、「ファイル操作の項目」（243ページ）をご覧ください。

構文：STOR <SP> <パス名> <CRLF>

入力例：STOR Edit/E0001E01.SMI

RNFR

RNTO

ファイル名を変更する。

RNFRコマンドで変更前のファイル名を指定し、RNTOコマンドで変更後のファイル名を指定する。（RNFRコマンドの後に必ずRNTOコマンドを続けて発行する。）

構文：RNFR <SP> <パス名（変更前のファイル名）> <CRLF>

RNTO <SP> <パス名（変更後のファイル名）> <CRLF>

入力例：RNFR General/info.txt

RNTO General/clip_info.txt

DELE

本機の指定したパスにあるファイルを削除する。

ご注意

ディレクトリーやファイルの種類によっては、削除できないことがあります。

◆ 詳しくは、「ファイル操作の項目」(243ページ)をご覧ください。

構文: DELE <SP> <パス名> <CRLF>

入力例: DELE Clip/C0099.MXF

STAT

本機からコンピューターに、本機の指定したパスにあるファイルの属性情報、またはデータの転送状況を送信する。ファイルの種類によって、以下の属性情報が表示される。

- MXFファイル
 - ファイル名
 - ファイルタイプ
 - CODECタイプ
 - フレームレート
 - オーディオチャンネル数
 - デュレーション
 - UMID
- MXFファイル以外のファイル
 - ファイル名

構文: STAT <SP> <パス名> <CRLF>

<パス名>でのファイルの指定の有無によって、以下のデータが送信される。

- ファイル指定時: 指定したファイルの属性情報
- 指定なし: 転送済みデータのサイズ (バイト単位)

入力例: STAT Clip/C0001.MXF

ABOR

本機に対して、現在実行中のデータ転送などを中止させる。

構文: ABOR <CRLF>

SYST

本機のシステム名を表示させる。

構文: SYST <CRLF>

HELP

本機でサポートされているコマンドの一覧、または指定したコマンドの説明を表示させる。

構文: HELP <SP> <コマンド名> <CRLF>

<コマンド名>でのコマンドの指定の有無によって、以下のデータが送信される。

- コマンド指定時: 指定したコマンドの説明
- 指定なし: コマンド一覧

入力例: HELP RETR

NOOP

何もしない。(本機の稼働を確認するために使用するコマンド)

構文: NOOP <CRLF>

PWD

現在のディレクトリーを表示させる。(ルートディレクトリーの場合は「/」と表示される。)

構文: PWD <CRLF>

CWD

現在のディレクトリーを変更する。(現在のディレクトリーから別のディレクトリーに移動する。)

構文: CWD <SP> <パス名> <CRLF>

<パス名>でのディレクトリーの指定の有無によって、以下のディレクトリーに移動する。

- ディレクトリー指定時: 指定したディレクトリー
- 指定なし: ルートディレクトリー

入力例: CWD General

CDUP

現在のディレクトリーから1階層上のディレクトリー (親ディレクトリー) に移動する。

構文: CDUP <CRLF>

MKD

ディレクトリーを作成する。

ご注意

Generalディレクトリー内にはのみ新たにディレクトリーを作成することができます。

- ◆ 詳しくは、「ファイル操作の項目」(243ページ)をご覧ください。

構文: MKD <SP> <パス名> <CRLF>

RMD

ディレクトリーを削除する。

ご注意

Generalディレクトリー内のディレクトリーのみは削除することができます。

- ◆ 詳しくは、「ファイル操作の項目」(243ページ)をご覧ください。

構文: RMD <SP> <パス名> <CRLF>

MDTM

ファイルの最終更新日時を「YYYYMMDDhhmmss」(YYYY:西暦年、MM:月、DD:日、hh:時、mm:分、ss:秒)の形式で取得する。

ご注意

- 次の場合は、最終更新日時を取得できません。
- パス名にワイルドカード（「*」(複数文字列の置き換え)および「?」(任意の1文字の置き換え)）が含まれている。
 - パス名が1023バイトを超えている。

構文: MDTM <SP> <パス名> <CRLF>

入力例: MDTM PROAV/DISCMETA.XML

拡張コマンド

「コマンド」の<SP>はスペースの入力、<CRLF>はEnterキーを押して改行することを意味します。

SITE REPF

本機の指定したパスにあるMXFファイルを、コンピューターの現在のディレクトリーに転送する。このコマンドでは、転送するMXFファイルのボディー部分（映像および音声などによって構成されるデータ）の区間を指定し、必要な部分のみを転送することができる。

ご注意

- ファイルサイズを超える区間の指定はできません。
- パス名の途中にスペースが含まれる場合、このコマンドは使用できません。SITE REPFLコマンドを使用してください。

構文: SITE REPF <SP> <パス名> <SP> <開始フレーム> <SP> <転送サイズ> <CRLF>

<開始フレーム>では、転送を開始するビデオフレームのファイル先頭からのオフセットを指定する（先頭フレームは「0」）。<転送サイズ>では、転送するビデオフレーム数を指定する（ファイルエンドまで転送する場合は、「0」を指定する。）

入力例: SITE REPF Clip/C0001.MXF 5 150
(C0001.MXFを転送する。ただし、ボディー部分は6フレーム目から150フレーム分のデータだけを転送する。)

SITE REPFL

本機の指定したパスにあるMXFファイルを、コンピューターの現在のディレクトリーに転送する。このコマンドでは、転送するMXFファイルのボディー部分（映像および音声などによって構成されるデータ）の区間を指定し、必要な部分のみを転送することができる。

ご注意

ファイルサイズを超える区間の指定はできません。

構文: SITE REPFL <SP> "<パス名>" <SP> <開始フレーム> <SP> <転送サイズ> <CRLF>

"<パス名>"では、転送するファイルのパス名を、ダブルクォーテーションマークで挟んで指定する。<開始フレーム>では、転送を開始するビデオフレームのファイル先頭からのオフセットを指定する（先頭フレームは「0」）。<転送サイズ>では、転送するビデオフレーム数を指定する（ファイルエンドまで転送する場合は、「0」を指定する。）

入力例：SITE REPFL "Clip/sakura
0001.MXF 5" 150

(sakura 0001.MXFを転送する。ただし、ボディー部分は6フレーム目から150フレーム分のデータだけを転送する。)

SITE FSTS

本機のファイルシステムのステータスを取得する。以下のいずれかのステータスコードが表示される。

- 0：初期状態またはディスクが挿入されていない。
- 1：ファイルシステムマウントOK
- 3：ファイルシステムマウントNG

構文：SITE FSTS <CRLF>

SITE MEID

本機に挿入されているディスクのメディアIDを取得する。

構文：SITE MEID <CRLF>

SITE FUNC

拡張コマンドの用途を取得する。以下のフォーマットで表示される。

<主用途> <SP> <分岐用途> <SP> <分岐用途のバージョン>

XDCAMでは、「200 MXF DISK 1」のように表示される。「200」は応答コード)

構文：SITE FUNC <CRLF>

SITE UMMD

STORコマンドでC*.MXFファイルを転送する場合、STORコマンドの直前にこのコマンドを発行すると、コピー元ファイルのUMIDが保存される。

構文：SITE UMMD <CRLF>

SITE DF

ディスクの空き容量を表示させる。

構文：SITE <SP> DF <CRLF>

SITE CHMOD

クリップのロック・解除を行う。

また、General ディレクトリー内のディレクトリーやファイルの許可属性を設定する。

構文：SITE CHMOD <SP> <フラグ> <SP>
<パス名> <CRLF>

<フラグ>には、<パス名>の指定内容によって以下のいずれかの数値を指定する。

- <パス名>にクリップを指定した場合
444：ロック
666：ロック解除
- <パス名>に General ディレクトリー内のディレクトリーを指定した場合
555：ディレクトリー書き込み禁止
777：ディレクトリー書き込み許可
- <パス名>に General ディレクトリー内のファイル指定した場合
444：ファイル書き込み禁止・実行禁止
555：ファイル書き込み禁止・実行許可
666：ファイル書き込み許可・実行禁止
777：ファイル書き込み許可・実行許可

入力例：SITE CHMOD 444 Clip/C0001.MXF
(C0001.MXFをロックする)

SITE TCPR

STORコマンドによってコピーするクリップの先頭タイムコードをプリセットする。タイムコードは、「ffssmmhh」(ff：フレーム、ss：秒、mm：分、hh：時)の形式で指定する。

ご注意

- 本コマンドは、STORコマンドが発行されるまで、または（STORコマンドが発行されなければ）FTP接続が切断されるまで有効です。
- 本コマンド発行後にSITE UMMDコマンドが発行されると、SITE UMMDコマンドが有効になり、本コマンドは破棄されます。
- 連続して本コマンドを発行した場合は、最後のコマンドが有効になります。

構文：SITE TCPR <SP> <タイムコード>
<CRLF>

入力例：SITE TCPR 00050001
(先頭タイムコードを01：00：05：00にプリセットする。)

FTP接続時にタイムコードを連続して記録する

FTP接続によって作成するクリップのタイムコードを、ディスクに記録されている最終クリップの最終フレームのタイムコードに連続させることができます。

タイムコードを連続して記録するには、あらかじめPRESET/REGEN/CLOCKスイッチをREGENに設定してから、以下のように操作します。

本機に接続しているコンピューターから「STOR」コマンドでクリップファイルを転送します。

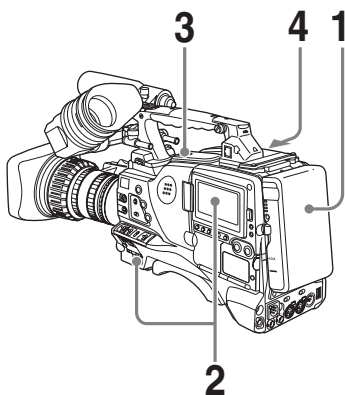
「STOR」コマンドの直前に「SITE UMMD」コマンドを発行すると、PRESET/REGEN/CLOCKスイッチの設定に関わらず、タイムコードは転送元ファイルのタイムコードのまま記録されます。

9章 保守・点検

撮影前の点検

撮影に出発する前に次の点検を行い、システムが正常に動作することを確認してください。カラービデオモニターを使って画像をチェックすることをおすすめします。

点検の準備をする

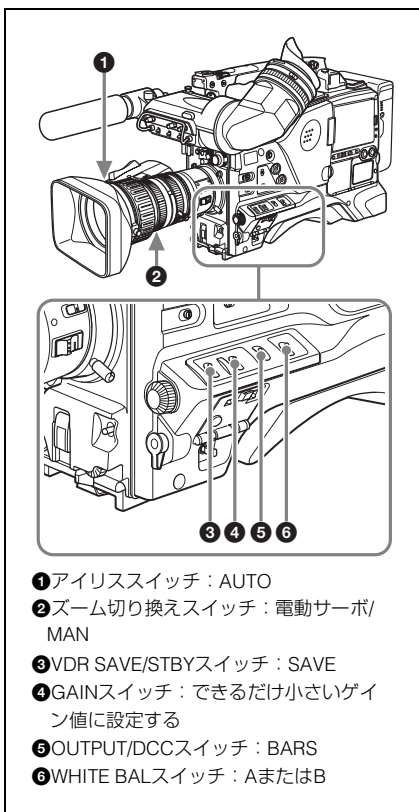


- 1 充電済みのバッテリーパックを取り付ける。
- 2 POWERスイッチをONにし、バッテリー残量表示 (■) が5個以上点灯していることを確認する。
 - バッテリー残量表示が5個以上点灯していないときは、十分に充電したバッテリーと交換する。
- 3 ディスク挿入口の周辺にケーブルなどの障害物がないことを確認してから、EJECTボタンを押す。

- 4 ディスクが誤消去防止の状態でないことを確認してからディスクを挿入し、ふたを閉める。

カメラ部を点検する

スイッチを以下のように設定します。



- ① アイリススイッチ：AUTO
- ② ズーム切り換えスイッチ：電動サーボ/MAN
- ③ VDR SAVE/STBYスイッチ：SAVE
- ④ GAINスイッチ：できるだけ小さいゲイン値に設定する
- ⑤ OUTPUT/DCCスイッチ：BARS
- ⑥ WHITE BALスイッチ：AまたはB

ビューファインダーを点検するには

- 1 ビューファインダーの位置を調節する。

- 2 ビューファインダー画面にカラーバーが映ることを確認した上で、BRIGHTつまみ、CONTRASTつまみ、PEAKINGつまみで、ビューファインダーのカラーバーがきれいに映るように調節する。
- 3 以下のことを順番に確認する。
 - ビューファインダー画面上にメニューが表示される。
 - MENUつまみを回すと、メニューのページが切り替わる。
 - MENUつまみを押し、選択したページの各項目の設定内容が表示される。
 - MENUつまみを回すと、ページ内で▶マークが移動する。
 - MENUつまみを押し、項目にある▶マークが●マークに、項目設定値にある●マークが?マークに変わる。(項目設定モード)
 - MENUつまみを回すと、選択した項目の設定値やON/OFFの表示が切り替わる。
- 4 OUTPUT/DCCスイッチをCAMにし、FILTERつまみを、1→2→3→4と切り換える。
つまみの位置に対応してビューファインダー画面上のFILTER表示の数字が変わることを確認する。
- 5 以下の操作を実行し、USERメニューの「I」LEDページでONに設定した項目を操作したとき、ランプが点灯することを確認する。
 - GAINスイッチおよびOPERATIONメニューのGAIN SWページで、ゲインを0 dB以外の値に設定する。
 - SHUTTERスイッチをONにする。
 - WHITE BALスイッチをPRSTにする。
 - レンズエクステンダーを入れる。
 - オートアイリスの基準値を標準値以外にする。
- 6 SHUTTERスイッチをONからSELECT側に繰り返し押し、ビューファインダー画面上でシャッターの設定が変わることを確認する。

- 7 適当な被写体にレンズを向け、フォーカシングを回して、ピントを合わせる。ビューファインダーに画像が映ることを確認する。
- 8 AUDIO INスイッチを両方ともFRONTにし、本機前部のMIC IN端子につないだマイクから音声を入力して、ビューファインダー画面上に音声レベルが表示されることを確認する。
- 9 ZEBRAスイッチの設定をONにするとビューファインダー画面にゼブラパターンが表示され、OFFにすると消えることを確認する。

ご注意

手順3～9の項目や機能は、設定状況によって表示されない場合があります。USERメニューのVF DISP1、VF DISP 2ページで、必要な項目が表示されるように設定してください。

◆ 詳しくは、「表示項目を選択する」(217ページ)をご覧ください。

アイリス、ズーム機能を点検するには

- 1 ズームを電動ズームモードにして、電動ズームの確認をする。画像が望遠、広角と変わることを確認する。
- 2 ズームを手動ズームモードにして、手動ズームの確認をする。手動ズームレバーを回し、画像が望遠、広角と変わることを確認する。
- 3 レンズのアイリススイッチをAUTOにし、明るさの違う被写体にレンズを向ける。オートアイリスが働くことを確認する。
- 4 レンズのアイリススイッチをMANUALにし、アイリスリングを回し、手動でアイリスの調整が働くことを確認する。

- 5 レンズのアイリススイッチをAUTOに戻し、GAINスイッチの設定をL、M、Hと切り換えて次の点を確認する。
 - 設定の切り換えに応じて、同じ明るさの被写体に対し、アイリスが調整される。
 - 設定の切り換えに応じて、ビューファインダー画面のゲイン値表示が切り替わる。
- 6 エクステンダー付きのレンズを装着しているときは、レンズのエクステンダーレバーを2xの位置にして、次のことを確認する。
 - ビューファインダー画面の左上にEX表示が出ることを確認する。
 - オートアイリスが正常に動くことを確認する。

VDR部を点検する

以下の項目(1)から(7)までを連続して行ってください。

(1) 記録・再生を点検するには

- 1 VDR SAVE/STBYスイッチをSAVEにして、ビューファインダー内のSAVEランプが点灯することを確認する。
- 2 VDR SAVE/STBYスイッチをSTBYにして、ビューファインダー内のSAVEランプが消灯することを確認する。
- 3 LCDモニターの下にあるスイッチを以下のように設定する。
BRIGHTボタン：H、M、またはL
DISP SEL/EXPANDボタン：STATUS
DISPLAYスイッチ：COUNTER
- 4 PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをPRESETに設定し、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをR-RUNにする。

- 5 本機のREC STARTボタンを押し、以下の項目を確認する。
 - LCDモニターでのタイムカウンター表示が変わっていく。
 - ビューファインダー内のRECランプが点灯する。
 - 表示窓のRF、SERVO表示が点灯しない。
- 6 REC STARTボタンをもう一度押す。ディスクが停止し、ビューファインダー内のRECランプが消えることを確認する。
- 7 レンズのVTRボタンを使って、手順5、6と同じ確認を行う。
 RESET/RETURNボタンを押し、LCDモニターでのタイムカウンター表示が“00:00:00:00”になることを確認する。
- 8 F REVボタンを押してからPLAY/PAUSEボタンを押す。
 逆高速再生と通常の再生が正常に行われることを確認する。
- 9 STOPボタンを押してからF FWDボタンを押す。
 再生停止と高速再生が正常に行われることを確認する。
- 10 STOPボタンを押してからPREVボタンを押す。
 クリップの先頭の画または前のクリップの先頭の画が表示されることを確認する。
- 11 NEXTボタンを押し、次のクリップの先頭の画が表示されることを確認する。

(2) 音声レベル自動調整機能を点検するには

- 1 AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチを両方ともFRONTにする。
- 2 AUDIO SELECT (CH-1/CH-2) スwitchの両方をAUTOに設定する。
- 3 AUDIO IN CH-3/CH-4スイッチの両方をF (FRONT) にする。

- 4 MIC IN端子につないだマイクを適当な音源に向ける。チャンネル1、2、3、4のレベル表示が音の大きさに合わせて変わることを確認する。

(3) 音声レベル手動調整機能を点検するには

- 1 AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチ両方をFRONTにする。
- 2 本機前部のMIC LEVELつまみを回す。向かって左に回すと、LCDモニターの音声レベルメーターの表示が増えることを確認する。

(4) イヤホンやスピーカーを点検するには

- 1 MONITORつまみを回し、スピーカーの音量が変わることを確認する。
- 2 イヤホンをEARPHONE端子に接続する。
- 3 スピーカーから音が聞こえなくなり、イヤホンからマイクの音が聞こえることを確認する。
- 4 MONITORつまみを回し、イヤホンの音量が変わることを確認する。
- 5 イヤホンをもう一方のEARPHONE端子に接続し、手順3を繰り返して点検する。

(5) 外部マイクを使う場合の点検をするには

- 1 外部マイクをAUDIO IN CH1/CH2端子につなぐ。
- 2 +48V/OFFスイッチを以下のように設定する。

- 内部電源供給型の外部マイクロホンを使用する場合は、OFFに設定する。
- 外部電源供給型の外部マイクロホンを使用する場合は、+48Vに設定する。

- 3 AUDIO INスイッチをREARにする。

- 4 マイクを音源に向ける。

- 5 LCDモニターの音声レベルメーターの表示、およびビューファインダー内の音声レベル表示が音の大きさに合わせて変わることを確認する。

(6) XLR接続自動検出機能を点検するには

点検を始める前にフロントマイクが接続されている場合は、外しておいてください。

- 1 前項の手順1と2を行う。
- 2 AUDIO IN CH-1/CH-2スイッチをFRONTにする。
- 3 前項の手順4と5を行う。
音声レベル表示が音の大きさに合わせて変わる場合は、XLR自動検出機能が働いています。
変わらない場合は、XLR自動検出機能がOFFになっています。
OFFの場合は、MAINTENANCEメニューのVDR MODE 1ページで、REAR XLR AUTOをONに設定し直してください。それでも変わらない場合は、XLR自動検出機能が正しく働いていません。

(7) ユーザービット、タイムコードに関する点検をするには

- 1 必要に応じて、ユーザービットを設定する。
◆設定のしかたについては、「ユーザービットを設定する」(79ページ)をご覧ください。

- 2 タイムコードを設定する。
◆設定のしかたについては、「タイムコードを設定する」(78ページ)をご覧ください。
- 3 F-RUN/SET/R-RUNスイッチをR-RUNにする。
- 4 REC STARTボタンを押して、録画開始とともにタイムカウンター表示が変わることを確認する。
- 5 もう一度REC STARTボタンを押し、録画が停止し、タイムカウンター表示部の数値が変わらなくなることを確認する。
- 6 F-RUN/SET/R-RUNスイッチをF-RUNにして、カウンター表示部の数値が、録画に関係なく変わることを確認する。
- 7 DISPLAYスイッチをU-BITにして、設定したユーザービットが表示されることを確認する。

保守

ビューファインダーをクリーニングする

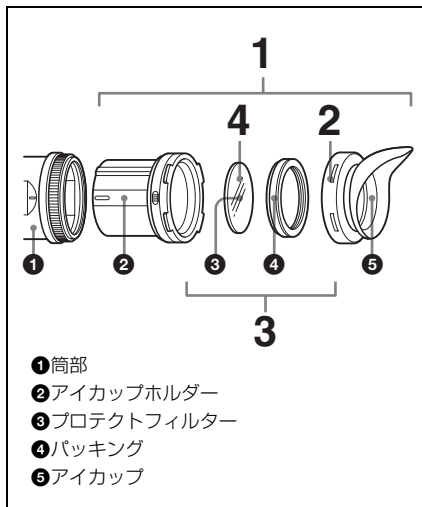
筒部内のCRTスクリーンやミラーの表面からほこりを除去するには、ブローアをお使いください。

レンズとプロテクトフィルターのクリーニングには、市販のレンズクリーナーをお使いください。

ご注意

シンナーなどの溶剤はいっさい使わないでください。

アイピース部を分解するには



1 ビューファインダーの筒部からアイピース部を取り外す。

- ◆取り外しかたについては、「アイピース部を取り外す」(48ページ)をご覧ください。

- 2 アイカップホルダーからアイカップを外す。
- 3 アイカップホルダー内から、プロテクトフィルターをパッキングごと外す。
- 4 パッキングからプロテクトフィルターを外す。

ましては、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

防曇フィルターについて

撮影場所の温湿度条件によっては、呼吸や水蒸気によってプロテクトフィルターが曇り、ビューファインダー内が見にくくなることがあります。プロテクトフィルターの代わりに、別売の防曇フィルター（サービスパーツ番号：1-547-341-11）を使用すると、くもりの発生を防ぐことができます。

防曇フィルターを取り付けるには

プロテクトフィルターをパッキングリングから外し、代わりに防曇フィルターをパッキングリングにはめ込みます。

アイピース部の防滴性を損なわないように、防曇フィルター、パッキングリングおよびアイカップは確実に組み立ててください。

ご注意

防曇フィルターをクリーニングする際は、防曇効果を損なわないように、柔らかい布でからぶきしてください。

バッテリー端子に関するご注意

機器に搭載されているバッテリー端子（バッテリーパックやACアダプターとの接点部分）は消耗品です。

振動や衝撃によって端子が変形したり、曲がったり、あるいは長期の屋外での使用などによって表面が腐食したりすると、本体に電源が供給されなくなります。長期間機器を使用していただくために、定期点検を実施することをお願いします。点検につき

ILL. REC!	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	 b)	●●●●●●●● b)	 b)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	入力同期異常		記録は継続するが、正しく記録できない場合がある		電源を切ってソニーのサービス担当者に連絡する (GENLOCK信号を入力切りしたときに一瞬表示する場合は、問題ではない)	
Verify ERR!	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	 b)	●●●●●●●● b)	 b)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	ディスクに記録した信号に異常が検出された		記録は継続するが、正しく記録できない場合がある		ディスクを交換する	
Cache Full!	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	 b)	—	 b)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	ディスクエクステンジ キャッシュ機能動作中にメモリーがいっぱいになった		記録が途切れる場合がある		すばやくディスクを交換する	
Disc Error!	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	 b)	●●●●●●●● b)	 b)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	ディスクの欠陥が検出された		記録は欠陥部分避けて継続するが、正しく記録できない場合がある		頻繁に発生する場合は、ディスクを交換する	
Before Full (h)	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	DISC	点滅 f)	 b)	●●●●●●●●	 b)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	ディスクの残量わずか		動作は継続		ディスク交換の準備をする	
Near MAX # i)	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	 b)	●●●●●●●●	 (300クリップ目を記録中のみ)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	記録可能クリップ数が9個以下になった		動作は継続		ディスク交換の準備をする	
DISC FULL! d)	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	DISCとE	点滅 g)	 d)	●●●●●●●●●●●●●● d)	 d)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
	ディスクの残量なし		記録中は動作停止		ディスクを交換する	

100GB Disc! j)	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—		●))))))))))))))))))		—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
本機では使えないディスク		自動排出		ディスクを交換する		
128GB Disc! k)	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—		●))))))))))))))))))		—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
使えないディスク		自動排出		ディスクを交換する		
U1/U2 Disc/XDS Disc	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	—	—	—	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
サルベージできないディスク		記録できない		記録した機器でサルベージを実行する		
MAX # Clips	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	d)	●)))))))))))))))))) d)	d)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
記録クリップ数が上限の300クリップに達した		記録できない		ディスクを交換する		
MAX # Files	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—	d)	●)))))))))))))))))) d)	d)	—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
記録ファイル数が上限に達した		記録できない		ディスクを交換する		
LOW BATT! h)	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	BATT	点滅 f)		●)))))))))))))) e)	e)	
	警告内容		VDR部の動作		処置	
バッテリーの残量わずか		動作は継続		バッテリーを交換する		
BATT EMPTY!	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	BATTとE	点滅 g)		●))))))))))))))))))		
	警告内容		VDR部の動作		処置	
バッテリー残量なし		動作停止		バッテリーを交換する		
High TEMP!	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
	—	—		●))))))))))		—
	警告内容		VDR部の動作		処置	
内部温度上昇		動作は継続		いったん電源を切るか、涼しい場所に移動する		

ACC Sensor/Skew Sensor	警告表示	状態	WARNINGランプ	警告音	REC/TALLY	BATT
		—	—	☀	●))))))))))	☀
警告内容		VDR部の動作			処置	
ドライブ内センサー異常		動作は継続			振動・衝撃等を与えないようにし、電源を切ってソニーのサービス担当者に連絡する	

- a)「*」の部分には英数字が表示される
 b)記録中
 c)再生、高速再生、高速逆再生、停止中
 d)記録一時停止中
 e)記録中、停止中
 f) 1回/秒点滅
 g)4回/秒点滅
 h)記録中にLCDモニターのみに表示される (DISP SEL/EXPANDボタンがSTATUSの場合)
 i) 記録中および記録一時停止中にLCDモニターのみに表示される (DISP SEL/EXPANDボタンがSTATUSの場合)
 j) TL-RE (3層) ディスク挿入時
 k) QL-R (4層) ディスク挿入時
 ◆ビューファインダー画面に表示される操作/アラーム表示については、次項をご覧ください。

操作/アラーム表示一覧

ビューファインダー画面の操作/アラーム表示部 (43ページ参照) には、以下の操作またはアラームが表示されます。

AUTO INTERVAL **M**S	オートインターバルレックモードで動作中 (**M**S : 撮影間隔)
MANU INTERVAL *FRAME	マニュアルインターバルレックの単発トリガーモードで動作中 (*FRAME : 1回に記録されるフレーム数)
INTERVAL **S (M/H) *FRAME	マニュアルインターバルレックの連続トリガーモードで動作中 (**S (M/H) : トリガー間隔、*FRAME : 1回に記録されるフレーム数)
LOW LIGHT	設定により、被写体の照度が低すぎる

ON-BOARD BATTERY EMPTY	内蔵時計のバックアップ電池が消耗した ^{a)}
DCP EEPROM DATA NG! DR EEPROM DATA NG! DCP/DR EEPROM DATA NG!	電源のOFF/ONを繰り返しても表示が消えないときは、工場調整データが無効になっている。ソニーのサービス担当者に連絡してください

- a)電池の交換については、ソニーのサービス担当者にご連絡ください。

ビューファインダーの設定変更/調整経過メッセージ表示部 (42ページ参照) には、VDR関連の各操作に対するメッセージが表示されます。この場合は、次表にしたがって対処してください。

ILL. Disc!	本機では扱えないディスクが挿入された。別のプロフェッショナルディスクを挿入してください
ILL. Index! No FS! Unknown FS!	インデックスファイルまたはファイルシステムが異常。ディスクを交換するかフォーマットしてください
No Support!	本機では扱えないクリップが記録されている。ディスクを交換するかフォーマットしてください
FORMAT NG!	ディスクの自動フォーマットができなかった。ディスクを交換してください
Disc Damage	記録できないディスクが挿入されている。記録する場合はディスクを交換してください
Non AV Full MAX # Files Over DUR!	ディスクの容量がいっぱいです。ディスクを交換するかフォーマットしてください

DI read err Read err DRV ADJ err	ディスクの認識に失敗した。ディスクをいったん取り出して、再度挿入するか、ディスクを交換してください
Run Salvage	サルベージ処理が必要なディスクが挿入されている。記録する場合は、ディスクをいったん取り出して再度挿入し、サルベージ処理を実行してください
Salvage NG!	サルベージ処理に失敗した。詳しくは、「記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い(サルベージ機能)」(85ページ)をご覧ください
Salvage XXXX	本機ではサルベージ処理ができないディスクが挿入されている。表示されているコード「XXXX」に対応するXDCAM機器(87ページ参照)で当該ディスクのフルサルベージを実行してください
REC INHI.!	記録禁止タブが設定されているか、サルベージ処理が未実施のディスクが挿入されている。記録禁止タブを解除するか、ディスクをいったん取り出して再度挿入し、サルベージ処理を実行してください
1080/50i 1080/25P 1080/59.94i 1080/29.97P 1080/23.98P 720/50P 720/59.94P 625/50i 525/59.94i	フォーマット混在記録モードが無効のとき、解像度またはシステム周波数が異なったディスクが挿入されている。記録するには、ディスクを交換するか、解像度またはシステム周波数を変更してください。または、フォーマット混在記録モードを有効にしてください
HD422 1080 HD422 720 HD420 1080 HD420 720 IMX50 Clip IMX40 Clip IMX30 Clip DVCAM Clip 8CHx16 Clip 4CHx24 Clip 2CHx16 Clip	フォーマット混在記録モードが無効のとき、記録フォーマットが異なったディスクが挿入されている。記録するには、ディスクを交換するか、記録フォーマットを変更してください。または、フォーマット混在記録モードを有効にしてください
System FREQ	システム周波数が異なったクリップを含むディスクが挿入されている。記録するには、ディスクを交換するか、システム周波数を変更してください
Mixed REC!	フォーマット混在記録モードが無効のとき、記録フォーマットの異なるクリップが混在しているディスクが挿入された。記録するには、ディスクを交換するか、フォーマット混在記録モードを有効にしてください

Index File!	未対応のインデックスファイルが書かれているため、記録できない。ディスクを交換するか、フォーマットしてください
File System	未対応のファイルシステムが書かれているため、記録できない。ディスクを交換するか、フォーマットしてください
ILL. PLAY!	再生中のAV位相に異常があった。いったんディスクへのアクセスを停止してください
Lid Closed!	ディスク挿入口のふたが開かない。挿入口を確認してください
Lid Open!	ディスク挿入口のふたが閉まっていない。ふたをきちんと閉め直してください
No Clip!	クリップが記録されていない。記録済みディスクに交換してください
No Disc!	ディスクが挿入されていない。ディスクを挿入してから、操作してください
STOP ONCE! REC mode!	ディスク動作中は、操作できない。ディスクへのアクセスを停止させてください
Loading! Unloading!	ディスクの挿入/取り出し動作中は、操作できない。動作が終了してから操作してください
Disc Top! Disc End!	ディスクの先頭または終わりにいるため、操作できない
Clip Top! Clip End!	シングルクリップ再生モード時、クリップの先頭または終わりにいるため、操作できない
Formatting!	自動フォーマット中。フォーマット終了までお待ちください
Recording	ファイルシステムを書き込み中。書き込み終了までお待ちください
No EM Space EM Full!	エッセンスマークを挿入できなかった。詳しくは、「エッセンスマークを記録する」(93ページ)をご覧ください
Cache REC!	ピクチャーキャッシュ機能が有効なときに、禁止されている操作を実行した。操作は無効になる
Disc Exchag!	ディスクエクステンジキャッシュ機能が有効なときに、禁止されている操作を実行した。操作は無効になる
Live Logg!	ライブロギング機能がライブビューモードに設定されているときに、禁止されている操作を実行した。操作は無効になる

SB CLP mode	サブクリップインジケータ一点灯中にエッセンスマークまたはクリップフラグの操作をした。SUB CLIP/DISC MENUボタンを押してインジケータを消灯させてから操作してください
No SEL List	クリップリストが選択されていない。クリップリストを作成するか、ディスク上のクリップリストを読み込んでください
No List!	クリップリストが存在しない。クリップリストを作成してください
No SUB Clip	クリップリストにサブクリップが存在しない。サブクリップを登録するか、別のクリップリストを読み込んでください
SUB Clip NG	IN点とOUT点の位置が不正。正しいIN点およびOUT点を設定し直してください
MAX# SB CLP	サブクリップの総数が上限（300個）を越えた
Resolution	クリップリストに解像度の異なるクリップを登録しようとした
CL OVER DUR	カレントクリップリスト内のサブクリップの合計デュレーションが上限（24時間）を越えた
FAN Stopped DR-FAN Stop	本体またはドライブ内のファンが停止している。高温下での使用を避け、電源を切ってソニーのサービス担当者に連絡してください
NVRAM NG!	内部メモリーへのアクセス中に異常が検出された。電源を切ってソニーのサービス担当者に連絡してください
Update Err!	ファームウェアのアップデートに失敗した。電源を切ってソニーのサービス担当者に連絡してください
Unknown USB	本機では扱えないUSB機器が接続された
NO USB MEMORY!	USBメモリーが接続されていない状態でUSBメモリーへの書き込み操作を行った
USB MEMORY INHIBIT! USB M. INHI	OPERATIONメニューのMEMORY RECページでMEMORY RECがENABLに設定されているとき、書き込み禁止のUSBメモリーが接続された
USB MEMORY ERROR!	使用できないUSBメモリーが接続された状態でUSBメモリーへの書き込み操作を行った
M. Shortage	USBメモリーに十分な空き容量がない状態でUSBメモリーへの書き込み操作を行った

USB MEMORY FULL!	USBメモリーに空き容量がない状態でUSBメモリーへの書き込み操作を行った
MEM REC NG!	OPERATIONメニューのMEMORY RECページでMEMORY RECがENABLに設定されているとき、USBメモリーに記録が行われなかった
M. access!	USBメモリーへの書き込み動作中にGUI画面に切り換えようとした
ILL. TIME	時計データが異常。内蔵時計の日付と時刻を再度設定してください

サムネイルサーチ/シーンセレクト ション/クリップリスト操作時の表示



サムネイルサーチ/シーンセクション/クリップリスト操作時、LCDモニターにアラーム表示が現れることがあります。この場合は、次表にしたがって対処してください。

Cannot Expand Clip any Further.	これ以上の分割数でのエクスパンド表示はできない。このアラームは、分割数最大のエクスパンド表示時、またはエクスパンドサムネイルのデュレーションが1フレームの状態で、さらにDISP SEL/EXPANDボタンが押されたときに表示される
Selected Essence Mark Does not Exist.	選択されたエッセンスマークはディスク上に存在しない。このアラームは、エッセンスマークの選択画面で、ディスク上に記録されていないエッセンスマークが指定されたときに表示される
Sub Clip is Invalid. Set Appropriate IN/OUT Points.	トリミング（147ページ参照）によるクリップリストの編集において、設定されたIN点とOUT点の時間関係が正しくない。OUT点のタイムコード値がIN点のタイムコード値より大きくなるように設定し直してください
Duration of One Clip List must be Less than 24 Hours.	サブクリップの追加（145ページ参照）またはトリミング（147ページ参照）により、カレントクリップリストの合計デュレーションが上限である24時間を超えた
No More Sub Clips can be Added to the Clip List.	サブクリップの追加（145ページ参照）またはトリミング（147ページ参照）により、カレントクリップリストの合計数が上限である300を超えた

Sub Clip does not Exist.	カレントクリップリストにサブクリップがない状態で移動 (146ページ参照)、トリミング (147ページ参照)、削除 (147ページ参照)、または先頭タイムコードの変更 (148ページ参照) を実行しようとした
Clip List does not Exist.	ディスク上にクリップリストがない状態でクリップリストの削除 (150ページ参照) を実行しようとした
Move is Invalid.	カレントクリップリストにサブクリップがない、または1つしかない状態で移動 (146ページ参照) を実行しようとした
Shot Mark does not Exist.	ショットマークが記録されていないクリップに対して、ショットマークの削除 (131ページ参照) を実行しようとした
Chapter does not Exist.	チャプターが記録されていないクリップに対して、チャプターを表示させようとした
Some Essence Mark cannot be Deleted.	エッセンスマーク削除の操作で、削除禁止のエッセンスマークを削除しようとした。エッセンスマークの削除では、Rec StartおよびCutは削除できません
Some Essence Mark cannot be Moved.	エッセンスマーク移動の操作で、移動禁止のエッセンスマークを移動しようとした。エッセンスマークの移動では、Rec StartおよびCutは移動できません
Command Disabled.	Setting Format Discが「Disable」に設定されている状態で、Format Discを実行しようとした
Clip is Locked.	ロック (保護) されたクリップに対して、クリップの削除、代表画の設定、ショットマークの削除を行おうとした
All Clips are Locked.	すべてのクリップがロック (保護) された状態ですべてのクリップのロックを実行しようとした
All Clips are Unlocked.	すべてのクリップがアンロック (保護解除) された状態ですべてのクリップのアンロックを実行しようとした
A File with the Name you Specified Already Exists. Specify a Different Name.	Set Clip Nameによるクリップ名の変更操作で、すでに存在するクリップ名を設定しようとした

Set NAMING FORM to "free"	NAMING FORMが「FREE」に設定されていない状態で、Set Clip Nameによるクリップ名の変更操作をしようとした (107ページ参照)
"No Flash Drive"	USBメモリーが接続されていない状態で、Load Planning Metadata/Select Driveのメディア選択画面で「USB Flash Drive」を選択しようとした
Not Loaded.	プランニングメタデータが読み込まれていない状態で、プランニングメタデータに関するコマンドを実行しようとした。プランニングメタデータを読み込んでからコマンドを実行してください
Syntax Error!	読み込もうとしたプランニングメタデータに構文エラーがある。構文エラーを修正してからデータを読み込んでください
Irregular Disc is Used.	本機が記録・再生できないディスクが挿入された。本機が記録・再生可能なプロフェッショナルディスクを挿入してください
The Disc Write Protect TAB is set to Save.	記録禁止タブが設定されているディスクに対してフォーマットを実行しようとした。フォーマットを実行するには、ディスクの記録禁止タブを解除してください
Auto Formatting was not Completed.	ディスクの自動フォーマットができなかった
Video Resolution Differ from it on Clip List.	クリップリスト内のクリップとビデオ解像度 (システムライン数) が異なるクリップを追加しようとした。クリップリスト内では、ビデオ解像度 (システムライン数) が異なるクリップは追加できません
No Clip Meets the Condition.	クリップの選別条件に合致するクリップが見つからなかった

使用上のご注意

安全にご使用いただくために、「安全のために」(2ページ)、「 警告」(10ページ)、「 注意」(12ページ)、「電池についての安全上のご注意」(14ページ)と併せてご覧ください。

取り扱い・保管上のご注意

強い衝撃を与えない

内部構造や外観の変形などの損傷を受けることがあります。

動作中は布などで包まないでください

内部の温度が上がり、好ましくありません。

使い終わったら

POWERスイッチを切ってください。

長時間使わないときは

バッテリーを外しておいてください。

輸送

- ディスクは必ず取り出しておいてください。
- トラック、船、航空機など、本機を貨物として扱う輸送では、お買い上げ時の梱包材をご使用ください。

お手入れ

レンズや光学フィルターの表面に付着したゴミやほこりは、ブローアードで吹き払います。外装の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。ひどい汚れは、中性洗剤液を少し含ませた布で拭いた後、から拭きします。アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品類は、表面が変質したり、塗料がはげることがありますので、使わないでください。

万一、異常が生じたときは

ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

使用場所・保管場所

水平な場所、空調のある場所に保管してください。

次のような場所での使用・保管は避けてください。

- 極端に寒い所、暑い所（使用温度は-5℃～+40℃）
- 真夏、窓を閉め切った自動車内は50℃を越えることがあります。
- 湿気・ほこりの多い所
- 雨があたる所
- 激しく振動する所
- 強い磁気を発生するものの近く
- 強力な電波を発生するテレビやラジオの送信所の近く
- 直射日光が長時間当たる場所や暖房器具の近く

携帯電話などによる電波障害を防止するために

携帯電話などを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、映像、音声などに影響を与えることがあります。

本機の近くでは、携帯電話などの電源はできるだけ切ってください。

レーザービームに関するご注意

レーザービームは、CCDに影響をあたえることがあります。

レーザービームを使用した撮影環境では、CCD表面に、レーザービームが照射されないように充分注意してください。

結露について

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

結露に対処する方法として、以下の点にご注意ください。

- 結露の可能性がある状況で本機を移動するときは、あらかじめディスクを挿入し、ディスク挿入口のふたを閉めておいてください。
- ◆ ディスクの入れかたと取り出しかたについては「ディスクを出し入れする」(84ページ)をご覧ください。

ズームレンズの取り付け

ズームレンズの取り付けかたを誤ると損傷することがあります。必ず「レンズの取り付け」(51ページ)をご覧ください。

ビューファインダーについて

- ビューファインダーの接眼レンズを太陽に向けて放置しないでください。太陽光が接眼レンズを通して内部に焦点を結び、ビューファインダー内部を溶かすことがあります。
- 強い磁界のある場所でビューファインダーを使用しないでください。画像が乱れることがあります。

LCD (液晶) 画面について

本機のLCD (液晶) パネルは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られています。画面上に黒い点が現れたり(画素欠け)、常時点灯している輝点(赤、青、緑など)や滅点がある場合があります。

また、LCD (液晶) パネルの特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることもあります。これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。なお、これらの点が記録されることはありません。

撮像素子特有の現象

ご注意

撮影画面に出る下記の現象は、撮像素子特有の現象で、故障ではありません。

白点

撮像素子は非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。

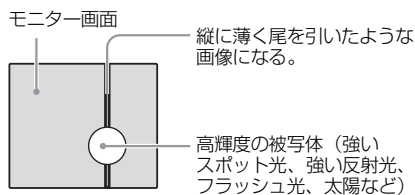
これは撮像素子の原理に起因するもので故障ではありません。

また、下記の場合、白点が見えやすくなります。

- 高温の環境で使用するとき
- ゲイン(感度)を上げたとき
- スローシャッターのとき

スミア現象

強いスポット光やフラッシュ光などを撮影したときに、画面上に縦線や画乱れが発生することがあります。



折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ギザギザやちらつきが見えることがあります。

仕様

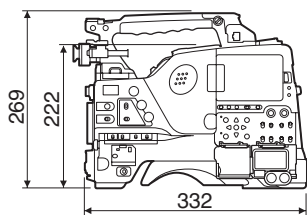
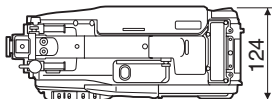
一般

質量

- 約3.9 kg (本体のみ)
- 約5.6 kg (ビューファインダー、マイク、ディスク、BP-GL95B装着時)

外形寸法

(単位: mm、突起部含まず、本体のみ)¹⁾



1) 寸法は概算値です。

電源電圧 DC 12 V + 5.0 V / - 1.0V

- 消費電力 約38 W
- 記録時、LCDモニター: ON 約42 W
 - 記録時、ビューファインダー、マニュアルレンズ、マイク装着時、LCDモニター: ON

ご注意

- 周辺機器を装着して使用する場合、周辺機器の消費電力の合計が60 W以内になるようにしてください。
- DC OUT端子には、消費電流が1.0 A以下の機器を接続してください。

- 動作温度 -5 °C ~ +40 °C
- 保存温度 -20 °C ~ +60 °C
- 動作湿度 10% ~ 90% (相対湿度)
- 連続操作時間

約110分 (BP-L80S使用時)

約130分 (BP-GL95使用時)

記録フォーマット (ビデオ)

MPEG HD422 (CBR: 50 Mbps)

MPEG HD

HQモード (VBR、最大 35 Mbps)

SPモード (CBR、25 Mbps)

LPモード (VBR、最大 18 Mbps) (再生のみ)

記録フォーマット (オーディオ)

MPEG HD422: 4ch/24bits/48kHz

MPEG HD: 4ch/16bits/48kHz

記録フォーマット (プロキシビデオ)

MPEG-4

記録フォーマット (プロキシオーディオ)

A-law 4ch/8bits/8kHz

記録再生時間 (MPEG HD422)

50 Mbps: 約95分 (PFD50DLA)、
約43分 (PFD23A)

記録再生時間 (MPEG HD)

35 Mbps、4-ch audio: 145分以上 (PFD50DLA)、65分以上 (PFD23A)

35 Mbps、2-ch audio (再生のみ): 150分以上 (PFD50DLA)、68分以上 (PFD23A)

25 Mbps、4-ch audio: 約190分 (PFD50DLA)、約85分 (PFD23A)

25 Mbps、2-ch audio (再生のみ): 約200分 (PFD50DLA)、約90分 (PFD23A)

18 Mbps、4-ch audio (再生のみ): 248分以上 (PFD50DLA)、112分以上 (PFD23A)

18 Mbps、2-ch audio (再生のみ): 265分以上 (PFD50DLA)、122分以上 (PFD23A)

記録フレームレート

MPEG HD422 50 Mbps :
1920×1080/59.94i、50i
MPEG HD420 (HQ 35 Mbps、
SP 25 Mbps) :
1440×1080/59.94i、50i
MPEG HD420 (LP 18 Mbps) : (以
下の再生のみ)
1440×1080/59.94i、50i

レンズ

レンズマウント

2/3インチ型48/バヨネットマウント

入出力

入力

GENLOCK入力 : BNC型 (×1)
1.0 Vp-p、75 Ω
タイムコード入力 : BNC型 (×1)
0.5 Vp-p~18 Vp-p、10 kΩ
SDI入力 : BNC型 (×1)
HD-SDI : SMPTE 292M (w/
embedded audio)
オーディオ入力 : CH1/CH2 : XLR型、3ピ
ン、凹 (×2)
Line/Mic/Mic +48V/AES/EBU、選
択可
マイク入力 : XLR型、5ピン、凹、ステレオ
(×1)

出力

テスト出力 : BNC型 (×1)、切り換え可
HD : Y
SD : コンポジット (文字オン/オ
フ)
SDI出力 1/2 : BNC型 (×2)
1 (HD/SD切り換え可) :
HD-SDI : SMPTE 292M (with
embedded audio)
SD-SDI : SMPTE 259M (with
embedded audio)

2 (HD/SD 切り換え可、文字オン/
オフ) :

HD-SDI : SMPTE 292M (with
embedded audio)

SD-SDI : SMPTE 259M (with
embedded audio)

オーディオ出力 : CH-1/CH-2 : XLR型 5ピ
ン (凸、ステレオ) (×1)

タイムコード出力 : BNC型 (×1)、
1.0 Vp-p、75 Ω

イヤホン出力 : ミニジャック (×2)、フロ
ント : モノラル、リア : ステレ
オ/モノラル

スピーカー出力 : モノラル

その他

DC入力 : XLR型 4ピン 凸 (×1)、11 V ~ 17 V

DC出力 : 4ピン (×1) (ワイヤレスアダプ
ター用) : 11 V ~ 17 V DC (最
大1 A)

レンズ : 12ピン

リモート : 8ピン

ライト : 2ピン、DC 12 V、最大50 W

イーサネット : RJ-45型 (×1)、100BASE-
TX : IEEE 802.3u、10BASE-T :
IEEE 802.3

USB : (×1) プロキシ記録用およびファー
ムウェアバージョンアップ用

オーディオ系

周波数特性

20 Hz~20 kHz、+0.5 dB/-1.0 dB

ダイナミックレンジ

93 dB以上

音声ひずみ率

0.08%以下 (at 1 kHz、リファレン
スレベル)

クロストーク

-70 dB以下 (at 1 kHz、リファレ
ンスレベル)

ワウ・フラッター

測定限界値以下

ヘッドルーム
12/16/18/20 dB (切り換え可)

カメラ部

撮像素子

3-chip 2/3-type HD PowerHAD FX
CCDs

有効画素数

1920 (H) × 1080 (V)

分光系

F1.4プリズム方式

内蔵フィルター

電氣的CCフィルター：3200K、
4300K、5600K、6300K
NDフィルター (光学式)

- 1：素通し
- 2： $1/4$ ND
- 3： $1/16$ ND
- 4： $1/64$ ND

シャッタースピード

1080/59.94i：1/100、1/125、
1/250、1/500、1/1000、
1/2000、ECS¹⁾、SLS²⁾
1080/50i：1/60、1/125、1/250、
1/500、1/1000、1/2000、
ECS¹⁾、SLS²⁾

シャッタースピード (Slow shutter (SLS))

2、3、4、5、6、7、8、16 frame

1)ECS：拡張クリアスキャン

2)SLS：スロースピードシャッター

感度 (2000ルクス、89.9%反射)

1080/59.94i：F10 (typical)
1080/50i：F11 (typical)

最低被写体照度

約0.3 lx (F1.4レンズ、+42 dB、
スローシャッター：OFF)

ホワイトバランス

プリセット (3200K)、Memory A、
Memory B/ATW

ゲイン -6、-3、0、3、6、9、12、18、
24、30、36、42 dB

S/N比 57.5 dB (ノイズサプレッサー機能
ON時、OFF時は54 dB)

水平解像度

1000TV本以上 (1920×1080iモー
ド)

レジストレーション

全面0.02%以下 (ただし、レンズに
よるひずみを除く)

変調度 (画面中央)

45%以上/27.5 MHz (typical)

デジタルエクステンダー

x2、x3、x4

ビューファインダーおよび関連 機器

ビューファインダー

HDVF-20A
HDVF-EL20
HDVF-EL30
HDVF-L10

ビューファインダー回転収納機構 BKW-401

ご注意

BKW-401を使用できるビューファインダーについ
ては、ソニーのサービス担当者にお問い合わせせ
ください。

その他の機能

液晶画面

3.5型カラー LCDモニター (960×
540)¹⁾

内蔵スピーカー：(×1)

1)表示可能領域を対角長で表示しています。

光ディスクドライブ部

一般

使用ディスク

プロフェッショナルディスク
PFD50DLA (容量：50.0 GB)

プロフェッショナルディスク

PFDD23A (容量 : 23.3 GB)

データ転送レート

最大72Mbps

デジタルビデオ系

サンプリング周波数

Y : 74.176 MHz (59.94i)、

74.25 MHz (50i/25P)

Pb/Pr : 37.088 MHz (59.94i)、

37.125 MHz (50i/25P)

量子化特性

8bit/サンプル

コンプレッション

MPEG-2 4:2:2P@HL 50Mbps

付属品

ショルダーストラップ (1)

マイクケーブル (1)

マイクスペーサー (1)

オペレーションマニュアル

(日本語、CD-ROM) (1)

オペレーションガイド (1)

関連機器

電源関連

バッテリーパック

BP-GL95B/GL95A/FLX75/FL75

バッテリーチャージャー

BC-L160/L70A

ACアダプター

AC-DN10/DN10A

リモートコントロール用機器

リモートコントロールユニット

RM-B170

オーディオ機器

ステレオ/モノラルマイクロホン

ECM-680S

モノラルマイクロホン

ECM-678/674

マイクロホンホルダー

CAC-12

デジタルワイヤレスレシーバー

DWR-S02DN/S03D

UHFシンセサイザーダイバーシティー

チューナー

URX-S03D

UHFシンセサイザートランスミッター

UTX-B03/B03HR

デジタルワイヤレストランスミッター

DWT-B01N

ポータブルデジタルミキサー

DMX-P01

その他の周辺機器

Wi-Fiアダプター

CBK-WA01

ワイヤレスアダプター

CBK-WA100

XDCAM HD422 フィールドステーション

PDW-HR1

保守用製品、操作/取り扱いを容易にするための製品

三脚アタッチメント

VCT-14

メンテナンスマニュアル

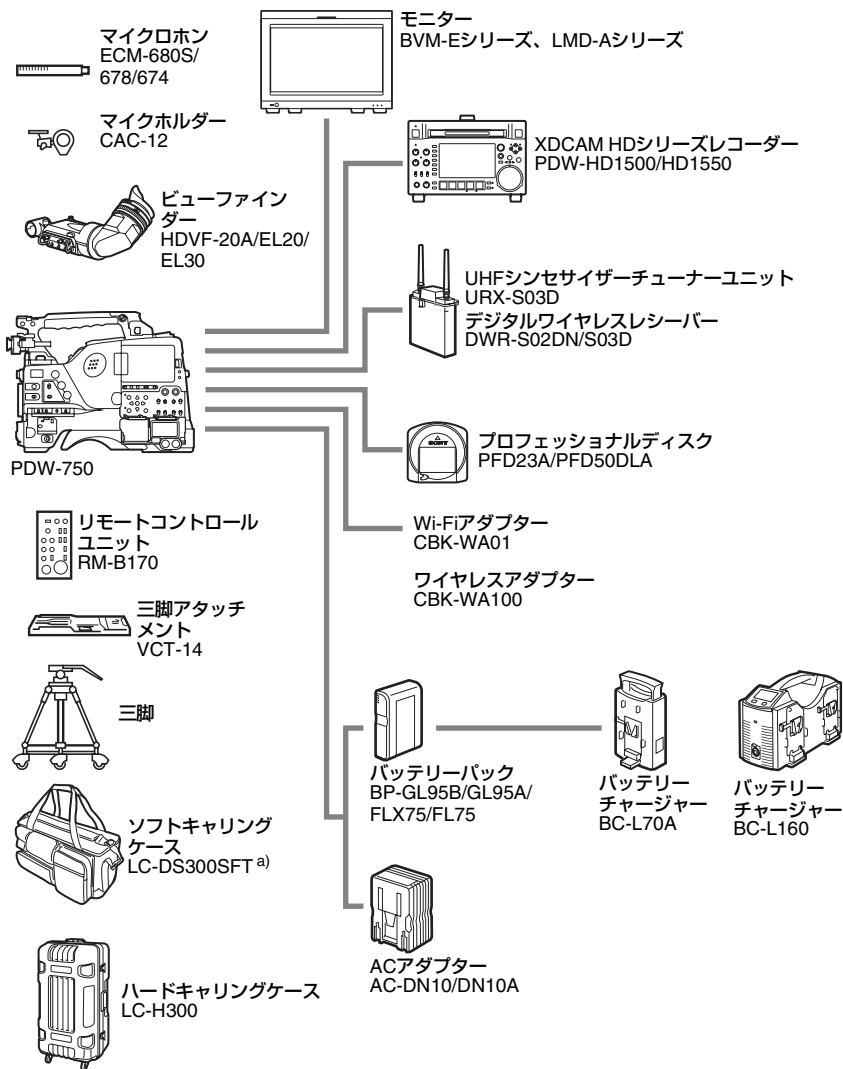
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

この装置は、クラスA情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本機内、記録メディア、外部のストレージ等に記録されたデータの損失、修復、複製の責任は負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

周辺機器・アクセサリ一覧図



a) レンズおよびマイクロホンを装着したままでも収納できます。ただし、それぞれの装着時の長さがカムコーダー本体の前面端から25cmを超える場合は取り外してください。

使用可能なUSBキーボード一覧

使用地域の設定がNTSC AREA/PAL AREA、フォント設定がEuropean Alphabetのとき¹⁾

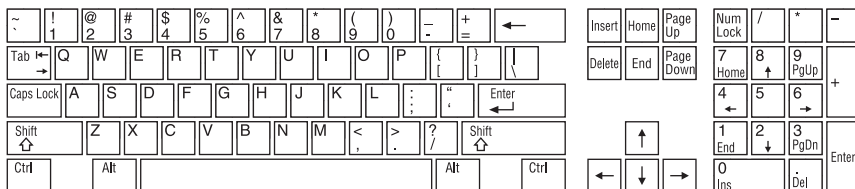
本機では、以下に示すキーボードで入力可能な文字や記号が入力できます。
Disc MenuのSettings >Select USB Keyboard Languageで対応する言語を選択してください（138ページ参照）。

1)フォント設定が「Simplified Chinese」、または「Traditional Chinese」のときは、自動的にEnglish [United States]と同じ配列のキーボードが選択されます。

English [United Kingdom]



English [United States]



French [France]



German [Germany]

°	!	"	§	\$	%	&	/	{	}	=	?	?	←
^	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	?	?	←
Tab	Q	W	E	R	T	Z	U	I	O	P	ü	+	Enter
	@		€								~	←	Enter
⇩	A	S	D	F	G	H	J	K	L	Ö	Ä	#	
Shift	>	Y	X	C	V	B	N	M	:	:	-	Shift	
⇧	<											⇧	
Strg	Alt											Alt Gr	Strg

Einfg	Pos1	Bild	Num	/	*	-	
⇩		⇩	7	8	9	+	
Entf	Ende	Bild	⇩	⇩	⇩		
			4	5	6		
			⇩	⇩	⇩		
			1	2	3	Enter	
			⇩	⇩	⇩		
←	↓	→	0	.	Entf		
			Einfg				

Italian [Italy]

	!	"	£	\$	%	&	/	()	=	?	^	←
Tab	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	é	{	Enter
	Q		€								+	←	Enter
Caps Lock	A	S	D	F	G	H	J	K	L	Ç	ò	à	#
										@	ù		
Shift	>	Z	X	C	V	B	N	M	:	:	-	Shift	
⇧	<											⇧	
Ctrl	Alt											Alt Gr	Ctrl

Insert	Home	Page Up	Num Lock	/	*	-	
Delete	End	Page Down	7	8	9	+	
			Home	⇩	⇩		
			4	5	6		
			⇩	⇩	⇩		
			1	2	3	Enter	
			End	⇩	PgDn		
←	↓	→	0	.	Del		
			Ins				

Polish (Programmers) [Poland]

~	!	@	#	\$	%	^	&	*	()	-	+	←
Tab	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	{	}	Enter
	Q										[]	Enter
Caps Lock	A	S	D	F	G	H	J	K	L	:	;	←	Enter
										"	'	←	Enter
Shift	>	Z	X	C	V	B	N	M	<	>	?	Shift	
⇧	<									,	.	⇧	
Ctrl	Alt											Alt Gr	Ctrl

Insert	Home	Page Up	Num Lock	/	*	-	
Delete	End	Page Down	7	8	9	+	
			Home	⇩	⇩		
			4	5	6		
			⇩	⇩	⇩		
			1	2	3	Enter	
			End	⇩	PgDn		
←	↓	→	0	.	Del		
			Ins				

Russian [Russia]

~	!	@	#	\$	%	^	&	*	()	-	+	←
Tab	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	{	}	Enter
	Q										[]	Enter
Caps Lock	A	S	D	F	G	H	J	K	L	:	;	←	Enter
										"	'	←	Enter
Shift	>	Z	X	C	V	B	N	M	<	>	?	Shift	
⇧	<									,	.	⇧	
Ctrl	Alt											Alt Gr	Ctrl

Insert	Home	Page Up	Num Lock	/	*	-	
Delete	End	Page Down	7	8	9	+	
			Home	⇩	⇩		
			4	5	6		
			⇩	⇩	⇩		
			1	2	3	Enter	
			End	⇩	PgDn		
←	↓	→	0	.	Del		
			Ins				

Spanish [Spain]

ª	!	"	·	\$	%	&	/	()	=	?	¿	←
Tab	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	^	[Enter
	Q										+	←	Enter
Bloq Mayus	A	S	D	F	G	H	J	K	L	Ñ	;	{	Enter
										ç		←	Enter
Shift	>	Z	X	C	V	B	N	M	:	:	-	Shift	
⇧	<									,	.	⇧	
Control	Alt											Alt Gr	Control

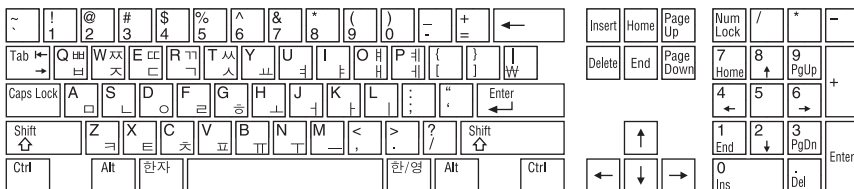
Insert	Inicio	Re Pág	Bloq Num	/	*	-	
Supr	Fin	AV Pág	7	8	9	+	
			Inicio	⇩	Re Pág		
			4	5	6		
			⇩	⇩	⇩		
			1	2	3	Enter	
			Fin	⇩	AV Pág		
←	↓	→	0	.	Supr		Intro
			Ins				

使用地域の設定がNTSC AREA/PAL AREA、フォント設定がKoreanのとき

韓国語キーボードに固定され、ハングル文字を入力することができます。

ご注意

キーボードの言語は変更できません。



使用地域の設定がNTSC(J)AREAのとき

日本語キーボードに固定されます。

ご注意

- キーボードの言語は変更できません。
- ひらがな、カタカナ、漢字は入力できません。



推奨USBメモリー (2014年4月現在)

本機に接続して使用するUSBメモリーには、以下のソニー製USBメモリーをおすすめします。

ポケットビットQXシリーズ

- USM128GQX
- USM64GQX
- USM32GQX
- USM16GQX
- USM8GQX

ポケットビットTシリーズ

- USM128GT
- USM64GT
- USM32GT
- USM16GT
- USM8GT

ポケットビットUシリーズ

- USM128GU
- USM64GU
- USM32GU
- USM16GU
- USM8GU

ご注意

推奨品以外のUSBメモリーは、USB端子に接続しても認識されないことがあります。

商標ならびにライセンス表記について

MPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseについて

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているMPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseの下、次の用途に限りライセンスされており、その他の用途に関してはライセンスされていません。

- (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG-4 Video といいます）にエンコードすること。
- (ii) MPEG-4 Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、もしくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

プロモーション、営利目的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページ <<http://www.mpegla.com>>を参照してください。

MPEG LAは、(i) MPEG-4 Visualビデオ情報を記録した媒体（PACKAGED MEDIA）を製造し、販売する行為、(ii) MPEG-4 Visualビデオ情報を何らかの方法(オンラインビデオ配信サービス、インターネット放送、TV放送など)で配信・放送する行為について、ライセンスを提供しています。その他の使用方法につきましても、MPEG LAからのライセンス取得が必要な場合があります。

詳しくは、MPEG LAにお問い合わせください。
MPEG LA, L.L.C., 250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206
ホームページ： <http://www.mpegla.com>

IJG (Independent JPEG Group) について

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

文字表示用ソフトウェア「iType」について

この製品はMonotype Imaging社のiTypeを使用しています。

GPL/LGPL適用ソフトウェアの入手について

本製品はGPL/LGPL version 2適用のソフトウェアを使用しており、お客様には、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせします。

これらのソースコードはインターネットのサーバーからダウンロードすることが可能です。以下のURL にアクセスして“PDW-750”を参照してください。

<https://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

オープンソースソフトウェアのライセンスについて

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されています。

当該ソフトウェアの著作権者の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。

ライセンスの内容に関しては、付属のCD-ROMに収録されている「License」フォルダ内の「License1.pdf」をご覧ください。

PDFファイルをご覧いただくためには、Adobe Readerがコンピューターにインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていない場合は、下記URLにアクセスしてダウンロードすることができます。
<http://get.adobe.com/jp/reader/>

GPSについて

GPSとは

GPS (Global Positioning System) とは、米国の高精度な航空衛星を利用した、地球上のどこにいても自分の正確な位置を知ることができるシステムです。

GPS衛星は、高度20,000 kmの6つの軌道上に各4個、24個以上が設置されています。

GPS衛星からの電波を受信し、衛星の軌道情報(アルマナックデータ)と電波の伝播時間のデータなどから自分の位置を計算します。

位置を計算することを測位と呼び、衛星を3機以上受信できれば、経度、緯度がわかります。

- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し、測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ上空の開けた場所でご使用ください。
- GPS衛星からの電波が届かない以下のような場所や状況では、測位情報を記録できないことがあります。
 - トンネルの中・屋内やビルの陰
 - 高層ビルの間・建物の中の狭い道路
 - 地下・密集した樹木の間・高架の下・高圧電線など、近くに磁気を発生するものがある場合
 - 1.5 GHz帯の携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものがある場合

誤差について

- [GPS SETTING] を [ON] にした直後に移動すると、移動しなかった場合に比べて、測位までの時間が長くなることがあります。
- GPS衛星自体による誤差
本機は、3個以上のGPS衛星からの電波を受信すると自動的に現在地を測位します。GPS衛星自体による誤差は、約10 m程度ですが、測位する周辺の環境によってはさらに大きな誤差を生じることがあります。このような場合は、実際に居た場所と地図上での位置が異なることがあります。また、GPS衛星は米国国防省により管理されており、意図的に精度が変更されることがあります。
- 測位時間による誤差
本機では、測位中に測位情報を定期的に取得しています。

規制について

使用する国や地域の規制に従ってGPS機能をお使いください。

測地系について

本機では、測地系として、「WGS-84」を採用しています。

索引

記号・数字

！（注意）ランプ	38
+48V/OFF スイッチ	35
10BASE-T/100BASE-TX	34
5600K 機能	225

ア行

アイカップ	36
アイリス	
自動設定	72
アクセサリ	276
アクセサリシュー	20
色温度	
切り換え	67, 68
手動設定	230
色温度表示	38
インターバルレック機能	96
ウェブサムネイル機能	156
映像フォーマット表示	28, 38
エクステンダー表示	38
エクスパンド機能	130
サムネイル画面	123
エッセンスマーク	
記録	93
サムネイル画面	124
シーンの検索	133
オーディオ調整部	31
オーディオ調整部の保護カバー	26
音声入力の準備	53
音声フォーマット表示	28
音声レベル	
記録レベルの調整	75
再生音の調整	23
音声レベル表示	43
音声レベルメーター	28

カ行

解像度	28
外部機器制御 / シングルクリップ再生表示	
	42
外部入力映像	
記録	112
外部入力状態表示	42
外部バッテリー表示	39
カスタマイズ	
ASSIGN スイッチへの機能割り	
当て	224
カメラマンタリーランプ	36
カラー液晶表示部	25
表示	27
カレントクリップリスト	144
間欠記録	96
関連機器	274
記録フォーマット	62
設定	62
グリーンタリーランプ	37
クリップ	143
検索	130
削除	141
サムネイル画面	121
情報	137
シングルクリップ再生モード	90
選別	134
タイトルの設定	103
代表画の変更	136
デュレーション	122
転送	159
名前の変更	106
プロパティ	137
連続再生モード	90
ロックの解除	141
ロック（保護）	140
クリップコンティニュースレック機能	101
表示	40
クリップ情報表示	39
クリップフィルタリング機能	134
クリップフラグ	
設定	93, 140

クリップリスト	143
クリア	150
再生	144
削除	150
作成 / 編集	144
サムネイル画面	122
先頭タイムコードの変更	148
名前の変更	106
並べ換え	151
保存	149
読み込み	150
クリップリスト編集	143
警告システム	262
警告表示エリア	29
ゲイン切り換え値	
設定	223
ゲイン値表示	43
結露	270
コネクター	36
<hr/>	
サ行	
再生	
クリップリスト	144
検索結果	133
静止画	90
通常の再生	89
撮影	
応用操作	93
基本操作	87
サブクリップ	143
削除	147
順番を入れ換え	146
追加	145
トリミング	147
サブクリップインジケーター	31
サムネイル	
選択	129
操作	129
表示項目	122
表示情報の切り換え	136
複数選択	130
サムネイルインジケーター	31
サムネイルサーチ	130
サムネイルの設定	94
三脚への取り付け	56
三脚マウント	21
残クリップ数表示	43
シーン	
検索	130, 131, 133
再生	133
編集	143
シーンセレクション	143
シーンファイル	
保存	237
呼び出し	239
色温度	
切り換え	68
時刻の設定	49
システム周波数	
設定	62
表示	28
視度調整リング	36
絞り値 / オートアイリスオーバーライド表 示	43
シャッタースピード	70
シャッタースピード表示	43
シャッターモード	70
周辺機器	276
出力信号の選択	224
仕様	271
状態確認画面	222
状態表示	28
ショートカッター一覧	167
ショットデータ	
スーパーインポーズ	220
ショットマーク	
記録	93
ショットID	
設定	221
所有権情報	233
ショルダーパッド	20
位置調整	59
ショルダーベルト取り付け金具	20

ショルダーベルトの取り付け	58
スイッチカバー	25
ズーム位置表示	39
スキップスクロール	129
スクロールバー	121
スライドストッパー	36
スローシャッター機能	71
設定変更 / 調整経過メッセージ表示部	42
操作 / アラーム表示部	43

タ行

代表画

変更	136
タイムカウンター表示	28
タイムコード	
外部ロック	80
設定	78
タイムコード表示	42
タイムデータ	78
ダイレクト FTP 機能	159
タリーランプ	36
チャプター機能	131
サムネイル画面	124
ディスク	
誤消去の防止	83
再生開始位置	90
再生コンディション	91
サルベージ機能	85
手動取り出し	84
情報	151
操作	151
出し入れ	84
フォーマット	85, 155
復元処理	85
プロパティ	151
容量	83
ディスクエクスチェンジキャッシュ機能	100
ディスク残量表示	30, 43
ディレクトリー構造	242
デジタルエクステンダー機能	225

デジタル時間計	206
電気の色温度フィルター表示	42
電氣的 CC フィルター	
切り換え	67, 68
点検	256
電源	44
電源電圧 / バッテリー残量表示	39
電子シャッター	70

ナ行

内蔵スピーカー	25
内蔵時計	49
ネットワーク端子	34
ノイズサプレッサー機能	187

ハ行

バッテリー残量表示	30
バッテリー取り付け部	19
バッテリーパック	44
パワーセーブ機能	227
ピクセルノイズリダクション機能	200
ピクチャーキャッシュ機能	94
日付の設定	49
ビデオライトの接続	57
ビューファインダー	
アイピース部の取り外し	48
位置の調整	46
上に移動	46
回転収納機構	47
画面	37
画面の調整	49
クリーニング	260
視度の調整	48
設定	220
取り付け	45
表示	37
表示項目の選択	217
HDVF-20A (別売)	36
ビューファインダーケーブル	37
ビューファインダー左右位置固定リング	20

ビューファインダー前後位置固定レバー	20
ビューファインダー前後位置 LOCK つまみ	20
ビューファインダー取り付けシュー	20
表示ランプと状態表示	36
ファイル	
シーン	170
ユーザー	170
リファレンス	171
レンズ	171
ALL	170
ID	235
ファイル操作	242
項目	243
タイムコードの連続記録	255
FTP	248
フィルター表示	42
フォーカスアシスト機能	92
フォーマット	62, 155
フォーマット混在記録モード	63
ふた	33
ブラックバランス	
調整	64
フランジバックの調整	52
プランニングメタデータ	109, 152
フリーズミックス機能	91
フレーム周波数グループ	63
プロキシデータの記録	113
保守	260
ホワイトバランス	
オフセットの付加	231
調整	65
ホワイトバランスメモリー表示	42

マ行

マーカー表示	
設定	219
マイクホルダー	37
マイクホルダー取り付け部	20
マイクロホンの接続	53

無線 LAN	
設定	228
メッセージ	
設定変更 / 調整経過	218
警告	262
操作 / アラーム	265
メニュー	
設定メニューの操作	208
設定メニュー一覧	172
設定メニューの構成	168
Disc Menu	126
Thumbnail Menu	125
メモリーキャッシュを使った記録	94
メモリーシンボル / メモリー残量表示	40

ヤ行

矢印ボタン	31
ユーザーガンマ	204
ユーザービット	
設定	79
ユーザーファイル	
保存	234
呼び出し	236

ラ行

ライブロギング機能	112
ライン入力用オーディオ機器の接続	56
リテイク機能	102
リモートコントロールユニットの接続	59
冷却ファン制御モード表示	40
レックレビュー	89
レッドタリールランプ	37
レンズケーブルクランプ	20
レンズ固定レバー	21
レンズの取り付け	51
レンズファイル	
選択	232
レンズマウント	21
レンズマウントキャップ	21
レンズマウントゆるみ止めゴム	20

ワ行

ワイヤレスマイクロホン受信レベル表示	39
ワイヤレスレシーバーの取り付け	55

A

AC 電源	45
ACCESS ランプ	26
ALARM つまみ	23
ALL メニュー	170
ASSIGN スイッチ	23, 33
機能の割り当て	224
ATW (Auto Tracing White balance)	24
ATW 保持モード	69
AUDIO IN CH-1/CH-2/CH-3/CH-4 スイッチ	32
AUDIO IN CH1/CH2 端子	35
AUDIO LEVEL CH-1/CH-2 つまみ	31
AUDIO OUT 端子	35
AUDIO SELECT CH-1/CH-2 スイッチ	32
AUTO W/B BAL スイッチ	22

B

BATT ランプ	37
BRIGHT つまみ	36
BRIGHT ボタン	27

C

CANCEL/PRST/ESCAPE スイッチ	25
CC 5600K 機能	225
COLOR TEMP. ボタン	23
CONTRAST つまみ	36

D

DC IN 端子	19
DC OUT 12V 端子	19
DCC (Dynamic Contrast Control) 機能	24
DIAGNOSIS メニュー	171, 206

Disc Menu	126
DISP SEL/EXPAND ボタン	26
DISPLAY/ASPECT スイッチ	37
DISPLAY スイッチ	27

E

EARPHONE 端子	22, 34
ECS (Extended Clear Scan) モード	71
E-E (Electric to Electric)	22
EJECT ボタン	26
Ethernet 端子	34

F

F FWD ボタン	26
F REV ボタン	26
FILE メニュー	170, 203
FILTER つまみ	21
F-RUN/SET/R-RUN スイッチ	31
FTP	248
コマンド一覧	249

G

GAIN スイッチ	24
GENLOCK IN 端子	33
GPS	
測位情報	116
時計合わせ	50
GPS について	282
GUI 画面	
操作	128
表示の切り換え	119
GUI 画面操作部	31
GUI 画面操作部の保護カバー	26

H

HOLD/CHAPTER ボタン	27
------------------	----

L

LCD モニター	25
表示	27

表示項目の選択.....	217
LENS 端子.....	21
LIGHT スイッチ.....	19
LIGHT 端子.....	20
LINE / AES/EBU / MIC スイッチ.....	34

M

MAINTENANCE メニュー.....	170, 188
MENU ON/OFF スイッチ.....	25
MENU つまみ.....	22
MENU ボタン.....	31
MIC IN (+ 48V) 端子.....	20
MIC LEVEL つまみ.....	22
MONITOR スイッチ.....	23
MONITOR つまみ.....	23

N

ND フィルター.....	21
NEXT ボタン.....	26

O

OPERATION メニュー.....	170, 173
OUTPUT/DCC スイッチ.....	24

P

PAINT メニュー.....	170, 181
PEAKING つまみ.....	36
PLAY/PAUSE ボタン.....	26
POWER スイッチ.....	19
PRESET/REGEN/CLOCK スイッチ.....	32
PREV ボタン.....	26

R

REC ランプ.....	37
REC START ボタン.....	21
REMOTE 端子.....	35
RESET/RETURN ボタン.....	27

S

SDI IN (OPTION) 端子.....	33
SDI OUT 1 端子.....	35
SDI OUT 2 端子.....	35
SET/S.SEL ボタン.....	31
SHIFT ボタン.....	32
SHUTTER スイッチ.....	21
SLS (Slow Speed Shutter) モード.....	71
STATUS ON/SEL/OFF スイッチ.....	24
STOP ボタン.....	26
SUB CLIP/DISC MENU ボタン.....	31

T

TALLY スイッチ.....	34, 36
TALLY ランプ.....	34, 37
TC IN 端子.....	33
TC OUT 端子.....	34
TEST OUT 端子.....	33
Thumbnail Menu.....	125
THUMBNAIL/ESSENCE MARK ボタン... ..	31
TOP メニュー.....	169

U

UMID データの設定.....	232
USB 端子.....	35
USB メモリー	
ファイル関連ページの表示.....	241
ユーザーファイルの保存.....	234
ユーザーファイルの呼び出し.....	236
USER MENU CUSTOMIZE メニュー.....	170
USER メニュー.....	169
編集.....	212
リセット.....	216

V

VDR SAVE/STBY スイッチ.....	24
VF 端子.....	20
VTR SAVE ランプ.....	37

W

WARNING ランプ	26
WHITE BAL スイッチ	24

X

XLR 接続自動検出機能	54
--------------------	----

Z

ZEBRA スイッチ	36
------------------	----

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあり、説明内容は機器購入者の使用を目的としています。

従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容(操作、保守等)と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。

